

科目名	農学概論	科目名 (英文)	Introduction to Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	椎名 隆, 浅尾 俊樹, 井上 亮, 大澤 直哉, 川崎 通夫, 岸本 良美, 北川 太一, 黒川 通典, 佐藤 和広, 田中 樹, 種市 豊, 増田 太郎, 水間 智哉, 和田 大
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	OAE1001a0		

授業概要・目的	自然を改変しながら生物資源を活かし、人間の衣食住を支えてきた「農学」は、人間の諸活動を支える根幹的な学問である。「農学」には持続可能で豊かな人間社会と地球環境の創出を目指して、課題を見出し対応するミッションがある。「農学」は生命を支える食料の科学であり、生命科学とも位置付けられる。さらには、「農学」は生産、加工、流通の6次産業に食栄養を加えた24次産業的視点で捉えることができる。農と食をとりまく環境は大きく変化し、「農学」における食栄養科学・健康科学の重要性も認識されている。本講義はこうした問題意識からテーマを設定し、オムニバス形式の講義により、受講者が「農学」とは何かを理解するとともに、「農学」のミッションに対応する「使命感」、「農学」的視点がもたらす「俯瞰力」、「実践力」に関心をもち、主体的に課題を意識することができることを目的とする。
到達目標	① 「農学」が関わる領域について、関心をもつことができる。 ② 「農学」が関わる領域の課題を理解し、主体的に捉えることができる。 ③ 「農学」が関わる領域を学び、専門分野で何を学ぶかという動機や問題意識をもつことができる。
授業方法と留意点	15回を担当教員のリレー講義にて行う。各回に課題が出されるので、期限内に提出すること。評価は各回の評価の積算とする。
科目学習の効果 (資格)	摂南大学農学部の学びの基本となり、「農学」の全体像を理解するための基礎となる科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	農学を大学で学ぶとは	「農学」は、自然を改変しながら生物資源を活かし、人間の諸活動を支える根幹的な学問である。持続可能で豊かな人間社会と地球環境の創出を目指して、私たちは何を学び、何をすべきか、「農学」の世界観を俯瞰し、学修する。(担当: 椎名隆)	事前: シラバスの理解 事後: レポートの提出
2	農学と社会	「農学」は、安全な食料生産と食料の安定供給、自然環境の保全、食を取り巻く多様化・複雑化する社会への対応、新しい作物生産の場とその生産技術の開発など、社会からの求めに応え、解決する使命を担っている。「農学」が社会とのかかわりの中で、いかなる研究が社会に貢献してきたか、と同時に「農学」の発展と可能性について学修する。(担当: 浅尾 俊樹)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
3	農業生産技術の進歩	農業生産技術の進歩は、人口増加、自然環境変動、および、社会変化に伴う農業生産課題を解決していく上で重要な要素である。フィールド栽培、施設園芸、植物工場、および、AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)を活用したスマート農業などに関する農業生産技術の進展について学修する。(担当: 川崎 通夫)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
4	国際農業と開発援助	世界の農業の多様性を踏まえ、発展途上国における農業開発と、それに対する援助のあり方を学修する。(担当: 田中 樹)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
5	農業とケミカルエコロジー	すべての生物は、同種または他種の他個体と相互作用を及ぼしあいながら生きており、この相互作用の仲役として化学物質が大きな働きをしている。植物-昆虫、昆虫-昆虫間の相互作用における化学物質の働きについて、その害虫管理への応用を含めて概説する。(担当: 大澤 直哉)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
6	植物の遺伝資源とその利用	世界中には約 800 万の作物とその近縁植物の遺伝資源が保存されている。これらの遺伝資源はどのように収集され保存されているか、また我々が遺伝資源をどのように利用しているかを紹介する。(担当: 佐藤 和広)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
7	遺伝子組換え技術と農業	遺伝子組換えによる品種改良が実用化されて 30 年近い。遺伝子組換え技術の利点や課題を整理し、新技術と社会の関係について考える。また、ゲノム編集技術などの最新の技術を紹介し、農と食の未来を考える。(担当: 椎名 隆)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
8	動物生命科学の新展開	動物を対象とした研究は、農学においては産業動物の生産性向上のため、食品、医療においてはヒトの健康維持・増進、疾病予防・治療のために行われる。これらの動物を対象とした研究には遵守すべきルールや法令が存在する。これら動物を対象とした研究に関する現状を学	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出

			修する。(担当：井上 亮)																	
	9	地球環境と海洋科学	水産業は一次産業の中でも特に天然依存性が高いことから、資源維持のために健全な海洋環境の保全が必須である。最新の増養殖技術の活用も含め、地球環境の保全と海洋科学の進展について学修する。(担当：増田 太郎)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出																
	10	食品科学と農業	農林漁業者（1次産業）が生産する農水産物の元々持っている価値をさらに高め農林水産業を活性化させるためには、食品加工（2次産業）は必須の技術である。最新の食品加工にかかわる食品科学技術の進展について学修する。(担当：水間 智哉)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出																
	11	食文化と食品機能性	日本の食文化を理解し、現代の様々な食や栄養の課題を考えることは重要である。和食の特徴や、食生活の変化、さらに緑茶を例に食品の機能性について学修する。(担当：岸本 良美)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出																
	12	微生物と食品	東洋、西洋を問わず、食品製造に微生物を利用することは長く行われてきた。農産物の2次加工としての微生物利用について概説する。(担当：和田 大)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出																
	13	食栄養科学と健康	現代の栄養事情は欠乏と過剰の二極化といわれている。社会の仕組みが複雑になっている今、社会のあらゆる側面を視野に入れながら、人間栄養学の観点から健康問題を考える。(担当：黒川 通典)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出																
	14	食品産業の役割とこれからの方向	消費者への食料供給において重要な役割を担う食品産業、特に食品流通業を取り上げ、その役割とこれからの展開方向を学修する。(担当：種市 豊)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出																
	15	これからの食と農を考える	今日の食と農の状況を踏まえながら、これからの食（消費者、都市）と農（生産者、農山漁村）をつなぐ共生のあり方とその方向を考える。(担当：北川 太一)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出																
関連科目																				
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>農学概論</td> <td>久保康之 編</td> <td>朝倉書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	農学概論	久保康之 編	朝倉書店	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	農学概論	久保康之 編	朝倉書店																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>農学が世界を救う！ 食料・生命・環境をめぐる科学の挑戦</td> <td>生源寺眞一・太田實行・安田弘法 編著</td> <td>岩波ジュニア新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	農学が世界を救う！ 食料・生命・環境をめぐる科学の挑戦	生源寺眞一・太田實行・安田弘法 編著	岩波ジュニア新書	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	農学が世界を救う！ 食料・生命・環境をめぐる科学の挑戦	生源寺眞一・太田實行・安田弘法 編著	岩波ジュニア新書																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	事前課題（30%）、授業中の課題（40%）、事後課題（30%）で評価し、60%以上で合格とする。																			
学生への メッセージ	1) この授業は「Teams」と「Forms」を使用します。 2) 各回の授業で課題を課します。提出期限は次回の授業日までとします。 (例：4月8日（月）の授業は4月14日（日）午後11時59分までに提出)																			
担当者の 研究室等	応用昆虫学研究室（大澤）、動物機能科学研究室（井上）、植物遺伝育種科学研究室（佐藤）、食料・農業市場研究室（種市）、植物分子生理学研究室（椎名）、作物科学研究室（川崎）、基礎栄養学研究室（岸本）、食農共生研究室（北川）、公衆栄養学研究室（黒川）、環境農学研究室（田中）、園芸科学研究室（浅尾）、海洋生物学研究室（増田）、食品学研究室（水間）、応用微生物学研究室（和田）																			
備考																				

科目名	農学基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar in Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	佐藤 和広, 玉置 雅彦, 浅尾 俊樹, 牛島 智一, 川崎 通夫, 佐野 修司, 藪田 伸
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	OAE1002a0		

授業概要・目的	福井県と三重県にある農業体験施設を利用し、2日間で演習を行う。主に、我が国のイネ生産と消費の現状、水田の構造、稲作を成立させる農業技術並びに自然環境要因、水田の多面的価値、稲作文化等について講義する。実習内容として、春期の田植えと秋期の稲刈りを行う。日本の主食であるコメの栽培を学び、イネ栽培を体験することで、水田の構造、日本で水田稲作が成立する要因、稲という植物の生育特性を深く理解し、我が国における今後の稲作の在り方について学ぶことを目的とする。																																																																		
到達目標	① 日本の地形・気象条件と稲作との関係を説明できる。 ② 稲作における種々作業の必要性、意義、効果を理解し、説明できる。 ③ イネという作物の生理・生態的、形態的特性を説明できる。 ④ 農業生産に及ぼす気象、土壌、病害虫、雑草などの環境要因の影響について知り、説明できる。																																																																		
授業方法と留意点	演習は春（5月の田植え）と秋（9月のイネ刈り）の2回行う。それぞれに、事前の講義、現地での講義、実習内容の説明と農作業、周辺地域の農村景観の観察、そして討論会をおこなう。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>本演習の内容と目的の説明 田植え演習の諸注意</td> <td>事前：次回実習内容の確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>田植えの前に</td> <td>稲作の基本、特に田植えについての理論、技術を学ぶ</td> <td>レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>田植え</td> <td>訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>田植え</td> <td>実習 田植え実習</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>田植え</td> <td>実習 田植え実習</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>田植え</td> <td>実習 田植え実習</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ガイダンス</td> <td>訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明（田植えした場所と異なるため）</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>稲刈りの前に</td> <td>稲作の基本、特に稲刈りについての理論と技術を学ぶ</td> <td>レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>稲刈り</td> <td>訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>稲刈り</td> <td>実習 稲刈り</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>稲刈り</td> <td>実習 稲刈り</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>稲刈り</td> <td>実習 稲刈り</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>野菜栽培 -ダイコン-</td> <td>ダイコンの品種、栽培・利用についての学びとダイコン収穫</td> <td>レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>収穫後の米</td> <td>収穫された米の品質について学ぶ</td> <td>レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>水田土壌の特徴</td> <td>水田土壌の生産性、土壌生成因子、圃場整備</td> <td>レポートの提出</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	本演習の内容と目的の説明 田植え演習の諸注意	事前：次回実習内容の確認	2	田植えの前に	稲作の基本、特に田植えについての理論、技術を学ぶ	レポートの提出	3	田植え	訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明	事前：講義及び実習内容の予習	4	田植え	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習	5	田植え	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習	6	田植え	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習	7	ガイダンス	訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明（田植えした場所と異なるため）	事前：講義及び実習内容の予習	8	稲刈りの前に	稲作の基本、特に稲刈りについての理論と技術を学ぶ	レポートの提出	9	稲刈り	訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明	事前：講義及び実習内容の予習	10	稲刈り	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習	11	稲刈り	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習	12	稲刈り	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習	13	野菜栽培 -ダイコン-	ダイコンの品種、栽培・利用についての学びとダイコン収穫	レポートの提出	14	収穫後の米	収穫された米の品質について学ぶ	レポートの提出	15	水田土壌の特徴	水田土壌の生産性、土壌生成因子、圃場整備	レポートの提出
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	本演習の内容と目的の説明 田植え演習の諸注意	事前：次回実習内容の確認																																																																
2	田植えの前に	稲作の基本、特に田植えについての理論、技術を学ぶ	レポートの提出																																																																
3	田植え	訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明	事前：講義及び実習内容の予習																																																																
4	田植え	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習																																																																
5	田植え	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習																																																																
6	田植え	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習																																																																
7	ガイダンス	訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明（田植えした場所と異なるため）	事前：講義及び実習内容の予習																																																																
8	稲刈りの前に	稲作の基本、特に稲刈りについての理論と技術を学ぶ	レポートの提出																																																																
9	稲刈り	訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明	事前：講義及び実習内容の予習																																																																
10	稲刈り	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習																																																																
11	稲刈り	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習																																																																
12	稲刈り	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習																																																																
13	野菜栽培 -ダイコン-	ダイコンの品種、栽培・利用についての学びとダイコン収穫	レポートの提出																																																																
14	収穫後の米	収穫された米の品質について学ぶ	レポートの提出																																																																
15	水田土壌の特徴	水田土壌の生産性、土壌生成因子、圃場整備	レポートの提出																																																																
関連科目	土壌学や植物栄養学の学習につながる内容を含んでいる。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	別途、指示する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	別途、指示する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	演習参加とレポート（100%）で評価し、60%以上で合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ	実習を通して、作物を栽培するための準備、管理方法、収穫がどのように行われているかを体感してください。また、作物栽培の楽しさと大変さを経験してください。コロナ感染状況等によっては、現地での実習（田植え、稲刈り）ができなく可能性があります。その場合はTeamsでの課題提供（課題提出はWebHolder使用）、本学農場での見学および実習を行う予定です。																																																																		
担当者の研究室等備考	園芸科学研究室（浅尾）、作物科学研究室（玉置、川崎）、生産生態系盤学研究室（佐野）、植物遺伝育種科学研究室（佐藤、牛島）、藪田																																																																		

科目名	グローバル農業演習	科目名 (英文)	Seminar in Global Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	飯田 祐一郎, 戴 容泰思
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE2003a0		

授業概要・目的	私達の食生活は、我が国の食料生産だけでは決して支えられているものではなく、他国における食料生産への依存度は高まる一方である。海外に1週間ほど滞在し、その地域や国の農業についての講義や視察により、茶などの工芸作物を含む様々な農作物、野菜や花などの種々園芸作物が他国で、どのような気象・土壌環境で、どのような栽培技術で生産され消費・利用されているかを、それら地域の歴史的、文化的背景、社会情勢の理解とともに学ぶ。
到達目標	①世界の農業との比較から日本の農業の特徴を説明できる。 ②演習に訪れた国・地域の農業、食に関わる文化、食生活等の特徴について説明できる。 ③演習に訪れた国・地域の人々と協働できる。

授業方法と留意点	当面は、学術交流協定を結んだ中国の雲南農業大学を演習の訪問先とする。訪問時期は春期休暇期間中で、おおよそ1週間の日程で行う。雲南農業大学は雲南省立の大規模大学で、多方面での農業に関する研究実績があり、日本の大学とは長年の交流実績を有しており、受け入れ態勢が整っている。 各講義、視察地での解説は、基本、中国語、英語で行われる。また、講義の内容は先方との調整で変更する場合もある。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	演習実施時期、実施国、および演習内容 (雲南農業大学における農学関連講義の受講、現地視察および雲南農業大学生徒との交流) の説明	事前: シラバスの理解
2	雲南農業大学の紹介	雲南農業大学の建学精神、組織、研究内容の紹介と学内施設見学	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
3	雲南省の概説	雲南省の地形、気象、生物 (動植物) についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
4	雲南省の概説	雲南省の歴史と少数民族についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
5	中国の農林水産業	中国の農林水産業の現状と特徴についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
6	中国の生物多様性	中国の生物多様性の現状と特徴についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
7	雲南農業大学見学	雲南農業大学の教育・研究施設について見学する	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
8	雲南省の茶産業 (1)	雲南省の茶栽培、茶生産技術、飲茶文化についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
9	雲南省の茶産業 (2)	雲南省の茶栽培、茶生産技術、飲茶文化についての視察 (茶間屋など)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
10	雲南省の花卉産業 (1)	常春といわれる雲南省における、花卉植物の多様性、周年栽培、品質、並びに他地域・国外への供給体制についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
11	雲南省の花卉産業 (2)	花卉市場を見学し、流通形態やその規模、取り扱い物の特徴を学ぶ	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
12	雲南省の少数民族 (1)	雲南省の少数民族の文化について学ぶ	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
13	雲南省の少数民族 (2)	民族村施設を訪問し、住居、農耕具、食文化、衣類、宗教等に関する展示物 (一部再現物) を見学する	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
14	雲南省における青果物の流通と食生活	全国から集荷される青果物市場を見学し、販売形態や、消費者の購買行動の特徴を学ぶ	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
15	総括	演習での学びと体験から、現在の中国の農業実態を理解・整理する。成果報告会を実施する	事後: 全実習のレポート提出

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	講義内容に関するプリントを配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	事前課題レポート内容 (30%)、事後課題レポート (30%)、現地での演習時の取り組み姿勢・成果報告会での発表内容 (40%) で評価し、60%以上で合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	本科目の履修登録の方法と時期については別途周知します。 履修希望学生は英語・中国語に精通している必要はありません。海外の大学生等と交流意欲のある方は大歓迎です。
-----------	---

担当者の研究室等	飯田祐一郎 (農業生産学科 植物病理学研究室) 戴 容泰思 (食農ビジネス学科 食品流通研究室)
----------	---

備考	
----	--

科目名	スマート農業演習	科目名 (英文)	Seminar in Smart Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅尾 俊樹, 川崎 通夫, 北村 祐人
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE3004a0		

授業概要・目的	日本農業における就農人口の減少、高齢化、激しい気象変動と異常気象等、農園芸作物生産を取り巻く環境は厳しさを増している。そんな中、高収量・高品質、安定生産、省力・軽作業化、省エネを実現するためのロボット技術や ICT を活用した新しい農業スタイル「スマート農業」が動き始めている。本演習ではスマート農業について、その理論と実際を学び、日本農業がかかえる課題と「スマート農業」の可能性とその重要性について正しく認識させる。
到達目標	① スマート農業とは何か、説明できる。 ② スマート農業の具体例を列挙し、その内容と特徴を説明できる。 ③ スマート農業についての学びから、その可能性について自分の考えをまとめ、述べることができる。
授業方法と留意点	本学教員による講義及び学外の施設視察と受講、および他大学教員、試験研究機関の研究員をゲストスピーカーとして迎え、講義を進める。講義内容はプリント、資料等で事前配布する。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	スマート農業とは	スマート農業と呼ばれている農業技術、施設、システムの概説	事前：次回実習内容の確認
2	植物工場 その1	太陽光利用型植物工場の現状と課題	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
3	植物工場 その2	人工光利用型植物工場の現状と課題	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
4	植物工場視察研修	大阪府立大学植物工場研修 (講義) 植物工場における環境制御技術 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
5	植物工場視察研修	大阪府立大学植物工場研修 (講義) 体内時計制御による生長の最適化 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
6	植物工場視察研修	大阪府立大学植物工場研修 (視察) 植物工場施設の見学	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
7	栽培環境情報の「見える化」	ハウス内気象情報の「見える化」と遠隔操作 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
8	生産技術の「見える化」	篤農家技術の見える化 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
9	ドローンの農業利用	ドローンによる薬剤散布、播種作業 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
10	ロボット技術	無人トラクターと収穫ロボット (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
11	オミクス利用	オミクス情報利用による新世代栽培技術の開発 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
12	次世代型温室視察研修	京都大学農学部附属木津農場視察研修 (講義)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
13	次世代型温室視察研修	京都大学農学部附属木津農場視察研修 (視察)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
14	農業と AI	農業における AI 活用の可能性 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
15	まとめ	スマート農業の可能性	事後：レポートの提出

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	レポート (100%) を総合して評価し、60%以上で合格とする。6回以上欠席したものは受験資格なし。
学生へのメッセージ	本講義は通年の講義です。原則、隔週の土曜日開講としていますが、一部、講義日等に変更が生じる場合があるかもしれませんので、ご承知おきください。その場合はできるだけ早いうちお知らせします。
担当者の研究室等備考	

科目名	農業気象学	科目名 (英文)	Agricultural Meteorology
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山田 宏之
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE3005a0		

授業概要・目的	さまざまな気象現象の基礎的な特徴と発生原理等について講義を行い、気象と動植物との関わり、農業や人間生活との関わり等について、具体的な事例を示しながら解説する。それにより、大気組成や構造、放射過程・熱輸送過程、高・低気圧や前線とその動き、異常気象の発生原理、大気大循環、地球温暖化を含む気候変化とその影響など、さまざまな時間的・空間的スケールで起きる気象現象や気候システムについて、そのメカニズムを習得し、それらの農業への影響や対策等について現実的に考察することが可能となる学力を身に付ける。
到達目標	大気の中で起きるさまざまな現象を理解しながら大気環境の実態を把握し、大気圏と水圏・地圏・生物圏との相互影響も理解でき、それらが農業生産に及ぼす影響や対処方法を自ら考察できる能力を身に付けることを目標とし、大気組成や構造、放射過程・熱輸送過程、高・低気圧や前線とその動き、異常気象、大気大循環、地球温暖化を含む気候変動とその影響など、さまざまな時間的・空間的スケールで起きる気象現象や気候システムについて、そのメカニズムを習得し、科学的に説明できるようにすること。
授業方法と留意点	毎回、プリントを配布し、それを元に授業を進める。更に、ビジュアル化した映像資料を映写し、理解を深めていく。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	地球大気の構造と特徴	地球大気の組成や階層構造別 (対流圏、成層圏、中間圏、熱圏) の特性について講義する。	事前に対流圏、成層圏、中間圏、熱圏の言葉の意味と内容を確認すること。事後には、それぞれの圏域の特性を再確認すること。
2	放射収支と熱収支	地球表面や農耕地における太陽光の放射収支、熱収支について講義する。	事前に短波放射、長波放射、日射量、純放射量などの用語について調べておくこと。事後には、地表面熱収支の内訳 (各成分の収支) について確認しておくこと。
3	大気の水平方向の動き	対流圏における気流 (風) の特性について講義する。	事前にコリオリ力 (偏向力) について調べておくこと。事後には、地上で生じる風にかかる各種力の内容について確認すること。
4	大気の動きの特徴 (1) : 大気大循環	大気によるエネルギー輸送、海流によるエネルギー輸送、大気大循環の構造と特性について講義する。	事前に地球上の海流の種類と特性について調べておくこと。事後には、大気大循環のメカニズムについて確認すること。
5	大気の動きの特徴 (2) : 低気圧と高気圧	低気圧および高気圧の発生過程と特性について講義する。	事前に温帯低気圧と熱帯低気圧について、一般的な特性を調べておくこと。事後には、日本列島付近での低気圧、高気圧の挙動と季節変化について確認しておくこと。
6	大気の鉛直方向の動き (1) : 温位と乾燥断熱減率	積乱雲の発生過程を追いながら、大気の温位と乾燥断熱減率の特徴等について講義する。	事前に大気の乾燥断熱減率、湿潤断熱減率について調べておくこと。事後には、乾燥断熱減率、湿潤断熱減率を用いて、積乱雲の発達過程を説明できるように確認しておくこと。
7	大気の鉛直方向の動き (2) : 大気の安定度と湿度	大気の湿り具合と雲の発生、雹や雷の発生等について講義する。	事前に相対湿度と絶対湿度の違いについて調べておくこと。事後には、容積絶対湿度のグラフを用いて、結露や雲の成因について十分に説明できるように、内容を確認しておくこと。
8	気候と植物 (1) : 気候区分	ケッペンの気候区分を題材に、気候と植物との関わりについて講義する。	事前にケッペンの気候区分について調べておくこと。事後には、日本の気候区分と植生について確認しておくこと。
9	気候と植物 (2) : 植物分布	地球上の植物分布と気候との関わり、過去の気候変動が現在の植物分布に及ぼす影響などについて講義する。	事前に熱帯、温帯、亜寒帯、寒帯の植物について調べておくこと。事後には、各気象帯の植生の特性について確認すること。
10	気候環境と植物の成育	植物の生育に影響を及ぼす気候因子について講義する。	事前に気温、日射、風が植物生育に与える影響について調べておくこと。事後には、各気象要素が植物生育に与える影響と、その原理について確認すること。
11	気候の栽培への応用	気候を利用した作物栽培、暖地農業と寒冷地農業などの実例を通じて、気候と農業生産の関連性について講義する。	事前に暖地農業と寒冷地農業について調べておくこと。事後には、作物の温度条件への適合性について確認すること。
12	農業気象災害とその防止	農業栽培における風害、凍霜害、冷害等について、その実態と発生原理について講義する。	事前に風害、凍霜害、冷害の意味について調べておくこと。事後には、イネの冷害対策の具体事例について確認すること。
13	施設栽培の気象環境管理	ビニールハウスやガラス温室などの栽培施設内の気象環境の特徴と、その制御技術について講義する。	事前にビニールハウスとガラス温室の一般的な特性について調べておくこと。事後には、素材別の光透過率等について確認すること。
14	都市気象と都市農業	都市気象の特徴、成因、対策等について講義する。また、それが都市農業に与える影響を解説し、実際の都市農業の事例紹介を行う。	事前に都市気象の一般的な特徴について調べておくこと。事後には、都市気象が人間や植物に与える影響について確認すること。
15	健康と気象、まとめ	熱中症や寒冷害など、人間の健康に及ぼす気象の影響について講義し、農作業時の疾病防止策を学ぶ。また、講義全体のまとめを行う。	事前に熱中症の原因と病症について調べておくこと。事後には、体感温度の各種指標について確認すること。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい気候学	仁科淳司	古今書院
	2	作物の生育と環境	西尾道徳、他	農山漁村文化協会
	3			
評価方法 (基準)	授業期間中の3回のレポートを平均することを原則とした100点満点で成績を評価する。			
学生への メッセージ	前半7回目までは天気予報等に用いられる一般的な気象学に関する講義、後半は農業気象学を中心とした応用気象学の講義を行います。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	森林生態学	科目名 (英文)	Forest Ecology
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 弘明
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE3006a0		

授業概要・目的	森林は世界の陸地の30%を占め、日本の国土の67%を覆う重要な陸域生態系です。森林は木材や紙など私たちにとって重要な資源を提供するとともに、水源涵養、土砂災害の防止などといった生活の基礎となる生態系機能を担っています。この講義では、森林生態系の植生およびその動態、構造と機能、保全と管理について学び、生物学、社会・経済学、環境科学の視点から森林について考えます。
到達目標	(1) 日本および世界の森林植生に関する基礎知識を学び、森林生態系の機能や物質循環について理解する (2) 森林と人間社会の関係について知ることで自然環境との関わり方を再考する (3) 森林を含む自然資源の循環利用型社会の構築に積極的に取り組む社会作りの一端を担える人材となる
授業方法と留意点	この授業では、講義を聞いているだけでは単位は得られません。講義・討論への積極的な参加（挙手、発言を記録します）および宿題・研究課題の提出が求められます。課題・宿題をするにあたっては教科書が必要ですので、必ず購入してください。毎回の授業の最初に確認テストを行います。問題は教科書（持込可）から出題します。演習および確認テストはPCを用いて行いますので、パソコンを持参してください
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	教科書・研究の紹介	復習：感想・考察を記入すること
2	炭素貯金のすすめ：温暖化と森林生態系	代表的な気候帯と森林植生について学ぶ	復習：教科書「はじめに」を読む
3	いろいろな森：世界・日本の森林植生	表的な気候帯と森林植生について学ぶ。	復習：教科書 1.1, 1.2 節を読み、発展課題に取り組む
4	演習：WI の計算と温暖化予測	気象庁データベースを用いたデータ解析演習（パソコン必携）	宿題：教科書 1章 発展課題（1）
5	炭素は貯まる：森林生態系の一次生産	森林生態系の物質生産と炭素循環について学ぶ	復習：教科書 3.1 節を読み発展課題に回答すること
6	演習課題：カーボンプライシング	カーボンプライシングおよびオフセットについて調査し、討論会の準備をする	復習：引き続きカーボンプライシングについて調査する
7	グループ討論	炭素オフセットってあり？	予習：討論課題について下調べをし、自分の意見を形成して臨むこと 復習：討論会の感想と考察を記入すること
8	窒素はリサイクル：森林土壌と分解系	分解系と森林土壌の形成、窒素循環について学ぶ	復習：教科書 第4.2節および5.2節を読み発展課題に回答すること。
9	水は流れる：公益的機能と保安林	森林の生態系サービスおよび森林管理・政策について学ぶ。	復習：教科書 5.1 節を読み発展課題に回答すること
10	演習課題：水源林調査・森林環境税	自分の地域の水源林について、その管理方法や財源について調べる。森林管理の財源としての森林環境税制について調べる。	宿題：教科書 6.1 節を読み発展課題に回答する。討論会の準備をする
11	グループ討論：森林環境税	森林環境税の現状と課題について議論する	予習：討論課題について下調べをし、自分の意見を形成して臨むこと 復習：討論会の感想と考察を記入すること
12	森は変化する：森林群落の攪乱と遷移	森林生態系の構造と動態について学ぶ。	復習：教科書 2.2 節を読み発展課題に回答すること。
13	森は再生する：樹木の繁殖と森林の更新	樹木の繁殖戦略について学ぶ。	復習：教科書 2.3 節をよみ発展課題に回答すること
14	演習課題：マस्टィング	種子生産の豊凶データの解析。エクセルを用いた変動係数の計算演習（パソコン必携）	宿題：計算結果をまとめ考察を行う
15	総括・テスト	教科書の復習	事前学習：教科書を復習する

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	森林生態学	石井弘明	朝倉書店
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業参加度、授業態度、発言頻度）：40%、宿題：30%、小テスト：30%で評価し、60%以上で合格とする。
学生へのメッセージ	地球温暖化、森林破壊が危惧される今だからこそ、森林生態系の仕組みについて理解することが重要です。教科書は講義、宿題およびテスト（持込み可）で使用しますので、必ず購入してください。この授業は受動的な講義ではありませんので、興味を持って楽しく受講し、積極的に発言するようにしてください。
担当者の研究室等備考	神戸大学農学部・応用植物学コース・森林資源学研究室

科目名	農業知的財産	科目名 (英文)	Agricultural Intellectual Property
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中世古 裕之、犬飼 一博
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE3007a0		

授業概要・目的	農林水産業は、生活の根幹を支える重要な産業でありながら、これまで十分な知的財産に関する法的支援が図られていなかった。そこで、農林水産業における知的財産の重要性を認識し、知的財産制度を有効に活用するために、農林水産業と密接に関連する知的財産の基礎的知識や各種制度の在り方、農林水産業における知的財産制度の活用方法の修得を目的とする。具体的には、農林水産分野における知的財産法制の概観、種苗法に基づく品種登録制度の概要 (海外での新品種の保護制度を含む)、農林水産品の「地域ブランド」保護制度である地域団体商標制度及び地理的表示制度の内容、農林水産業における品質誤認表示規制等の概要、水際措置等について修得する。
到達目標	日本の農林水産業の競争力の維持・向上を図ると共に、農作物の持続的・安定的な供給を図ることを目的として、農林水産業における知的財産の重要性を認識する。そのために、農林水産業において活用可能な知的財産制度を十分に理解し、農林水産業の現場において実践的に活用できる知識を習得した人材を育成することを本授業の目標とする。
授業方法と留意点	授業方法は下記の授業計画に従い、主にレジュメ等を用いて講義を行い、必要に応じて資料を配布する。講義を中心とした授業形式とする。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	農林水産業と知的財産権	農林水産業における知的財産権の重要性、知的財産制度全体の概要 (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
2	商標制度	商標制度の概要 (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
3	地域団体商標制度	地域団体商標制度の概要、登録要件、その効果について (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
4	地理的表示保護制度	地理的表示制度の概要、地域団体商標制度との違い、海外における地理的表示保護の対策 (TRIPS協定、各国のGI制度) について (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
5	品種登録制度	品種登録制度の概要 (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
6	品種登録制度の要件・効果及び海外での育成者権の保護	品種登録の要件・効果、UPOV条約の概要、海外での育成者権の保護等について (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
7	品種登録制度における訴訟	品種登録が要件を欠く場合の対抗手段について (裁判例解説) (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
8	農林水産業と不正競争防止法 (品質誤認)	不正競争防止法における品質誤認表示規制 (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
9	農林水産業と不正競争防止法 (表示保護)	不正競争防止法における表示保護、商品形態保護 (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
10	農林水産業と不正競争防止法 (営業秘密)	不正競争防止法における営業秘密の保護 (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
11	水際措置	知的財産侵害物品の水際取締制度 (税関での輸入差止) の概要 (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
12	その他の知的財産制度の活用 (特許・実用新案)	農林水産業における特許・実用新案の概要について (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
13	その他の知的財産制度の活用 (意匠・著作)	農林水産業における意匠・著作の概要について (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
14	訴訟制度概要	農林水産業における各種訴訟制度全体の紹介 (裁判例解説)、それに対する弁護士役割 (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
15	和牛遺伝資源関連2法	和牛の遺伝子情報の流通の適正化、遺伝資源の保護に関する家畜改良増殖法、家畜遺伝資源に係る不正競争の防止に関する法律の概要 (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	改訂版 攻めの農林水産業のための知財戦略～食の日本ブランドの確立に向けて～	農水知財基本テキスト編集委員会	経済産業調査会
2			
3			

評価方法 (基準)	定期試験 100%で評価し、60%以上で合格とする。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	

科目名	食農ビジネス学概論	科目名 (英文)	Introduction to Agri-Food Business
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北川 太一、浦出 俊和、川崎 訓昭、成 耆政、副島 久実、田中 樹、谷口 葉子、種市 豊、戴 容泰思、中塚 華奈、山本 尚俊、吉井 邦恒
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1008a0		

授業概要・目的	食農ビジネス学とは新しい学問領域であり、他の大学にはない本学に独自の領域である。また、食農ビジネス学には多様な専門分野が含まれる。したがって、これから食農ビジネス学科で学ぶべき課題を見だし、主体的に取り組むうえで、まず食農ビジネス学とはどのような専門分野から成り立っているのかを理解する必要がある。本講義では、食農ビジネス学科の主な専門分野からテーマを設定し、オムニバス形式の講義により食農ビジネス学とは何かを理解し、主体的に取り組もうとする課題を見いだせるようになることを目的として開講する。教員の中には中央省庁で長く農林水産政策に携わった経験を持つ者や農漁業界新聞の記者の経験者等もあり、授業ではそれらの経験を踏まえた事例紹介などを取り入れる。
到達目標	① 食農ビジネス学に関心を持つことができる。 ② 食農ビジネス学で何を学ぶかを理解することができる。 ③ 食農ビジネス学が関わる領域の課題を理解し、これからの勉学・研究のための問題意識を持つことができる。
授業方法と留意点	パワーポイント、板書等を用いて講義を行う。講義の開始前に予習用プリントを配布するので、事前学習を行うこと。また、講義の理解度を高めるために、小テストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	①食農ビジネス学科で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②食農ビジネス学科の専門科目を学修するうえでの、農業、食料問題の基礎的な理解を得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	食農ビジネス学を学ぶために	科目全体のガイダンス、食農ビジネス学の目的と専門領域など。(担当：北川太一)	事前：シラバスの理解 (2時間)	事後：講義内容の確認 (2時間)
2	食と農の変化と今日の姿	食と農がどのように変化してきたのかを概説したうえで、今日の食と農の姿について講義する。(担当：種市豊)	事前：学習範囲の予習 (2時間)	事後：小レポート・リアクションペーパー等の作成 (2時間)
3	わが国と世界の食料需給の農産物貿易	わが国と世界の食料需給と農産物貿易の現状と課題について講義する。(担当：吉井邦恒)	事前：学習範囲の予習 (2時間)	事後：小レポート・リアクションペーパー等の作成 (2時間)
4	農業経営の発展方向	わが国の農業と農業経営の動向を踏まえて、今後の農業経営の発展方向について講義する。(担当：川崎訓昭)	事前：学習範囲の予習 (2時間)	事後：小レポート・リアクションペーパー等の作成 (2時間)
5	農の6次産業化	農業・農村の活性化の方向として期待されている6次産業化の意義と課題について講義する。(担当：成耆政)	事前：学習範囲の予習 (2時間)	事後：小レポート・リアクションペーパー等の作成 (2時間)
6	地域のマネジメント	農村地域が抱える諸問題と、その解決をめざす取り組みについて講義する。(担当：浦出俊和)	事前：学習範囲の予習 (2時間)	事後：小レポート・リアクションペーパー等の作成 (2時間)
7	フードシステムと食品産業	フードシステムの全体像と、構成する産業の相互関係について講義する。(担当：山本尚俊)	事前：学習範囲の予習 (2時間)	事後：小レポート・リアクションペーパー等の作成 (2時間)
8	農畜産物の流通	農畜産物の流通のしくみと課題について講義する。(担当：戴容泰思)	事前：学習範囲の予習 (2時間)	事後：小レポート・リアクションペーパー等の作成 (2時間)
9	食品の表示と認証	食品表示・認証のしくみと意義について講義する。(担当：中塚華奈)	事前：学習範囲の予習 (2時間)	事後：小レポート・リアクションペーパー等の作成 (2時間)
10	水産物の流通	水産物の流通のしくみと課題について講義する。(担当：副島久実)	事前：学習範囲の予習 (2時間)	事後：小レポート・リアクションペーパー等の作成 (2時間)
11	農水産物のマーケティング	マーケティングの理論と農水産物への応用について講義する。(担当：副島久実)	事前：学習範囲の予習 (2時間)	事後：小レポート・リアクションペーパー等の作成 (2時間)
12	農業と環境・生態系	農業と環境・生態系の関わりのある方について講義する。(担当：田中樹)	事前：学習範囲の予習 (2時間)	事後：小レポート・リアクションペーパー等の作成 (2時間)
13	循環型農業の理念とフードシステム	持続可能性を追求する循環型農業の理念やそのフードシステムについて講義する。(担当：谷口葉子)	事前：学習範囲の予習 (2時間)	事後：小レポート・リアクションペーパー等の作成 (2時間)
14	都市と農業	都市と農業の関係と、その今後のあり方について講義する。(担当：中塚華奈)	事前：学習範囲の予習 (2時間)	事後：小レポート・リアクションペーパー等の作成 (2時間)
15	協同組合の理念と役割	食(消費者、都市)と農(生産者、農山漁村)を繋ぐ共生に向けた協同組合の理念と実践について講義する。(担当：北川太一)	事前：学習範囲の予習 (2時間)	事後：小レポート・リアクションペーパー等の作成 (2時間)

関連科目	食農ビジネス学科が開講するすべての専門科目
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食料と農業の「なぜ？」(『農業と経済』2023夏号)	松下・辻村・森	英明企画編集

	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の授業の小テストまたは小レポートの合計点を100点満点に換算して評価する。60点以上を合格とする。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聴き、ノートを取り、考える態度を身につけるよう、心がけてください。 ・毎回出される小レポートやリアクションペーパーを忘れずに提出する習慣をつけましょう。 			
担当者の 研究室等	<8号館3階> 農業経営学研究室(川崎)、農業経済学研究室(成)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、食農教育研究室(中塚)、持続型フードシステム研究室(谷口) <8号館2階> 食料・農業政策学研究室(吉井)、食料・農業市場研究室(種市)、食品産業研究室(山本)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、食品流通研究室(戴)、環境農学研究室(田中)			
備考				

科目名	食と農の倫理	科目名 (英文)	Food and Agricultural Ethics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	種市 豊
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1009a0		

授業概要・目的	食と農をめぐる様々な問題が存在するなかで、その解決に向けた行動規範として、食と農の倫理がある。これは、食（消費者）と農（生産者・供給者）の双方の倫理的な行動によって、問題の解決につなげようとするものである。本講義では、食と農をめぐる諸問題の所在を理解したうえで、食と農の倫理の思想と理念への認識を深めるとともに、その視点から課題の解決・緩和のための取り組みや制度を知ることが目的とする。
到達目標	① 食と農を取り巻く諸問題を理解することができる。 ② 食と農を取り巻く諸問題に対する倫理と思想を理解することができる。 ③ 課題の解決・緩和のための取り組みや制度を知ることができる。
授業方法と留意点	パワーポイント、板書等を用いて講義を行う。講義の開始前に予習用プリント等を配布するので、事前学習を行うこと。講義の理解度をはかるために小テストを実施する。授業のなかで、グループ・ディスカッション等を実施することがある。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	食と農の倫理	食と農の倫理をめぐる諸問題を概観する。	事前：シラバスの理解
2	SDGs と倫理的消費	SDGs と倫理的消費の考え方を学ぶ。	事前：配布プリント等の予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
3	食料分配の不均衡と食への権利	世界的な食料分配の不均衡について食料安全保障の観点より理解し、食への権利という考え方を学ぶ。	事前：配布プリント等の予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
4	食料アクセス問題	食料への社会的・経済的なアクセス問題とその解消方法について理解する。	事前：配布プリント等の予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
5	食品ロスとは何であるのか？	食品ロスをめぐる状況と削減に向けた取り組みを理解し、私たちができることを考える。	事前：配布プリント等の予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
6	食品ロスと向き合う	リデュース・リユース・リサイクル、規格外の販売、ロスと向き合うにはどのようなことが必要かを考える。	事前：配布プリントの予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
7	サーキュラーエコノミー	循環型経済・環境負荷の軽減を学ぶ。	事前：配布プリント等の予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
8	循環型社会の形成	「グッズとバズ」とはどのようなものであるのかを考え、循環型社会に何が必要かを考える。	事前：配布プリント等の予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
9	企業の倫理とコンプライアンス	企業のCSR活動や、食品表示などの食にまつわる法規制へのコンプライアンス向上に向けた取り組みを理解する。	事前：配布プリント等の予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
10	ソーシャルビジネスとCSV	社会的課題の解決を目的とする事業のあり方について理解する。	事前：配布プリント等の予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
11	寄付文化と応援消費	寄付行動の動向と災害時の応援消費を始めとするエシカル消費について学ぶ	事前：配布プリント等の予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
12	ローカルフードシステム	食品流通の広域性にまつわる諸問題とローカルフードの取り組みについて学ぶ。	事前：配布プリント等の予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
13	食品の安全政策と消費者対応	食の安全性に関わる環境問題を学ぶ。	事前：配布プリント等の予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
14	公正と社会正義	農家や労働者の福祉の改善を目指したフェアトレードの取り組みについて学ぶ。	事前：配布プリント等の予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
15	日本の食料問題を考える	農業問題と食料問題。真の豊かさとは。以上の点を学ぶ。また、本講義の統括を行う。	事前：配布プリント等の予習 事後：授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	農と食の新しい倫理	秋津元輝、佐藤洋一郎、竹之内裕文	昭和堂
2	食品ロスはなぜ減らないの	小林富雄	岩波書店	
3	食料経済	高橋正郎、清水みゆき編	オーム社	

評価方法	各回の授業で実施する学習確認小テスト・小レポート（40%）と、期末試験または期末レポート（60%）で評価する。
------	---

(基準)	
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室
備考	

科目名	基礎経済学	科目名 (英文)	Basic Economics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	成 蒼政
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1010a0		

授業概要・目的	本講義は、食農ビジネス学科において、専門的研究を行うための基礎系科目として位置づけられた必修科目である。「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」の事前基礎科目としての本講義では、まず経済と経済学の基礎理論(原理と手法など)について講義を行う。その上で、我々を取り巻く現実の複雑な経済現象とさまざまな経済問題などについての分析と応用の能力を養う。また、現代経済における経済主体、すなわち家計、企業、そして政府の意思決定(経済活動)と役割に関する理論と手法、および国際経済学の理論と実態についても講義する。授業担当者は、農漁業経済新聞記者の経験を持ち、授業ではそれらの経験を踏まえた事例の紹介などを取り入れる。
到達目標	① 経済学の基礎理論(原理と分析手法など)について理解できる。 ② 経済理論と現実の経済との関係(関連)について理解できる。すなわち、理論と経済モデルの重要性と現実経済への適用・説明の難しさを理解できる。 ③ これらを通じて、現実のさまざまな経済問題(地域、国内、世界)を分析、応用・考察する能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	この科目は専門必修である。講義資料はできる限り講義日の1週間前までにTeamsにアップロードする。授業の理解度をはかるために、小テストも実施する。シラバスを常に確認し、定められた事前・事後学習を必ず行うこと。受講生は必ず、講義日の日本経済新聞を読み(ウェブサイトでも読める)、日経平均株価と米ドルに対する日本円の為替レートを調べる(授業時間中に確認を行う)。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション(高度資本主義社会と経済問題)	授業概要、学習目標、授業の進め方のほか、経済と経済学の定義、資本主義経済と民間部門、公共部門、経済主体と経済活動、経済学の研究方法、効率と公平、資源の希少性などの経済問題などについて講義する。	事前:シラバスの理解と、資本主義経済の特徴について調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
2	経済学の基本原理	経済主体のトレードオフ、機会費用の概念、限界原理、インセンティブ、交易と市場の役割、政府の機能、生産性、イン플레이ション、失業などについて講義する。	事前:経済用語に馴染めるためにも、テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
3	需要と供給理論(Ⅰ):市場の機能	市場と競争、需要の作用(需要表、需要曲線など)、供給の作用(供給曲線、市場の供給など)、市場の均衡などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
4	需要と供給理論(Ⅱ):市場と厚生	市場における需要と供給の弾力性(価格弾力性、所得弾力性、交差弾力性)、そして弾力性の応用などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
5	消費の経済理論	消費者余剰、市場の効率性と市場の失敗、そして課税の費用など、消費経済学について講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
6	生産の経済理論	生産と費用、生産関数、短期と長期の費用など、企業経済学について講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
7	税と効率・経済の公平、厚生経済理論	死荷重、税と効率、税と公平、効率と公平のトレードオフ、外部性の概念、厚生経済学、外部性と市場の非効率性、外部性に対する公共政策、コースの定理などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
8	小テスト(中間テスト)と解説によるまとめ	講義の理解度をはかるための小テスト(中間テスト)の実施とその解説などを行う。テストの時間は45分、残りは解説による今までの講義のまとめなどを行う。	事前:今までの講義の内容をテキストと配布資料などでしっかり理解し、中間テストに備えること。 事後:中間テストの内容をテキストや解説などで完全に理解すること。(4時間)
9	国民所得の測定	経済の所得と支出、国内総生産の測定、GDPの構成要素、名目GDPと実質GDPなどについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
10	生計費の測定	消費者物価指数(計算方法、生計費測定の諸問題、バスケットの中身など)、生産者物価指数、イン플레이ションの影響に対する経済変数の補正(異なる時点の金額、物価スライド制、実質利子率と名目利子率)などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
11	貯蓄、投資と金融システム	短期と長期の経済変動、経済変動に対する新古典派経済学の仮説、総需要と総供給のモデル、経済変動の原因などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
12	総需要と総供給(IS-LM分析)	IS-LMモデル分析、有効需要の原理、短期と長期の経済変動、経済変動に対する新古典派経済学の仮説、総需要と総供給のモデル、経済変動の原因などについて講義する。	事前:本講義において、最も難解な部分であるので、キーワードの意味をしっかり調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること、テキストの関連章の応用問題を解くこと。(4時間)
13	生産と成長	主要国の経済成長、生産性の役割と決定	事前:生産と成長に関するキーワードの意味を調べ

			要因、生産開数、経済成長と公共政策、長期的成長の重要性などについて講義する。	ること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)																
	14	国際経済理論	生産可能性の原理、比較優位と絶対優位の理論、比較優位と交易、比較優位の応用例、国際貿易理論などについて講義する。	事前：国際経済に関するキーワードの意味を調べること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)																
	15	総まとめ	講義の総まとめ、現代経済学の潮流、経済理論で解決できない経済問題などについて講義する。	事前：各章の要約を読んで、しっかり理解すること。 事後：総まとめの資料を熟知することで、しっかり期末試験の準備をすること。(4時間)																
関連科目	ミクロ経済学、マクロ経済学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>講義 基礎経済学</td> <td>成 善政</td> <td>現代図書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	講義 基礎経済学	成 善政	現代図書	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	講義 基礎経済学	成 善政	現代図書																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入門経済学</td> <td>伊藤 元重</td> <td>日本評論社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>経済学</td> <td>山田 久</td> <td>実業出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	入門経済学	伊藤 元重	日本評論社	2	経済学	山田 久	実業出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	入門経済学	伊藤 元重	日本評論社																	
2	経済学	山田 久	実業出版																	
3																				
評価方法 (基準)	レポート3回(60%)、中間テスト(40%)で評価し、60%以上で合格とする。																			
学生への メッセージ	この科目は食農ビジネス学を勉強していくための最も基礎になる必修科目です。積極的な姿勢で、講義に臨み、Teamsなどを通じて質疑・応答にも積極的に参加していただきたい。																			
担当者の 研究室等	農業経済学研究室(8号館3階教員室314)																			
備考	指定の教科書を中心に授業を進めていきます。また、レポートなどの作成に必要なので、指定の教科書を購入し、必ず授業に持参してください。																			

科目名	アグロ・エコロジー論	科目名 (英文)	Agro-Ecology
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1011a0		

授業概要・目的	人びとの暮らしを支える農業（農耕、牧畜、狩猟採集、林業、漁労などを幅広く含む生業）は、それぞれの地域の気候や生態系および社会・経済・文化との密接な関わりの中で成立している。また、「風土」という言葉があるように、私たちが親近感（安らぎ、美しさなど）を感じる景観や生態系は、農業などの暮らしの営みのなかで形づくられてきた。本授業では、日本国内や海外の幾つかの地域の農業を参照して、それらと気候や資源・生態系（地形、植生、土壌など）および人びとによる働きかけとの関係を理解する。
到達目標	① 自然生態系と農業生態系の定義、類型、特徴を理解する。 ② 国内外のさまざまな生態環境や人間活動（農業や牧畜などの生業）との関わりとその総体である「風土」の成り立ちを知る。 ③ 現代社会が直面する諸問題を知り、その解決や未来社会の形成に向けて農業が果たしうる役割を考える。 ④ グループ討論や総合討論を通じて、共同作業による知識の共有や理解の深化を進める経験をする。
授業方法と留意点	パワーポイントと配布資料を用いた講義を行う。授業中は、幾つかの質疑を織り込み、基本知識の理解度の確認と共有を図る。理解を深めるために、毎回の授業後にリアクションペーパー（授業内容に関する事後学習とその内容のレポート）を課す。授業やリアクションペーパーから幾つかの課題や任意の対象地域を設定し、それぞれについてグループ討論や総合討論を行う。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	農業生態系の基礎 (1)	自然生態系と農業生態系の定義、類型および基本的な特徴を理解する。	事前：シラバスの理解 事後：リアクションペーパーの作成と提出 (授業日から5日以内)
2	農業生態系の基礎 (2)	農業生態系の構成要素（気候、植生、水、土壌など）と人間活動との関わりを理解する。	事後：リアクションペーパーの作成と提出 (授業日から5日以内)
3	農業生態系の基礎 (3)	人為生態系（攪乱生態系）や農村景観、荒廃景観などから自然と人間活動（農業や牧畜、森林伐採、地形変化など）との関わりや風土の成り立ちを考える。	事後：リアクションペーパーの作成と提出 (授業日から5日以内)
4	世界の風土と農業 (1)	西アフリカを事例に乾燥地・半乾燥地の農業と生態環境との関わりを知る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出 (授業日から5日以内)
5	世界の風土と農業 (2)	環インド洋地域（南アジア、東アフリカ）を事例に亜湿潤地の農業と生態環境との関わりを知る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出 (授業日から5日以内)
6	世界の風土と農業 (3)	東南アジアを事例に湿潤地の農業と生態環境との関わりを知る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出 (授業日から5日以内)
7	日本の風土と農業 (1)	北海道、東北、関東、甲信越の生態環境と農業との関わりを知る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出 (授業日から5日以内)
8	日本の風土と農業 (2)	近畿、四国、中国の生態環境と農業との関わりを知る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出 (授業日から5日以内)
9	日本の風土と農業 (3)	九州、沖縄（島嶼地域）の生態環境と農業との関わりを知る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出 (授業日から5日以内)
10	農業と環境問題 (1)	農業による生態環境（特に土壌、水、植生などの劣化や汚染）への影響と保全のあり方を知り、解決への糸口を探る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出 (授業日から5日以内)
11	農業と環境問題 (2)	都市化や過疎化、高齢化に伴う生態環境や農業の変容状況と問題点を把握し、解決への糸口を探る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出 (授業日から5日以内)
12	農業の未来	環境保全的な農業や社会的弱者層支援の取り組み事例を参照し、国内外の都市域や農村域の未来像と農業が果たす役割を考える。	事後：リアクションペーパーの作成と提出 (授業日から5日以内)
13	グループ討論	授業やリアクションペーパーから抽出された課題についてのグループ討論および総合討論への準備作業を行う。	事前：抽出された課題群から割り当てられた課題についての予習 事後：リアクションペーパーの作成と提出 (授業日から5日以内)
14	総合討論：日本の農業の特徴と課題	グループ討論から抽出された日本の農業に関する課題について、その特徴や解決策に関するグループ発表と質疑応答および討論を行う。	事前：総合討論の話題に関する予習 事後：関心ある課題についての総合レポートの作成と提出（講義日から7日以内）
15	総合討論：世界の農業の特徴と課題	グループ討論から抽出された世界（特にアジアやアフリカ）の農業に関する課題について、その特徴や解決策に関するグループ発表と質疑応答および討論を行う。	事前：総合討論の話題に関する予習 事後：関心ある課題についての総合レポートの作成と提出（講義日から7日以内）

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	季刊地域 (バックナンバー各号)		農山漁村文化協会
	2	宮本常一とあるいた昭和の日本 (全25巻)	監修：田村善次郎・宮本千晴	農山漁村文化協会

	3		
評価方法 (基準)	授業ごとのリアクションペーパー（授業レポート、70%）と総合レポート（30%）で評価し、60%以上を合格とする。		
学生への メッセージ	<p>(1) 農業や生態系を理解するには、授業や書籍から得る知識だけではなく、自身の感性を磨き働かせることも大切です。それは、必ずしも特別なことではなく、自身の日常の暮らしの風景（地形、街並み、土地利用、植物、土、風、音、香りなど）とそれらの季節の移ろいに注意を向けることから始まります。</p> <p>(2) 教員の大切な仕事は学生との雑談だと思っています。当面は Web 経由になりますが、授業日の午後 14:00～17:00 をコアタイムとし、授業内容に関する質疑応答や雑談ができるようにします。希望があれば、コアタイム以外の日時でも</p>		
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 8 号館（農学部棟）・環境農学研究室（213 号室）		
備考			

科目名	基礎統計学	科目名 (英文)	Basic Statistics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 葉子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1012a0		

授業概要・目的	統計学は世の中で起きている事象を限られたデータを用いて理解する上で役立つツールであり、社会で幅広く活用されている。本講義では、データのまとめ方 (記述統計) や確率分布に関する理論、標本データから母平均や母比率を推定する方法や、2つの標本の代表値の差を検定する方法について学ぶ。また、相関分析や回帰分析を用いて2つの標本の関係性や因果関係を検定する方法を学ぶ。
到達目標	① データの代表値や散らばり指標の計算とその解釈ができる。 ② 標本から母平均や母比率の推定を行うことができる。 ③ 2標本の母平均や母比率の差の検定を行うことができる。 ④ 2変数を用いて相関分析や回帰分析を行うことができる。
授業方法と留意点	授業はパワーポイントと板書を用いて講義形式で実施する。教科書および配布プリントによる事前学習を必須とする。また、事後学習として練習問題に取り組むこと。成績は授業の中で実施する中間試験 (第8回講義を予定) と定期試験の結果に基づき評価する。授業には毎回、教科書、配布プリント、電卓 (8桁以上の表示ができ、ルート計算ができるもの。スマホ可) を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	統計学は様々な領域の学問にとって有用となる基礎的知識である。以降に学ぶ科目での予備知識となるだけでなく、卒業研究で取り組む社会調査や、社会人となってからのビジネススキルに大いに役立つものである。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	記述統計の基本 (1)	度数分布表とヒストグラムの作成方法を理解する。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
2	記述統計の基本 (2)	データの代表値の計算方法を理解する。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
3	記述統計の基本 (3)	データの散らばりの指標の計算方法を理解する。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
4	確率変数と確率分布	確率変数の考え方とさまざまな確率分布について学ぶ。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
5	母集団と標本	標本平均や標本比率の分布について学ぶ。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
6	母平均の推定	標本から母平均を推定する方法を学ぶ。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
7	母比率の推定	標本から母平均を推定する方法を学ぶ。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
8	仮説検定の考え方・中間試験	仮説検定の考え方について学ぶ。 第1回～第7回の講義内容について中間試験を実施する。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
9	母平均の検定	1変数による母平均の検定の方法について学ぶ。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
10	母比率の検定	1変数による母比率の検定の方法について学ぶ。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
11	母平均の差の検定	母平均の差の検定方法について学ぶ。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
12	母比率の差の検定	母比率の差の検定方法について学ぶ。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
13	相関係数	相関係数の計算や検定の方法を学ぶ。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
14	回帰分析の基本	回帰分析の考え方や最小二乗法について学ぶ。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
15	回帰分析における仮説検定	単回帰分析における仮説検定の方法について学ぶ。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。

				事後：練習問題による復習（2時間）
関連科目	情報リテラシーI 食農ビジネス学基礎演習 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	例題で学ぶ初歩からの統計学（第2版）	白砂堤津耶	日本評論社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	中間試験（50%）と定期試験（50%）で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	初めはとつきにくいと感じるかもしれませんが、繰り返し問題を解くうちに慣れてきます。練習問題をたくさん解きましょう。			
担当者の 研究室等	8号館 3階 教員室 316 持続型フードシステム研究室			
備考	採点后、中間試験・定期試験の解答用紙を返却します（定期試験は希望者のみ）。			

科目名	食と農の近現代史	科目名 (英文)	Modern History of Food and Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	種市 豊
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1013a0		

授業概要・目的
 今日のわが国の農業・農村社会や食生活・食料消費は歴史的に形作られてきたものであり、その現状の特徴や課題を理解するためには、農業・農村社会や食生活・食料消費の歴史的な変遷について理解することが必要である。本講義では、近現代のわが国の農業・農村社会と食生活・食料消費の歴史的な変遷を画期区分し、それぞれの段階における経済・社会の状況、農業と食生活の状況と特徴、課題について、特に現代（第2次世界大戦後）を中心に講述する。そのことにより、今日の食料・農業の姿が形づくられてきた歴史的な経過に関する理解を深めることを目的とする。授業担当者は、農協（全農系シンクタンク）での勤務経験を有する。授業ではその経験を踏まえた事例の紹介などを取り入れる。

- 到達目標**
- ① わが国の経済社会の歴史的な変遷についての知識を得ることができる。
 - ② わが国の農業・農村社会の歴史的な変遷についての知識を得ることができる。
 - ③ わが国の食生活・食料消費の歴史的な変遷についての知識を得ることができる。
 - ④ これらの知識をもとに、今日の農業や食生活・食料消費の姿が形づくられた経緯を理解することができる。
 - ⑤ これらの知識を、これからの農業や食生活・食料消費のあり方を考えるために応用できるようになる。

授業方法と留意点
 配付資料、パワーポイント、板書等によって行う。
 毎回の授業内容の理解を深めるために、小テストや小レポートを実施する。小テスト・小レポートの解答結果については、次回の授業で解説を行う。
 なお、授業の一部に反転授業、グループ・ディスカッションを取り入れる。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	わが国の農業と食生活の画期	ガイダンスと授業計画・授業方法の説明、農業と食生活の画期区分	事前：シラバスの理解 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
2	明治・大正期の経済・社会と農業・農村、食生活	明治・大正時代の社会と経済、地租改正と地主・小作関係の形成、農業の特徴、家族と生活、食料消費・食生活の特徴	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
3	昭和戦前期の社会・経済と農業、食生活	資本主義の形成と社会構造の変化、小作争議と地主制の動揺、農業生産力の発展、勤労者の形成と食生活、戦時体制下の農業と食生活	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
4	第2次大戦直後の社会・経済と食生活	1945年～1950年代：第2次大戦後の社会、食料不足と食料援助、学校給食の開始、食糧増産政策と農業生産力の発展	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
5	高度経済成長期の社会・経済と食生活	1950年代後半～1960年代：高度経済成長と社会・経済の変化、家族の生活の変化、食生活の洋風化・高級化、スーパーの誕生と食料・農産物の流通の変化	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
6	高度経済成長期の農業・農村	1950年代後半～1960年代：農業基本法の制定と基本法農政の展開、農業・農村の変化、農産物輸入の本格化	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
7	流通構造の変化は、「食」にどのような変化を与えたのか？	1960年～80年代：流通革命、専門店→スーパーマーケットへの消費行動の変化、日本型総合スーパーの完成	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
8	商業と消費者行動の変化	1960年～80年代：外食産業、中食産業の登場と家庭環境の変化	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
9	安定成長期の社会・経済と食生活	1970年代～1980年代：安定成長への移行と社会・経済の変化、食料消費の成熟と多様化、日本型食生活への着目	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
10	安定成長期の農業・農村	1970年代～1980年代前半：高度経済成長から安定成長への移行、米過剰の発生と生産調整、農業・農村の変化	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
11	国際化時代の農業政策と農業	1980年代後半～1990年代前半：国際化と農業、内外価格差の拡大の農産物輸入の新たな傾向、「新しい食料・農業・農村政策の方向」と農業政策の転換、農業・農村の多面的機能への着目	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
12	WTO加盟と食料・農業・農村基本法	1990年代後半：ガット・ウルグアイラウンド交渉合意・WTO発足と農業への影響、食料・農業・農村基本法の制定	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
13	1990年代以降の社会と食生活	1990年代以降の社会、食の安全・安心への不安と不信、食の簡便化の進行、食をめぐる格差の拡大	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
14	2000年代の農業・農村	農業経営の減少と農業従事者の高齢化の進行、新たな農業の担い手の登場	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
15	食と農の変遷と将来	授業のまとめ	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本の農業 150 年	暉峻衆三	有斐閣
	2	食料経済 (第 6 版) フードシステムからみた食料問題	高橋正郎・清水みゆき	オーム社
	3	1 からの流通システム	崔相鐵・岸本徹也	碩学舎
評価方法 (基準)	定期試験 (40%) と中間テスト・毎回の授業の小テスト (60%) で評価し、60%以上で合格とする。			
学生へのメッセージ	この授業はわが国の食と農の歴史を学ぶ授業ですが、その目的は今日の食と農の姿を知り、今後の姿を考えるために必要な知識を身につけることにあります。その際に、①食と農の歴史を捉えるうえでの重要な出来事 (画期) とその出来事が生じた背景・原因と結果の関係 (因果関係)、②政府の政策などの目的 (ねらい) とその内容、その政策などによってもたらされた結果の関係、③各時期における出来事とその出来事の前後における変化、を理解するように努めて下さい。			
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室 (8 号館 2 回, 教員室 218)			
備考				

科目名	ミクロ経済学	科目名 (英文)	Microeconomics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦出 俊和
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1014a0		

授業概要・目的	経済学とは、現実の経済（生きるために必要な財・サービスを生産し、分配し、消費すること）を説明する学問であり、特にミクロ経済学では、個々の企業や家計といった経済主体の行動の分析や、市場における需要と供給の分析を通じて、現実の経済を理解する。本講義では、需要および供給の特質、市場における需要と供給の調整のしくみ、経済主体である家計および企業の行動を学ぶとことを通じて、ミクロ経済学の基本的知識と考え方を農学の視点から理解することを目的とする。
到達目標	① 経済循環と個々の経済主体（家計・企業・政府）の活動について理解する。 ② 需要と供給の特質を理解する。 ③ 市場における需要と供給の調整メカニズムについて理解する。 ④ 市場取引や市場均衡の意義を理解する。
授業方法と留意点	主に、板書による講義を行い、適宜、資料プリントを配布する。講義の理解度をはかるために、小テストを実施する。毎回、前授業の復習を行うこと。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ミクロ経済学とは	ミクロ経済学で学ぶ内容や考え方を理解する。	事前：シラバスの理解（2時間）
2	経済循環と経済主体	個々の経済主体との活動と経済循環構造との関係を理解する。	事前：前授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読（2時間） 事後：小テスト、講義時のノートの整理、今回の授業内容に関する参考書の再読（2時間）
3	需要曲線と供給曲線	需要曲線と供給曲線の定義とその意味を理解する。	事前：前授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読（2時間） 事後：講義時のノートの整理と今回の授業内容に関する参考書の再読（2時間）
4	市場均衡	市場メカニズムによる需要と供給の調整を理解する。	事前：前授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読（2時間） 事後：小テスト、講義時のノートの整理、今回の授業内容に関する参考書の再読（2時間）
5	需要曲線と供給曲線のシフト	需要曲線と供給曲線のシフト要因と市場価格変動を理解する。	事前：前授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読（2時間） 事後：講義時のノートの整理と今回の授業内容に関する参考書の再読（2時間）
6	価格規制	価格規制が市場に及ぼす影響について理解する。	事前：前授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読（2時間） 事後：小テスト、講義時のノートの整理、今回の授業内容に関する参考書の再読（2時間）
7	価格弾力性	需要および供給の価格弾力性の定義とその決定要因を理解する。	事前：前授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読（2時間） 事後：講義時のノートの整理と今回の授業内容に関する参考書の再読（2時間）
8	需要の価格弾力性の応用	需要の価格弾力性と支出額、税負担との関係を理解する。	事前：前授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読（2時間） 事後：小テスト、講義時のノートの整理、今回の授業内容に関する参考書の再読（2時間）
9	経済余剰分析	消費者余剰、生産者余剰の定義と市場均衡における経済余剰について理解する。	事前：前授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読（2時間） 事後：講義時のノートの整理と今回の授業内容に関する参考書の再読（2時間）
10	経済余剰分析の応用	経済余剰について、税金と補助金、関税と数量割当の比較を行う。	事前：前授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読（2時間） 事後：小テスト、講義時のノートの整理、今回の授業内容に関する参考書の再読（2時間）
11	市場の失敗	市場の失敗の意味とその要因を理解する。	事前：前授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読（2時間） 事後：講義時のノートの整理と今回の授業内容に関する参考書の再読（2時間）
12	消費者行動の基礎	消費者行動に関する仮定と無差別曲線、効用関数を理解する。	事前：前授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読（2時間） 事後：講義時のノートの整理と今回の授業内容に関する参考書の再読（2時間）
13	需要曲線の理論的背景	予算制約と効用最大化に基づいた需要曲線の導出を理解する。	事前：前授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読（2時間） 事後：小テスト、講義時のノートの整理、今回の授業内容に関する参考書の再読（2時間）
14	生産者行動の基礎	生産者行動に関する仮定と等量曲線、生産関数、費用関数を理解する。	事前：前授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読（2時間） 事後：講義時のノートの整理と今回の授業内容に関する参考書の再読（2時間）
15	供給曲線の理論的背景	利潤最大化条件に基づいた供給曲線の導出を理解する。	事前：前授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読（2時間） 事後：小テスト、講義時のノートの整理、これまでの講義ノートの再読（4時間）

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ミクロ経済学をつかむ	神戸伸輔・寶多康弘・濱田弘潤 著	有斐閣
	2	マンキュー経済学 ミクロ編	N・グレゴリー・マンキュー 著	東洋経済新報社
	3			
評価方法 (基準)	講義内容についての学習確認小テスト (40%)、期末試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	地域マネジメント研究室			
備考				

科目名	マクロ経済学	科目名 (英文)	Macroeconomics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修B(食農ビジネス学科)
学期	前期	授業担当者	成 着政
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2015a0		

授業概要・目的	本講義は、食農ビジネス学科において、専門的研究を行うための基礎系科目として位置づけられた選択必修科目である。マクロ経済学は個別経済主体の相互作用の結果で発生する国民経済の総体的な現象を研究対象とする経済学の一分野で、分析対象は国民経済、または国家経済全体である。したがって、「基礎経済学」「ミクロ経済学」受講後となる本講義では、まずマクロ経済学的視点で、経済学の基礎理論(原理と手法など)について講義する。その上で、我々を取り巻く現実の複雑な経済現象とさまざまな経済問題などについての分析と応用の能力を農学の視点から養う。そして、現実経済において非常に重要なテーマである株式や投資信託などへの投資、公的年金、医療などの社会保障などについても講義と分析を行う。
到達目標	① マクロ経済理論の修得により経済全体の動きが理解できる。 ② 上記①により、経済理論を現実経済に応用(適用)する力を身につけることができる。 ③ 食料と農業(産業)を対象に、マクロ的な視点で経済分析ができる。
授業方法と留意点	講義を原則とし、プロジェクターを用いたスライド、映像や配付資料等に基づいて講義を進める。また、必要に応じて(できる限り、毎回)講義内容に関連したトピック(経済常識と時事問題など、主に、日本経済新聞の記事)も取り上げて講義を進めていく。受講生はシラバスを常に確認し、定められた事前・事後学習を必ず行うこと。そして、講義日の日本経済新聞を読み、日経平均株価と米ドルに対する日本円の為替レートを調べておくこと。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション(国民経済とマクロ経済学)	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の方法のほか、マクロ経済学の視点と対象、さまざまなマクロ経済モデル、マクロ経済学の研究方法などについて講義する。	事前:シラバスの理解と日本経済の現状について調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
2	国民所得の測定(GDP)	経済の所得と支出、国内総生産の測定、GDPの構成要素、名目GDPと実質GDPなどについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
3	生計費の測定	消費者物価指数(計算方法、生計費測定の諸問題、バスケットの中身など)、生産者物価指数、インフレーションの影響に対する経済変数の補正(異なる時点の金額、物価スライド制、実質利子率と名目利子率)などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
4	生産と成長	主要国の経済成長、生産性の役割と決定要因、生産関数、経済成長と公共政策、長期的成長の重要性などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
5	貯蓄、投資と金融システム	短期と長期の経済変動、経済変動に対する新古典派経済学の仮説、経済変動の原因などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
6	金融システム	米国と日本経済における金融機関、国民所得勘定における貯蓄と投資、貸付資金市場などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
7	ファイナンスの分析手法	貨幣の現在価値の計算方法、リスクの概念と管理、保険市場の役割、資産評価、市場の合理性などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
8	失業と景気	失業の概念と識別、職探しと公共政策、最低賃金法、労働組合、効率賃金理論などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
9	貨幣システムと中央銀行	貨幣の意味と機能、貨幣の種類、中央銀行、銀行と貨幣供給、中央銀行による貨幣供給調節手段などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
10	インフレーション理論	インフレーションの古典派理論、インフレーションのコスト、インフレーションの現実経済への影響などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
11	為替市場・株式市場	為替の概念、為替相場と為替市場、証券取引所の仕組み、株式の仕組み、為替相場決定理論などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
12	総需要と総供給(IS-LM分析)	IS-LMモデル分析、有効需要の原理、短期と長期の経済変動、経済変動に対する新古典派経済学の仮説、総需要と総供給のモデル、経済変動の原因などについて講義する。	事前:本講義において、最も難解な部分であるので、キーワードの意味をしっかりと調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知することと、テキストの関連章の応用問題を解くこと。(4時間)
13	財政政策と金融政策	財政政策と金融政策などの政策手段が市場(現実経済)に与える影響、年金・医療などの社会保障の経済分析などについて詳しく説明する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
14	マクロ経済政策	マクロ経済政策をめぐる6つの主要な	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べ

			論争（経済政策と経済の安定化、景気後退と減税、金融政策におけるルール、中央銀行の使命、財政均衡、貯蓄の促進）について講義する。	ること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）
15	総まとめと日本と世界経済の行方		マクロ経済学の総まとめ、日本と世界経済の行方についての講義、そして定期期末試験の対策などを行う。	事前：テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。（4時間）
関連科目	基礎経済学、ミクロ経済学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マクロ経済学	吉川 洋	岩波書店
	2	マクロ経済学・入門	福田 慎一	有斐閣
	3	入門マクロ経済学	井堀 利宏	新世社
評価方法 (基準)	小テスト3回(60%)、レポート2回(40%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	この科目は食農ビジネス学を勉強していくための基礎になる専門科目である。積極的な姿勢で、講義に臨み、Teams などを通じて質疑・応答にも積極的に参加していただきたい。			
担当者の 研究室等	農業経済学研究室（8号館3階教員室314）			
備考				

科目名	農業簿記・会計学	科目名 (英文)	Agricultural Bookkeeping and Accounting
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浦出 俊和
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE2016a0		

授業概要・目的	農業経営を営む主体にとって、現在の経営の状態を正確に把握することは必須であり、それを計数で把握するためのツールが農業簿記であり、農業簿記・会計は、経営活動を取引として記録・分類・計算・整理に加えて、それらを評価して財務諸表を作成することを対象としている。本授業では、複式農業経営簿記を取り上げ、農業簿記会計に関する基礎的知識とその意義、農業特有の取扱いを踏まえた簿記記帳、決算時の会計処理、財務諸表の作成・分析について学ぶ。
到達目標	① 農業経営における簿記・会計の役割と意義を理解する。 ② 複式簿記の記帳原理と計算方法を理解する。 ③ 複式簿記の記帳手続きを修得する。 ④ 決算手続きを修得し、財務諸表の作成が行える。 ⑤ 財務諸表に基づく経営分析方法を理解する。
授業方法と留意点	オンライン授業なので、事前に授業資料をダウンロード・印刷して手元において受講すること。講義の理解度をはかるために、小テストを実施する。毎回、前回授業の復習を行うこと。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	農業経営と農業簿記	農業経営の課題と農業簿記の意義・目的を理解する。	事前：シラバスの理解
2	農業簿記の概要と財務諸表	農業簿記の基礎的知識を修得する。	事前：前回授業内容の復習と教科書の今回の学修範囲の予習 (2時間) 事後：講義時のノートの整理と今回の学修範囲の教科書の練習問題を解く (2時間)
3	取引と勘定	簿記の手続き、取引、勘定について理解する。	事前：前回授業内容の復習と教科書の今回の学修範囲の予習 (2時間) 事後：講義時のノートの整理と今回の学修範囲の教科書の練習問題を解く (2時間)
4	仕訳と転記	仕訳と転記のしくみを理解する。	事前：前回授業内容の復習と教科書の今回の学修範囲の予習 (2時間) 事後：講義時のノートの整理と今回の学修範囲の教科書の練習問題を解く (2時間)
5	仕訳帳、元帳への記入の実際	簿記記帳方法を修得する。	事前：前回授業内容の復習と教科書の今回の学修範囲の予習 (2時間) 事後：講義時のノートの整理と今回の学修範囲の教科書の練習問題を解く (2時間)
6	決算手続きと試算表の作成	決算手続きの概要を理解し、試算表の作成手続きを修得する。	事前：前回授業内容の復習と教科書の今回の学修範囲の予習 (2時間) 事後：講義時のノートの整理と今回の学修範囲の教科書の練習問題を解く (2時間)
7	決算整理手続きと精算表の作成	決算整理手続きの概要を理解し、精算表の作成手続きを修得する。	事前：前回授業内容の復習と教科書の今回の学修範囲の予習 (2時間) 事後：講義時のノートの整理と今回の学修範囲の教科書の練習問題を解く (2時間)
8	資産の分類と棚卸資産の評価	資産の分類と棚卸資産の評価について理解する。	事前：前回授業内容の復習と教科書の今回の学修範囲の予習 (2時間) 事後：講義時のノートの整理と今回の学修範囲の教科書の練習問題を解く (2時間)
9	固定資産の分類と評価	固定資産の分類と評価について理解する。	事前：前回授業内容の復習と教科書の今回の学修範囲の予習 (2時間) 事後：講義時のノートの整理と今回の学修範囲の教科書の練習問題を解く (2時間)
10	減価償却	減価償却の理解とその計算方法を修得する。	事前：前回授業内容の復習と教科書の今回の学修範囲の予習 (2時間) 事後：講義時のノートの整理と今回の学修範囲の教科書の練習問題を解く (2時間)
11	農産物の原価計算	原価の意義と原価計算の目的を理解し、その手続きを修得する。	事前：前回授業内容の復習と教科書の今回の学修範囲の予習 (2時間) 事後：講義時のノートの整理と今回の学修範囲の教科書の練習問題を解く (2時間)
12	農家経済のしくみ	農家経済のしくみを理解する。	事前：前回授業内容の復習と教科書の今回の学修範囲の予習 (2時間) 事後：講義時のノートの整理と今回の学修範囲の教科書の練習問題を解く (2時間)
13	農業経営分析の意義と方法	農業経営分析の意義と方法を理解する。	事前：前回授業内容の復習と教科書の今回の学修範囲の予習 (2時間) 事後：講義時のノートの整理と今回の学修範囲の教科書の練習問題を解く (2時間)
14	収益性・生産性分析	収益性分析・生産性分析の分析指標について理解する。	事前：前回授業内容の復習と教科書の今回の学修範囲の予習 (2時間) 事後：講義時のノートの整理と今回の学修範囲の教科書の練習問題を解く (2時間)
15	成長性分析・総合評価	成長性分析・総合評価の分析指標について理解する。	事前：前回授業内容の復習と教科書の今回の学修範囲の予習 (2時間) 事後：講義時のノートの整理、今回の学修範囲の教科書の練習問題を解く、これまでの講義ノートの再

				読 (4 時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代農業簿記会計概論	古塚秀夫・高田理	農林統計出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中の小テスト (60%)、中間試験及び定期試験 (40%) で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	地域マネジメント研究室			
備考				

科目名	社会調査論	科目名 (英文)	Social Research
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金 政芸
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE3017a0		

授業概要・目的	ひとくちに社会調査といっても、その方法はさまざまである。この講義では調査目的にあわせて調査方法を決定し、調査を設計、実施し、分析しうる形にまで整理していく具体的な手法を学ぶ。調査対象者の選定、全数調査と標本調査、標本調査に際してのさまざまな手法、調査票の作り方、調査の配布回収方法、調査データの整理方法などについて、実践的な例をとりあげつつ解説していく。
到達目標	調査研究の全体的な流れが説明できる。質問紙調査をおこなう際の諸問題について説明できる。標本調査の方法について、目的に応じた使い分けができる。
授業方法と留意点	講義形式を基本とするが、学生同士のディスカッションやグループワークも適宜取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	社会調査の全体的な流れが理解できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	社会調査の基礎 (1)	社会調査の定義と必要性	配布資料を用いた復習
2	社会調査の基礎 (2)	社会調査の種類	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
3	社会調査の基礎 (3)	量的調査と質的調査、社会調査と統計学	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
4	社会調査の企画 (1)	社会調査の全体的な流れ	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
5	社会調査の企画 (2)	変数の定義と尺度水準、ものごとを変数として捉えること	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
6	社会調査の企画 (3)	問と仮説の立て方	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
7	調査票の作成 (1)	サンプリング：無作為抽出	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
8	調査票の作成 (2)	ワーディング：設問の構成、回答方法	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
9	調査票の作成 (3)	調査票全体の構成	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
10	調査の実施	調査実施の方法	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
11	データの作成 (1)	エディティング、コーディング	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
12	データの作成 (2)	アフターコーディング、エラーチェック	(事前) 事前に指示されている内容について下調べ

			ク、データの保存	<p>をしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする</p>																
	13	データ分析 (1)	度数分布、代表値	<p>(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする</p>																
	14	データ分析 (2)	クロス表、平均の差	<p>(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする</p>																
	15	結果の報告	報告書・論文の作成方法	<p>(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (0.5時間) (事後) 配布資料全体の精読をする (2時間)</p>																
関連科目																				
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	受講態度 20%、課題及び試験 80%																			
学生へのメッセージ	社会調査の知識は、今やどこに行っても必要とされるものです。関心のある学生はぜひ受講して下さい。																			
担当者の研究室等	寝屋川キャンパスマップ 11号館 8階 共同研究室 (5)																			
備考	授業の実施と運営の方法について、詳細は授業内で指示する。																			

科目名	食農ビジネス最前線	科目名 (英文)	Frontier of Agri-Food business
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浦出 俊和
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE3018a0		

授業概要・目的
今日の食料や農業に関しては、農林水産物の生産や加工食品の製造と流通に関わる農林漁業者と食品産業（食品製造業、食品流通業、フードサービス業）に加えて、都道府県と市町村の行政、農林漁業者や消費者の協同組合など、さまざまな主体が関係している。そのため、食農ビジネスについて実践的に学ぶためには、これらの主体が現在どのような取り組みを行っているのかを知ることが重要である。また、就職先を考えるうえでも、食農ビジネスの最前線で活躍している人たちが行政、協同組合の職員の活動に触れることは有益である。本講義は、農林漁業者や食品産業の社員、都道府県や市町村の職員、協同組合の職員など、食農ビジネスの最前線で活躍している人たちをゲストスピーカーとして招き、その経験や現在の取り組みについて講義を行う。

到達目標
① 農林漁業者、食品産業、都道府県・市町村、協同組合などの活動や現在の取り組みを知ることができる。
② 食農ビジネスの最前線での取り組みを知ることができる。
③ 食農ビジネスでの仕事の内容を知ることができ、就職先を考える際、参考にすることができる。

授業方法と留意点
① 農林漁業者、食品産業、都道府県・市町村、協同組合などからゲストスピーカーを招き、講義する。
② 配付資料やパワーポイントを用いて講義する。
③ 毎回の講義についてリアクションペーパーをまとめる。
④ 講義の振り返りのディスカッションと、まとめのレポートを作成する。
授業のなかでアクティブラーニング（ディスカッション・ディベート）を取り入れる。

科目学習の
効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義のねらい、講義の進め方と計画	事前：シラバスの確認
2	農業者の先進的な取り組み	先進的な取り組みを行っている農林漁業者をゲストスピーカーとして招き、実践を紹介していただく。	事前：事例の概要の把握（1時間） 事後：リアクションペーパー（1時間）
3	農業者の先進的な取り組み	先進的な取り組みを行っている農林漁業者をゲストスピーカーとして招き、実践を紹介していただく。	事前：事例の概要の把握（1時間） 事後：リアクションペーパー（1時間）
4	農業者の先進的な取り組み	先進的な取り組みを行っている農林漁業者をゲストスピーカーとして招き、実践を紹介していただく。	事前：事例の概要の把握（1時間） 事後：リアクションペーパー（1時間）
5	農業者の先進的な取り組み	講義内容のふりかえりとディスカッション。次回の講義の進め方と計画	事前：第2回～第4回授業のふりかえり（1時間） 事後：リアクションペーパー（1時間）
6	食品産業の先進的な取り組み	先進的な取り組みを行っている食品産業からゲストスピーカーを招き、実践を紹介していただく。	事前：事例の概要の把握（1時間） 事後：リアクションペーパー（1時間）
7	食品産業の先進的な取り組み	先進的な取り組みを行っている食品産業からゲストスピーカーを招き、実践を紹介していただく。	事前：事例の概要の把握（1時間） 事後：リアクションペーパー（1時間）
8	食品産業の先進的な取り組み	先進的な取り組みを行っている食品産業からゲストスピーカーを招き、実践を紹介していただく。	事前：事例の概要の把握（1時間） 事後：リアクションペーパー（1時間）
9	食品産業の先進的な取り組み	講義内容のふりかえりとディスカッション。次回の講義の進め方と計画	事前：第6回～第8回授業のふりかえり（1時間） 事後：リアクションペーパー（1時間）
10	地方自治体の食農ビジネス支援の取り組み	先進的な取り組みを行っている地方自治体からゲストスピーカーを招き、食農ビジネス支援の実践を紹介していただく。	事前：事例の概要の把握（1時間） 事後：リアクションペーパー（1時間）
11	地方自治体の食農ビジネス支援の取り組み	先進的な取り組みを行っている地方自治体からゲストスピーカーを招き、食農ビジネス支援の実践を紹介していただく。	事前：事例の概要の把握（1時間） 事後：リアクションペーパー（1時間）
12	地方自治体の食農ビジネス支援の取り組み	講義内容のふりかえりとディスカッション。次回の講義の進め方と計画	事前：第10回・11回授業のふりかえり（1時間） 事後：リアクションペーパー（1時間）
13	協同組合の食農ビジネスの取り組み	先進的な取り組みを行っている協同組合からゲストスピーカーを招き、食農ビジネス支援の実践を紹介していただく。	事前：事例の概要の把握（1時間） 事後：リアクションペーパー（1時間）
14	協同組合の食農ビジネスの取り組み	先進的な取り組みを行っている協同組合からゲストスピーカーを招き、食農ビジネス支援の実践を紹介していただく。	事前：事例の概要の把握（1時間） 事後：リアクションペーパー（1時間）
15	講義のまとめ	講義全体の内容のふりかえりとディスカッション	事前：講義内容全体のふりかえり（1時間） 事後：最終レポート作成（2時間）

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	毎回のリアクションペーパー (60%) と最終レポート (40%) によって評価し、60%以上を合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	地域マネジメント研究室 (8号館3階, 教員室313)
備考	

科目名	農業経営学	科目名 (英文)	Farm Business
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	川崎 訓昭
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2019a0		

授業概要・目的	農業経営のあり方は、商工業と異なる特徴をもつとともに、国や地域の個性があらわれる。農業経営に関する多様な事象を認識するためには一般理論が欠かせない。本講義では、現代の農業経営の発展に関する理論を解説することを第一の目的とする。ただし、農業経営学を学ぶ目的は実際の農業経営活動やそこにひそむ問題を認識することであり、理論はそのためのものである。また、実態認識に裏付けられてこそ理論に対する深い理解が可能になる。そこで、我が国や諸外国を題材に農業経営に関わる様々な事象を取り上げ、実態と理論の関係を重視して講義をすすめる。
到達目標	① 農業経営学で用いる基本概念を理解できる。 ② 農業経営の企業形態、経営規模、経営組織、経営計画等の諸理論を学び、農業経営学の体系を認識する。 ③ 商工業と対比した農業経営の特徴、国・地域・時代によって異なる多様な農業経営のあり方を理解できる。 ④ 我が国の農業経営の動向と問題に関する認識を深め、課題解決の方向を体系的に考察できる。
授業方法と留意点	毎回資料をオンライン配布し、板書とスライドを用いて説明する。また予習・復習のための文献・資料を都度、配布する。農業専門雑誌や新聞等を通じて最新情報を得るように努めて欲しい。授業内容の理解を促し、その達成水準を把握するために定期試験を行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	農業経営学の課題	我が国における農業経営の動向を概説しながら、農業経営学の課題を論じる。	事前：シラバスの理解
2	農業技術と生産力の動向	我が国の稲作を例に農業技術の変化を説明し、農業統計を用いて稲作生産力の動向を把握する。	事後：学習課題の学習
3	農業技術の特徴と農業経営	農業経営活動の基礎となる農業技術の特徴を説明した上で、近年の ICT を活用した技術進歩に伴う農業経営の新たな可能性について考える。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
4	家族農業経営と農企業	農業経営の主流をなす家族経営と、近年注目を集める農企業について理論的に対比する。	事後：学習課題の我が国農業の企業形態
5	我が国農業の企業形態	農企業の事例を紹介しつつ、企業形態の多様化という点で、我が国農業が急激に変化していることを説明する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
6	農業経営の費用と収益①	費用と収益に関する基礎を学ぶ。そのうえで農林水産省が実施している農業経営統計調査に基づいて、農業経営の費用と収益に関する諸概念を解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
7	農業経営の費用と収益②	同上	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
8	農業経営統計の利用	農業経営統計調査の結果を利用して、農業経営の収支および主要農産物の生産費の動向を把握する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
9	農業経営の規模	授業の前半に前回までの授業内容の理解度を問う中間試験を行う。後半では農業経営規模のとらえ方について学ぶ。	事前：第1回～8回の復習 事後：学習課題の学習
10	農業経営の規模拡大と集約化	農業経営の規模拡大と集約化の概念を解説する。また、規模および集約度の指標について説明し、それらを用いた経営分析の方法を紹介する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
11	農業経営組織のとらえ方	農業経営組織を把握する際に用いる諸概念について解説する。	事後：学習課題の学習
12	農業経営組織の形成	農業経営組織の形成に関する理論を解説する。また、農業経営組織の統計的把握、農業経営方式・農法等の関連事項について説明する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
13	農業経営の多角化	農業経営の多角化についての基礎知識を学ぶ。その上で、農業経営の複合化や6次産業化に関する最近の動向を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
14	農業経営の計画	農業経営計画の意義について理解した上で、農業経営の部門の組み合わせに関する線形計画法と資本回収法を学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
15	農業経営と政策	農業経営に関する政策について解説する。政策の対象や効果に関する一般的知識とともに、我が国農政の動向を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習

関連科目	農業経営管理論、農業簿記・会計学、食農ビジネス最前線、食農ビジネス実践論
------	--------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	農業経営概論	大泉一貫・津谷好人・木下幸雄ほか	実教出版

			か	
	2	新版 キーワードで読みとく現代農業と食料・環境	小池恒男・新山陽子・秋津元輝 編	昭和堂
	3			
評価方法 (基準)	成績評価は期末試験により評価する。100点を満点とし、60点以上で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	8号館・3階・教員室 315			
備考				

科目名	食料・農業経済学	科目名 (英文)	Food and Agricultural Economics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修B(食農ビジネス学科)
学期	前期	授業担当者	吉井 邦恒
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2020a0		

授業概要・目的	食料は人間が生きていく上で必要不可欠であるが、個人の消費能力には限界がある。このような食料の必需性と飽和性、さらには自然条件に左右されやすいという農業生産の不安定性等から、農業や食料関連産業は、一般の商工業とは異なる特徴を有している。本講義では、このような食料・農業の特殊性を踏まえながら、食料消費の動向、農業及び食料関連産業の現状と問題点・課題等について、経済学的な考え方にに基づき、理解し考察する。授業担当者は、中央政府の行政官としての実務経験を有しており、授業ではその経験を踏まえた事例の紹介などを取り入れる。
到達目標	① 食料・農業経済学で用いられる基本概念と経済理論を理解する。 ② 食料・農業経済の活動を生産から消費までのフードシステムとしてとらえて理解する。 ③ 経済学に基づく分析には、理論的な定量的な分析とデータを用いた定量的な分析の両方が必要であることを理解する。 ④ 行政機関や企業・団体の農業・食料・食品部門の担当者とのコミュニケーションに必要な食料・農業経済学に関する基礎知識を身につける。
授業方法と留意点	資料プリントを配布し、スライドと板書を用いて講義形式で行う。教科書や配付資料等により、予習・復習を行うこと。 ふりかえりシート(毎回)のほか、小テストやレポートにより、授業の理解度を把握する。 質問等には、授業後やオフィスアワー、電子メールで対応するので、積極的に利用すること。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	他産業と比較した農業の特徴について、理解する。	事前：シラバスの理解 事後：講義資料に記載した内容を学習する。
	2	食料需要の経済理論	ミクロ経済学を用いて、食料需要の決定メカニズムや食料の特性について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	3	価格弾力性とエンゲル係数	食料需要の価格弾力性とエンゲル係数について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	4	食料消費構造の変化と要因	食の外部化、簡便化等の食料消費構造の変化とその要因について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	5	人口・世帯構成と食料消費	人口構成・世帯構成の違いや変化が食料消費に及ぼす影響について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	6	食料供給の経済理論	ミクロ経済学を用いて、完全競争市場と独占市場における生産量の決定メカニズムについて、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	7	食品製造業の現状と特徴	食品製造業の産業としての特徴について、製造業一般と比較しながら、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	8	生鮮食料品の流通と市場	生鮮食料品の流通における市場の役割と食品流通業の産業として特徴について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	9	外食産業と中食産業	外食産業と中食産業の現状と特徴について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	10	世界食料需給と食料自給率	世界の人口・食料生産・食料消費と各国の食料自給率の動向について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	11	米の生産と流通・消費	米の生産と流通・消費の動向について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	12	野菜・畜産物の生産と流通・消費	野菜・畜産物の生産と流通・消費の動向について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	13	農林水産物・食品の貿易	農林水産物・食品の輸入及び輸出の動向について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	14	食品の安全性と表示	食品の安全性と表示に関する規制について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	15	食品ロスと環境問題	食品ロスと廃棄物のリサイクルについて、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。

関連科目 基礎経済学、ミクロ経済学、食農共生論、フードシステム論、食農ビジネス学基礎演習Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	フードシステムの経済学 第6版	時子山 ひろみ, 荏開津 典生, 中嶋 康博	医歯薬出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食料・農業・農村白書(各年度版)	農林水産省編	農林統計協会
	2	その他、必要に応じて紹介する		
	3			

評価方法(基準)	①定期試験・期末レポート50%、②小テスト・小レポート・ふりかえりシート50%で評価し、①と②を合計して60%以上で合格とする。
学生へのメッセージ	新聞、テレビ、インターネットなど、情報を得る手段は何でもよいので、身近にある食料・農業に関する情報に関心を持つようにしましょう。
担当者の研究室等	食料・農業政策学研究室(農学部2階214)
備考	

科目名	食料・農業・農村政策論	科目名 (英文)	Food, Agriculture and Rural Area Policy
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修B(食農ビジネス学科)
学期	後期	授業担当者	吉井 邦恒
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2021a0		

授業概要・目的
日本をはじめ、アメリカやEU等の先進国では、国内総生産に占める農業の割合は低くなっているものの、農業・農村を守るため、多額の予算が投入されている。食料自給率が4割を下回り、農業従事者も減少・高齢化する等、日本の農業は様々な課題を抱えているが、一方で良質で安全安心な農産物の供給や地域社会の維持・活性化に寄与している。本講義では、わが国の食料・農業・農村の現状を把握した上で、諸問題に対応するために講じられている政策について、内容を整理し、経済的効果を考察する。授業担当者は、中央政府の行政官としての実務経験を有しており、授業ではその経験を踏まえた事例の紹介などを取り入れる。

到達目標
① 日本の食料・農業・農村の基本的な特徴や主な食料・農業・農村政策の内容を理解する。
② 日本の食料・農業・農村政策の変遷とその背景にある食料・農業・農村の状況の変化を理解する。
③ 国際的な視点から、日本の食料・農業・農村の動向と食料・農業・農村政策を理解する。
④ 行政機関や企業・団体の農業・食料・食品部門の担当者とのコミュニケーションに必要な食料・農業・農村政策に関する基礎知識を身につける。

授業方法と留意点
資料プリントを配布し、スライドと板書を用いて講義形式で行う。配付資料等により、予習・復習を行うこと。
授業において外部講師による講演を聴取する(2回)。
ふりかえりシート(毎回)のほか、小テストやレポートにより、授業の理解度を把握する。
質問等には、授業後やオフィスアワー、電子メールで対応するので、積極的に利用すること。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	食料・農業・農村政策の決定の仕組みについて、理解する。	事前：シラバスの理解 事後：講義資料に記載した内容を学習する。
2	農業基本法及び食料・農業・農村基本法と農政の変遷	農業基本法の下で展開されてきた食料・農業・農村に関する施策の変遷と食料・農業・農村基本法について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
3	農地政策(その1)	農地政策のうち、農地の効率的な利用に関する施策について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
4	農地政策(その2)	農地政策のうち、優良農地の確保に関する施策について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
5	担い手の育成・確保対策(その1)	担い手の育成・確保対策のうち、認定農業者と新規就農に関する施策について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
6	担い手の育成・確保対策(その2)	担い手の育成・確保対策のうち、集落営農と農業経営の法人化、地域計画について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
7	米政策(その1)	米政策の変遷について、食糧管理制度と生産調整に関する施策を中心に、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
8	米政策(その2)	最近の米をめぐる状況と米に関係する経営安定対策について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
9	外部講師による講演	農業政策担当者による食料・農業・農村政策に関する講演を聴講する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
10	主要農産物の経営安定に関する施策	畑作物、野菜、畜産物等の経営安定に関する施策について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
11	農業・農村の多面的機能	農業・農村の多面的機能の維持・発揮に関する施策について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
12	外部講師による講演	研究者による農業・農村の多面的機能の評価に関する講演を聴講する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
13	農村の振興	農業農村整備事業等の農村の振興に関する施策について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
14	知的財産	農林水産分野の知的財産に関する施策について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
15	農林水産物・食品の輸出入	農林水産物・食品の輸出入に関連する施策について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。

関連科目 食と農の近現代史、食農共生論、フードシステム論、食料・農業経済学、食農ビジネス学基礎演習Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特に指定しない		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食料・農業・農村白書(各年度版)	農林水産省編	農林統計協会
2	その他、必要に応じて紹介する			
3				

評価方法(基準) ①定期試験・期末レポート50%、②小テスト・小レポート・ふりかえりシート50%で評価し、①と②を合計して60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ 新聞、テレビ、インターネットなど、情報を得る手段は何でもよいので、身近にある食料・農業・農村に関する情報に関心を持つようにしましょう。

担当者の 食料・農業政策学研究室(農学部2階214)

研究室等	
備考	

科目名	農業経営管理論	科目名 (英文)	Farm Business Management
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修B(食農ビジネス学科)
学期	後期	授業担当者	川崎 訓昭
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2022a0		

授業概要・目的
現代の農業経営は、家業の継続にとどまらず、周到かつ発展的な経営戦略を確立し、それを実行することが求められている。その基礎をなすのが経営管理である。本講義では、経営の基本となるモノ・ヒト・カネに関わる管理分野を取り上げ、経営管理問題が顕在化した背景と経営管理の課題・方法について解説する。農業経営管理は1990年代以降に論じられるようになった領域である。企業の農業経営が広がり、積極的な事業展開が見られるようになったことが、農業経営管理論の創成を促した。本講義では、1990年代以降の農業経営の動向に注意を払いながら、一般経営学における経営管理論と共通する領域と農業経営の特質を反映した独自の領域とを識別し、農業経営管理を体系的に論じる。

到達目標
① 農業経営学(必修科目)に加え本講義を履修することにより、農業経営活動の実際について深く理解する。
② 農業経営管理の重要分野であるモノ・ヒト・カネの管理問題を体系的に理解し、農業経営管理の全体像を把握する。
③ 経営管理の観点から、実際の農業経営が抱える問題を分析し、経営改善の方向を考えることができる。
④ 農業経営管理を担う経営者の機能を理解し、明確な農業経営者像を示すことができる。

授業方法と留意点
毎回の授業でオンライン資料を配布し、板書とスライドを用いて説明する。また予習・復習のための文献・資料を都度、配布する。農業専門雑誌・新聞等を通じて最近情報を得ることが望まれる。授業内容の理解度をはかるために期末試験を行う。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	農業経営管理論の課題	農業経営管理が重視されるようになったのは比較的最近である。その背景を概観し、農業経営管理論の課題を解説する。	事前：シラバスの理解
2	農業生産の特質とその管理	農業生産の特質をふまえ、工業生産と対比した農業における生産管理の特質とその重要項目を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
3	生産技術の進歩と新たな生産管理	近年におけるICTを活用した農業技術と生産管理手法を学び、今後の可能性について考える。	事後：学習課題の学習
4	農産物のマーケティング	農産物マーケティングの特徴や最近の動向について学び、農業経営が取り組むべき課題を考える。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
5	農業労働力の特質	長期的な動向を視野に入れながら、農業労働力の調達と従事、関連する法制度等の基本事項を学ぶ。	事後：学習課題の学習
6	農業者の能力形成の特徴	経営者能力と技能の観点から農業者の能力形成を論じる。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
7	農業における人的資源管理の課題	伝統的家族経営と比較しながら、近代家族農業経営および農企業における人的資源管理の課題を解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
8	農業経営の資金循環	経営と家計が未分離状態にある農家経済を取り上げ、農業経営の資金循環の一般的状況を理解する。	事前：第1回～7回の復習 事後：学習課題の学習
9	農業経営と金融システム	農業経営を取り巻く金融システムについて概説したうえで、我が国における農業金融システムの動向を説明する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
10	農業経営の財務・資金管理の課題	農業経営と金融システムの双方が変貌する下で必然化する、農業経営の財務・資金管理に関する新たな課題を論じる。	事後：学習課題の学習
11	農業法人制度の推移	諸外国との比較を交えながら、我が国における農業法人制度の変遷について解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
12	農業経営の企業形態選択	農業経営の企業形態が多様化する下で、経営管理の課題として企業形態の選択問題が浮上している。問題の捉え方について解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
13	地域農業の諸タイプ	農業経営の事業は個別経営の内部で完結せず、周囲の農業経営との共同や農協等の共・公セクターが重要な要素となる場合が多い。国・地域によってその様相は異なるので、地域農業の諸タイプを整理する。	事後：学習課題の学習
14	地域農業のマネジメント	地域農業のマネジメントが農業経営における重要な管理課題となるので、その要点を解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
15	農業における経営戦略	講義のまとめとして、農業経営戦略の考え方とその構築について解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習

関連科目 農業経営学、農業簿記・会計学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	戦略的農業経営	渋谷征男	日本経済新聞社
	2	動き始めた「農企業」	小田滋晃・長命洋佑・川崎訓昭	昭和堂
	3			
評価方法 (基準)	成績評価は期末試験により評価する。100点を満点とし、60点以上で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	8号館・3階・教員室 315			
備考				

科目名	農村社会学	科目名 (英文)	Rural Sociology
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	川崎 訓昭
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE2023a0		

授業概要・目的	イエとムラを軸に形成された我が国の伝統的な農村社会は長期にわたる安定性を示し、日本社会の基層をなしてきた。このような我が国農村の特質を海外と比較しながら認識するとともに、急激な変化を示す農村の実態をとらえること、そして政府の政策を含め、新たな農村づくりに向けた諸々の取り組みについて理解を深めることが本講義の目的である。変化の諸相を説明しながら農村コミュニティの近未来像を考える。農村の内外にわたる多様な主体が農業と農村社会に関わりながら、農業・農村の多面的機能を維持・発展させるためにつくられる仕組みを考察する。
到達目標	① 農村社会学が扱ってきた問題群と代表的な学説を理解する。 ② 我が国の農村社会を構成してきたイエとムラについて深い認識をもつ。 ③ 我が国と海外における農村社会の変化とそこで生じる問題についての知識をもつ。 ④ 農村コミュニティの近未来像について、その主体・組織・仕組みについて考える力をもつ。
授業方法と留意点	毎回資料をオンライン配布し、板書とスライドを用いて説明する。また予習・復習のための文献・資料を都度、配布する。農業専門雑誌や新聞等を通じて最新情報を得るように努めて欲しい。授業内容の理解を促し、その達成水準を把握するために定期試験を行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	農村社会学の課題	農村社会学が誕生した背景に触れながら、海外および我が国における農村社会学の課題について解説する。	事前：シラバスの理解
2	農村の空間と資源	都市と分離された農村空間の特質を説明した上で、農村資源の種類とその利用や保全に関する諸特徴について論じる。	事後：学習課題の学習
3	農業・農村の多面的機能	「農業・農村の多面的機能」が注目されるようになった背景を説明し、その価値評価や保全方法・政策について説明する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
4	伝統的農村家族	伝統的農村家族が多様であることを説明した上で、代表的な学説の紹介を交えて我が国のイエについて解説する。	事後：学習課題の学習
5	農村家族の変容	農村家族の変容についての一般的な説明をした上で、我が国のイエの変容について詳しく論じる。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
6	農村の伝統社会	農村伝統社会のあり方が多様であることを説明した上で、代表的な学説の紹介を交えてイエと結びついた我が国のムラについて解説する。	事後：学習課題の学習
7	農村伝統社会の変容	農村伝統社会の変容についての一般的な説明をした上で、我が国のムラの変容について、イエの変容と関連させて論じる。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
8	農業近代化と農村政策	授業の前半に前回までの授業内容の理解度を問う中間試験を行う。後半では、農業近代化と農村政策について一般的な説明をした後、1961年の農業基本法前後の農政について詳しく論じる。	事前：第1回～7回の復習 事後：学習課題の学習
9	農業構造調整と農村政策	農業近代化のみならず、農業構造調整の課題は広範囲に及ぶ。その観点から、EJを中心とする海外と我が国の農村政策の動向を論じる。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
10	農村女性問題	伝統的農村社会が克服すべき問題のひとつとして農村女性問題が挙げられる。問題の構図、農村での取り組み、政策について説明する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
11	高齢化する農村と福祉問題	顕著に高齢化によって表面化したのが高齢者福祉問題である。問題構図を説明した上で、その対応方向について説明する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
12	農村移住と新規農業参入	農村社会と農業の担い手を確保するために外部からの人材確保が重要な課題となっている。その取り組みについて解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
13	農村環境問題	農業近代化はしばしば深刻な環境問題を引き起こす。農村環境問題を網羅的に説明し、その改善と環境保全について論じる。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
14	農業・農村問題に対する消費者との連携	農業・農村問題に対する消費者の関心が高まっており、問題解決に向けて消費者との連携が不可欠である。リスク社会論や食料社会学等の近接分野の成果を紹介しながら、消費者との連携について論じる。	事後：学習課題の学習
15	新たな農村コミュニティの形成	本講義のまとめとして、農村社会における多様な主体、消費者やNPO、企業等との連携を含む、新たな農村コミュニティのあり方を論じる。	事後：学習課題の学習

関連科目	地域マネジメント論、社会調査論、農村コミュニティビジネス論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地域人材を育てる手法	中塚雅也、山浦陽一	農山漁村文化協会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	むらの社会を研究する	日本村落研究学会	農山漁村文化協会
	2	むらの資源を研究する	日本村落研究学会	農山漁村文化協会
	3			
評価方法 (基準)	成績評価は期末試験により評価する。100点を満点とし、60点以上で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	8号館・3階・教員室315			
備考				

科目名	6次産業経営論	科目名 (英文)	Sextiary Industry Management
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	成 蒼政
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE2024a0		

授業概要・目的	本講義は、食農ビジネス学科において、農業経済・経営分野の専門科目として位置づけられた選択科目の一つである。本講義では、主に、日本農業における大きな可能性ともいえる6次産業（1次産業：生産物の生産×2次産業：農産加工・製造業など×3次産業：生産物や外注加工品の流通その他の利用など）を対象にさまざまな経営学的手法と理論からアプローチを行う。そして、6次産業の制度的仕組み、政策的支援、実態と課題、今後の可能性などについて講義を行う。
到達目標	① 6次産業経営のための基礎的経営理論を理解できる。 ② 農の6次産業化の制度的仕組みと実態が理解できる。 ③ 付加価値を高めることで、所得と雇用の場を確保し、農村地域の活性化という6次産業化の目的を理解できる。 ④ ケーススタディの手法について理解できる。
授業方法と留意点	講義室での講義を原則とし、プロジェクターを用いたスライド、映像や配付資料等に基づいて講義を進める。また、必要に応じて講義内容に関連したトピックも取り上げて講義を進めていく。受講生はシラバスと担当教員から提示された事前・事後学習を必ず行うこと。とくに注意事項として、レポートの配点が高い（60%）ので、提示されたテーマに対してしっかり調べ、レポートを作成・提出すること。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション (6次産業化と日本農業・地域活性化)	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の方法のほか、日本農業の現状、6次産業化による農業・農村地域活性化などについて講義する。	事前：シラバスの理解と日本農業の現状などについて調べること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）
2	6次産業化の理解 (I) - 背景、概念 -	日本における6次産業化が必要な根拠、背景、発想の根拠、概念などについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）
3	6次産業化の理解 (II) - 政策、現況、課題 -	6次産業化に対する国の政策と支援、現況、主な基本課題などについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）
4	6次産業のビジネスモデル	ビジネスモデルに対する概念的考察、ビジネスモデルの開発、6次産業化のビジネスモデルをコミュニティタイプ、プランチャイズタイプ、そしてネットワークタイプに分けて、その適用などについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）
5	6次産業経営組織論	6次産業経営を対象にし、そのモチベーション、リーダーシップ、組織デザイン、組織構造、組織文化と意思決定、組織学習などについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）
6	6次産業戦略論 (I) - ブランド戦略 -	経営戦略の基礎、ブランドの概念と地域ブランドの構築とその手法、特徴、課題などについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）
7	6次産業戦略論 (II) - 成長戦略 -	成長戦略に関する基礎概念、市場での優位性の確保、新製品・サービスの開発の手法と課題、新市場の開拓、新規価値の創造などについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）
8	事業計画書の作成	事業計画の動機（資源、市場と分野、事前調査）、事業アイデア、実際の計画書の作成、注意事項、良い例、悪い例などについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）
9	6次産業化と商品開発	商品開発の概念、プロセス、マネジメント、デザイン、商品開発の求められるスキルなどについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）
10	6次産業化と知的財産	知的財産に関する基本概念（定義、分類、必要性）の考察、6次産業に対する知的財産の評価手法（間接的評価手法と直接的評価手法）の考察、知的財産評価の事例分析（背景、管理体制、課題など）などについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）
11	ケーススタディ (I) - 地域自給向上型 -	地域自給向上型6次産業経営を対象に、経営の概要、取り組みに至った経緯、課題と対応策、取り組みの効果、そして今後の展望などについてケーススタディを行う。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）
12	ケーススタディ ((II) - 農業経営向上型 -	農業経営向上型6次産業経営を対象に、経営の概要、取り組みに至った経緯、課題と対応策、取り組みの効果、そして今後の展望などについてケーススタディを行う。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）
13	ケーススタディ (III) - 地域食品産業発展型 -	地域食品産業発展型6次産業経営を対象に、経営の概要、取り組みに至った経緯、課題と対応策、取り組みの効果、そして今後の展望などについてケース	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）

			タディを行う。	
	14	第4次産業革命と6次産業経営	第4次産業革命の概要、農業・農村コミュニティに及ぼす影響、とくに、6次産業経営への影響、具体的な対応策と課題、展望などについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
	15	総まとめと定期試験対策	6次産業経営論の総まとめと定期期末試験の対策などを行う。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
関連科目	農業経営学、農業経営管理論、食品産業論など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地域からの六次産業化	室屋 有宏	創森社
	2	農の6次産業化と地域振興	熊倉 功夫	春風社
	3	六次産業化の実践	高橋 信正	筑波書房
評価方法 (基準)	課題3回(40%)、レポート2回(60%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	積極的な姿勢で授業に臨み、質疑・応答にも積極的に参加していただきたい。			
担当者の 研究室等	8号館3階教員室314			
備考				

科目名	地域マネジメント論	科目名 (英文)	Rural Resource Management
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浦出 俊和
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE3025a0		

授業概要・目的	社会経済構造の大きな変化により、地域における複雑かつ多様な諸問題に対して、地域の「自立」「活性化」の重要性が高まっている。そこでは、地域資源を見直し、その適正な利用・管理、すなわち、マネジメントが必要である。 本授業では、地域マネジメントの考え方とその対象が有する特質を整理した上で、農村地域における活性化への具体的な取り組み（グリーン・ツーリズム、地域ブランド化、バイオマスの利活用）について、地域マネジメントの視点から考察する。
到達目標	①地域マネジメントに関する基本的な知識を習得する。 ②農村地域が抱える諸問題について理解する。 ③それら諸問題を解決する取り組みの特徴と課題を理解する。 ④農村地域における活性化について、問題と課題を整理し、解決策を考える能力を身につける。
授業方法と留意点	授業方法は、板書を主に講義を行い、適宜、資料プリントを配布する。また、視聴覚教材（ビデオ）を用いた授業や、外部講師による授業を受講して、グループまたはクラス全体でのディスカッションも行う。講義の理解度をはかるために、ミニレポートを実施するとともに、授業のための事前調査の課題を課すことがある。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地域概念	地域概念の整理を通じて、地域の捉え方を理解する。	事前：シラバスの理解 (2時間)
2	地域マネジメントとは？	地域マネジメントの定義とその重要性を理解する。	事前：前回授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読 (2時間) 事後：講義時のノートの整理、今回の授業内容に関する参考書の再読 (2時間)
3	地域マネジメントのフレームワーク	地域マネジメントのフレームワークについて理解する。	事前：前回授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読 (2時間) 事後：小テスト、講義時のノートの整理、今回の授業内容に関する参考書の再読 (2時間)
4	地域資源の特質	地域資源の特質を整理するとともに、特に、ローカル・コモンズをめぐる諸問題について理解する。	事前：前回授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読 (2時間) 事後：講義時のノートの整理、今回の授業内容に関する参考書の再読 (2時間)
5	多様な地域経営主体の特質	地域経営主体について、その多様性と特徴を理解する。	事前：前回授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読 (2時間) 事後：講義時のノートの整理、今回の授業内容に関する参考書の再読 (2時間)
6	ニュー・パブリック・マネジメント	ニュー・パブリックマネジメントにおける地域マネジメントのあり方について理解する。	事前：前回授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読 (2時間) 事後：講義時のノートの整理、今回の授業内容に関する参考書の再読 (2時間)
7	グリーン・ツーリズムの展開	グリーン・ツーリズムの変遷を通じて、その展開と農村地域へ及ぼした影響について学ぶ。	事前：前回授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読 (2時間) 事後：講義時のノートの整理、今回の授業内容に関する参考書の再読 (2時間)
8	グリーン・ツーリズムにおける地域マネジメント	グリーン・ツーリズムが展開した地域を取り上げ、当該地域における地域マネジメント上の課題を学ぶ。	事前：前回授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読 (2時間) 事後：講義時のノートの整理、今回の授業内容に関する参考書の再読 (2時間)
9	地産地消活動の実態	地産地消活動の実態を学ぶとともに、地産地消運動が抱える諸問題を理解する。	事前：前回授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読 (2時間) 事後：講義時のノートの整理、今回の授業内容に関する参考書の再読 (2時間)
10	地域ブランド化戦略	地域ブランド化とは何かを理解するとともに、地域マネジメントにおけるその戦略について学ぶ。	事前：前回授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読 (2時間) 事後：講義時のノートの整理、今回の授業内容に関する参考書の再読 (2時間)
11	農村コミュニティビジネスの展開	農村コミュニティビジネスの実態とその展開を学ぶ。	事前：前回授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読 (2時間) 事後：講義時のノートの整理、今回の授業内容に関する参考書の再読 (2時間)
12	農村コミュニティビジネスにおける地域マネジメント	農村コミュニティビジネスを展開する上での、地域マネジメントの役割について学ぶ。	事前：前回授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読 (2時間) 事後：講義時のノートの整理、今回の授業内容に関する参考書の再読 (2時間)
13	バイオマスの利活用	農村地域におけるバイオマスの利活用の実態と、それによる地域内循環型社会の構築の重要性について学ぶ。	事前：前回授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読 (2時間) 事後：講義時のノートの整理、今回の授業内容に関する参考書の再読 (2時間)
14	バイオマスの利活用における地域マネジメント	農村地域におけるバイオマスの利活用を促進するための地域マネジメントの役割について学ぶ。	事前：前回授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読 (2時間) 事後：講義時のノートの整理、今回の授業内容に関する参考書の再読 (2時間)
15	地域マネジメントと地域戦略	地域マネジメントにおける地域戦略の重要性を理解するとともに、そのあり方について学ぶ。	事前：前回授業内容の復習と今回の授業内容に関する参考書の講読 (2時間) 事後：講義時のノートの整理、今回の授業内容に関する参考書の再読、これまでの講義ノートの再読 (4時間)

				時間)
関連科目	食料・農業・農村政策論・農業経営管理論・6次産業経営論・農村社会学・社会調査論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地域ブランドと魅力あるまちづくりー産業振興・地域おこしの新しいかたち	佐々木一成	学芸出版
	2	都市農村交流の経済分析	大江 靖雄	農林統計出版
	3	農村コミュニティビジネスとグリーン・ツーリズム	宮崎 猛	昭和堂
評価方法 (基準)	授業中に指示するミニレポート課題 (60%) およびプレゼンテーション (40%) で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	地域マネジメント研究室			
備考				

科目名	食農ビジネス実践論	科目名 (英文)	Food and Agriculture Business Practice
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修A(食農ビジネス学科)
学期	後期	授業担当者	成 善政, 浦出 俊和, 川崎 訓昭
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE3026a0		

授業概要・目的	食農ビジネス学科の選択必修科目Aの一つであり、農業経済・経営・政策系で学ぶ学生を対象として開講する。農業経済・経営・政策系で実践的に学修し、卒業研究を行うためには、食農ビジネスの実践事例から学ぶことが不可欠である。本講義では、フィールドワークをつうじて食農ビジネスの経営に関する基本的な考え方に対する理解を深めるとともに、先進的な実践事例を取り上げ、その実践の背景、目的、取り組みの過程と内容を調べ、その成果と意義について考察を行う。
到達目標	① 食農ビジネスの実践に関する代表的な考え方を理解することができる。 ② 食農ビジネスの先進的な実践事例の背景、目的、取り組みの経過と内容を把握することができる。 ③ 食農ビジネスの先進的な実践事例の調べ方、分析・考察の仕方等を身につけることができる。
授業方法と留意点	① 受講者全員を対象に、食農ビジネスの先進事例に関する文献・資料等の読解を行う。 ② 個人またはグループで担当する事例を決め、事例の実践の背景、目的、取り組みを調べるとともに、成果と意義の考察を行う。 ③ 取り上げた実践事例について、全体で発表を行い、レポートを作成する。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方についてのガイダンス	事前：シラバスの確認
2	実践事例に関する文献等の探索と読解	食農ビジネスの先進的な実践事例に関する文献・資料等の探索と読解	事前：文献等の探索・読了 事後：講義の内容の確認
3	実践事例に関する文献等の探索と読解	食農ビジネスの先進的な実践事例に関する文献・資料等の探索と読解	事前：文献等の探索・読了 事後：講義の内容の確認
4	実践事例に関する文献等の探索と読解	食農ビジネスの先進的な実践事例に関する文献・資料等の探索と読解	事前：文献等の探索・読了 事後：講義の内容の確認
5	実践事例に関する文献等の探索と読解	食農ビジネスの先進的な実践事例に関する文献・資料等の探索と読解	事前：文献等の探索・読了 事後：講義の内容の確認
6	実践事例に関する文献等の探索と読解	食農ビジネスの先進的な実践事例に関する文献・資料等の探索と読解	事前：文献等の探索・読了 事後：講義の内容の確認
7	実践事例の取り組みの把握・分析	個人またはグループで取り上げた事例の取り組みの背景、目的、取り組みの内容を把握し、成果と意義の考察を、担当教員の指導のもとで行うとともに、発表内容を作成する。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
8	実践事例の取り組みの把握・分析	個人またはグループで取り上げた事例の取り組みの背景、目的、取り組みの内容を把握し、成果と意義の考察を、担当教員の指導のもとで行うとともに、発表内容を作成する。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
9	実践事例の取り組みの把握・分析	個人またはグループで取り上げた事例の取り組みの背景、目的、取り組みの内容を把握し、成果と意義の考察を、担当教員の指導のもとで行うとともに、発表内容を作成する。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
10	実践事例の取り組みの把握・分析	個人またはグループで取り上げた事例の取り組みの背景、目的、取り組みの内容を把握し、成果と意義の考察を、担当教員の指導のもとで行うとともに、発表内容を作成する。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
11	発表の準備	発表内容を検討し、資料を作成する。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
12	発表の準備	発表内容を検討し、資料を作成する。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
13	調査・分析結果の発表	個人またはグループで取り上げた事例の実践について発表し、意見交換を行う。	事前：発表の準備 事後：レポートの作成
14	調査・分析結果の発表	個人またはグループで取り上げた事例の実践について発表し、意見交換を行う。	事前：発表の準備 事後：レポートの作成
15	調査・分析結果の発表	個人またはグループで取り上げた事例の実践について発表し、意見交換を行う。	事前：発表の準備 事後：レポートの作成

関連科目 農業経営管理論, 6次産業経営論, 地域マネジメント論, 都市農業論, 食農ビジネス最前線, 社会調査論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業に取り組む姿勢 (ルーブリック評価・20%) と発表内容 (40%)、レポート (40%) を総合して評価し、60%以上を合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	川崎 (315), 成 (314), 浦出 (313)
備考	

科目名	フードシステム論	科目名 (英文)	Economics of Food System
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山本 尚俊
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1027a0		

授業概要・目的	米や野菜、魚など農水産物は、農漁業生産(一次産業)を起点に加工・卸売業や小売・外食業等の過程/担い手を経て我々の食卓に届く。こうした生産から消費に至るプロセスを一つのシステム“フードシステム”と捉えるが、その姿や問題は食料消費を含む社会構造の変化等と呼応し複雑化している。この授業では、食料消費を含むフードシステムの変化や特徴を、各種統計を用いつつ社会・経済的な側面、特にそれを構成する川上、川中、川下、みずうみ各段階の現勢や相互の連関(担い手と社会的分業)とその変化に注目して総合的に学ぶ。
到達目標	①「食」「農水産業」を巡る昨今の変化や問題を解く上でフードシステムという概念や視座が重要となることが理解できる。 ②家計消費含むフードシステムの各段階の動向・変化とその社会的背景が理解できる。 ③フードシステムの基本的枠組みや構造(川上、川下、川中、みずうみの担い手や業務、相互の関わり等)を理解できる。 ④フードシステムの構造変化やその特徴を、④の観点から説明するための知識を得ることができる。
授業方法と留意点	授業はパワーポイントを用いて進め、必要に応じ資料を配布する(対面又はTeams上)。板書は適宜行うが、それに限らず、話を聞きながら自ら主体的に内容・要点をメモし、オリジナルノートをつくるよう習慣付けて欲しい。授業内容の理解を促すため、授業中に履修生に意見を問う、グループ討議を求める、こともある。なお、授業の終了前に、当該単元の内容に関連する課題(ミニレポート又はクイズ、感想・意見整理等)を課すのでそれに対応する(1時間)とともに、その内容をもとに学生同士で討議を行うこと(1時間)、また次回授業で扱う内容も
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション・食料経済の発展段階を知る	授業の狙い・構成・成績評価方法等、及び食料経済の発展段階を理解する。	事前：シラバスの理解 事後：学習課題の学習
2	フードシステムとは？：その概念・視座と経済規模、対象財の特徴	フードシステム概念やその視座の重要性、食品の財としての特徴等を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
3	食料経済の基礎①：消費者の商品選択について考える	フードシステムの最終段階を担う消費者の商品選択理論の要点を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
4	食料経済の基礎②：需要曲線の傾きと弾力性	需要曲線の傾きや代替財・補完財の意味等を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
5	食料消費構造の変化と特徴①：“食”の性格/位置づけの変化	食料消費と経済の豊かさとの関係、食の性格や位置づけの変化について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
6	食料消費構造の変化と特徴②：食の外部化とその背景	国内の家計消費に見られる変化と特徴、その社会的な背景を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
7	川下の構造変化と特徴①：伝統的小売の特徴とチェーン組織の躍進	小売業の役割・諸類型、国内食品小売の構造変化(特にチェーン組織の躍進、その業務の特徴)を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
8	川下の構造変化と特徴②：SMの生鮮食品販売を考える	スーパーマーケット(SM)のオペレーション上の情報技術の重要性、計画仕入・販売のあり方やその含意を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
9	川下の構造変化と特徴③：外食・中食産業の登場と市場拡大	外食・中食産業(及び小売)の境界と担い手、食の外部化・簡便化に対応するミール・ソリューション概念等理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：レポートの提出
10	生鮮食料品の流通体系と変化①：流通制度化の背景と意義	生鮮食料品流通において公的介入(法制度化)が進んだ背景・含意など日本型流通(政策)の特徴を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
11	生鮮食料品の流通体系と変化②：市場流通の変化と特徴	商業機関の介在意義や流通の多段階性について考え、市場流通(制度)の変化やその含意を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
12	国内農水産業の動向と問題①：農水産業の位置と特徴	担い手の減少や高齢化はじめ日本の農水産業の現状やそれに付随する問題を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
13	国内農水産業の動向と問題②：問われる資源・環境保全の取組	気候変動が農水産業に及ぼす影響、自然資本の重要性、環境認証の取組み等を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
14	複雑化する食料問題：飢餓と飽食の併存	人口と食料問題、食品ロス、飢餓と飽食の併存など現代の食料問題の複雑さを理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
15	フードシステムの今日の姿(全体のまとめと補足)	上記の構成各段階の変化・特徴を相互に関連付けてフードシステムの全体構造や今日の姿を概括的に理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習

関連科目	食品産業論
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	フードシステムの経済学	時子山ひろみ・荏開津典生・中嶋康博	医歯薬出版
2	食料経済(第6版) フードシステムからみた食料問題	高橋正郎・清水みゆき	オーム社	
3				

評価方法 (基準)	授業後の小課題*(50%), 期末試験又は期末レポート(50%)から総合的に評価し, 60%以上の得点で合格とする。 *各回の授業内容に関わるミニレポート又はクイズ, 感想・意見整理等。
学生への メッセージ	フードシステムは農漁業生産にも我々の消費にも密接に関わるほか, ある段階/担い手の技術革新や対応行動変化が他の段階/担い手, ひいては当該システムの全体構造に影響することもあります。今日のフードシステムの姿を, 生産, 流通, そして私たち消費者の態様など, 多様な角度から学習しましょう。
担当者の 研究室等	8号館2階 食品産業研究室(217)
備考	

科目名	食品産業論	科目名 (英文)	Food Industry
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修B(食農ビジネス学科)
学期	前期	授業担当者	山本 尚俊
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2028a0		

授業概要・目的
食品製造業、食品卸・小売業、外食産業等からなる食品産業は、大きな雇用を創出し農漁業含め地域経済との関りが深いほか、食料・農業関連産業が生み出すGDPの8割超のシェアを持つなど、我々の生活と密接不可分な重要な産業である。本講義では食品産業の多様性や特徴について、個別業種の技術革新や競争構造、さらには市場戦略などを含め総合的に学び、食品ビジネスに関する理解を深める。また、食生活に密着した食品産業の特色として、その盛衰が消費者ニーズの変化に大きく関係していることから、家庭の変容(単身世帯・少子高齢化・女性の社会進出等)や食生活の変化と食品産業との関係についても学ぶ。なお、授業は前半を総論パート、後半を各論(個別事例)パートで構成し、前者で食品産業の枠組みとその主要構成部門の態様を俯瞰的に学習した上で、後者ではいくつかの個別産業を事例に検討を深めることで、食品産業の今日の姿やそれに至る経過等を多面的に理解する。

- 到達目標**
- ①食品産業の担い手やその構成・役割、重要性を理解できる。
 - ②食品産業の変容と発展の歩みを理解できる。
 - ③上記②と密接に関係する家庭消費や消費行動の変化を理解できる。
 - ④上記消費行動の変化に伴い、食品産業がどう推移したのか理解できる。
 - ⑤食品産業内でも担う段階・対象財等により産業・競争構造に差異が伴う(多様な)ことを理解できる。

授業方法と留意点
授業はパワーポイントを用いて進め、必要に応じ資料を配布する(対面又はTeams上)。板書は適宜行うが、それに限らず、話を聞きながら自ら主体的に内容・要点をメモし、オリジナルノートをつくるよう習慣付けて欲しい。授業内容の理解を促すため、授業中に履修生に意見を問う、グループ討議を求める、こともある。なお、授業の終了前に、当該単元の内容に関連する課題(ミニレポート又はクイズ、感想・意見整理等)を課すのでそれに対応する(1時間)とともに、その内容をもとに学生同士で討議を行うこと(1時間)、また次回授業で扱う内容も事

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション・食品産業とは	授業の狙い・構成・成績評価方法等、及び食品産業の枠組みを理解する。	事前：シラバスの理解 事後：学習課題の学習
2	食品産業の位置と役割(情勢)	現代の食料供給システムにおける食品産業の位置と役割を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
3	食品産業を取り巻く変化：家計・世帯の構造と食料消費の動向	家計・家庭の構造や食料消費の変化を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
4	食品製造業の産業構造と特徴	食品製造業の産業規模やその構成業種、担い手の特徴を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
5	食品流通業の産業構造と特徴(1)全体概況と食品卸売業	食品流通業の範囲と位置を理解する。同卸売業や担い手の特徴を対川上・川下関係(介在意義)や主な役割・機能、競争構造と絡めて理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
6	食品流通業の産業構造と特徴(2)食品小売業	小売業の役割・機能、食品小売の近代化・業態開発展開の略史、担い手と業務、競争構造等を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
7	外食産業の産業構造と特徴	外食産業の狭義・広義(範囲)、中食部門との関係、市場規模と担い手、競争構造の特徴を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
8	総論パートの総括と中間評価	総論パートの内容の振り返り・総括を行うとともに、その主な内容・用語等の理解度を確認する中間評価を行う。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
9	各論(1)ビール産業：大手主導の寡占市場・展開とクラフトビールの勃興	ビール産業の史的展開や産業構造の特徴を、課税制度や担い手、市場・競争構造等と絡めて理解する(極度な寡占成立の史的背景・動きを知る)。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
10	各論(2)清酒産業：多数の中小業者と大手メーカーの併存・すみ分け	清酒産業の歩みや担い手、市場・競争構造の特徴(特に中小・大手が併存する構造)を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
11	各論(3)即席麺産業：日本発の食の技術革新、その歴史的展開と産業構造	即席麺産業の歩みや担い手、市場・競争構造の特徴(特に製品開発・技術革新の歩み)を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
12	各論(4)水産練製品加工業：伝統的加工と技術革新、その産業構造と特徴	かまぼこ産業の歩みや市場・競争構造の特徴(特に伝統的加工の担い手とその市場の変容等)を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
13	各論(5)製パン産業：製パン産業の展開とその担い手、競争	製パン産業の歩みや担い手、市場・競争構造の特徴(特に製配販統合の実態等)を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
14	各論(6)回転寿司産業：回転寿司の発展・躍進の歩みと競争構造	回転寿司業態の歩みや担い手、市場・競争構造の特徴(特にすしのファストフード化とその技術革新等)を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
15	各論(7)食品小売業：SM台頭下で見られる鮮魚専門小売業の躍進、授業全体のまとめ	スーパーマーケット(SM)の攻勢下で躍進する鮮魚専門小売店の事業展開・特徴を理解する。	事後：レポートの提出

関連科目 フードシステム論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食品産業新展開の条件	山本博信	農林統計出版
	2	食料経済(第6版) フードシステムからみた食料問題	高橋正郎・清水みゆき	オーム社
	3	改訂 フードシステムと日本農業	新山陽子	放送大学教育振興会
評価方法 (基準)	授業後の小課題*(30%), 中間評価**(30%), 期末レポート(40%)から総合的に評価し、60%以上の得点で合格とする。 *各回の授業内容に関わるミニレポート又はクイズ, 感想・意見整理等。 **総論パートの内容・用語等の理解度確認をペーパー試験又はその他課題等をもって行う。			
学生への メッセージ	我々の日々の食生活や地域の経済において、食品産業は重要な役割を果たしています。身近な飲食物品(業界)を取り上げながら、その担い手の活動や産業の構造・特徴を学びましょう。			
担当者の 研究室等	8号館2階 食品産業研究室(217)			
備考				

科目名	食料・農業市場論	科目名 (英文)	Food and Agricultural Market
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修B(食農ビジネス学科)
学期	前期	授業担当者	種市 豊
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2029a0		

授業概要・目的
今日の市場経済のもとでは、農業経営や食品製造業、さらには消費者も、さまざまな側面で市場との関係を持っており、食農ビジネス学を学ぶうえで、食料・農業市場に関する知識を身につけることが必要である。本講義は、食料・農業市場に関して、第一に、食料・農産物の市場と流通に関する基礎理論を踏まえて、その特徴と構造、現状について講義するとともに、第二に、農業経営に関連する諸市場の構造の特徴と、生産資材流通の現状について講義する。さらに、食料・農業市場の今後のあり方について講義する。
授業担当者は、農協（全農系シンクタンク）での勤務経験を有する。本講義ではその経験を踏まえた事例の紹介などを取り入れる。

到達目標
① 食料・農業の市場と流通に関する理論的な考え方を身につけることができる。
② 食料・農産物の市場構造と流通の現状について理解することができる。
③ 農業経営をとりまく諸市場の構造と現状について理解することができる。
④ これらの知識をもとに、食農ビジネスの課題を発見し、これからの食農ビジネスのあり方を考えるために応用できるようになる。

授業方法と留意点
配付資料、パワーポイント、板書等によって行う。
授業内容の理解を深めるために、毎回の授業内容への理解を深めるため、何回か小テストや小レポートを実施する。小テスト・小レポートの解答結果については、次回の授業で解説を行う。
授業の一部に反転授業やグループ・ディスカッションを取り入れる。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	ガイダンスと授業計画・授業方法の説明、食料・農業市場のとらえ方	事前：シラバスの理解 事後：食料・農業市場のとらえ方の確認、小テスト・レポートの作成・提出
2	食市場の変化	1. 豊かな食生活を支える食市場 2. 消費者の食品消費の変化 3. 食生活の多様化	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出
3	食品の流通	食品製造業の構造と特徴、加工食品の取引関係	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出
4	食品流通の役割と社会的使命	1. 卸売流通が必要な食品流通とその変化 2. 食品の小売流通	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出
5	外食・中食産業のマーチャングデザイン	1. 外食・中食産業と食生活の変化 2. 外食産業のマーチャングデザイン 3. 中食産業のマーチャングデザイン	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出
6	流通の担当者	流通における卸売業者・小売業者・物流業者の役割	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出
7	生産者・消費者と流通	生産者・消費者にとっての流通の役割、流通活動と流通コストの考え方	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出
8	主要食品の流通 1	1. 商品の分類と流通の特性 2. 主食の流通 3. 副食の流通	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出
9	主要食品の流通 2	1. 調味料等の流通 2. 中食（惣菜・すし・弁当類・米飯）の流通 3. 嗜好食品の流通	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出
10	主要商品の流通 3	1. 契約栽培、加工・業務用成果物の取引 2. B to B マーケティング	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出
11	フードマーケティング	1. フードビジネスの動向 2. フードマーケティング 3. デジタル・マーケティングの基本理論	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出
12	食料消費の課題	食の安心安全、食品消費をとりまく環境	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出
13	農業に関わる市場 1	近年、話題となっている市場問題を講義する。2024年度は、スマート農業と農業機械を対象としたい。	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出
14	農業に関わる市場 2	近年、話題となっている市場問題を講義する。2024年度は、物流問題を対象としたい。	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出
15	講義のまとめ	食料・農業市場の課題と今後のあり方	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出

関連科目 フードシステム論, 食品産業論, 農畜産物流通論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	四訂 食品の消費と流通	日本フードスペシャリスト協会	建帛社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じて紹介する		
2				

	3		
評価方法 (基準)	中間テスト・毎回の小テスト (60%) と期末定期試験 40% で評価し、60% 以上で合格とする。		
学生への メッセージ	社会の変化は非常に早いです。そのため、常に高いアンテナをたてて情報を集める必要があります。本講義は、みなさんが 1 社会人として生きてゆくため、基礎となる内容です。		
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室 (8 号館 2 階, 教員室 218)		
備考			

科目名	農畜産物流通論	科目名 (英文)	Distribution of Agricultural and Livestock Products
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	戴 容 泰 思
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE2030a0		

授業概要・目的	農畜産物を含む食品流通の一般理論および各品目別の流通の実態等について学ぶことを通して、以下の到達目標を達成する。
到達目標	①食品の流通問題の本質について把握する (知識・理解 DP-1)。 ②現代社会における食品流通の機能とその限界について理解する (知識・理解 DP-2)。 ③実際に起きている食品流通問題を発見し、分析する (思考・判断 DP-3、DP-4)。
授業方法及び留意点	○ MS Teams、Forms 等を使用する。Teams コードを用いて事前に授業チームに登録すること。 ○ 授業中の学習：要点などのメモを取りながらレクチャーに集中すること。積極的に学習活動に参加すること。 ○ 授業外の学習： 1) 毎回の学習資料を予習、復習に活用し、課題 (小テストやふりかえりシート等) を完成させること。 2) 提出物を期限までに提出すること。期限は延長しない。 3) 農業、食品工場、スーパーやコンビニなど身近な産業、そして自分自身の「食卓」に、どんな商

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	【オリエンテーション】今日の食料・農業と食品の流通を見る視点	私たちの食生活と流通と関連して説明しつつ、農産物・食品の流通に求められる視点について理解する。また、本授業のねらい、進め方、皆さんがこの授業で達成すべきゴールおよび成績の評価方法について共有する。	事前：シラバスの理解 事後：課題の完成
2	食品流通のしくみと価格形成	農畜産物・食品の商品としての共通した特性、流通組織体など食品流通の基本的しくみと、需給曲線や価格弾力性など価格に関する理論の基本部分を学ぶ。	事後：課題の完成
3	農畜産物・食品の流通機構 (1)	商業と流通組織の展開をふまえ、農産物・食品流通の現段階的特質と展開方向について学ぶ。	事後：課題の完成
4	農畜産物・食品の流通機構 (2)	商業と流通組織の展開をふまえ、農産物・食品流通の現段階的特質と展開方向について学ぶ。	事後：課題の完成
5	青果物の流通と卸売市場	生鮮の野菜、果物など、私たちの食生活に欠かせない青果物の流通の仕組みとその変化について学ぶ。	事後：課題の完成
6	加工食品の流通と食品卸売業	現代人の食事を大きく支える加工食品の流通とその担い手について解説し、食品卸売業の市場の特徴について理解する。	事後：課題の完成
7	日本の生乳流通と乳業	牛乳・乳製品の原料となる生乳の市場構造の変化メカニズムについて解説し、日本の酪農・乳業の特徴について理解する。	事後：課題の完成
8	日本人はどう肉を食べているか	日本食肉市場の現実とその特徴的な傾向を、いくつかのエビデンスをもって示し、日本の食肉市場の立ち位置を再確認する。	事後：課題の完成
9	食肉のサプライチェーン	日本食肉市場の現実とその特徴的な傾向を確認し、そのサプライチェーンの形について学ぶ。	事後：課題の完成
10	【スピンオフ】畜産飼料の流通と革新	輸入穀物に大きく依存してきた日本の飼料生産・流通の実態と新しい動向について紹介する。	事後：課題の完成
11	農畜産物流通に係る人々 (1)	農畜産物の生産や流通を担う人々の存在がなければ、フードシステムが成り立たない。農畜産物の生産・流通に携わる現場の方を招いて実践的な内容をレクチャーする。	事後：課題の完成
12	農畜産物流通に係る人々 (2)	農畜産物の生産や流通を担う人々の存在がなければ、フードシステムが成り立たない。農畜産物の生産・流通に携わる現場の方を招いて実践的な内容をレクチャーする。	事後：課題の完成
13	【プレゼンテーション】「私」の食卓を支える農畜産物の流通 (1)	自分自身の食生活に関連づけながら、この授業を通して考えたことについて、パワーポイントを用いて発表してもらおう。受講者数を3回に分けて行う。	事前：発表スライドの作成と提出 事後：期末レポートの提出
14	【プレゼンテーション】「私」の食卓を支える農畜産物の流通 (2)	自分自身の食生活に関連づけながら、この授業を通して考えたことについて、パワーポイントを用いて発表してもらおう。受講者数を3回に分けて行う。	事前：発表スライドの作成と提出 事後：期末レポートの提出
15	【プレゼンテーション】「私」の食卓を支える農畜産物の	自分自身の食生活に関連づけながら、この授業を通して考えたことについて、パ	事前：発表スライドの作成と提出 事後：期末レポートの提出

	流通（3）	ワーポイントを用いて発表してもらう。 受講者数を3回に分けて行う。																	
関連科目	食料・農業市場論（2年次前期） 食品産業論（2年次前期） 水産物流通論（2年次後期） 農水産物マーケティング論（3年次前期）																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>農産物・食品の市場と流通</td> <td>日本農業市場学会</td> <td>筑波書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	農産物・食品の市場と流通	日本農業市場学会	筑波書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	農産物・食品の市場と流通	日本農業市場学会	筑波書房																
2																			
3																			
評価方法 （基準）	プレゼンテーション（20%）、課題（30%）、期末レポート（50%）で評価し、60%以上で合格とする。																		
学生への メッセージ	第1回のオリエンテーションで授業の実際の進め方と評価方法などについて説明します。1回目を欠席した場合は、再度説明を行いませんので、ご注意ください。																		
担当者の 研究室等	8号館2階215教員室																		
備考	外部講師との日程調整や、受講人数によって授業計画を前後させる場合がある。																		

科目名	水産物流通論	科目名 (英文)	Distribution and Marketing System of Fishery Products
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	副島 久実
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE2031a0		

授業概要・目的	水産業の現状と課題、水産物の商品特性、水産物流通の仕組みを学び、水産物流通の特徴（産地市場と消費地市場の制度や機能等）や現代的な特徴（市場外流通の拡大、産地販売力の強化、水産物ブランド化の取り組み、女性起業、量販店における水産物販売の動向等）について理解する。また、現代的な水産物消費の動向とその背景や要因、水産物流通・消費の中の輸入水産物の浸透等についても学び、これからの日本の水産物流通や水産物消費のあり方について検討していく。
到達目標	① 水産業の基本的な構造を理解できる。 ② 水産物の商品特性や水産物流通の仕組み、特徴等について理解する。 ③ 水産物流通の現代的な特徴を理解する。 ④ 水産物消費の動向とその背景・要因、輸入水産物の関係等について理解する。 ⑤ これからの日本の水産物流通や水産物消費のあり方について検討できるようになる。
授業方法及び留意点	主にパワーポイントを使って講義を行い、必要に応じて資料をPDFでTeams上に配布します。対面か非対面かについては、大学の方針に従います。対面で授業を実施する場合においても小課題の提出等、授業の中でteamsを使用する予定です。

科目学習の 効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>水産業の特徴</td> <td>ガイダンス (授業の概要や進め方などについて)、水産業の特徴について理解する。</td> <td>事前：シラバスの理解 事後：学習範囲の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>水産物と水産業の特徴、水産業の現状と課題</td> <td>水産物と水産業の特徴、水産業の現状と課題について学ぶ。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>水産物消費</td> <td>水産物消費の現状と課題および特徴について学ぶ。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>水産物流通のしくみ</td> <td>水産物流通の基本的な仕組みを学ぶ。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>産地における水産物流通の仕組み</td> <td>産地における水産物流通の仕組み、現状と課題等について学ぶ。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>産地における水産物流通の仕組みの実例</td> <td>産地における水産物流通の仕組み実例の現状と課題等について学ぶ。(外部講師 (予定))</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>国際的な水産物需給の動向と水産物の輸出入</td> <td>諸外国における水産業や水産物消費、日本における水産物輸出入の現状と課題について学ぶ。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>量販店における水産物販売</td> <td>量販店における水産物販売の特徴や実態について学ぶ。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>水産物の加工品の特徴と水産加工業の現状と動き</td> <td>水産物の加工品・加工業の特徴や特性や現状、課題等について学ぶ。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>水産物のブランド化</td> <td>水産物のブランド化の仕組みや課題等について学ぶ。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>新しい水産物流通</td> <td>水産物流通の新しい動きについて学ぶ。(外部講師 (予定))</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>水産業における女性の役割</td> <td>水産業における女性の役割や課題について学ぶ。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>地域における水産業・水産物流通の実例 1</td> <td>地域における水産業・水産物流通の実例について現状と課題を学ぶ。(外部講師 (予定))</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>地域における水産業・水産物流通の実例 2</td> <td>地域における水産業・水産物流通の実例について現状と課題を学ぶ。(外部講師 (予定))</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>水産業のこれから</td> <td>一連の講義を通してこれからの水産業や水産物消費、漁村のあり方等について考察する。</td> <td>事前：全学習範囲の復習 事後：全学習範囲の復習</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	水産業の特徴	ガイダンス (授業の概要や進め方などについて)、水産業の特徴について理解する。	事前：シラバスの理解 事後：学習範囲の復習	2	水産物と水産業の特徴、水産業の現状と課題	水産物と水産業の特徴、水産業の現状と課題について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習	3	水産物消費	水産物消費の現状と課題および特徴について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習	4	水産物流通のしくみ	水産物流通の基本的な仕組みを学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習	5	産地における水産物流通の仕組み	産地における水産物流通の仕組み、現状と課題等について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習	6	産地における水産物流通の仕組みの実例	産地における水産物流通の仕組み実例の現状と課題等について学ぶ。(外部講師 (予定))	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習	7	国際的な水産物需給の動向と水産物の輸出入	諸外国における水産業や水産物消費、日本における水産物輸出入の現状と課題について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習	8	量販店における水産物販売	量販店における水産物販売の特徴や実態について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習	9	水産物の加工品の特徴と水産加工業の現状と動き	水産物の加工品・加工業の特徴や特性や現状、課題等について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習	10	水産物のブランド化	水産物のブランド化の仕組みや課題等について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習	11	新しい水産物流通	水産物流通の新しい動きについて学ぶ。(外部講師 (予定))	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習	12	水産業における女性の役割	水産業における女性の役割や課題について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習	13	地域における水産業・水産物流通の実例 1	地域における水産業・水産物流通の実例について現状と課題を学ぶ。(外部講師 (予定))	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習	14	地域における水産業・水産物流通の実例 2	地域における水産業・水産物流通の実例について現状と課題を学ぶ。(外部講師 (予定))	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習	15	水産業のこれから	一連の講義を通してこれからの水産業や水産物消費、漁村のあり方等について考察する。	事前：全学習範囲の復習 事後：全学習範囲の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	水産業の特徴	ガイダンス (授業の概要や進め方などについて)、水産業の特徴について理解する。	事前：シラバスの理解 事後：学習範囲の復習																																																														
2	水産物と水産業の特徴、水産業の現状と課題	水産物と水産業の特徴、水産業の現状と課題について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習																																																														
3	水産物消費	水産物消費の現状と課題および特徴について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習																																																														
4	水産物流通のしくみ	水産物流通の基本的な仕組みを学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習																																																														
5	産地における水産物流通の仕組み	産地における水産物流通の仕組み、現状と課題等について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習																																																														
6	産地における水産物流通の仕組みの実例	産地における水産物流通の仕組み実例の現状と課題等について学ぶ。(外部講師 (予定))	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習																																																														
7	国際的な水産物需給の動向と水産物の輸出入	諸外国における水産業や水産物消費、日本における水産物輸出入の現状と課題について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習																																																														
8	量販店における水産物販売	量販店における水産物販売の特徴や実態について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習																																																														
9	水産物の加工品の特徴と水産加工業の現状と動き	水産物の加工品・加工業の特徴や特性や現状、課題等について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習																																																														
10	水産物のブランド化	水産物のブランド化の仕組みや課題等について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習																																																														
11	新しい水産物流通	水産物流通の新しい動きについて学ぶ。(外部講師 (予定))	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習																																																														
12	水産業における女性の役割	水産業における女性の役割や課題について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習																																																														
13	地域における水産業・水産物流通の実例 1	地域における水産業・水産物流通の実例について現状と課題を学ぶ。(外部講師 (予定))	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習																																																														
14	地域における水産業・水産物流通の実例 2	地域における水産業・水産物流通の実例について現状と課題を学ぶ。(外部講師 (予定))	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の復習																																																														
15	水産業のこれから	一連の講義を通してこれからの水産業や水産物消費、漁村のあり方等について考察する。	事前：全学習範囲の復習 事後：全学習範囲の復習																																																														

関連科目	農畜産物流通論、フードシステム論
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特に指定しない		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ポイント整理で学ぶ水産経済	廣吉勝治・佐野雅昭 編	北斗書房
	2	食料・農産物の流通と市場	日本農業市場学会 編	筑波書房
	3			

評価方法 (基準)	成績は主に期末テスト (70%) と小課題 (内容等については適宜指示する) (30%) で評価する予定で、60%以上で合格とします。
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	農学部 2階教員室 216
----------	---------------

備考	成績評価では授業態度や積極性についても参考とします。
----	----------------------------

科目名	農水産物マーケティング論	科目名 (英文)	Marketing of Agricultural and Fishery Products
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	副島 久実
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE3032a0		

授業概要・目的	これまで構築されてきたマーケティング理論は「作った製品を売るのではなく、売れる製品を作る」という発想からなされてきた。そのため、農水産物にはなじまないという指摘もある。しかし、たとえ農水産物にはなじまない側面があるとしても、基本的なマーケティングの考え方と基本的な理論を理解していなければ、そうした側面に気づくことができない。そこで本授業ではマーケティングの考え方と基本的な理論を学ぶことを通じて、随時、農水産物マーケティングの事例を盛り込み、農水産物マーケティングのあり方について検討していく。
到達目標	① マーケティングの基本概念について理解できる。 ② マーケティングのマネジメントについて理解する。 ③ 関係のマネジメントについて理解する。 ④ マーケティングの発想を身につける。 ⑤ 農水産物のマーケティングのあり方について理解する
授業方法と留意点	主にパワーポイントを用いて講義を行い、必要に応じて資料をPDFでTeams上に配布します。 対面か非対面かについては、大学の方針に従います。対面で授業を実施する場合においても小課題の提出等、授業の中でteamsを使用する予定です。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	マーケティング発想の経営	ガイダンス (授業の概要と進め方等について)、マーケティング発想の経営について学ぶ。	事前: シラバスの理解 事後: 学習課題の復習
2	マーケティング論のなりたち	マーケティング論とは何か、マーケティングの誕生と発展について学ぶ。	事前: 学習課題の予習 事後: 学習課題の復習
3	マーケティングの基本概念	マーケティングの基本概念 (STP や 4P) 等について学ぶ。	事前: 学習課題の予習 事後: 学習課題の復習
4	戦略的マーケティング	経営戦略とマーケティング戦略、戦略的マーケティング、製品ポートフォリオ・マトリックス等について学ぶ。	事前: 学習課題の予習 事後: 学習課題の復習
5	製品のマネジメント	製品のマネジメント (製品戦略、市場機会の分析、アイデアの創出とスクリーニング、製品設計、生産工程設計、市場導入、製品ライフサイクル管理等) について学ぶ。	事前: 学習課題の予習 事後: 学習課題の復習
6	価格のマネジメント	工業製品と農水産物の価格の組み立ての違いを理解しながら価格のマネジメントについて学ぶ。	事前: 学習課題の予習 事後: 学習課題の復習
7	広告のマネジメント	消費者対応、競争者対応、ブランド対応、プロモーション・ミックス、メディア・ミックス等から広告のマネジメントについて学ぶ。	事前: 学習課題の予習 事後: 学習課題の復習
8	チャネルのマネジメント	工業製品と農水産物の流通経路の違いを理解し、チャネル選択、チャネル管理等について学ぶ。	事前: 学習課題の予習 事後: 学習課題の復習
9	サプライチェーンのマネジメント	サプライチェーンとは何かについて学び、工業製品と農水産物のサプライチェーンマネジメントの共通性と差異性について理解する。	事前: 学習課題の予習 事後: 学習課題の復習
10	営業のマネジメント	営業活動の重要性とマネジメントについて学ぶ。	事前: 学習課題の予習 事後: 学習課題の復習
11	顧客関係のマネジメント	顧客関係の構築、ジレンマ、顧客マネジメント等について学ぶ。	事前: 学習課題の予習 事後: 学習課題の復習
12	ブランド構築のマネジメント	ブランドとは何か、ブランドの機能、ブランドの効果等について学ぶ。	事前: 学習課題の予習 事後: 学習課題の復習
13	農水産物におけるマーケティングの実例	農水産物のブランド化の現状と課題等について学ぶ (外部講師 (予定))。	事前: 学習課題の予習 事後: 学習課題の復習
14	女性視点のマーケティング	女性視点のマーケティングを学習することを通じて多様な視点からのマーケティングのあり方について学ぶ。	事前: 学習課題の予習 事後: 学習課題の復習
15	これからの農水産物におけるマーケティングについて	授業全体を振り返ることを通じて、これからの農水産物におけるマーケティングの在り方について検討する。	事前: 授業全体の学習課題の振り返り 事後: 学習課題の復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1からのマーケティング	石井淳蔵、廣田章光	中央経済社
2				
3				

評価方法 (基準)	成績は主に期末テスト(70%)と小課題(適宜内容を指示、30%)で評価し、60%以上で合格とします。
学生への メッセージ	講義内容の理解を深化させるため、日ごろから新聞やニュース等を通じて、関連するトピックについて常に興味を持って情報を集めることや調べることをお勧めします。
担当者の 研究室等	2F 教員室 216
備考	成績評価では授業態度や積極性についても参考とします。

科目名	食品表示・認証論	科目名 (英文)	Food Labelling and Certification
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中塚 華奈
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE3033a0		

授業概要・目的	食品表示とは、農林水産業で生産された一次産品およびそれらの加工品を消費者が購入する時に、品質や内容を見極める重要な情報源である。我が国の食品の表示は、平成 27 年に施行された食品表示法およびそれに関連する検査・認証システムによって、一定のルールに基づいて付されている。現在の食品表示法は、消費者が食品を摂取する際の安全性及び一般消費者の自主的かつ合理的な食品選択の機会を確保することを目的とし、食品衛生法、JAS 法、健康増進法の食品表示に関する規定を統合した一元的な制度となっている。本講義では、情報経済学の理論を用いた食品表示の意義とその内容や検査・認証システム、その他、食品にまつわるシグナリングおよび海外の制度との整合性等について、専門的な知識を修得する。
到達目標	① 食品表示の意義を理解する。 ② 食品表示法で定められている表示基準の内容を理解する。 ③ 食品表示法における検査・認証システムの仕組みと意義を理解する。
授業方法と留意点	パワーポイント、板書によって行い、適宜、資料やプリントを配布する。可能な範囲で、実際の食品表示が付されている食品を入手し、現物と資料を照らし合わせながら知識修得を行う。
科目学習の効果 (資格)	有機 JAS 制度および特定 JAS 制度の検査・認証機関での検査員および判定員が習得すべき内容を網羅している

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	食品偽装事件と食品表示	現行の食品表示制度がなかった時代に勃発した事件を検証し、シグナリングとしての食品表示および制度施行の意義を理解する。	事前： シラバスの熟読 (1 時間) 有機食品に関する情報収集 (2 時間) 事後： FORMS の課題への取組 (1 時間)
2	わが国の食品表示法と国際基準の動向	日本の食品表示法の概要や目的、基準内容や CODEX 等、国際基準の動向について理解する。	事前： WEB の該当ページの予習 (1 時間) 食品表示に関する情報収集 (2 時間) 事後： FORMS の課題への取組 (1 時間)
3	有機農産物の日本農林規格「生産の原則」	有機農産物の日本農林規格の基準および検査認証システムを「生産の原則」から理解する。	事前： WEB の該当ページの予習 (1 時間) 食品表示に関する情報収集 (2 時間) 事後： FORMS の課題への取組 (1 時間)
4	有機農産物の日本農林規格「生産の方法—ほ場と種苗」	有機農産物の日本農林規格の基準および検査認証システムを「生産の方法—ほ場と種苗」から理解する。	事前： WEB の該当ページの予習 (1 時間) 食品表示に関する情報収集 (2 時間) 事後： FORMS の課題への取組 (1 時間)
5	有機農産物の日本農林規格「生産の方法—肥培管理と有害動物防除」	有機農産物の日本農林規格の基準および検査認証システムを「生産の方法—肥培管理と有害動物防除」から理解する。	事前： WEB の該当ページの予習 (1 時間) 食品表示に関する情報収集 (2 時間) 事後： FORMS の課題への取組 (1 時間)
6	有機農産物の日本農林規格「生産の方法—一般管理と育苗管理」	有機農産物の日本農林規格の基準および検査認証システムを「生産の方法—一般管理と育苗管理」から理解する。	事前： WEB の該当ページの予習 (1 時間) 食品表示に関する情報収集 (2 時間) 事後： FORMS の課題への取組 (1 時間)
7	有機 JAS 制度と認証の技術的基準	有機 JAS の検査認証システムにおける認証の技術的基準の内容を理解する。	事前： WEB の該当ページの予習 (1 時間) 食品表示に関する情報収集 (2 時間) 事後： FORMS の課題への取組 (1 時間)
8	有機農産物加工食品の日本農林規格	有機農産物加工食品の日本農林規格の基準および検査認証システムを理解する。	事前： WEB の該当ページの予習 (1 時間) 食品表示に関する情報収集 (2 時間) 事後： FORMS の課題への取組 (1 時間)
9	有機飼料の日本農林規格	有機飼料の日本農林規格の基準および検査認証システムを理解する。	事前： WEB の該当ページの予習 (1 時間) 食品表示に関する情報収集 (2 時間) 事後： FORMS の課題への取組 (1 時間)
10	有機畜産物の日本農林規格	有機畜産物の日本農林規格の基準および検査認証システムを理解する。	事前： WEB の該当ページの予習 (1 時間) 食品表示に関する情報収集 (2 時間) 事後： FORMS の課題への取組 (1 時間)
11	有機藻類の日本農林規格	有機藻類の日本農林規格の基準および検査認証システムを理解する。	事前： WEB の該当ページの予習 (1 時間) 食品表示に関する情報収集 (2 時間) 事後： FORMS の課題への取組 (1 時間)
12	持続可能性に配慮した鶏肉・鶏卵 JAS 規格	持続可能性に配慮した鶏肉・鶏卵 JAS の基準と認証の技術的基準の内容を理解する。	事前： WEB の該当ページの予習 (1 時間) 食品表示に関する情報収集 (2 時間)

				事後： FORMS の課題への取組（1 時間）
	13	有機 JAS の小分け業者・輸入業者の認証の技術的基準	有機 JAS における小分け業者・輸入業者の定義と認証の技術的基準の内容を理解する。	事前： WEB の該当ページの予習（1 時間） 食品表示に関する情報収集（2 時間） 事後： FORMS の課題への取組（1 時間）
	14	有機 JAS の輸出業者の認証の技術的基準	有機 JAS における輸出業者の定義と認証の技術的基準の内容を理解する。	事前： WEB の該当ページの予習（1 時間） 食品表示に関する情報収集（2 時間） 事後： FORMS の課題への取組（1 時間）
	15	有機 JAS の登録認証機関と認証の動向	有機 JAS における登録認証機関の登録条件や認証件数などの実態を理解する。	事前： WEB の該当ページの予習（1 時間） 食品表示に関する情報収集（2 時間） 事後： FORMS の課題への取組（1 時間）
関連科目	食農ビジネス学概論（中塚担当回）			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	とくに指定しない		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	知っておきたい食品の表示		消費者庁
	2			
	3			
評価方法 (基準)	FORMS30% 定期試験 70% で評価し、60% 以上を合格とする。			
学生への メッセージ	食品表示のなかの有機 JAS 規格の専門的な知識をつけることで、普段の食品選択や食品関連の就職時に役立てましょう			
担当者の 研究室等	8 号館 317 号室			
備考				

科目名	女性起業論	科目名 (英文)	Female Entrepreneurship and Leaders
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	副島 久実
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE3034a0		

授業概要・目的	実際に「起業」するか否かにかかわらず、これからの経済や社会にとってキーワードの一つである「起業」を学ぶことは、今後の日本や世界の経済・社会のあり方を検討する上で重要である。本授業では、「起業」を農漁村や女性という視点から、現在の起業の意義や重要性について考える。将来起業したい学生だけでなく、性別にかかわらず、食農ビジネス全般に関心のある学生の受講を歓迎します。
到達目標	① 地域資源と結びついた女性起業の社会的・経済的意味について理解できる。 ② 地域資源と結びついた女性起業が行うビジネスやマーケティングの内容や特徴を理解する。 ③ 地域資源と結びついた女性起業が抱える課題を理解する。 ④ 農水産物と地域をつなぐビジネスに必要な基礎知識を知る。 ⑤ 今後の地域資源を活かした起業活動のあり方を検討できるようになる。
授業方法と留意点	主にパワーポイントで講義を行い、必要に応じて資料をPDFでTeams上に配布します。 対面か非対面かについては、大学の方針に従います。対面で授業を実施する場合においても、小課題の提出等、授業の中でteamsを使用する予定です。

科目学習の効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>今、なぜ起業する人が多いのか</td> <td>ガイダンス (授業の概要と進め方等について)、なぜ起業に注目するのかについて理解する。</td> <td>事前：シラバスの理解 事後：学習課題の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>日本の起業の状況</td> <td>日本の起業の状況と課題等について理解する。</td> <td>事前：学習課題の予習 事後：学習課題の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>女性起業の状況</td> <td>女性起業の状況と課題等について理解する。</td> <td>事前：学習課題の予習 事後：学習課題の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>色々な起業内容</td> <td>色々な起業内容について学び、それぞれの特徴や課題等について理解する。</td> <td>事前：学習課題の予習 事後：学習課題の復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>農村女性起業</td> <td>農村女性起業の現状と課題等について理解する。</td> <td>事前：学習課題の予習 事後：学習課題の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>漁村女性起業</td> <td>漁村女性起業の現状と課題等について理解する。</td> <td>事前：学習課題の予習 事後：学習課題の復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>地域資源と結びついた女性起業の実例1</td> <td>地域資源と結びついた女性起業の実例について現状と課題等について学ぶ (外部講師 (予定))。</td> <td>事前：学習課題の予習 事後：学習課題の復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>地域資源と結びついた女性起業の実例2</td> <td>地域資源と結びついた女性起業の実例について現状と課題等について学ぶ (外部講師 (予定))。</td> <td>事前：学習課題の予習 事後：学習課題の復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>地域資源と結びついた女性起業の実例3</td> <td>地域資源と結びついた女性起業の実例について現状と課題等について学ぶ (外部講師 (予定))。</td> <td>事前：学習課題の予習 事後：学習課題の復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>自分なりのビジネスプラン案を作ってみる1</td> <td>新しい事業機会を見つけ、事業機会を評価する。</td> <td>事前：これまでの学習課題を振り返る 事後：学習課題を仕上げる</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>自分なりのビジネスプラン案を作ってみる2</td> <td>収益のしくみを考える。</td> <td>事前：これまでの学習課題を振り返る 事後：学習課題を仕上げる</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>自分なりのビジネスプラン案を作ってみる3</td> <td>差別化の方法や強みの作り方について検討する。</td> <td>事前：これまでの学習課題を振り返る 事後：学習課題を仕上げる</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ビジネスプランについてのプレゼンテーション1</td> <td>自分なりに作成したビジネスプランを発表する</td> <td>事前：プレゼン資料の作成 事後：自分のプレゼンの自己評価と他者のプレゼンの評価</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ビジネスプランについてのプレゼンテーション2</td> <td>自分なりに作成したビジネスプランを発表する</td> <td>事前：プレゼン資料の作成 事後：自分のプレゼンの自己評価と他者のプレゼンの評価</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>女性起業のこれから</td> <td>これからの女性起業のあり方について再考する。</td> <td>事前：全授業課題の振り返り 事後：学習課題の復習</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	今、なぜ起業する人が多いのか	ガイダンス (授業の概要と進め方等について)、なぜ起業に注目するのかについて理解する。	事前：シラバスの理解 事後：学習課題の復習	2	日本の起業の状況	日本の起業の状況と課題等について理解する。	事前：学習課題の予習 事後：学習課題の復習	3	女性起業の状況	女性起業の状況と課題等について理解する。	事前：学習課題の予習 事後：学習課題の復習	4	色々な起業内容	色々な起業内容について学び、それぞれの特徴や課題等について理解する。	事前：学習課題の予習 事後：学習課題の復習	5	農村女性起業	農村女性起業の現状と課題等について理解する。	事前：学習課題の予習 事後：学習課題の復習	6	漁村女性起業	漁村女性起業の現状と課題等について理解する。	事前：学習課題の予習 事後：学習課題の復習	7	地域資源と結びついた女性起業の実例1	地域資源と結びついた女性起業の実例について現状と課題等について学ぶ (外部講師 (予定))。	事前：学習課題の予習 事後：学習課題の復習	8	地域資源と結びついた女性起業の実例2	地域資源と結びついた女性起業の実例について現状と課題等について学ぶ (外部講師 (予定))。	事前：学習課題の予習 事後：学習課題の復習	9	地域資源と結びついた女性起業の実例3	地域資源と結びついた女性起業の実例について現状と課題等について学ぶ (外部講師 (予定))。	事前：学習課題の予習 事後：学習課題の復習	10	自分なりのビジネスプラン案を作ってみる1	新しい事業機会を見つけ、事業機会を評価する。	事前：これまでの学習課題を振り返る 事後：学習課題を仕上げる	11	自分なりのビジネスプラン案を作ってみる2	収益のしくみを考える。	事前：これまでの学習課題を振り返る 事後：学習課題を仕上げる	12	自分なりのビジネスプラン案を作ってみる3	差別化の方法や強みの作り方について検討する。	事前：これまでの学習課題を振り返る 事後：学習課題を仕上げる	13	ビジネスプランについてのプレゼンテーション1	自分なりに作成したビジネスプランを発表する	事前：プレゼン資料の作成 事後：自分のプレゼンの自己評価と他者のプレゼンの評価	14	ビジネスプランについてのプレゼンテーション2	自分なりに作成したビジネスプランを発表する	事前：プレゼン資料の作成 事後：自分のプレゼンの自己評価と他者のプレゼンの評価	15	女性起業のこれから	これからの女性起業のあり方について再考する。	事前：全授業課題の振り返り 事後：学習課題の復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																														
1	今、なぜ起業する人が多いのか	ガイダンス (授業の概要と進め方等について)、なぜ起業に注目するのかについて理解する。	事前：シラバスの理解 事後：学習課題の復習																																																														
2	日本の起業の状況	日本の起業の状況と課題等について理解する。	事前：学習課題の予習 事後：学習課題の復習																																																														
3	女性起業の状況	女性起業の状況と課題等について理解する。	事前：学習課題の予習 事後：学習課題の復習																																																														
4	色々な起業内容	色々な起業内容について学び、それぞれの特徴や課題等について理解する。	事前：学習課題の予習 事後：学習課題の復習																																																														
5	農村女性起業	農村女性起業の現状と課題等について理解する。	事前：学習課題の予習 事後：学習課題の復習																																																														
6	漁村女性起業	漁村女性起業の現状と課題等について理解する。	事前：学習課題の予習 事後：学習課題の復習																																																														
7	地域資源と結びついた女性起業の実例1	地域資源と結びついた女性起業の実例について現状と課題等について学ぶ (外部講師 (予定))。	事前：学習課題の予習 事後：学習課題の復習																																																														
8	地域資源と結びついた女性起業の実例2	地域資源と結びついた女性起業の実例について現状と課題等について学ぶ (外部講師 (予定))。	事前：学習課題の予習 事後：学習課題の復習																																																														
9	地域資源と結びついた女性起業の実例3	地域資源と結びついた女性起業の実例について現状と課題等について学ぶ (外部講師 (予定))。	事前：学習課題の予習 事後：学習課題の復習																																																														
10	自分なりのビジネスプラン案を作ってみる1	新しい事業機会を見つけ、事業機会を評価する。	事前：これまでの学習課題を振り返る 事後：学習課題を仕上げる																																																														
11	自分なりのビジネスプラン案を作ってみる2	収益のしくみを考える。	事前：これまでの学習課題を振り返る 事後：学習課題を仕上げる																																																														
12	自分なりのビジネスプラン案を作ってみる3	差別化の方法や強みの作り方について検討する。	事前：これまでの学習課題を振り返る 事後：学習課題を仕上げる																																																														
13	ビジネスプランについてのプレゼンテーション1	自分なりに作成したビジネスプランを発表する	事前：プレゼン資料の作成 事後：自分のプレゼンの自己評価と他者のプレゼンの評価																																																														
14	ビジネスプランについてのプレゼンテーション2	自分なりに作成したビジネスプランを発表する	事前：プレゼン資料の作成 事後：自分のプレゼンの自己評価と他者のプレゼンの評価																																																														
15	女性起業のこれから	これからの女性起業のあり方について再考する。	事前：全授業課題の振り返り 事後：学習課題の復習																																																														

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特に指定しない</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特に指定しない			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	特に指定しない																
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>農村女性による起業と法人化</td> <td>岡部守 編</td> <td>筑波書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>社会的企業をめざす農村女性たち</td> <td>澤野久美</td> <td>筑波書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>起業マニュアル</td> <td>樋口恵子</td> <td>女性労働協会</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	農村女性による起業と法人化	岡部守 編	筑波書房	2	社会的企業をめざす農村女性たち	澤野久美	筑波書房	3	起業マニュアル	樋口恵子	女性労働協会
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	農村女性による起業と法人化	岡部守 編	筑波書房														
2	社会的企業をめざす農村女性たち	澤野久美	筑波書房														
3	起業マニュアル	樋口恵子	女性労働協会														

評価方法 (基準)	小課題 (適宜、内容を指示、30%)、ビジネスプラン (40%)、プレゼンテーション (30%) で評価する予定です。合格は60%以上とします。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	2F 教員室 216
備考	授業評価として授業中の態度や積極性も参考にします。

科目名	食品産業経営戦略論	科目名 (英文)	Food Business Strategy
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修A(食農ビジネス学科)
学期	後期	授業担当者	山本 尚俊, 副島 久実, 種市 豊, 戴 容泰思
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE3035a0		

授業概要・目的	食農ビジネス学科の選択必修科目Aの一つであり、食品産業・流通系で学ぶ学生を対象として開講する。食品産業・流通系で実践的に学修し、卒業研究を行うためには、食品産業（食品製造業、食品卸売業、食品流通業、フードサービス産業）の経営戦略を学ぶことが不可欠である。 本講義では、経営戦略の代表的な考え方に対する理解を深めるとともに、食品産業のなかから代表的な企業を取り上げ、その業界の構造と特徴を把握したうえで、企業の経営展開と経営戦略の具体的内容と、どのような経営成果が得られたのかを調べ、食品産業の経営の分析と考察を行う。
到達目標	① 企業の経営戦略に関する代表的な考え方を理解することができる。 ② 食品産業を構成する業界の構造と特徴を把握することができる。 ③ 企業の経営展開や経営戦略の調べ方、分析・考察の仕方を身につけることができる。
授業方法及び留意点	① 受講者全員を対象に、経営戦略に関する文献・資料等の読解を行う。 ② 個人またはグループで担当する企業を決め、企業の展開過程、経営戦略を調べるとともに、経営戦略の分析・考察を行う。 ③ 取り上げた企業の経営戦略について、全体で発表を行い、レポートを作成する。 授業の中で、アクティブラーニング（②反転授業、③ディスカッション・ディベート、④グループワーク、⑤プレゼンテーション、⑥実習・フィールドワーク）を取り入れる。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方についてのガイダンス	事前：シラバスの確認（15分）
2	経営戦略に関する文献等の探索と読解	業界の構造分析の方法、代表的な経営戦略の考え方に関する文献を読解する。	事前：文献等の探索・読了 事後：講義の内容の確認
3	経営戦略に関する文献等の探索と読解	業界の構造分析の方法、代表的な経営戦略の考え方に関する文献を読解する。	事前：文献等の探索・読了 事後：講義の内容の確認
4	経営戦略に関する文献等の探索と読解	業界の構造分析の方法、代表的な経営戦略の考え方に関する文献を読解する。	事前：文献等の探索・読了 事後：講義の内容の確認
5	経営戦略に関する文献等の探索と読解	業界の構造分析の方法、代表的な経営戦略の考え方に関する文献を読解する。	事前：文献等の探索・読了 事後：講義の内容の確認
6	経営戦略に関する文献等の探索と読解	業界の構造分析の方法、代表的な経営戦略の考え方に関する文献を読解する。	事前：文献等の探索・読了 事後：講義の内容の確認
7	企業の経営戦略の調査・分析	個人またはグループで取り上げた企業の展開過程、経営戦略、経営分析を、担当教員の指導のもとで行う。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
8	企業の経営戦略の調査・分析	個人またはグループで取り上げた企業の展開過程、経営戦略、経営分析を、担当教員の指導のもとで行う。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
9	企業の経営戦略の調査・分析	個人またはグループで取り上げた企業の展開過程、経営戦略、経営分析を、担当教員の指導のもとで行う。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
10	企業の経営戦略の調査・分析	個人またはグループで取り上げた企業の展開過程、経営戦略、経営分析を、担当教員の指導のもとで行う。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
11	発表の準備	発表内容を検討し、資料を作成する。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
12	発表の準備	発表内容を検討し、資料を作成する。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
13	調査・分析結果の発表	個人またはグループで取り上げた企業の経営戦略について発表し、意見交換を行う。	事前：発表の準備 事後：レポートの作成
14	調査・分析結果の発表	個人またはグループで取り上げた企業の経営戦略について発表し、意見交換を行う。	事前：発表の準備 事後：レポートの作成
15	調査・分析結果の発表	個人またはグループで取り上げた企業の経営戦略について発表し、意見交換を行う。	事前：発表の準備 事後：レポートの作成

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準） 授業に取り組む姿勢（ルーブリック評価・20%）と発表内容（40%）、レポート（40%）を総合して評価し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の 種市 豊（食料・農業市場研究室）、山本 尚俊（食品産業研究室）、副島 久実（農水産物・食品マーケティング研究室）、戴 容泰思（食品流

研究室等	通研究室)
備考	

科目名	食農共生論	科目名 (英文)	Symbiosis of Food and Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北川 太一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1036a0		

授業概要・目的
近年、さまざまな側面から「食と農の距離の拡大」(食と農の乖離)の問題が指摘されている。私たちが真に豊かな食を実現し、日本の農業を守り発展させていくためには、食と農の距離を少しでも短くすること、すなわち食と農を結び両者が「共生」していく道筋を考えていかなければならない。本講義は、食農共生・循環型農業論系の概論として「食と農の距離」の問題を考えながら、農業と食料問題の特性を理解したうえで、生産者と消費者、農村(むら)と都市(まち)、産地と食卓を結ぶ食農共生の課題や方向性について考える。

到達目標
① 近年の「食と農の距離の拡大」の状況について理解する。
② 食と農の距離を短くする、食と農を結ぶためのさまざまな取り組みの現状を知る。
③ ①②を通じて、農業・農村の発展や食料問題に解決のためには、食と農を結ぶこと(食農共生)の考え方が重要であることを理解し、食と農の共生の方向性について考えることができるようになる。

授業方法と留意点
・授業形式: 講義中心で、補足プリント(講義レジュメ、資料など)を配布して進める。
・実態をリアルに把握できるように、DVDなど映像教材を活用する。可能ならば、ゲストスピーカーによる講義を行う。
・質問等がある場合、授業時間内に質疑の時間をとることは難しいため、授業後やオフィスアワー、電子メールやICTツール等を積極的に利用すること。
・事前の予習と復習(講義後の所感)を重視する。そのために、毎回、リアクションペーパーの提出を課す。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日本の食料・農業政策と食農共生	農業基本法および食料・農業・農村基本法を比較しながら、政策における食農共生問題に位置を理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(2時間)・事後(2時間)に学習する。
3	経済発展と農業・食料問題、食農共生	経済発展に伴って、農業や食料問題の相対的な位置がどのように変化するかを知り、その中での食農共生問題の重要性を理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(2時間)・事後(2時間)に学習する。
4	農業・食料生産の特質と食農共生	農業・食料生産(供給)の特質を知り、その中での食農共生問題の重要性を理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(2時間)・事後(2時間)に学習する。
5	農産物・食料需要の特質と食農共生	農産物・食料の消費(需要)の特質を知り、その中での食農共生問題の重要性を理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(2時間)・事後(2時間)に学習する。
6	農産物・食料の価格変動と食農共生①	農産物・食料の価格変動の特質を知り、その中での食農共生問題の重要性を理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(2時間)・事後(2時間)に学習する。
7	農産物・食料の価格変動と食農共生②	農産物・食料の価格変動の特質を踏まえた市場経済のメカニズムの特性と限界を知り、その中での食農共生問題の重要性を理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(2時間)・事後(2時間)に学習する。
8	中間まとめ	これまでの授業のふり返りを行い、食農共生の取り組みが果たす役割について考える。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(2時間)・事後(2時間)に学習する。
9	食と農の距離の拡大(時間的・地理的距離の拡大①)	食料自給率の問題を理解し、食農共生の実践について考える。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(2時間)・事後(2時間)に学習する。
10	食と農の距離の拡大(時間的・地理的距離の拡大②)	輸入農産物の問題を理解し、食農共生の実践について考える。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(2時間)・事後(2時間)に学習する。
11	食と農の距離の拡大(段階的距離の拡大①)	農産物・食料の流通・加工過程を理解し、食農共生の実践について考える。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(2時間)・事後(2時間)に学習する。
12	食と農の距離の拡大(段階的距離の拡大②)	農産物直売所や産直・産消提携の理念と内容を理解し、食農共生の実践について考える。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(2時間)・事後(2時間)に学習する。
13	食と農の距離の拡大(心理(意識)的距離の拡大①)	食育の理念と内容を理解し、食農共生の実践について考える。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(2時間)・事後(2時間)に学習する。
14	食と農の距離の拡大(心理(意識)的距離の拡大②)	農村都市交流・グリーンツーリズムやCSAについて理解し、食農共生の実践について考える。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(2時間)・事後(2時間)に学習する。
15	授業全体のまとめ	授業全体の復習を行うとともに、私たちにとって食農共生を進めていくための課題と方向性について考える。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前(2時間)・事後(2時間)に学習する。

関連科目
食農ビジネス学概論、食と農の倫理、協同組合論など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食と農を学ぶ人のために	祖田修/杉村和彦編	世界思想社
2	地域産業の発展と主体形成-食と農、資源を活かす-	北川 太一	放送大学教育振興会	

	3		
評価方法 (基準)	次の①②の方法により評価し、60%以上で合格とする。 ①各回のリアクションペーパー、期間中に出题するレポート課題、担当教員やゲストへの質問など授業への積極的な姿勢 (50%程度) ②定期試験 (50%程度)		
学生への メッセージ	日々の食卓から農業の生産現場に、枚方キャンパスから自然豊かな農山漁村に思いを馳せることの大切さを実感しましょう！		
担当者の 研究室等 備考	農学部 3 階 318 研究室		

科目名	循環型農業論	科目名 (英文)	Issues in Sustainable Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修B(食農ビジネス学科)
学期	前期	授業担当者	谷口 葉子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2037a0		

授業概要・目的	農業やその川下のフードシステムにおける持続可能性の追求が国内外で重要性・緊急性を増してきている。本講義では、農業がもたらしてきた様々な環境問題を学ぶと共に、環境問題の解消や緩和のための循環型農業の取り組みについて、その効果、技術、関連政策の学修を通して深く理解することを目的とする。また、循環型農業に取り組む経営の学修を通して、環境に配慮した農業生産の技術の実際や施策の活用実態について理解を深める。
到達目標	① 食料生産が社会にもたらす環境問題について理解する。 ② 循環型農業の方法論とその環境保全効果を理解する。 ③ 循環型農業に関連する様々な概念や取り組み事例を知る。
授業方法と留意点	パワーポイントと板書を用いた講義を行う。適宜、グループ・ディスカッションを実施する。講義の開始前に予習用のプリント等を配布する。また、配布プリントの事前学習を行うこと。
科目学習の効果(資格)	企業のCSR活動やCSVの展開、SDGs達成のための諸活動、社会的起業を検討する際に役立つ知見が得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	近代農法の環境負荷	近代農法がもたらしてきた環境問題を俯瞰し、循環型農業の発展の経緯を学ぶ。	
2	食料生産における地球温暖化の影響	地球温暖化の現状と食料生産に与える影響について学ぶ。	事前:配布プリント等による予習を行っておくこと(3時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)
3	食料生産における地球温暖化の緩和と適応策	食料生産の現場において取り組まれている地球温暖化を抑制する技術や生産方法について学ぶ。	事前:配布プリント等による予習を行っておくこと(3時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)
4	食料生産におけるエネルギー使用	食料生産におけるエネルギー使用の現状について学ぶ。	事前:配布プリント等による予習を行っておくこと(3時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)
5	食料生産におけるエネルギー使用の抑制策	食料生産におけるエネルギー使用を抑制する技術や取り組み事例について学ぶ。	事前:配布プリント等による予習を行っておくこと(3時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)
6	食料生産が生物多様性に与える影響	生物多様性の現状と食料生産が生物多様性に与える影響について学ぶ。	事前:配布プリント等による予習を行っておくこと(3時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)
7	食料生産における生物多様性喪失の抑制策	生物多様性の保全を目指した取り組みやその効果について学ぶ。	事前:配布プリント等による予習を行っておくこと(3時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)
8	里山と農業	里山と農業	事前:配布プリント等による予習を行っておくこと(3時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)
9	食品廃棄物と食品ロス	食品廃棄物の現状について学ぶ。	事前:配布プリント等による予習を行っておくこと(3時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)
10	食品廃棄物の再資源化の取り組み	農業・食品産業由来の廃棄物の再資源化の取り組みについて学ぶ。	事前:配布プリント等による予習を行っておくこと(3時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)
11	循環型農業の推進政策	循環型農業を推進するための環境直接支払い等の政策について、国内とEUにおける展開状況を学ぶ。	事前:配布プリント等による予習を行っておくこと(3時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)
12	持続可能性に配慮した食農ビジネス:サーキュラーエコノミー	サーキュラーエコノミーの考え方と食農ビジネスにおける事例を学ぶ。	事前:配布プリント等による予習を行っておくこと(3時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)
13	持続可能性に配慮した食農ビジネス:農産物のマーケティング	循環型農業によりつくられた農産物のマーケティング事例を学ぶ。	事前:配布プリント等による予習を行っておくこと(3時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)
14	持続可能性に配慮した食農ビジネス:加工食品のマーケティング	持続可能性に配慮してつくられた加工食品のマーケティング事例を学ぶ。	事前:配布プリント等による予習を行っておくこと(3時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)
15	ビジネスプランの発表	持続可能性に配慮した食農ビジネスのプランについて取りまとめグループ内で発表する。	事前:発表準備を行うこと(10時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)

関連科目 食と農の倫理、アグロ・エコロジー、有機農業論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	有機農業の技術と考え方	中島紀一、金子美登、西村和雄	コモンズ
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題等の提出物（ルーブリック評価・60%）およびプレゼンテーション（40%）で評価し、60点以上で合格とする。			
学生への メッセージ	食料生産における持続可能性を取り巻く様々なトピックスについて学ぶ授業です。SDGs や循環型経済（サーキュラーエコノミー）に関心のある皆さんへお勧めしたい科目です。			
担当者の 研究室等	8号館 3階 教員室316 持続型フードシステム研究室			
備考	成績評価では毎回の授業の予習とディスカッションへの取り組み姿勢を重視します。			

科目名	食農教育論	科目名 (英文)	Dietary and Agricultural Education
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修B(食農ビジネス学科)
学期	前期	授業担当者	中塚 華奈
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2038a0		

授業概要・目的	食農教育とは、「食」が有する多様な役割の大切さを伝える「食育」に、「食」を育む根本である農林水産業に関する知識や体験を含めた総合教育のことである。2005年に施行された食育基本法では、国民の「食」に関する考え方を育み、健全な食生活の実現を目標とし、都市と農山漁村の共生・対流をすすめ、「食」に関する消費者と生産者との信頼関係を構築して、地域社会の活性化、豊かな食文化の継承及び発展、環境と調和のとれた食料の生産及び消費の推進並びに食料自給率の向上に寄与することが期待されている。本講義では、食農教育とは何かを理解し、自らで食農教育プログラムを企画する知識と経験を修得する。
到達目標	① 食農教育とは何かを理解する。 ② 食農教育で伝える内容を理解する。 ③ 自ら食農教育のプログラムを企画し、実行することができる。
授業方法と留意点	パワーポイント、板書によって行い、適宜、資料やプリントはTEAMSのファイルにアップする。基礎知識を学んだあと、食農教育プログラムの企画立案、準備、資料作成をグループワークを通して行い、相互に発表をする。
科目学習の効果(資格)	自治体やNPOなどにおいて、地域農家と食農教育プログラムを企画する機会があれば、知識と企画力を活かすことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	食農教育とは	食育と食農教育の違いを理解し、食農教育とは何かを理解する。	事前： シラバスの熟読(1時間) 都市農業に関する情報収集(2時間) 事後： FORMSの課題への取組(1時間)
2	食べものとは何か	「食べものとは何か」という問いに対して、事前に考えてきた回答を相互に共有し、さまざまな視点から「食べもの」を定義づける	事前： 事前課題への取組(1時間) 食農教育に関する情報収集(2時間) 事後： FORMSの課題への取組(1時間)
3	食べものを食べる条件とは	「食べものを食べる条件とは何か」という問いに対して、事前に考えてきた回答を相互に共有し、自然的条件・社会的条件などを認識する	事前： 事前課題への取組(1時間) 食農教育に関する情報収集(2時間) 事後： FORMSの課題への取組(1時間)
4	食農教育と食文化	食農教育において、食文化の観点から何を食すべきか、どのような食文化があるかということなどをどのように伝えるべきかを理解する。	事前： 事前課題への取組(1時間) 食農教育に関する情報収集(2時間) 事後： FORMSの課題への取組(1時間)
5	食農教育と身体づくり	食農教育において、食べものと身体づくりの関わりをどのように伝えるべきかを理解する。	事前： 事前課題への取組(1時間) 食農教育に関する情報収集(2時間) 事後： FORMSの課題への取組(1時間)
6	食農教育と土壌学	食農教育において、土壌とは何か、土づくりと食べものの関わりをどのように伝えるべきかを理解する。	事前： 事前課題への取組(1時間) 食農教育に関する情報収集(2時間) 事後： FORMSの課題への取組(1時間)
7	食農教育と生物学	食農教育において、植物と動物の共生、生物多様性と食べものとの関わりをどのように伝えるべきかを理解する。	事前： 事前課題への取組(1時間) 食農教育に関する情報収集(2時間) 事後： FORMSの課題への取組(1時間)
8	食農教育と環境学	食農教育において、環境と農業と食べものとの関わりをどのように伝えるべきかを理解する。	事前： 事前課題への取組(1時間) 食農教育に関する情報収集(2時間) 事後： FORMSの課題への取組(1時間)
9	食農教育プレゼン企画立案	興味のあるテーマごとにグループに分かれて、食農教育プログラムの企画立案を行う。	事前： 企画立案のための考察(1時間) 事後： プレゼンに関する情報収集(3時間)
10	食農教育プレゼン企画準備1回目	食農教育プログラムのプレゼンテーション資料作成のグループワークを行う。	事前： プレゼンに関する情報収集(2時間) 事後： プレゼンデータ作成(2時間)
11	食農教育プレゼン企画準備2回目	食農教育プログラムのプレゼンテーション資料作成のグループワークを行う。	事前： プレゼンに関する情報収集(2時間) 事後： プレゼンデータ作成(2時間)
12	食農教育プレゼン発表①	グループごとに食農教育プレゼンテーションを実施する。データはTEAMSにアップし、相互に視聴できるようにする。	事前：プレゼンデータ作成(2時間) 事後：データ閲覧と振り返り・食農教育に関する情報収集(2時間)
13	食農教育プレゼン発表②	グループごとに食農教育プレゼンテーションを実施する。データはTEAMSにアップし、相互に視聴できるようにする。	事前：プレゼンデータ作成(2時間) 事後：データ閲覧と振り返り・食農教育に関する情報収集(2時間)
14	食農教育プレゼン発表③	グループごとに食農教育プレゼンテー	事前：プレゼンデータ作成(2時間)

			ションを実施する。データは TEAMS にアップし、相互に視聴できるようにする。	事後：データ閲覧と振り返り・食農教育に関する情報収集（2時間）
	15	振り返りと総合討議	全体の発表を振り返り、相互評価を行い、食農教育に関する討論を行う。	事前：プレゼンデータ作成（2時間） 事後：データ閲覧と振り返り・食農教育に関する情報収集（2時間）
関連科目	食農ビジネス学概論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特に指定しない		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	たべもの・食育絵本 野菜の教え	藤原 勝子	群羊社
	2	NHK ためしてガッテン	NHK 科学番組部	汐文社
	3			
評価方法 (基準)	FORMS による提出物 40%、最終プレゼン 60%。60%以上を合格とする。			
学生への メッセージ	命を育む食は、単なるエネルギー源としてや身体づくりのための原材料としてだけではなく、地球環境や地域経済とも深い関わりがあります。オリジナルな食農教育プログラムを企画立案できるようになりましょう。			
担当者の 研究室等	8 号館 317 号室			
備考				

科目名	協同組合論	科目名 (英文)	Co-operatives
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北川 太一
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE2039a0		

授業概要・目的	農協や生協、漁協や森林組合は、民間の企業（株式会社）とは異なる「協同組合」だが、ではいったい協同組合とはどのようなものであるのか。本講義では、食料・農業・フードシステム等の問題と深い関わりがある農協（農業協同組合：JA）と生協（生活協同組合：コープ）を中心に、協同組合の存在・役割が、日本の農業・食料や農山村をはじめとする地域の経済・社会、さらには私たちのくらしの問題と密接に関わっていることを理解する。
到達目標	① 協同組合が掲げる理念・原則を理解し、株式会社との違いを組織、事業、経営の面から理解する。 ② 日本の農協（特に総合農協）を生協の特徴と実態を理解する。 ③ ①②を踏まえて、協同組合が社会的に果たしている役割、今後の課題や改善方法について考えることができるようになる。

授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業形式：講義中心で、プリント（講義レジュメ、資料など）を配布して進める。 ・実態をリアルに把握できるように、DVDなど映像教材を適宜活用する。 ・現場の声を聴くために、ゲストスピーカーを呼ぶことがある。 ・質問等がある場合、授業時間内に質疑の時間をとることは難しいため、授業後やオフィスアワーを積極的に利用すること。
----------	---

科目学習の効果（資格）	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	協同組合に関する基礎的理解①（種類、法律、世界的状況）	協同組合の種類、法制度、世界的にみた協同組合の現状について理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。
2	協同組合に関する基礎的理解②（基本特性、運営原則）	株式会社と比較した場合の協同組合の基本特性、協同組合原則について理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。
3	協同組合に関する基礎的理解③（歴史）	イギリス、ドイツを中心とした協同組合の歴史の変遷を理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。
4	農協の組織①（「日本型総合農協」の成立）	「日本型総合農協」と呼ばれるわが国農協の特質について理解し、産業組合以来の成り立ちを知る。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。
5	農協の組織②（組合員制度、組織活動）	農協の組合員制度（正組合員、准組合員の存在など）、女性組織や青年組織、生産部会の活動状況を理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。
6	農協の事業①（指導事業）	農協事業の基盤をなす、営農指導事業と生活指導事業のしくみと現状について理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。
7	農協の事業②（経済事業）	農協の農畜産物販売事業および生産資材を中心とした購買事業のしくみと現状を理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。
8	農協の事業③（信用・共済事業）	農協の信用事業と共済事業の成り立ち、しくみ、現状を理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。
9	生協の組織	生協の種類、日本の生協の特質を理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。
10	生協の事業①	生協の購買事業（店舗事業、無店舗事業）について理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。
11	生協の事業②	生協の産直事業（理念、歴史、現状）について理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。
12	漁協、森林組合の組織と事業	漁協および森林組合の組織と事業の特質を知り、海の安全や環境を守る取り組みなど、公共的役割についても理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。
13	協同組合間協同	農協、漁協（漁業協同組合）、森林組合や生協との連携と現状について理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。
14	賀川豊彦と協同組合	「協同組合の父」と呼ばれる賀川豊彦の思想と実践を理解し、現代的な意味づけについて考える。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。
15	まとめ	授業全体の復習を行うとともに、協同組合が果たすべき社会的役割について考える。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。

関連科目	食農共生論、非営利協同論
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新 協同組合とは 四訂版 そのあゆみとしくみ	日本協同組合連携機構編	日本協同組合連携機構
	2	1時間でよくわかる SDGsと協同組合	日本協同組合連携機構	家の光協会
	3			

評価方法（基準）	次の①②の方法により評価し、60%以上で合格とする。 ①各回のリアクションペーパー、期間中に出席するレポート課題、担当教員やゲストへの質問など授業への積極的な姿勢（50%程度）
----------	---

	②定期試験もしくは期末レポート (50%程度)
学生へのメッセージ	食と農を結ぶ食農共生を実現していく上で、協同組合は重要な存在であり、行政や一般企業にはない特徴や役割を持っています。この講義を通じて、身近な存在として協同組合を意識するようになってもらえると嬉しいです。
担当者の研究室等	8号館・教員室 318
備考	

科目名	都市農業論	科目名 (英文)	Urban Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中塚 華奈
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE2040a0		

授業概要・目的	都市農業とは、市街化区域内農地とその周辺で営まれる農業のことである。市街化区域内農地は、国内の全農地の約2%しかないが、都市農家の戸数や販売金額は全国の約10%を占めており、食料生産をはじめ、環境保全、景観形成、文化の継承、食農教育、防災空間、福祉との連携などにおいて様々な機能を有している。都市政策における都市農地の位置づけや税制措置は、高度経済成長期の「宅地化すべきもの」から、都市農業振興基本法が施行された近年では「都市にあるべきもの」へと目まぐるしく変化してきた。本講義では、都市農業の成立経緯や都市農業が有する多面的機能、都市農業の実践事例について大阪府の農業を中心に学び、ディベートやワークショップを通して、都市農業に対する自らの知見を深める。
到達目標	① 都市および都市農業の定義や意義を理解する。 ② 都市政策および農業政策における都市農業の位置づけの変遷を理解する。 ③ 都市農業に対して自分の見解を述べるができる。
授業方法と留意点	指定した教科書を用いるほか、パワーポイント、板書によって行う 課外活動で近隣の都市農家のところへ視察や農業体験に行くことを推奨する。
科目学習の効果 (資格)	歴史と現状を学び、自らの見解を示す知識と経験を、将来、地域政策の現場で活かすことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	都市農業に関するプロローグ	都市や都市農業がどのように成立してきたのか、都市農業とは何かについて考える本講義の概要を把握する	事前： シラバスの熟読 (1時間) 都市農業に関する情報収集 (2時間)	事後： FORMSの課題への取組 (1時間)
2	大阪とは？都市と農業の関係は？ 序章 都市農業ってなんだろう	さまざまな立場にたつて、都市農業の意義と今後の想いに対するディベートを行った後、都市と農業の関係について理解する	事前： 教科書の該当ページの予習 (1時間) 都市農業に関する情報収集 (2時間)	事後： FORMSの課題への取組 (1時間)
3	第1章 都市近郊農業から都市農業へ	都市近郊農業と都市農業の違い、わが国の都市農業の特質を学ぶ	事前： 教科書の該当ページの予習 (1時間) 都市農業に関する情報収集 (2時間)	事後： FORMSの課題への取組 (1時間)
4	第2章 宅地並み課税攻防の時代	都市政策、農業政策、税制によって都市からの排除を強いられた都市農業の歴史を学ぶ	事前： 教科書の該当ページの予習 (1時間) 都市農業に関する情報収集 (2時間)	事後： FORMSの課題への取組 (1時間)
5	第3章 生産緑地を基盤に都市農業を守り抜いた時代	生産緑地法の改正と生産緑地指定の経緯について学ぶ	事前： 教科書の該当ページの予習 (1時間) 都市農業に関する情報収集 (2時間)	事後： FORMSの課題への取組 (1時間)
6	第4章 都市農業振興の時代	2015年の都市農業振興基本法成立までの経緯と基本法、基本計画について学ぶ	事前： 教科書の該当ページの予習 (1時間) 都市農業に関する情報収集 (2時間)	事後： FORMSの課題への取組 (1時間)
7	第5・6章 2022年問題と都市農業の現代的意義	生産緑地の2022年問題とその結末、都市農業の現代的意義について学ぶ	事前： 教科書の該当ページの予習 (1時間) 都市農業に関する情報収集 (2時間)	事後： FORMSの課題への取組 (1時間)
8	第7章 都市農業の実践	都市農業に携わる外部講師招聘による講義を行う	事前： 教科書の該当ページの予習 (1時間) 都市農業に関する情報収集 (2時間)	事後： FORMSの課題への取組 (1時間)
9	第8章 世界に広がる都市農業	海外の都市農業の実態について学ぶ	事前： 教科書の該当ページの予習 (1時間) 都市農業に関する情報収集 (2時間)	事後： FORMSの課題への取組 (1時間)
10	第9章 コモンとCSAが築く絆と場所	社会的共通資本・コモンとしての都市農業について学ぶ	事前： 教科書の該当ページの予習 (1時間) 都市農業に関する情報収集 (2時間)	事後： FORMSの課題への取組 (1時間)
11	第10章 市民のいのち・くらしと食料	食料を取り巻く課題をとらえて、都市住民の食料選択について学ぶ	事前： 教科書の該当ページの予習 (1時間) 都市農業に関する情報収集 (2時間)	事後： FORMSの課題への取組 (1時間)
12	第11章 都市農地の保全と活用	現行の都市の内制度下における基本方針と今後の課題について考える	事前： 教科書の該当ページの予習 (1時間) 都市農業に関する情報収集 (2時間)	

				事後： FORMS の課題への取組（1 時間）
	13	第 12 章 多様な担い手を育て魅力を伝える	都市農業における担い手の確保と育成について考える	事前： 教科書の該当ページの予習（1 時間） 都市農業に関する情報収集（2 時間） 事後： FORMS の課題への取組（1 時間）
	14	第 13 章 都市農地と防災機能	都市農業が地域に及ぼす防災機能の意義と課題について考える	事前： 教科書の該当ページの予習（1 時間） 都市農業に関する情報収集（2 時間） 事後： FORMS の課題への取組（1 時間）
	15	第 14 章 農的くらしがまちの未来をつくる	都市農業に関する講義の総まとめを行う	事前： 教科書の該当ページの予習（1 時間） 都市農業に関する情報収集（2 時間） 事後： FORMS の課題への取組（1 時間）
関連科目	食農ビジネス学概論（中塚担当回）			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	都市農業新時代	中塚華奈・榊田みどり・橋本卓爾	実生社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	FORMS による回答 45% 定期試験 55% で評価し、60% 以上を合格とする。			
学生への メッセージ	都市部における農業について、過去の歴史と現状を学び、今後の展望について自らの見解を示せるようになりましょう。			
担当者の 研究室等	8 号館 317 号室			
備考				

科目名	非営利協同論	科目名 (英文)	Non-Profit Organizations
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北川 太一
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE3041a0		

授業概要・目的
近年、協同組合やNPOなど、非営利協同組織に対する関心が高まっており、実際に農村を中心とした地域づくり、農業や食に関わる分野も含めた地域経済に関わる事業を行う非営利協同組織や非営利協同組織どうしの連携（非営利協同組織間協同）の取組みが各地で展開しつつあります。本講義では、こうした非営利協同組織の問題を取り上げて、その活動が日本の農業・食料や農山村をはじめとする地域の経済・社会、さらには私たちの暮らしの問題と密接に関わっていることを理解していきます。

到達目標
① 非営利協同の考え方、関連する法制度を理解し、事業や活動の特徴を知る。
② 非営利協同組織の一つである協同組合（本講義では、生協、労働金庫、中小企業組合、労働者協同組合等を取り上げる）とNPOについて、その特徴と実態を理解する。
③ 農業や食の分野も含めた地域経済に関わる非営利協同組織間協同の取組みについて知り、非営利協同組織の連携が農業・農村振興や食の問題の解決するうえでどのような可能性があるのかを考える。

授業方法と留意点
・授業形式：講義中心で、プリント（講義レジュメ、資料など）を配布して進めます。
・実態をリアルに把握できるように、DVDなど映像教材を活用します。
・現場の声を聴くために、ゲストスピーカーを呼ぶとともに実際に現地に出かけることがあります。
・質問等がある場合は、授業時間内に質疑の時間をとることは難しいので、授業後やオフィスアワーを積極的に利用してください。
※「協同組合論」（2年後期配当）を履修していることを前提として講義を進めます。

科目学習の効果（資格）

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	非営利協同に関する基礎的理解①（種類、世界的状況）	非営利協同組織の種類、世界的にみた現状について理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。
2	非営利協同に関する基礎的理解②（基本特性、法制度）	株式会社と比較した場合の非営利協同組織の基本特性、その法制度について理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。
3	労働者協同組合①	労働者協同組合に関して、法制定の経緯、組織・事業の特徴について理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。
4	労働者協同組合②	労働者協同組合の実践を知り、協同労働、働くということについて考える。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。
5	生協（地域貢献事業）	買い物支援や子ども食堂など、生協の地域貢献事業の役割について理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。
6	労働金庫	労働金庫の展開過程、組織・事業の特徴を知り、地域貢献事業の実践について理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。
7	NPOの組織・運営原則	NPO組織の特質、運営原則について、株式会社や協同組合との比較しながら理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。
8	NPOの事業・マネジメント	NPOが行っている事業、特に食と農に関わるものおよび地域づくりに関わる事業の役割と現状を理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。
9	中間まとめ	これまでの授業をふり返り、協同組合、非営利協同セクターの課題や可能性について考える。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。
10	漁業協同組合	漁協の組織・事業の特徴、海の安全を守り地域と連携する公共的な事業について理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（21時間）・事後（2時間）に学習する。
11	森林組合	森林組合の組織・事業の特徴、森林環境を守り地域と連携する公共的な事業について理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。
12	信用金庫、信用組合	信用金庫や信用組合など、協同組織金融のしくみや事業の特徴を知り、地域と連携した事業の実践について理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。
13	中小企業に関わる協同組合	事業協同組合や企業組合など中小企業・地域経済に関わる協同組合の組織や事業の特徴と実践を理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。
14	非営利協同組織間の連携と農山村再生	協同組合やNPO、地域の関連団体等による、農山村再生をめざした非営利協同組織間の連携の現状について理解する。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。
15	まとめ	これまでの復習を行うとともに、非営利協同組織が果たす社会的役割について考える。	講義レジュメに記載した内容を、担当教員の指示に従って、事前（2時間）・事後（2時間）に学習する。

関連科目 食農共生論、協同組合論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	これからの協同組合間連携	石田正昭編著	家の光協会
2	協同ではたらくガイドブック（実践編）	協同総合研究所	協同総合研究所	
3				

評価方法 (基準)	次の①②の方法により評価し、60%以上で合格とする。 ①各回の予習確認小テストと授業後のリアクションペーパー、期間中に出題するレポート課題、担当教員やゲストへの質問など授業への積極的な姿勢 (50%程度) ②期末レポート (50%程度)
学生への メッセージ	私たちの身の回りには多くの非営利組織が存在し、それらが連携することによって食や農の問題を解決しようとしている姿を実感してほしい願っています。
担当者の 研究室等	8号館・教員室 318
備考	

科目名	有機農業論	科目名 (英文)	Organic Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷口 葉子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE3042a0		

授業概要・目的	本講義は、有機農業の起源や思想の系譜、有機農産物の品質や環境安全性、有機農業の流通や政策の現状といった、有機農業を取り巻く基礎的な事項について体系的な理解を得ることを目的とする。また、講義中のディスカッションを通して、答えのない問いに対する自らの考え方を整理し、論理的に説明する力を養う。
到達目標	① 有機農業にかかわる思想、歴史、品質、流通、政策に関するリテラシーを身につける。 ② 経済学的な見地より有機農業や有機農産物の生産や流通上の特性を理解する。 ③ 有機農業をめぐる科学的不確実性に関する自らの考え方を論理的に説明できる。
授業方法と留意点	パワーポイントと板書を用いた講義を行う。適宜、グループ・ディスカッションを実施する。予習用のプリント等を用いて事前学習を行うこと。
科目学習の効果 (資格)	有機食品の生産・製造や流通の業務、有機認証等の業務に従事する際に役立つ知見となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	有機食品市場の現状と動向	有機農業の定義と生産・消費の現状を知る。	事前: 配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後: 授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
2	有機農業の起源と思想 (1) 有機農業の起源と経緯	有機農業の先駆者が提唱した思想や実践について学ぶ。	事前: 配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後: 授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
3	有機農業の起源と思想 (2) 発展期	有機農業の制度化・産業化の経緯について学ぶ。	事前: 配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後: 授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
4	有機農業の起源と思想 (3) 新たな潮流	有機農業を取り巻く新たな概念や思想について学ぶ。	事前: 配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後: 授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
5	有機農業の起源と思想 (4) 様々な思想と実践	有機農業と類似する農業の思想と実践について学ぶ。	事前: 配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後: 授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
6	有機農産物の優位性 (1) 安全性	有機農産物の安全性をめぐる議論とその背景にある考え方や科学的根拠を知る。	事前: 配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後: 授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
7	有機農産物の優位性 (2) 栄養・機能性	有機農産物の栄養・機能性や美味しさをめぐる議論とその背景にある考え方や科学的根拠を知る。	事前: 配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後: 授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
8	有機農産物の優位性 (3) 環境安全性	有機農業の環境安全性めぐる議論とその背景にある考え方や科学的根拠を知る。	事前: 配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後: 授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
9	有機農業の経済学 (1) 市場の失敗	経済学における「市場の失敗」と有機農業とのかかわりを学ぶ。	事前: 配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後: 授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
10	有機農業の経済学 (2) 情報と信頼	経済学における情報の不完全性と有機農業とのかかわりを学ぶ。	事前: 配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後: 授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
11	有機食品流通の特徴と動向 (1) 構造と契約	有機農産物に特徴的に見られる流通方法の仕組みや契約上の特徴について学ぶ。	事前: 配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後: 授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
12	有機食品流通の特徴と動向 (2) 市場の実態	市場データに見られる有機食品の消費の実態について学ぶ。	事前: 配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後: 授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
13	有機食品流通の特徴と動向 (3) 海外の動向	海外に見られる新たなビジネスや取り組み事例について学ぶ。	事前: 配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後: 授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
14	有機農業の政策論: 推進政策	欧米や日本における有機農業推進政策を知る。	事前: 配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後: 授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
15	有機農業の政策論: 認証制度	欧米や日本における第三者認証や参加型認証をめぐる議論を知る。	事前: 配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後: 授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)

関連科目	食と農の倫理、アグロ・エコロジー、循環型農業論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	有機農業の技術と考え方	中島紀一、金子美登、西村和雄	コモンズ
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題等の提出物（ルーブリック評価・50%）と期末試験（50%）で評価し、60点以上で合格とする。			
学生への メッセージ	有機農業の思想や流通について体系的な理解を得たい方におススメする授業です。			
担当者の 研究室等	8号館 3階 教員室 316 持続型フードシステム研究室			
備考	成績評価では毎回の授業の予習とディスカッションへの取り組み姿勢を重視します。			

科目名	農村コミュニティビジネス論	科目名 (英文)	Rural Community Business
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修A(食農ビジネス学科)
学期	後期	授業担当者	北川 太一・谷口 葉子・中塚 華奈
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE3043a0		

授業概要・目的
食農ビジネス学科の選択必修科目Aの一つであり、食農共生・循環型農業系（食農共生研究室・環境農学研究室、食農教育研究室、持続型フードシステム研究室）で学ぶ学生を対象として開講する。食農共生・循環型農業系で食と農の共生のあり方やしくみの構築について実践的に学修し、卒業研究を行うためには、農村コミュニティビジネスの実践事例から学ぶことが不可欠である。本講義では、農村コミュニティビジネスの基本的な考え方に対する理解を深めるとともに、代表的な実践事例を取り上げ、その実践の背景、目的、取り組みの過程と内容を調べ、その成果と意義について考察を行う。
*本講義は、北川のほか、中塚華奈、谷口葉子の3名で行う。

到達目標
①農村コミュニティビジネスの実践に関する代表的な考え方を理解することができる。
②農村コミュニティビジネスの先進的な実践事例の背景、目的、取り組みの経過と内容を把握することができる。
③農村コミュニティビジネスの先進的な実践事例の調べ方、分析・考察の仕方を身につけることができる。

授業方法と留意点
①受講者全員を対象に、農村コミュニティビジネスの先進事例に関する文献・資料等の読解を行う。
②個人またはグループで担当する事例を決め、事例の実践の背景、目的、取り組みを調べるとともに、成果と意義の考察を行う。
③取り上げた実践事例について、全体で発表を行い、レポートを作成する。
※ゲストスピーカーの招へい、ならびに学外に出かけてのフィールドワークを行うことがある。フィールドワークの実施日時は、追って連絡する。

科目学習の効果（資格）
食農共生・循環型農業系の各研究室で卒業研究に取り組む際に役立つ情報や研究方法等を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、コミュニティビジネスに関する基礎的理解①	授業の進め方についてのガイダンス、C.Bの定義、歴史と背景、農・食の問題とのかかわりなど	事前：シラバスの確認、講義資料の予習（2時間） 事後：小レポート、リアクションペーパーの作成（2時間）
2	コミュニティビジネスに関する基礎的理解②	農村地域政策とC.B：地方創生政策のなかでのC.B、農村RMOなど	事前：講義資料の予習（2時間） 事後：小レポート、リアクションペーパーの作成（2時間）
3	コミュニティビジネスに関する基礎的理解③	C.Bと協同組合および協同組合間連携に関する取り組み事例	事前：講義資料の予習（2時間） 事後：小レポート、リアクションペーパーの作成（2時間）
4	コミュニティビジネスに関する基礎的理解④	C.Bと社会的連帯経済に関する考え方、取り組み事例	事前：講義資料の予習（2時間） 事後：小レポート、リアクションペーパーの作成（2時間）
5	これまでのふり返りとディスカッション	これまでの内容をふり返ったうえで、C.Bの方向性に関するディスカッションを行う	事前：これまでの講義のふり返りと各自の意見のとりまとめ（2時間） 事後：小レポート、リアクションペーパーの作成（2時間）
6	ケーススタディによる検討と企画提案①	NPOとC.B：NPO法人の概要とC.Bの実践に関する講義とディスカッション	事前：講義資料の予習（2時間） 事後：小レポート、リアクションペーパーの作成（2時間）
7	ケーススタディによる検討と企画提案②	まちづくりとC.B：兵庫県・大阪府における事例に関する講義とディスカッション	事前：講義資料の予習（2時間） 事後：小レポート、リアクションペーパーの作成（2時間）
8	ケーススタディによる検討と企画提案③	都市農業とC.B：コミュニティファーム 尼崎善法寺を事例にした講義とディスカッション	事前：講義資料の予習（2時間） 事後：小レポート、リアクションペーパーの作成（2時間）
9	ケーススタディによる検討と企画提案④	モニターツアー案の企画提案の発表	事前：講義資料の予習と発表準備（2時間） 事後：小レポート、リアクションペーパーの作成（2時間）
10	C.Bの実践（ゲストスピーカー）	C.Bを実践している方のお話を聴き、ディスカッションを行う。	事前：関連文献、資料の予習（2時間） 事後：小レポート、リアクションペーパーの作成（2時間）
11	農村資源を生かしたビジネスのマーケティング・プランの作成①	マーケティング・プランに関する概説	事前：講義資料の予習（2時間） 事後：小レポート、リアクションペーパーの作成（2時間）
12	農村資源を生かしたビジネスのマーケティング・プランの作成②	フィールドワークに関する事前学習	事前：対象地域・主体に関する資料の予習（2時間） 事後：小レポート、リアクションペーパーの作成（2時間）
13	農村資源を生かしたビジネスのマーケティング・プランの作成③	フィールドワーク①	事前：対象地域・主体に関する資料の予習（2時間） 事後：小レポート、リアクションペーパーの作成（2時間）
14	農村資源を生かしたビジネスのマーケティング・プランの作成④	フィールドワーク②	事前：対象地域・主体に関する資料の予習（2時間） 事後：小レポート、リアクションペーパーの作成（2時間）
15	発表とディスカッション、講義のまとめ	フィールドワークでの調査結果の発表とディスカッション	事前：これまでのふり返りと発表の準備（2時間） 事後：小レポート、リアクションペーパーの作成（2時間）

関連科目
「食農共生論」「循環型農業論」「食農教育論」など、食農共生・循環型農業論系の専門科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	コミュニティビジネス入門	風見・山口編著	学芸出版社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業に取り組む姿勢 (20%) と発表内容 (40%)、レポート (40%) を総合して評価し、60%以上を合格とする。			
学生への メッセージ	自身の問題関心を掘り下げる姿勢を持って、授業に臨んでください。			
担当者の 研究室等	北川 太一 (8号館教員室 318) 中塚 華奈 (8号館教員室 317) 谷口 葉子 (8号館教員室 316)			
備考	原則として、食農共生系の研究室 (食農共生研究室、環境農学研究室、食農教育研究室、持続型フードシステム研究室) に所属する学生が受講できる。			

科目名	比較農業論	科目名 (英文)	Comparative Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2044a0		

授業概要・目的	さまざまな気候・生態環境、文化・歴史、社会・経済状況を背景に、世界各地には多様な農業が見られる。本授業では、国内外の農耕文化の類型や特徴、系譜と変遷、気候や生態環境および社会・経済状況との関わりを知り、それらを比較し相対化することでそれぞれの農業の成り立ちおよび気候や地域性を越えた共通性について理解する。多角的・多層的・俯瞰的に捉えることを通じて、農業や環境についての知識や理解を豊かにする。
到達目標	① 世界各地の農耕文化の特徴、成り立ち、系譜、気候や生態環境および社会・経済状況との関わりを知る。 ② 地域・地球環境問題や未来社会の課題の本質や農業を通じての解決のあり方を知る。 ③ 農業と資源・生態環境との関わりや今日的な諸問題について、多角的・多層的・俯瞰的な視野で捉えられるようになる。 ④ グループ討論や総合討論を通じて、共同作業による知識の共有や理解の深化を進める経験をする。

授業方法と留意点	パワーポイントを用いた講義を行う。授業中は、幾つかの疑問を織り込み、基本知識の理解度の確認と共有を図る。理解を深めるために、毎回の授業後にリアクションペーパー（授業内容に関する事後学習とその内容のレポート）を課す。授業やリアクションペーパーから幾つかの課題や任意の対象地域を設定し、それぞれについてグループ討論や総合討論を行う。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	世界の農耕文化 (1)	世界各地 (日本を含む) の農耕文化の類型とその系譜を知る。	事前: シラバスの理解 事後: リアクションペーパー
2	世界の農耕文化 (2)	アフリカの農耕文化複合とその成り立ちや特徴を知る。	事後: リアクションペーパー
3	世界の農耕文化 (3)	南アジアの農耕文化複合とその成り立ちや特徴を知る。	事後: リアクションペーパー
4	世界の農耕文化 (4)	中南米の農耕文化複合とその成り立ちや特徴を知る。	事後: リアクションペーパー
5	世界の農耕文化 (5)	中東・地中海地域の農耕文化複合とその成り立ちや特徴を知る。	事後: リアクションペーパー
6	世界の農耕文化 (6)	東アジア・中央アジアの農耕文化複合とその成り立ちや特徴を知る。	事後: リアクションペーパー
7	世界の農耕文化 (7)	東南アジア・オセアニアの農耕文化複合とその成り立ちや特徴を知る。	事後: リアクションペーパー
8	世界の農耕文化 (8)	農耕文化複合の広域的な伝播と接触複合による生業システムの変容について理解する。	事後: リアクションペーパー
9	これからの農業 (1)	滅びた文明の背景と気候変動および農業との関わりを理解し、今日的課題と農業の未来を展望する。	事後: リアクションペーパー
10	これからの農業 (2)	農耕限界地 (乾燥地・半乾燥地) での地域・地球環境問題 (砂漠化、干ばつ) と解決への農業の役割を考える。	事後: リアクションペーパー
11	これからの農業 (3)	脆弱環境 (山間地や斜面地) での地域・地球環境問題 (土壌侵食、森林荒廃) と解決への農業の役割を考える。	事後: リアクションペーパー
12	これからの農業 (4)	未来社会が直面する諸問題 (人口変動、人間活動の拡大および高齢化、気候変動など) への対処のあり方考える。	事後: リアクションペーパー
13	グループ討論	授業やリアクションペーパーから抽出された課題についてのグループ討論および総合討論への準備作業を行う。	事前: 抽出された課題群から割り当てられた課題についての予習 事後: リアクションペーパー
14	総合討論 (1)	幾つかの課題についてのグループ発表と質疑応答および討論を行う。	事前: 総合討論の話題に関する予習 事後: 総合レポートの作成
15	総合討論 (2)	幾つかの課題についてのグループ発表と質疑応答および討論を行う。	事前: 総合討論の話題に関する予習 事後: 総合レポートの作成

関連科目	アグロ・エコロジー論
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	栽培植物と農耕の起源	中尾佐助 (著)	岩波新書
	2	銃・病原菌・鉄 (上、下) 1万3000年にわたる人類史の謎	ジャレド・ダイヤモンド (著)、 倉骨彰 (訳)	草思社文庫
	3	農耕起源の人類史	ピーター・ベルウッド (著)、 田俊樹・佐藤洋一郎 (監訳)	京都大学学術出版会

評価方法 (基準)	授業ごとのリアクションペーパー (授業レポート、70%) と期末レポート (30%) で評価し、60%以上を合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	教員の大切な仕事は学生との雑談だと思っています。授業時間を除く授業日 (午前、午後) をコアタイムとし、授業内容に関する質疑応答や雑談ができるようにします。希望があれば、コアタイム以外の日時でも対応するようにします。
-----------	--

担当者の	枚方キャンパス 8号館 (農学部棟)・環境農学研究室 (213号室)
------	------------------------------------

研究室等	
備考	

科目名	国際農業論	科目名 (英文)	International Agricultural Economics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	吉井 邦恒
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE2045a0		

授業概要・目的	日本は世界有数の農産物輸入国であり、国民への食料供給を確保するためには、貿易交渉等を通じて、国内農業の生産力の維持と農産物輸入の安定化を図ることが重要である。また、世界の農産物貿易では、アメリカ、EU等の先進国が輸出・輸入ともに、主要なプレーヤーとなっており、先進国の農業事情や農業政策は世界の食料需給に大きな影響を与えている。本講義では、世界の食料需給、先進国の農業事情・農業政策、農産物に関する貿易交渉について、経済学的な考え方に基づき、理解し考察する。授業担当者は、中央政府の行政官としての実務経験を有しており、授業ではその経験を踏まえた事例の紹介などを取り入れる。
到達目標	① アメリカ、EU等における農業の特徴・農業政策と農産物貿易交渉の内容を理解する。 ② アメリカ、EU等における農業政策の変遷とその背景にある農業事情等の変化を理解する。 ③ 農産物貿易交渉の変遷とその背景にある農業事情等の変化を理解する。 ④ 行政機関や企業・団体の農業・食料・食品部門の担当者とのコミュニケーションに必要な海外の農業事情に関する基礎知識を身につける。
授業方法と留意点	資料プリントを配布し、スライドと板書を用いて講義形式で行う。配付資料等により、予習・復習を行うこと。 授業において外部講師による講演を聴取する(2回)。 ふりかえりシート(毎回)のほか、小テストやレポートにより、授業の理解度を把握する。 質問等には、授業後やオフィスアワー、電子メールで対応するので、積極的に利用すること。
科目学習の 効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	世界の食料供給や食料安全保障をめぐる状況について、データに基づき理解する。	事前：シラバスの理解 事後：講義資料に記載した内容を学習する。
2	世界の貿易	世界の貿易の動向について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
3	貿易の利益	交換と分業による貿易の利益について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
4	自由貿易と保護貿易	自由貿易と保護貿易に関するトピックスについて、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
5	農産物貿易交渉	農産物貿易交渉と交渉における日本の立場について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
6	アメリカ農業の概要	アメリカの農業構造、農業生産及び農産物貿易について、データに基づき理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
7	アメリカの農業法と経営安定対策	アメリカの農業政策の根幹をなす農業法の変遷について、経営安定対策を中心に理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
8	アメリカの栄養・保全プログラム	アメリカの低所得者等を対象とする栄養プログラムと環境を保全するためのプログラムについて、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
9	外部講師による講演	世界食料需給の現状と将来見通しに関する講演を聴講する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
10	カナダの農業と農業政策	カナダの農業の概要(農業構造、農業生産及び農産物貿易)と農業政策について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
11	EU農業の概要	EUの農業構造、農業生産及び農産物貿易について、データに基づき理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
12	外部講師の講演	世界の食料安全保障に関する講演を聴講する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
13	EUの共通農業政策(その1)	EU加盟国の農業政策の根幹をなす共通農業政策のうち、価格所得政策について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
14	EUの共通農業政策(その2)	EUの共通農業政策のうち、環境対策等の地域振興政策について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
15	先進国の農業政策の展開方向	最近のアメリカ農業法やEUの共通農業政策の検討・推進状況に基づき、先進国の農業政策の今後の方向について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。

関連科目 食料・農業経済学、食料・農業・農村政策論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特に指定しない		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じて紹介する		
2				
3				

評価方法(基準) ①定期試験・期末レポート50%、②小テスト・小レポート・ふりかえりシート50%で評価し、①と②を合計して60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ 農業や食料は気候風土に根ざしており、世界各国は独自の食料・農業の問題を抱えています。日本の農業・食料の問題を考える上で、他国の事情も参考にしましょう。

担当者の 研究室等	食料・農業政策学研究室（農学部2階214）
備考	

科目名	農業開発論	科目名 (英文)	Agricultural Development
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE3046a0		

授業概要・目的	人口増加や偏在（都市集中や過疎化）や人間活動の拡大、気候変動などを背景に、アジアやアフリカあるいは日本国内の地域社会は、貧困、水質や大気の汚染、生態系の劣化、自然災害、在来文化や相互扶助の仕組みの消失など数多くの問題に直面している。農業開発は、それらの諸問題の解決や未来社会の形成に関わる取り組みである。本講義では、農業開発の理論と系譜および世界各地の農業と生態環境との関わりを理解したうえで、農業開発をめぐる学術研究や社会実践の事例から問題解決や未来社会の形成に果たす農業の役割と可能性を考える。
到達目標	① 農業開発をめぐる理論や系譜、手法、課題を知る。 ② 国内外の生業システム（農耕、牧畜、漁労など）の成り立ちや現状、直面する諸問題や取り組むべき課題を知る。 ③ 農業開発に関する学術研究や社会実践の事例を参照し、問題解決に向けた視点や具体的な技術や手法を知る。 ④ グループ討論および総合討論を通じて、共同作業による知識の共有や理解の深化を進める経験をする。
授業方法と留意点	パワーポイントを用いた講義を行う。授業中は、幾つかの疑問を織り込み、基本知識の理解度の確認と共有を図る。理解を深めるために、毎回の授業後にリアクションペーパー（授業内容に関する事後学習とその内容のレポート）を課す。授業やリアクションペーパーから幾つかの課題や任意の対象地域を設定し、それぞれについてグループ討論や総合討論を行う。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	開発の理論と系譜	地域開発の理論や手法を時代背景とともに整理し、「住民参加」とSDGsに結集する国際社会の動向に注目しつつその内容と特徴を理解する。	事前：シラバスの理解 事後：リアクションペーパー
2	農業開発の課題	地域・地球環境問題や未来社会の形成に向けての課題、地域開発に求められる新たな視点（脆弱環境の管理、社会的弱者層の支援、自然・生業・文化の共生など）や社会実践の手法を知る。	事後：リアクションペーパー
3	乾燥地の農業開発	乾燥地の生業（遊牧、牧畜、オアシス農耕）の類型や成り立ち、現状、社会・環境適合性、問題および農業開発の課題を知る。	事後：リアクションペーパー
4	半乾燥地の農業開発	半乾燥地の生業（牧畜、天水農耕、かんがい農業）の類型や成り立ち、現状、社会・環境適合性、問題および農業開発の課題を知る。	事後：リアクションペーパー
5	湿潤地の農業開発	湿潤地の生業（水田耕作、屋敷林、内水面養殖）の類型や成り立ち、現状、社会・環境適合性、問題および農業開発の課題を知る。	事後：リアクションペーパー
6	寒冷地や山間地の農業開発	寒冷地や山間地の生業、プランテーション農業や小規模農業の類型と成り立ち、現状、社会・環境適合性、問題および農業開発の課題を知る。	事後：リアクションペーパー
7	開発と学術研究 (1)	農業技術、環境保全、地域開発に関する常識的な知識や定番技術の代表例を取り上げ、その適用限界や妥当性、検討の余地を考える。	事後：リアクションペーパー
8	開発と学術研究 (2)	西アフリカや東アフリカ、南アジアに見られるさまざまな在来知や経験則から地域開発の技術や方法論を形成するヒントを得る。	事後：リアクションペーパー
9	農業とイノベーション	国内外の地域農業のポテンシャルの発掘と活用、問題解決や地域活性化に向けた技術や取り組みの設計、それらの実践展開への取り組みを知る。	事後：リアクションペーパー
10	農業開発の実践事例 (1)	半乾燥地（西アフリカサヘル地域）における砂漠化や干ばつへの対処の事例から貧困削減や暮らしの安全保障、生態系保全のあり方を考える。	事後：リアクションペーパー
11	農業開発の実践事例 (2)	山間地や島嶼部（東アフリカ・タンザニア）での香辛料作物を軸とする屋敷林システムを参照しつつ、脆弱環境での暮らしの向上や生態系保全、社会的弱者層の支援のあり方を考える。	事後：リアクションペーパー
12	農業開発の実践事例 (3)	湿潤地（東南アジア・ベトナム）の自然災害常襲地での小規模農民による生業多様化を通じての暮らしの向上や生態系保全および自然災害への対処のあり方を考える。	事後：リアクションペーパー
13	グループ討論	任意の地域を設定し、資源・生態系・社会・経済などの特徴付け、問題構造の特定とその解決や地域活性化へのアイデアを出し合い、グループ内で討論し、総合討論への準備作業を行う。	事前：任意の設定地域についての予習 事後：リアクションペーパー
14	総合討論 (1)	問題解決や地域活性化へのアイデアに関するグループ発表と質疑応答および	事前：総合討論の話題に関する予習 事後：総合レポートの作成

			討論を行う。	
	15	総合討論 (2)	問題解決や地域活性化へのアイデアに関するグループ発表と質疑応答および討論を行う。	事前：総合討論の話題に関する予習 事後：総合レポートの作成
関連科目	アグロ・エコロジー論、比較農業論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	参加型開発と国際協力	ロバート・チェンバース (著)、 野田直人・白鳥清志 (監訳)	明石書店
	2	援助する国される国－アフリカが成長するために－	服部正也 (著)	中央公論新社
	3	地球と存在の哲学－環境倫理を越えて	オギュスタン・ベルク (著)、篠 田勝英 (訳)	ちくま新書
評価方法 (基準)	授業ごとのリアクションペーパー (60%) とプレゼンテーションおよび期末レポート (各 20%) で評価し、60%以上を合格とする。			
学生への メッセージ	(1) 教員の大切な仕事は学生との雑談だと思っています。授業時間を除く授業日 (午前、午後) をコアタイムとし、授業内容に関する質疑応答や雑談ができるようにします。希望があれば、コアタイム以外の日時でも対応するようにします。 (2) 国際協力 (特に青年海外協力隊や NPO/NGO) に関心のある方へのアドバイザーもできます。			
担当者の 研究室等 備考	枚方キャンパス 8 号館 (農学部棟)・環境農学研究室 (213 号室)			

科目名	現代韓国農業論	科目名 (英文)	Modern Korean Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	成 蒼政
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE3047a0		

授業概要・目的	本講義は、食農ビジネス学科において、国際農業系の専門科目として位置づけられた選択科目の一つである。本講義では、主に、韓国農業の生産物、組織、そして政策等に関して、経済学的手法と理論からアプローチを行う。なお、韓国農業を理解するための韓国経済、社会、文化、政治などについても講義を行う。
到達目標	この授業では、①隣国である韓国について理解を深める。 ②韓国経済についての基礎的な知識を養う。 ③韓国農業を経済的なアプローチから理解を深める。 ④韓国農業と日本農業の類似点と相違点を理解する。
授業方法と留意点	講義室での講義を原則とし、プロジェクターを用いたスライド、映像や配付資料等に基づいて講義を進める。また、必要に応じて講義内容に関連したトピックも取り上げて講義を進めていく。受講生はシラバスと担当教員から提示された事前・事後学習を必ず行うこと。とくに注意事項として、レポートの配点が高い (60%) のので、提示されたテーマに対してしっかり調べ、レポートを作成・提出すること。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション (韓国と韓国農業)	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の方法のほか、韓国農業の現状、韓国農業・農村地域活性化などについて講義する。	事前: シラバスの理解と韓国農業の現状などについて調べること。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
2	韓国の社会・生活 (I)	統計資料などを用いて韓国における社会と生活の特徴、社会人口の変化、動向などを講義する。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
3	韓国の社会・生活 (II)	韓国における教育・労働・余暇・住居などの特徴と動向について講義する。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
4	韓国の政治・文化	統計資料などを用いて韓国の政治の歴史と現状を分析する。なお、日本と異なる韓国文化について講義する。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
5	韓国経済の現状	韓国経済の歴史、話題、そして最新の動向などについて講義する。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
6	韓国経済の特徴	漢江の奇跡と呼ばれた韓国経済の発展過程と特徴などについて講義する。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
7	韓国農業の基礎事項 (I)	統計資料などを用いて韓国農業の現状と展開などについて講義する。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
8	韓国農業の基礎事項 (II)	韓国農業の特徴と課題、可能性などについて講義する。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
9	韓国農業における生産物の分析 (I)	韓国農業の稲作、畑作、野菜などについて経済的手法を用いて分析する。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
10	韓国農業における生産物の分析 (II)	韓国農業における畜産物、水産物などについて経済的手法を用いて分析する。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
11	韓国農業における組織の分析 (I)	韓国農業における農業法人の現状と形態、発展課題などについて分析する。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
12	韓国農業における組織の分析 (II)	韓国農業の農協の歴史、現状、問題点、そして展開などについて講義する。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
13	韓国農業における政策の分析 (I)	韓国農業における政策の方向とその評価について講義する。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
14	韓国農業における政策の分析 (II)	韓国農業における農業保護政策と食料供給政策について講義する。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
15	韓国農業における政策の分析 (III) と総まとめ	韓国農業における6次産業化とスマート農業について講義する。そして、総まとめを行う。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、

				しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
関連科目	国際農業論、現代中国農業論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	韓国農業経済論	成善政	学術出版会
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題3回(40%)、レポート2回(60%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	積極的な姿勢で授業に臨み、質疑・応答にも積極的に参加していただきたい。			
担当者の 研究室等	8号館3階教員室314			
備考				

科目名	現代中国農業論	科目名 (英文)	Modern Chinese Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	戴 容泰思
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE3048a0		

授業概要・目的
 国土も人口も大きく、近隣諸国のなかでも多大な影響力を持つ中国では、急速な経済発展によって、食料需給や農村の社会構造が大きく変化し、集約的で多様な農業形態への移行が進行している。本授業では、日本のフードシステムに密接に関わってきた中国の農業の発展動向について学ぶ。食料・農産物の多くを中国に依存している日本の現状を省みると、中国の農業・農村の動向を正確に理解することが大きな意味を持つ。日本と中国は、地理的条件をはじめ、経済発展パターンや経済構造において共通性が強く、農業も家族経営が主で、経営規模は零細という点でよく似通っており、経済発展にともなう農業の比較優位の低下、農業人口の高齢化、食料自給率の低下など、中国農業が直面する問題も日本と相通するものになっている。中国の経済政策体制の基礎知識にふれながら、現代中国の農業・農村における特徴的な変化について分かり易く解説する。

到達目標
 本授業を通して、学生は以下のことができるようになることを期待する。
 (1) 現代中国経済に関する概念的・事実に基づく知識の基礎を要約・記述できる (知識・理解 DP-1)。
 (2) 日本との共通点や相違点などに関連付けながら中国の農業事情について分析できる (知識・理解 DP-2、思考・判断 DP-4)。
 (3) 2点目を踏まえて、食農ビジネス学科で学んできた各論を適切に用いて現代中国の農村・農業の事象について評価できる (思考・判断 DP-3、DP-4)。
 (4) 上記一連の成果を適切な方法で正確にアウトプットできる

授業方法及び留意点
 ○ MS Teams、Forms 等を使用する。Teams コードを用いて事前に授業チームに登録すること。
 ○ 授業中の学習：要点などのメモを取りながらレクチャーに集中すること。積極的に学習活動に参加すること。
 ○ 授業外の学習：
 1) 毎回の学習資料を予習、復習に活用し、課題 (小テストやふりかえりシート等) を完成させること。
 2) 提出物を期限までに提出すること。期限は延長しない。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	【オリエンテーション】 現代中国農業論への招き	なぜ今中国農業論を学ぶのか？中国の農業を概説した上で、本授業のねらい、進め方、皆さんがこの授業で達成すべきゴールおよび成績の評価方法について共有する。	事前：シラバスの理解
2	中国農業と経済の基本背景	中国の農業を知るためにはまず、その経済・社会についてふれる必要がある。日本を含め、なぜ世界では中国理解が難しいのかについて解説する。また、現代中国の転換点である「改革開放」についても言及する。	事後：課題の完成
3	中国はいかにユニークか	中国の地理、人文、経済の概要について解説し、中国の農業・農村を捉える方法について考える。	事後：課題の完成
4	世界はどう中国を見ているか	中国に関する西洋の経済学者によるいくつかの代表的なセオリーをとりあげ、その問題点と課題について考える。	事後：課題の完成
5	食・農・人	中国における自然環境および、食と農と人の関係性について考える。	事後：課題の完成
6	現代中国人の食卓	現代中国人の食生活について、日本人の食生活の変遷に照らし合わせながら、理解を深める。	事後：課題の完成
7	中国の食料品小売市場	中国における生鮮食材を含む食料品の小売流通の再編について解説し、日本との違いについて理解する。	事後：課題の完成
8	中国の有機食品市場	持続的な農業や食品供給として展開される中国の有機食品市場の現状について解説し、その問題点と課題について考える。有機野菜の宅配ビジネスについて取り上げる。	事後：課題の完成
9	変貌する農民国家：中国にとって農業・農村問題とは何か	中国の社会経済に存在する固有の「三農問題」とはなにか、それらの問題は中国の経済・社会構造にどのように結びついているかについて考える。	事後：課題の完成
10	変貌する農民国家：農村・農業経済の変遷過程	現代中国の農村・農業・農民の特徴・特質について学ぶ。	事後：課題の完成
11	変貌する農民国家：食糧問題と農村・農業政策のあり方	中国の食糧問題と農業政策について解説し、中国が直面する農村改革における重要課題について理解する。農民の生計、農村の持続可能性、農業の安定発展に関わる問題について考える。戸籍制度をも取り上げる。	事後：課題の完成
12	WTO 加盟と農業の国際化	農産物貿易の自由化などの国際化動向とそれが農業に与える影響について学び、グローバル化進展のなかにおかれている農業の現状を理解する。	事後：課題の完成
13	スマート農業の展開	新たな技術の応用が農業にもたらすメリットとデメリットについて考える。	事後：課題の完成
14	農業産業化と農民組織の展開	農産物流通の変容をふまえて龍頭企業による垂直統合の展開について解説し、その中における農民専業合作組織の役割などについて考える。中国の酪農と乳	事後：課題の完成

	15	中国農業の未来と日本	業を取り上げる。 これまでの内容を簡単に総括し、日本ないし世界のフードシステムとの関連の視点をも用いて、中国の農業の将来性について考える。	事後：期末レポートの提出																
関連科目	国際農業論（2年次後期） グローバル農業演習（2年次集中） 現代韓国農業論（3年次後期）																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	課題 50%、期末レポート 50%で評価し、60%以上で合格とする。																			
学生への メッセージ	第1回のオリエンテーションでは授業の実際の進め方と評価方法などについて説明しますので、必ず出席してください。																			
担当者の 研究室等	8号館教員室215																			
備考	受講生の学習進捗状況に応じて授業の内容や難易度について調整する場合がある。																			

科目名	園芸の技術	科目名 (英文)	Horticultural Technique
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北村 祐人
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1049a0		

授業概要・目的	我が国の果樹、野菜、花卉などの園芸作物生産は、限られた土地を有効活用し、なおかつ消費者のニーズに合った高品質な商品を生産するため、種々の特殊な技術を用いて行われている。この「園芸の技術」では、実際の園芸作物における生産流通現場で応用されている興味深い「技」に焦点を当てて紹介する。植物生理学的な背景に基づく各技術の概要と、それらの技術を用いることで得られる生産性の向上や市場における付加価値および経済効果について論じる。なお、授業担当者は地方自治体の試験場での実務経験を持ち、生産現場の実情なども交えて講義を行う。
到達目標	①園芸作物の生産現場で用いられている各技術の手法を説明できる。 ②各技術における対象作物、生産・流通上の効果、利用上の留意点などについて概説できる。
授業方法と留意点	授業は主にパワーポイントと配布資料による講義形式で行う。なるべく基礎的な解説は避け、栽培現場での実用例を多く取り上げて紹介する。授業後、理解を深めるためのミニレポートを定期的に提出させ、翌回の授業でその内容について議論する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	野菜・花卉の接ぎ木	野菜・花卉の接ぎ木法と効果 (耐病性、低温伸長性など)	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
2	果樹の接ぎ木	果樹の接ぎ木法と効果 (耐病性、わい性など)	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
3	果樹の整枝せん定	新梢の誘引、捻枝 (ブドウ)、摘心 (ウメ)、樹形改造	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関するミニレポート提出
4	野菜の無核栽培	果菜類 (トマト、スイカなど) における無核化と単為結果	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
5	果樹の無核栽培	果樹 (ブドウなど) における無核化と単為結果	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
6	野菜の花芽分化誘導	温度 (春化) 処理、窒素制限による花芽分化 (イチゴ)	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関するミニレポート提出
7	被覆資材利用	被覆資材による除草、保温、病虫害防除	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
8	植物ホルモン利用	植物成長調整剤 (ホルモン剤) による発芽促進、休眠打破など	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
9	果樹の高糖度栽培	果樹 (カンキツなど) の高糖度化技術	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関するミニレポート提出
10	野菜・花卉の養液栽培	養液栽培によるイチゴ、トマト、花卉類の安定生産	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
11	被覆種子の利用	被覆種子による殺菌、播種の効率化	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
12	鮮度保持	鮮度保持剤、冷蔵、CA 貯蔵による果実、切り花の鮮度保持	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関するミニレポート提出
13	野菜の軟白栽培	アスパラガス、ニラなどの軟白栽培による高付加価値化	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
14	果実の追熟	エチレンによる果実の追熟処理、カキの脱渋	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
15	病害虫の防除・スマート農業機器	主な病害虫とその防除法、ドローン等の利用	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関するミニレポート提出

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	農業技術体系 野菜編・果樹編・花卉編		農文協
2				
3				

評価方法 (基準)	授業後に提出を求める課題およびミニレポート内容 (50%) と期末レポート (50%) により総合的に評価し、60%以上で合格とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	園芸作物の栽培について、知っていると日常生活でも野菜や果物を見る目が少し変わるような知見を紹介したいと思います。ぜひ興味を持った項目は自分でも調べながら受講してください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	8号館2階 園芸科学研究室
------------	---------------

科目名	植物の病気	科目名 (英文)	Plant Disease
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	飯田 祐一郎
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1050a0		

授業概要・目的	<p>ヒトや動物が病気になるように植物も病気にかかる。様々な防除法が開発されているにも関わらず、いまだに約15%の作物は病原菌による被害を受け、毎年約8億人分の食料が損失している。地球上にはこれ以上、農業に適した土地がないとされ、病気や害虫から作物を保護することは人類の生存において欠かすことができない課題である。</p> <p>本講義では、有機栽培、化学合成農薬、薬剤耐性菌、ポストハーベスト問題など、現代社会において一般にも身近な問題について、各学科でこれまでに学修した農作物の持続的・安定的な供給、食品の安全・安心、国際的な食料の流通や消費などの知識をベースに幅広い視点で議論するアクティブラーニング型の講義である。</p>
到達目標	<p>① なぜ生物は病気になるのか、病原菌による感染の仕組みを概説できる。</p> <p>② どのように病気を防ぐのか、病害から植物を保護する方法について概説できる。</p> <p>③ 有機農業、耐性菌などの植物病に関するキーワードを説明できる。</p> <p>④ 農薬とはなにか、安全性や関連するシステムについて説明できる。</p>
授業方法と留意点	<p>反転講義、グループディスカッション、プレゼン、ロールプレイ、ジグソー法などアクティブラーニングを軸とした講義形式で、学生間の相互評価も取り入れる。</p> <p>第2回以降は与えられたテーマについて事前に学習し、グループディスカッションに備える。</p> <p>スマホ、タブレット、PCなどのデバイスは必携。</p> <p>時事問題や学生からの意見など授業計画にはないテーマも積極的に取り入れる。</p>

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	本講義のテーマや進め方、ルール、成績評価について説明	事前：シラバスの理解
2	なぜ病気になる？	ヒトも植物もなぜ病気になるのか？病気に強い品種、弱い品種は何で決まる？ また植物病のパンデミックについて考える。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
3	どうやって抑える？	どうやって植物の病気を防ぐのか？ヒトとは違い植物の治療は難しいことから予防（防除）が重要となる。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
4	どうやって病気になる？	微生物とは何か？ 病原菌はどこにいるのか？ どのように植物に感染するのか？ 微生物の違いや病原菌の感染について学ぶ。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
5	農薬は危険か？	なぜヒトが飲む医薬は安全で、農薬は危険と思われるのか？ 農薬の登録システムや歴史、安全性について議論する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
6	耐性菌とは？	ヒトでも植物でも薬の効かない病原菌が問題となっている。その問題点と対策を議論する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
7	生物農薬	生物農薬とは何か？ また化学農薬と生物農薬のメリットとデメリットについて議論する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
8	有機栽培	有機栽培・特別栽培とは？ 2050年までに農業全体の1/4を有機農業にするという農水省の方針は実現可能か？	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
9	植物の病気と輸出入	食料自給率が40%を切る我が国は、多く農産物や肥料を輸入している。輸出入に関わるポストハーベスト病害、植物検疫、残留農薬基準について議論する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
10	遺伝子組換え・ゲノム編集による病害防除	遺伝子組換えとゲノム編集技術の違い、従来の育種技術と比べたメリットとデメリットについて学修し、議論する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
11	植物疾病と貧困	化学農薬の散布にはコストがかかり、また植物病害の発生は経済的な損失となり貧困に直結する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
12	植物疾病と環境保全	近代農業は化学農薬の合成やビニール製の防除資材など石油産業への依存度が高いことから、地球環境への負荷の少ない植物病害の防除について議論する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
13	総括	これまでの講義内容を総括し、議論する。	事前：中間テストの学習 事後：ミニッツレポートの提出	
14	中間テスト	これまでの講義内容から「植物の病気」に関する中間テストとその解説を実施する。	事前：プレゼンテーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
15	あらためて考える今後の農薬	農薬とはなにか、安全性や関連する法律・検査システムなど、学生自身の意見を基に今後の農薬の在り方について説明・プレゼンする。	事前：プレゼンの準備 事後：授業アンケート、ミニッツレポートの提出	

関連科目	生命倫理
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	植物病理学 第2版	眞山滋志 / 土佐幸雄	文永堂
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各講義での学生間相互評価 (30%)、教員評価 (40%)、中間テスト (20%)、小テスト (10%) から 60%以上で合格とする。定期試験は実施しない。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	農業生産学科 植物病理学研究室 飯田祐一郎			
備考				

科目名	植物の改良	科目名 (英文)	Plant Improvement
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牛島 智一
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1051a0		

授業概要・目的	人は植物を食料として利用するだけでなく、家畜の飼料や観賞用、工業用原料、医薬品用原料などさまざまに利用している。そして、人は品種を作るという概念を持つ前から収穫量が多いものや病気に強いものなど、自然に存在する有用な形質を示す植物を選んできた。しかし、メンデルが遺伝の法則を発見したことにより、体系的に植物を改良することが可能となった。本講義では、改良の対象となる植物の形質について概説するとともに、従来おこなわれている植物改良の手法から、今日、注目を集めている遺伝子工学の技術を利用したゲノム編集までを解説し、植物の改良に必要な基礎的な知識を身につける。
到達目標	① 植物の特性を理解し、改良目的を探す力を身につける。 ② 植物改良の方法について説明できる。
授業方法と留意点	パワーポイント、板書を主に講義を行い、講義内容により、問題を提起し、議論することで理解を深める。また、講義後のミニレポートの提出と定期的な小テストまたは小レポートを課す。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	植物の改良とは	植物と人との関わり、形質、遺伝などについて解説する	事前:シラバスの理解 事後:事後学習課題の提出
2	改良の標的とは	改良の標的になる形質について解説する	事前:事前学習課題の提出 事後:事後学習課題の提出
3	塩基配列と表現型	DNAの塩基配列の違いが形質に反映される過程について解説する	事前:事前学習課題の提出 事後:事後学習課題の提出
4	植物の改良と遺伝	メンデル遺伝や減数分裂について解説する	事前:事前学習課題の提出 事後:事後学習課題の提出
5	自殖性と他殖性	自殖性と他殖性の違いについて、それぞれに代表的な作物を取り上げながら解説する	事前:事前学習課題の提出 事後:事後学習課題の提出
6	細胞質雄性不稔性の利用	細胞質雄性不稔性のメカニズムとその利用について解説する	事前:事前学習課題の提出 事後:事後学習課題の提出
7	遺伝資源の利用	遺伝資源とその利用について解説する 小レポートの提出期限	事前:事前学習課題の提出 事後:事後学習課題の提出
8	新たな遺伝資源の作出	植物の改良を行うための新たな遺伝資源の作出方法について紹介する	事前:事前学習課題の提出 事後:事後学習課題の提出
9	栄養繁殖	栄養繁殖する果樹や花卉などの改良について解説する	事前:事前学習課題の提出 事後:事後学習課題の提出
10	分子マーカーの利用	分子マーカーを利用した選抜方法について解説する	事前:事前学習課題の提出 事後:事後学習課題の提出
11	バイオテクノロジーを利用した改良	遺伝子のクローニングや形質転換、ゲノム編集などの技術について解説する	事前:事前学習課題の提出 事後:事後学習課題の提出
12	有用遺伝子の探索	有用な遺伝子を探すための遺伝子機能解析手法について解説する レポート課題の提出期限	事前:事前学習課題の提出 事後:事後学習課題の提出
13	植物の改良と法律	種苗法やカルタヘナ法について解説する	事前:事前学習課題の提出 事後:事後学習課題の提出
14	必要とされる作物とは	レポート課題の発表と議論を行う	事前:事前学習課題の提出 事後:事後学習課題の提出
15	量的形質の改良	量的形質の解析と改良について解説する	事前:事前学習課題の提出 事後:事後学習課題の提出

関連科目 生物学、ゲノム分子生物学、植物遺伝子工学、ゲノムと生命など。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	エッセンシャル植物育種学	編著 國武久登/執行正義/平野智也 他著者	講談社
2	図解でよくわかる品種・育種のきほん	西尾剛 編	誠文堂新光社	
3	エッセンシャル遺伝学・ゲノム科学	ダニエル・L・ハートル/中村千春・岡田清孝 監訳	化学同人	

評価方法 (基準) 各授業の事前学習課題 (15%)、小テストまたは小レポート (30%)、事後課題 (15%)、レポート (40%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ わからないときは遠慮なく質問してください。

担当者の研究室等 8号館2階 植物遺伝育種学研究室

備考 事前事後学習に要する総時間の目安は30時間

科目名	昆虫とくらし	科目名 (英文)	Insects and Human life
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤井 毅
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1052a0		

授業概要・目的	昆虫の祖先は約4億年前に地球上に現れ、今や地球上の全生物種の70%を超える種数を占めると言われている。この繁栄に成功した理由として、脊椎動物にはないムシが持つ昆虫独特の環境への適応能力が指摘されており、我々ヒトは、ある時はムシと作物を争い、ある時はムシの特性を学び応用することで生活をより豊かなものへと変えていくことに成功した。「昆虫とくらし」では、害虫と益虫というヒトの視点を通じたムシの二面性について紹介し、ムシを通じて生態を中立的に見る目を身につける。
到達目標	① 昆虫の環境への適応戦略が、ヒトに代表される哺乳動物と似ている点と異なる点を理解できる。 ② 身近にいる昆虫の存在を実感し、特にヒトの暮らしと関わり合いの深い、ゴキブリに代表される害虫やカイコに代表される益虫の生活史の実体が分かる。 ③ 害虫や益虫はヒトの価値観に基づく呼称であることを知り、自然の中の生物を中立的な視点で見つめられるようになる。
授業方法と留意点	・パワーポイントによるスライドを用いた講義形式とする。 ・9回目と15回目はグループワーク形式の授業となる。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 神話に出てくるムシ	「昆虫とくらし」の紹介、古今東西神話に現れるムシの紹介と概説	事前：シラバスの理解 事後：今回の講義内容の課題
2	ムシのからだ	ムシと哺乳類の体の大きさや構造の違い～循環器と呼吸器を中心に～	事後：今回の講義内容の課題
3	地球史の中のムシ	ムシの発生と激変する環境への適応～古生代、中生代、新生代のムシ～	事後：今回の講義内容の課題
4	害虫と言われるムシ ゴキブリ	ゴキブリの生態、ヒトはなぜゴキブリをきらうのか？	事後：今回の講義内容の課題
5	害虫と言われるムシ イナゴ	イナゴの生態、イナゴと農作物	事後：今回の講義内容の課題
6	害虫と言われるムシ カ	カの生態、病気を媒介するカとその実例	事後：今回の講義内容の課題
7	害虫と言われるムシ ダニ	ダニの生態、指標生物としてのダニ	事後：今回の講義内容の課題
8	侵入害虫	日本に入ってくる昆虫の実例の紹介と生態系のかく乱	事後：今回の講義内容の課題
9	害虫とどう向き合うか	害虫とは何か？ 害虫を根絶するということ	事後：今回の講義内容の課題
10	モデル昆虫	生物学と関わり合いの深いムシたち	事後：今回の講義内容の課題
11	ハチとハチミツ	ハチの生態、ハチミツの起源	事後：今回の講義内容の課題
12	カイコと繊維利用	カイコとヒトの歴史、カイコの有用性	事後：今回の講義内容の課題
13	カイコとロボット	センサーとしてのカイコ	事後：今回の講義内容の課題
14	インセクトセラピー	好かれるムシ、嫌われるムシ	事後：今回の講義内容の課題
15	未来のヒトの暮らしとムシ	我々ヒトはこれからムシとどう付き合っていくべきか？	事後：今回の講義内容の課題

関連科目	生物学 (1年生前期)・多様性生物学(3年生前期)
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	徹底図解 昆虫の世界	岡島秀治	新星出版社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	出席点(各回の提示される課題への回答)90%、受講態度10%で評価する。定期考査は行なわない。
-----------	---

学生へのメッセージ	身近なのに意外と知らない虫のこと、多いのではないのでしょうか？ ムシが好きな人も嫌いな人も、一緒にムシの世界を覗いてみませんか？ 連絡は Teams で行ないますので、受講者は必ず本科目の Teams に登録してください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	応用昆虫学研究室
------------	----------

科目名	作物とエネルギー生産	科目名 (英文)	Crops and Energy Production
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	川崎 通夫
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1053a0		

授業概要・目的	作物は、人類が利用するエネルギーの重要な供給源の一つとなっている。「作物とエネルギー生産」では、(1)バイオマスエネルギーにおける生産と利用の現状および課題、(2)人類へエネルギーを供給する作物における種類、生態・形態・生理的形質、栽培および利用、(3)バイオ燃料の種類、製造法および利用などについて概説する。作物とエネルギー生産との係わり合いやエネルギー作物に関する現状、重要性と課題を理解し、それらを説明する上で必要な基礎知識を身につける。
到達目標	①作物と人類が利用するエネルギーとの関係性を理解する。 ②バイオマスエネルギーにおける生産と利用の現状について説明できる。 ③主要なエネルギー作物における種類、植物学的形質、栽培、利用、展望と課題について理解する。 ④バイオ燃料の種類、製造法および利用について説明できる。
授業方法と留意点	配布する講義資料とパワーポイントを用い、且つ、板書を適宜行い講義を行う。講義の後にはラーニングポートフォリオを行う。また、小テストを適宜実施する。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	バイオマスエネルギー	バイオマスエネルギーの生産と利用の現状	事前：シラバスの理解 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (60 分間)
2	作物とエネルギー	食用作物、油料作物、糖料作物、デンプン料作物	事前：事前学修課題の学習 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (60 分間)
3	エネルギー作物	エネルギー作物とは？ エネルギー作物の要件	事前：事前学修課題の学習 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (60 分間)
4	糖質系エネルギー作物：サトウキビ	糖質系エネルギー作物(サトウキビ)の植物学的形質、栽培および利用	事前：事前学修課題の学習 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (60 分間)
5	糖質系エネルギー作物：テンサイ等	糖質系エネルギー作物(テンサイ、スイートソルガム等)の植物学的形質、栽培および利用	事前：事前学修課題の学習 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (60 分間)
6	澱粉系エネルギー作物：トウモロコシ等	デンプン系エネルギー作物(トウモロコシ、コムギ)の植物学的形質、栽培および利用	事前：事前学修課題の学習 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (約 2 時間)
7	澱粉系エネルギー作物：イモ類	デンプン系エネルギー作物(キャッサバ等のイモ類等)の植物学的形質、栽培および利用	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (60 分間)
8	セルロース系エネルギー作物：サトウキビ等	セルロース系エネルギー作物(サトウキビ、トウモロコシ)の植物学的形質、栽培および利用	事前：事前学修課題の学習 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (60 分間)
9	セルロース系エネルギー作物：エリアンサス等	セルロース系エネルギー作物(エリアンサス、ネビアグラス等)の植物学的形質、栽培および利用	事前：事前学修課題の学習 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (60 分間)
10	エネルギー作物：イネ	エネルギー作物としてのイネの現状	事前：事前学修課題の学習 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (60 分間)
11	バイオ燃料：バイオエタノール	バイオエタノールの製造と利用	事前：事前学修課題の学習 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (60 分間)
12	バイオ燃料：バイオディーゼル等	バイオディーゼルとバイオジェット燃料の製造と利用	事前：事前学修課題の学習 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (60 分間)
13	バイオ燃料：バイオペレット等	バイオペレットおよびバイオガスの製造と利用、バイオマス発電	事前：事前学修課題の学習 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (60 分間)
14	エネルギー作物の生産システム	エネルギー作物における栽培とポストハーベスト	事前：事前学修課題の学習 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習 (60 分間)
15	エネルギー作物の展望、総括	エネルギー作物における展望と課題	事前：事前学修課題の学習 (60 分間) 事後：ラーニングポートフォリオ (60 分間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	エネルギー作物学	森田茂紀	朝倉書
	2	作物学の基礎Ⅱ 資源作物・飼料作物	中村 聡、後藤 雄佐、新田 洋司	農文協
	3			

評価方法 (基準)	小テスト (50%)、および、ラーニングポートフォリオ (50%) で評価し、60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	作物は食料として重要ですが、人類のエネルギー資源としても私たちの生活に欠かせないものとなっています。本授業を通じて、エネルギー作物の現状、重要性および課題などについて理解を深め、農学生としての素養を更に身に付けられるよう頑張ってください。
担当者の 研究室等	担当教員は作物科学研究室に所属しています。もし質問や相談などありましたら、枚方キャンパス 8 号館 (農学部棟) 2 階の作物科学研究室 (208 号室) まで遠慮なくお尋ね下さい。
備考	

科目名	生きている土壌	科目名 (英文)	Living Soil
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐野 修司
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1054a0		

授業概要・目的	作物の生産基盤として、土壌の役割は重要である。土壌中には微生物を含めて多くの生物が息しており、物質循環をはじめとした機能面で役割を担っているほか、土壌自身も外部からの影響により変化しており、まさに土壌は生きているといえる。また、作物などの植物生育と関連していることから、他の生物の生命活動にも影響をおよぼしているほか、周辺環境のかかわりも深い。本講義では、上記の観点から、土壌自身の生物性、特性の変化、作物生育や周辺環境とのかかわりなど、幅広い観点から土壌の役割について講義する。																																																																		
到達目標	① 作物の生産基盤としての土壌の重要性を概説できる。 ② 土壌の生物性について概説できる。 ③ 土壌も人為的な管理や環境の変化により変化することを概説できる。 ④ 土壌と作物生育や周辺環境とのかかわりについて概説できる。																																																																		
授業方法と留意点	パワーポイント、板書を主に講義を行い、講義内容により、DVDなどによる映像の上映や、プリントを配布し理解を深める。また原則毎回、事前学習として次回の講義内容に関するミニレポートの提出を求めるほか、事後学習の効果を高めるために前回講義した内容に関する振り返りシートの記入を実施する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>生産基盤としての土壌</td> <td>講義の目的、生態系での土壌の役割など</td> <td>事前：シラバスの理解 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>土壌の生物性</td> <td>土壌の生物性・化学性・物理性、生物性の位置付けなど</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>土壌微生物</td> <td>土壌の微生物の種類、微生物の評価法、多様性など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>土壌動物</td> <td>土壌動物の種類、土壌中での生態系、土壌中の害虫など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>土壌病害</td> <td>土壌病害の種類、土壌病害発生のメカニズムなど</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>土壌生成</td> <td>土壌生成因子、気候による土壌の変化、メカニズムなど</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>土壌劣化</td> <td>土壌劣化の種類、劣化のメカニズム、修復の実例など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>人為と土壌</td> <td>人為による土壌の変化、農耕地土壌や造成土の特性など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>土づくり</td> <td>土づくり資材、有機物による土づくり、土づくり実例など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>土壌と植物生育</td> <td>植物生育における土壌の役割など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>土壌と食糧生産</td> <td>食糧生産における土壌の役割、土壌とヒトの健康との関係など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>有機農業</td> <td>有機農業、有機農業における土壌中の物質動態など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>土壌と地域環境</td> <td>地域環境と土壌との関係、環境負荷低減における土壌の役割など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>土壌と地球環境</td> <td>地球環境と土壌との関係、環境負荷低減における土壌の役割など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>最新の事例紹介</td> <td>講義に関連した最新の研究事例、実践例など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	生産基盤としての土壌	講義の目的、生態系での土壌の役割など	事前：シラバスの理解 事後：振り返りシートの記入	2	土壌の生物性	土壌の生物性・化学性・物理性、生物性の位置付けなど	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	3	土壌微生物	土壌の微生物の種類、微生物の評価法、多様性など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	4	土壌動物	土壌動物の種類、土壌中での生態系、土壌中の害虫など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	5	土壌病害	土壌病害の種類、土壌病害発生のメカニズムなど	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	6	土壌生成	土壌生成因子、気候による土壌の変化、メカニズムなど	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	7	土壌劣化	土壌劣化の種類、劣化のメカニズム、修復の実例など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	8	人為と土壌	人為による土壌の変化、農耕地土壌や造成土の特性など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	9	土づくり	土づくり資材、有機物による土づくり、土づくり実例など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	10	土壌と植物生育	植物生育における土壌の役割など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	11	土壌と食糧生産	食糧生産における土壌の役割、土壌とヒトの健康との関係など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	12	有機農業	有機農業、有機農業における土壌中の物質動態など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	13	土壌と地域環境	地域環境と土壌との関係、環境負荷低減における土壌の役割など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	14	土壌と地球環境	地球環境と土壌との関係、環境負荷低減における土壌の役割など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	15	最新の事例紹介	講義に関連した最新の研究事例、実践例など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	生産基盤としての土壌	講義の目的、生態系での土壌の役割など	事前：シラバスの理解 事後：振り返りシートの記入																																																																
2	土壌の生物性	土壌の生物性・化学性・物理性、生物性の位置付けなど	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
3	土壌微生物	土壌の微生物の種類、微生物の評価法、多様性など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
4	土壌動物	土壌動物の種類、土壌中での生態系、土壌中の害虫など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
5	土壌病害	土壌病害の種類、土壌病害発生のメカニズムなど	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
6	土壌生成	土壌生成因子、気候による土壌の変化、メカニズムなど	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
7	土壌劣化	土壌劣化の種類、劣化のメカニズム、修復の実例など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
8	人為と土壌	人為による土壌の変化、農耕地土壌や造成土の特性など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
9	土づくり	土づくり資材、有機物による土づくり、土づくり実例など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
10	土壌と植物生育	植物生育における土壌の役割など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
11	土壌と食糧生産	食糧生産における土壌の役割、土壌とヒトの健康との関係など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
12	有機農業	有機農業、有機農業における土壌中の物質動態など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
13	土壌と地域環境	地域環境と土壌との関係、環境負荷低減における土壌の役割など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
14	土壌と地球環境	地球環境と土壌との関係、環境負荷低減における土壌の役割など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
15	最新の事例紹介	講義に関連した最新の研究事例、実践例など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新版 土壌学の基礎</td> <td>松中照夫</td> <td>農文協</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新版 土壌学の基礎	松中照夫	農文協	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新版 土壌学の基礎	松中照夫	農文協																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	別途、指示する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	ミニレポート (25%)、振り返りシート (25%)、定期試験 (50%) で評価し、60%以上で合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ	農業生産だけでなく環境面でも基盤となる土壌について、普段じっくりと目を向ける機会がないと思いますが、この講義を通じて土壌そのものへの理解のみならず農業生産性や周辺環境そして人の暮らしとのかかわりについても理解が深まることを目指します。																																																																		
担当者の研究室等	農業生産学科 生産生態基盤学研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	分子からみた植物の働き	科目名 (英文)	Molecular World of the Plants
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	椎名 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1055a0		

授業概要・目的	植物と動物は異なる生物である。形も、生活も全く違っている。しかし、どこが、どう違うのか？本講義では、植物の不思議な生き方を、様々な視点から紹介し、植物の本質の理解を目指す。花や葉の形、環境ストレスへの適応、さらに光合成のメカニズムと、取り扱うトピックは多彩だ。一方、人間は植物を利用し、改良して生きてきた。本講義では、その歴史にも触れる。また、持続型社会の構築のためには、植物の能力をさらに高め、利用していくことも重要になる。植物バイオテクノロジーの現状を紹介し、社会受容との関係についても考える。 生物学の履修を前提とせず、わかりやすく解説する。
到達目標	① 植物の環境感知とストレス適応機構を理解する ② 植物の形作りの基礎を理解する ③ 光合成の分子基盤の概要を理解する ④ 植物バイオテクノロジーの概要を理解する
授業方法と留意点	教科書とプリント資料を使い講義を行う。授業に先立って教科書の指定部分を読んでおくこと。また、講義内容の理解は、Moodleで行う毎回の講義の「振り返り」と定期試験で評価する。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	植物と動物の違い	植物と動物何が違う？光合成をする植物が採用した特異な生存戦略について考える。	事前：シラバスの確認 事後：学習課題の確認
2	野菜と作物の起源	野菜や作物の原種は、現在の品種と似ても似つかない姿をしているものが多い。野菜や作物のルーツを調べ、各国の食文化の歴史を探る。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
3	変な植物 (食虫植物、歩く植物、子を産む植物、白い植物など)	食虫植物、歩く植物、子を産む植物、白い植物など変わった植物を解説し、植物の多様な世界を知る。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
4	魅力的な花作り	八重咲などの複雑な花ができる仕組み、花が一斉に咲く仕組みなど、花にまつわる不思議を解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
5	植物の動きと環境応答	じっとしている植物も、高速度撮影をすると常に動いているのがわかる。屈性を中心に植物が環境情報を感知し応答する仕組みを解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
6	植物と光	目を持たない植物がどのように光を感知し、どう利用しているかを解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
7	植物と水	水を求めて移動できない植物が、どのように水を吸収し、乾燥に耐えているかについて、根と気孔を中心に解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
8	光合成の仕組み	光合成は地球の生命を支えている。光エネルギーを化学エネルギーに変換する光合成の秘密を紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
9	植物からの贈り物	紙、香料、天然ゴム、抗がん剤など、植物は人間生活に欠かせないさまざまな物質を作り出す。物質生産工場としての植物の仕組みを解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
10	分化全能性	挿木や接木は、植物の分化全能性を利用している。細胞培養やホルモンによる分化制御について解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
11	農業と植物ホルモン	農業では、植物ホルモンをうまく利用している。その実際を紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
12	植物バイオテクノロジー	遺伝子組換え技術を使い、害虫抵抗性の植物を作る技術を紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
13	植物バイオテクノロジーと社会	植物バイオテクノロジーの社会実装について、安全性審査や食品表示を例に考える。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
14	植物と地球環境	地球環境における植物の役割についてのトピックスを紹介する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
15	好きな植物をデザインしよう	グループワークで、新しいユニークな植物をデザインする。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	植物の体の中では何が起きているのか	嶋田幸久、萱原正嗣	ベレ出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	小テスト (40%)、討議活動(10%)、定期試験 (50%)
学生への メッセージ	授業では、植物の不思議な話題や、きれいな画像をできるだけたくさん紹介したいと思います。
担当者の 研究室等	8号館3階教員室303
備考	

科目名	ゲノムと生命	科目名 (英文)	Genome and Life
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小保方 潤一
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1056a0		

授業概要・目的
現代の農学・生命科学は、ゲノムの知識抜きでは理解できない。ゲノムは世界の見方を変え、新しい技術を生み出し、新しいビジネスチャンスを生み出す。ところが、ゲノム学は初心者にとって敷居が高い。この講義では、高校の生物基礎程度の内容から始めて、DNAの性質やPCRなどの応用技術、ゲノムの科学史、風変わりなゲノムを持つ生物、ゲノムに関わるユニークな現象などを紹介しながら、ゲノムとは何かを考え、ゲノム研究がこれからの人々や社会にどのような影響を与えていくのかを、自然観や生命観に対する影響も含めて、考察したい。AC科やAF科の学生にはこれまで学んだ専門科目の根底からの復習とその発展として、AE科の学生には生物学の基礎からの学びとなるように講義します。

- 到達目標**
- DNAの基本的な性質や働きを説明できる。
 - PCR法について、その原理や用途を説明できる。
 - ゲノムの塩基配列を解説することの意味を説明できる。
 - ゲノム進化がもたらした生物の多様性について、例をあげて説明できる。
 - ゲノム編集などのゲノム操作技術が社会に与える影響について説明できる。
 - ゲノムの研究が人々の生命観や社会観に与える影響について説明できる。

授業方法と留意点
授業は板書とパワーポイントを併用して進めます。パワーポイントの資料は印刷・配布はしませんが、pdf版をTeamsの各授業回のチャンネルにアップロードしますので、各自、パソコン、タブレット、スマートフォンなどで確認し、必要に応じてダウンロードしてください。また、勉強の方法ですが、予習よりも復習を重視してください。高校で生物学を選ばなかった学生でも理解できるように生物基礎のレベルから説明しますが、その中で、DNAの構造や働き、酵素などについて最低限の理解をしてもらうことは必要です。理解をより促すため、事後

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	擬態と進化	遺伝情報 表現形質 進化	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
2	化学物質としてのDNA	生体分子の認識、DNAのはたらき、遺伝情報	事後：ミニレポートの提出
3	DNAはどう増えるか	DNAの変性、DNAの複製、DNAポリメラーゼ	事前：事前学修課題の学修
4	PCRの発明	PCRの原理と応用	事後：ミニレポートの提出
5	PCRが開いた新しい世界	PCRの産業利用、環境DNA	事後：ミニレポートの提出
6	PCRと科学で使う数字の話	感染は本当にふえていたのか？ 数字で人を騙す方法	事後：ミニレポートの提出
7	ゲノムの誕生	遺伝子、ゲノム、社会	事後：ミニレポートの提出
8	利他行動とゲノム進化	社会性昆虫、社会性動物、利己的DNA	事後：ミニレポートの提出
9	助け合うゲノム	海藻の生育と環境	事後：ミニレポートの提出
10	光を食べる動物たち	光合成をする動物、光合成ウミウシ、生物間相互作用	事後：ミニレポートの提出
11	光を食べる植物たち	光合成生物の誕生と進化、植物の環境適応	事前：事前学修課題の学修
12	ゲノムの混ぜ合わせが生み出す進化	ウイルスとその仲間達	事後：ミニレポートの提出
13	ゲノムの解読法	21世紀の生物学	事前：事前学修課題の学修
14	ゲノム情報と生物の改良	ゲノムデータベース、ゲノム編集、ゲノム育種	事後：ミニレポートの提出
15	ゲノムの教え、ゲノムの未来	ここまでの講義内容を整理してゲノムの意味を再考する	事前：事前学修課題の学修

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ひらく、ひらく「バイオの世界」	日本生物工学会編	化学同人
2	エッセンシャルキャンベル生物学	池内、伊藤、箸本 監訳	丸善出版
3			

評価方法 (基準)
授業中の小テストなど (10%)、授業の事後小テスト (30%)、定期試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等

備考

科目名	生物の多様性と進化	科目名 (英文)	Biodiversity and Evolution
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	井上 亮, 椎名 隆, 谷村 文, 和田 大
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1057a0		

授業概要・目的
地球が誕生したのは今から46億年前だが、40億年前の地層からは早くも生命の痕跡が検出されている。その頃の単純な生命体はやがて原核細胞や真核細胞に進化し、さらに進化や分岐を繰り返して地球上の様々な環境に進出し、多様な体制や増殖の仕組みをもつ様々な生物群が出現した。本講義では、生物の系統進化や分類群を縦糸に、それらの生物群が示す体制や生活史等を横糸にして、地球上に棲息する生物たちの多様な世界を具体的に学ぶ。これらの生物の多様性は、産業、文化、農学、応用生命科学、などの基礎ともなっており、この講義ではそれらの関係についても学ぶ。

- 到達目標**
- ① 細胞内共生進化について概説できる。
 - ② 藻類の主な系統と陸上植物について、それらの生活史と進化を概説できる。
 - ③ 古細菌、原核微生物、真核微生物の違いについて理解し、概説できる。
 - ④ 微生物と人間の関わり、産業利用について概略を理解して説明できる。
 - ⑤ 陸上動物の分類が概説できる。
 - ⑥ 産業動物の品種改良について概説できる。
 - ⑦ 主要な水産生物の分類体系について概説できる。

授業方法と留意点
この講義で扱う生物群は、大きく分けて、植物系、微生物系、動物系、海洋生物系、の4つのグループにまたがっており、この4分野を専門とする4名の教員によるリレー方式で講義を進める。また、各回の講義内容に応じて、事前学習や事後学習の課題を提示し、それらを通じて受講生の理解を深める。

科目学習の効果 (資格)
教員：教科及び教科の指導法に関する科目 (理科・中高)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	地球の歴史と生命の誕生	地球の歴史、生命の誕生から真核生物の出現まで (担当: 椎名 隆)	事前: シラバスの理解 事後: ミニレポートの提出
2	藻類が生み出した多様な世界	藻類の多様な体制や生活史とその進化 (担当: 椎名 隆)	事後: ミニレポートの提出
3	陸に上がった植物と生活史	陸上植物の主な系統と生活史など (担当: 椎名 隆)	事前: 事前学習課題の学習
4	植物の環境適応と進化	陸上植物の環境への適応と多様化 (担当: 椎名 隆)	事後: ミニレポートの提出
5	原核微生物	古細菌、真性細菌の細胞構造や特徴について (担当: 和田 大)	事後: ミニレポートの提出
6	真核微生物	真核微生物である酵母やカビの特徴について (担当: 和田 大)	事後: ミニレポートの提出
7	菌類と産業との関わり	さまざまな菌類と人間生活との関わり、産業利用について (担当: 和田 大)	事後: ミニレポートの提出
8	動物、特に脊椎動物の食性の多様化	脊椎動物の分類や多様性について、特に食性に焦点をあてる (担当: 井上 亮)	事後: ミニレポートの提出
9	免疫系からみた脊椎動物の進化	免疫系の多様性から脊椎動物の起源・進化を考える (担当: 井上 亮)	事前: 事前学習課題の学習 事後: ミニレポートの提出
10	産業動物 (ウシ) の系統	くらしに関わる動物、特にウシの系統と品種改良について (担当: 井上 亮)	事前: 事前学習課題の学習
11	産業動物 (ブタ・ニワトリ) の系統	くらしに関わる動物、特にブタとニワトリの系統と品種改良について (担当: 井上 亮)	事前: 事前学習課題の学習 事後: ミニレポートの提出
12	水産生物の世界: 海綿と刺胞動物	カイメン、クラゲ、サンゴ、イソギンチャクなどの分類と多様性について (担当: 谷村 文)	事後: ミニレポートの提出
13	水産生物の世界: 冠輪動物	貝類、イカ・タコ、ゴカイなどの分類と多様性について (担当: 谷村 文)	事前: 事前学習課題の学習
14	水産生物の世界: 脱皮動物と新口動物	エビ・カニなどの分類と多様性について (担当: 谷村 文)	事後: ミニレポートの提出
15	水産生物の世界: 魚類、両生類、爬虫類、哺乳類	魚類、カエル、ウミガメ、ワニ、クジラなどの分類と多様性について (担当: 谷村 文)	事前: 事前学習課題の学習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	エッセンシャル キャンベル生物学	Simon, Dickey, Hogan, Reece (池内、伊藤、箸本 監訳)	丸善出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	キャンベル生物学	Urry, Cain, Wasserman, Minorsky, Reece (池内、伊藤、箸本、道上 監訳)	丸善出版
2				
3				

評価方法 (基準)
各授業の事前学習課題 (10%)、授業中の前回講義の学習確認小テスト (20%、15回目は講義の最後に実施)、事後課題 (10%)、最終試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生への

メッセージ	
担当者の研究室等	ゲノム生物学研究室（椎名 隆）、応用微生物学研究室（和田）、動物機能科学研究室（井上）、
備考	

科目名	動物とくらし	科目名 (英文)	Animals and Human Life
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井上 亮
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1058a0		

授業概要・目的	我々のくらしは様々な動物と関係して成り立っている。例えば、日々の食事は家畜や家禽などの産業動物によって支えられており、犬や猫などのペット（コンパニオン・アニマル）は日々の安寧な暮らしの重要なサポート役となっている。「動物とくらし」では、我々のくらしに、産業動物やコンパニオン・アニマルがどのように関わっているのかを学ぶとともに、それぞれの動物の生態や生理について説明し、くらしで関わる動物に関する基本的な知識を身につける。
到達目標	① 産業動物とコンパニオン・アニマルの違いを概説できる。 ② 産業動物とコンパニオン・アニマルの暮らしとの関わり方を概説できる。 ③ 動物種毎の食性や消化管の違いを理解することができる。
授業方法と留意点	パワーポイント、板書を主に講義を行い、講義内容により、獣医師などの外部講師による講義を取り入れ理解を深める。また、各講義後に、その日の講義内容に関する小テスト（事後課題）を実施する。

科目学習の
効果（資格）

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	産業動物について	くらしに関わる動物について	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
2	三大畜種のライフサイクル	三大畜種のライフサイクルについて	事前：事前学習課題の学習
3	家畜の消化管生理（ウシ）	ウシの消化管生理について	事前：事前学習課題の学習
4	家畜の消化管生理（ブタ・ニワトリ）	ブタとニワトリの消化管生理について	事前：事前学習課題の学習
5	家畜の飼料（基礎）	家畜の飼料について（基礎編）	事前：事前学習課題の学習
6	家畜の飼料（応用）	家畜の飼料について（応用編）	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
7	家畜の病気（基礎）	家畜の病気について（基礎編）	事前：事前学習課題の学習
8	家畜の病気（応用）	家畜の病気について（応用編）	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
9	三大畜種の乳	三大畜種の乳について	事前：事前学習課題の学習
10	異種動物間移植	異種動物間（産業動物→ヒト）の移植について	事前：事前学習課題の学習
11	動物福祉	動物福祉について	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
12	伴侶動物	伴侶動物動物について	事前：事前学習課題の学習
13	動物園動物	動物園動物について	事前：事前学習課題の学習
14	動物の行動と栄養	動物の行動と栄養について	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
15	腸内細菌	腸内細菌について	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	講義内容に関するプリントを配布		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）
各授業の事前学習課題（40%）、授業中の講義の学習確認小テスト（事後課題：60%）で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等

備考

科目名	微生物とくらし	科目名 (英文)	Microorganisms and Human Life
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	和田 大
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1059a0		

授業概要・目的
農学部の応用生物科学科以外に所属する学生に対して、有用微生物およびその利用に関して講義を行う。微生物には「バイ菌」という言葉に代表されるように、ネガティブなイメージがあるが、本講義では人類に役立つ微生物バイオテクノロジーについて広く述べる。具体的には、1)各種発酵食品製造における微生物の役割、2)有用物質生産の実例として微生物を用いたアミノ酸、核酸等の発酵生産および、抗生物質の発酵生産について、3)ニューバイオテクノロジーによる微生物機能の有効利用の事例として、遺伝子工学の利用によるタンパク質の生産、代謝工学等について、4)環境修復のためのバイオテクノロジーについて、などである。また、それらを自らが展開していくために必要な考え方、今後の発展の方向などについて講義する。

到達目標
① 人間が利用する微生物の種類について、理解して概説できる。
② 微生物を利用するための代謝に関する知識、微生物の育種の方法について理解し、概説できる。
③ 各種発酵食品製造における微生物の役割について、理解し、概説できる。
④ 代謝制御発酵によるアミノ酸、核酸等の発酵生産に関する理論と工業化の実際について、理解し、概説できる。
⑤ 腸内フローラ、プレバイオティクスについて理解し、概説できる。
⑥ 我々が微生物をどのように生活の中で利用しているのか、説明する際に修得内容を活用できる。

授業方法と留意点
パワーポイント、板書を主に講義を行うが、内容によっては、理解を助けるためにDVDなどによる動画視聴を行う場合がある。各講義後に、その日に講義した内容に関する小テストを実施する。また、応用微生物学に関わる実務に携わる外部の専門家にゲストスピーカーをお願いする場合がある。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	微生物とくらし	イントロダクション、微生物の種類、応用微生物学の歴史	事後:小テストの復習
2	細菌とその利用	くらしに役立つ細菌類について	事後:小テストの復習
3	真菌とその利用	くらしに役立つ真菌類 (酵母、カビ) について	事後:小テストの復習
4	微生物の利用	微生物による物質生産の概説。発酵、酵素などの概念	事後:小テストの復習
5	微生物の代謝 I	微生物の同化と異化。デンプンからアルコールなど	事後:小テストの復習
6	微生物の代謝 II	微生物によるアミノ酸、核酸の生合成、物質生産との関連	事後:小テストの復習
7	発酵食品 I	食品製造に役立つ微生物その1. 酒、味噌、しょう油など	事後:小テストの復習
8	発酵食品 II	食品製造に役立つ微生物その2. 納豆、食品添加用酵素など	事後:小テストの復習
9	微生物の改良 I	古典的手法による微生物の品種改良。突然変異誘発法など	事後:小テストの復習
10	微生物の改良 II	遺伝子組換え法による微生物の品種改良	事後:小テストの復習
11	発酵生産 I	アミノ酸、核酸の発酵生産。代謝制御発酵など	事後:小テストの復習
12	発酵生産 II	抗生物質、遺伝子組換えタンパク質など	事後:小テストの復習
13	健康と微生物	プレバイオティクス、プロバイオティクスなど	事後:小テストの復習
14	農業と微生物	微生物農薬、植物共生菌など	事後:小テストの復習
15	低炭素社会と微生物	バイオエタノール、バイオプラスチックなど	事後:小テストの復習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎生物学テキストシリーズ4 微生物学	青木健次	化学同人
2	バイオテクノロジーの教科書上	ラインハート・レンネバーグ	講談社
3	バイオテクノロジーの教科書下	ラインハート・レンネバーグ	講談社

評価方法 (基準)
授業中の毎回の学修確認小テスト (20%、15回を各講義の中間と最後に実施。Formsなどを利用)、定期試験 (60%) で評価し、合計60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ
応用微生物学は微生物の機能を人に役立たせるための学問です。微生物の利用は古代から行われており、人間の生活と密接に関連しています。高校までの生物では「微生物は病気を引き起こす」「微生物は生態系では分解者」というイメージが強いですが、応用微生物学で微生物に対する新しい見方を修得して欲しいと思います。

担当者の研究室等
応用生物科学科応用微生物学研究室 (8号館3階307教員室)

備考

科目名	海洋生物とくらし	科目名 (英文)	Marine Organisms and Human Life
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	増田 太郎
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1060a0		

授業概要・目的	海洋は地球の表面積の約7割を占め、更に深海など人類にとって未踏の領域も含むフロンティアである。このように広大かつ深遠な領域に住む海洋生物は独自の世界を形成し、直接的或いは間接的に我々の暮らしと関わっている。「海洋生物とくらし」では、水圏の成り立ちから海洋生物の分類、生理、生態について概説し、特に我々の暮らしとの関わりが深い「魚介類」に対する理解を深めることを目的とする。
到達目標	海洋生物について、それを取り巻く環境、生態系から我々の食卓を彩る水産物としての側面について幅広く学び、理解すること。 海洋生物を含む、生物の分類の基礎について理解する。 身近な食品である水産物について、その分類上の位置と姿、形、味を結びつける。
授業方法と留意点	授業方法は、主としてパワーポイント、板書を用いる。海洋生物にまつわる興味深い事柄を紹介しつつ、日本人の食卓に欠かせない水産物についてその背景を含めた理解を深める。本講義は海洋、水圏の生物学に関する入門講座であるとの位置づけから、各回の講義内容を暗記することは求めない。ただし、授業の開始時に、受講者数名にその回のテーマについて受講前の印象を発表してもらう。

科目学習の
効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	水圏の成り立ち	水圏の形成とその変遷、現在の分布、我々の生活と水生生物	どんなことでも良いので、自分と水の生き物に関わる思い出、印象を整理する。
2	海洋の元素、化学物質	水圏の化学的背景。どのような元素がどのくらい存在するか。「塩」を考える。	事前：海の元素、塩に対する印象をプレゼン
3	水圏の物質循環	窒素、リン、その他の無機質に着目した海洋での物質循環と一次生産	環境とリン、窒素化合物について
4	海洋生物の基礎	水圏に棲む生物の大要と進化、分類。陸上生物との関係	好きな魚介類について考え、その分類上の位置について調べる。
5	水圏生物の分類	水圏生物の分類、市場の魚の素性を知る。明石魚の棚市場、黒門市場に見る季節の魚、貝、など	季節と魚介類に関する印象、好きな旬の魚介類は？
6	水圏の生態	水圏生物の生態系、物質循環との関わり。	講義内容に関する所感、印象の発表
7	水圏の生物資源	日本と世界の漁業生産、日本と世界のお魚事情について。	講義内容に関する所感、印象の発表
8	水産資源	日本と世界の水産資源、その分布と変動	講義内容に関する所感、印象の発表
9	食品としての水産物	日本と世界の水産物と食卓。水産食品色々。	講義内容に関する所感、印象の発表
10	水産食品の化学的背景	水産物の化学的背景とその利用。水産食品の今昔。	講義内容に関する所感、印象の発表
11	水産食品の味、匂い、色をもたらす成分	五感で感じる水産物。水産物の味、匂い、色について。	講義内容に関する所感、印象の発表
12	水産食品の主な成分	水産食品の成分。タンパク質、脂質、ビタミン、無機質など。	講義内容に関する所感、印象の発表
13	水産食品の加工と保存	水産物の加工・食品の劣化、食中毒	講義内容に関する所感、印象の発表
14	水圏生物由来の化学物質	水圏生物由来の化学物質・生理活性物質。毒と薬と	講義内容に関する所感、印象の発表
15	水圏生物と社会の関わり	まとめ。日本と世界の水産業が抱える諸問題と将来。	講義内容に関する所感、印象の発表

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	水圏生物科学入門	会田勝美	恒星社厚生閣
2				
3				

評価方法 (基準) 試験 (レポート) 60%、出席 (プレゼンテーションの担当) 40% とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等備考

科目名	食品学入門	科目名 (英文)	Introduction to Food Science
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水間 智哉
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1061a0		

授業概要・目的	食品学入門は、食品の一般的特質、その食品の栄養的価値並びに保存性を高めるためにどのような加工がなされているか、食品の栄養成分の構造、性質を学ぶものである。本講義では、食品の1次機能(食品成分の化学)、2次機能(嗜好成分の化学)、および3次機能(食品の生理機能性)について学ぶとともに、具体的食品について学習する。また、自然科学である食品学の外に、食品の歴史や名称などの社会科学的・人文科学的内容にも触れる。
到達目標	① 食品科学の基礎的知識を習得し、食品の天然素材としての特質を理解する。 ② 食品加工の手法や物理的、化学的特質などの基礎を養う。 ③ 食品成分の代謝、食品の機能について説明できる
授業方法と留意点	教科書を使用した講義形式とする。適宜、レポート課題の提出を求める。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	食品と人間①	食と生命、食文化と食生活	授業前に教科書で各講義内容を学習し(1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく(1時間)
2	食品と人間②	食品の分類、食品成分表	授業前に教科書で各講義内容を学習し(1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく(1時間)
3	植物性食品①	穀類、いも類	授業前に教科書で各講義内容を学習し(1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく(1時間)
4	植物性食品②	豆類、種実類	授業前に教科書で各講義内容を学習し(1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく(1時間)
5	植物性食品③	野菜類、果実類、きのこ類、藻類	授業前に教科書で各講義内容を学習し(1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく(1時間)
6	動物性食品①	魚介類、肉類	授業前に教科書で各講義内容を学習し(1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく(1時間)
7	動物性食品②	乳類、卵類	授業前に教科書で各講義内容を学習し(1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく(1時間)
8	その他の食品①	油脂類、調味料	授業前に教科書で各講義内容を学習し(1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく(1時間)
9	その他の食品②	香辛料、嗜好品類	授業前に教科書で各講義内容を学習し(1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく(1時間)
10	その他の食品③	発酵食品	授業前に教科書で各講義内容を学習し(1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく(1時間)
11	食品の成分①	有害成分	授業前に教科書で各講義内容を学習し(1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく(1時間)
12	食品の成分②	一次機能成分	授業前に教科書で各講義内容を学習し(1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく(1時間)
13	食品の成分③	二次機能成分	授業前に教科書で各講義内容を学習し(1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく(1時間)
14	食品の成分④	三次機能成分	授業前に教科書で各講義内容を学習し(1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく(1時間)
15	食品の成分⑤	三次機能を利用した食品の現状(保健機能食品、特定保健用食品)	授業前に教科書で各講義内容を学習し(1時間)、授業後に学修した内容を簡潔に説明できるようにしておく(1時間)

関連科目	生物、化学、栄養学
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	絵巻でひろがる食品学	石川 伸一	化学同人
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食品学 I, II	佐藤薫、中嶋肇編	化学同人
2	食品学各論	津田謹輔、伏木亨、本田佳子監修	中山書店	
3	新しい食品加工学	小川正、的場輝佳	南江堂	

評価方法 (基準)	定期試験(評価割合100%)で評価する。総点60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	農学部8号館3F 教員室(321)
備考	

科目名	食品の安全性	科目名 (英文)	Food Safety
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	平原 嘉視
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1062a0		

授業概要・目的	食品は、貴重な栄養源でありヒトが生きていく上で欠かせないものである。食品の安全性を脅かす原因となる有害微生物や有害物質について学ぶ。また、輸入食品など日常的に食べている食品を例にして健康に悪影響を及ぼさないレベルにどのように安全性が評価・管理されているのかについて学ぶ。食品のリスクとベネフィットを踏まえて「食品のリスクを正しく恐れて貴重な食品を無駄にしない」考え方について考え、リスクコミュニケーションについて理解し、食品の「安心」がどのように得られるのかを理解する。さらに、いわゆる健康食品と医薬品とを見分けるための標ぼうや安全性の違いについて学ぶ。
到達目標	① リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーションに基づいて食品の安全性がどのように守られているのかを説明することができる。 ② ヒトの健康に悪影響を及ぼす食品中の有害微生物、有害物質について説明することができる。 ③ 医薬品と食品の見分け方、リスクの違いについて説明できる。 ④ 食品のリスクのバランスを考慮して食品の安全性を説明することができる。
授業方法と留意点	本授業は、対面(1/3)及びオンデマンド(2/3)方式により食品の安全性の基礎知識を深める。具体的には、授業ごとの到達目標を決め、それに沿った解説や演習問題を行い、受講者各自で問題を解いた後、解答の解説を行う。授業後には Moodle を用いて、その日の内容の小テストや振り返りなどをレポートとしてまとめて決められた期限までに提出する。その他、必要に応じて追加の演習問題などの課題を課す。また、その他課題がある場合はその提出も授業出席の根拠として含める。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	食品の定義 食品のリスク①	食品の定義、食品のリスク、過去における食品による健康被害例を学ぶ。	事前：教科書の第1回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第1回の小テストを行う。
2	食品のリスク②	リスク分析(リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーション)の概要について学ぶ。	事前：教科書の第2回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第2回の小テストを行う。	
3	食品のリスク③	リスク評価(一生涯食べ続けても健康への悪影響がないとされる量：ADIの設定方法)、リスク管理、リスクコミュニケーションの具体例について学ぶ。	事前：教科書の第3回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第3回の小テストを行う。	
4	食品のリスク④ 食品の変質及びその防止法	食品による健康被害の実例や対応、食品の変質及びその防止法について学ぶ。	事前：教科書の第4回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第4回の小テストを行う。	
5	食品の安全対策①	食中毒の発生要因、食中毒予防3原則について学ぶ。	事前：教科書の第5回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第5回の小テストを行う。	
6	食品の安全対策②	食中毒の安全対策、食中毒予防3原則、食中毒の原因となる微生物のしくみについて学ぶ。	事前：教科書の第6回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第6回の小テストを行う。	
7	危害要因① 食中毒(発生状況、細菌性、ウイルス性)	食中毒の発生状況、細菌及びウイルスによる食中毒の原因となる食品、予防法などについて学ぶ。	事前：教科書の第7回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第7回の小テストを行う。	
8	危害要因② 食中毒(毒素型、ウイルス性食中毒、自然毒、動物・植物性食中毒)	毒素型食中毒、ウイルス性食中毒、自然毒食中毒、動物性食中毒(ふぐ毒、貝毒)、植物性食中毒(キノコ毒)などについて学ぶ。	事前：教科書の第8回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第8回の小テストを行う。	
9	危害要因③ 食品媒介感染症	経口(消化器系)感染症、食品や水を介して感染する寄生虫症、動物由来感染症(牛海綿状脳症)について学ぶ。	事前：教科書の第9回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第9回の小テストを行う。	
10	危害要因④ 有害物質による食品汚染	マイコトキシン(カビ毒)、難燃性化学物質(ダイオキシン、PCB)、有害金属(鉛、カドミウム)、放射性物質など食品汚染物質について学ぶ。	事前：教科書の第10回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第10回の小テストを行う。	
11	危害要因⑤ 食品添加物	農薬、動物用医薬品、アレルゲン、異物、遺伝子組換え食品、ゲノム編集食品、食品添加物について学ぶ。	事前：教科書の第11回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第11回の小テストを行う。	
12	食品器具・容器包装、洗浄剤、乳幼児用玩具	食品の器具・容器包装、洗浄剤、乳幼児用玩具の種類、安全性について学ぶ。	事前：教科書の第12回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第12回の小テストを行う。	
13	食品表示①	食品表示法の概要、衛生事項及び品質事項に関する食品表示基準について学ぶ。	事前：教科書の第13回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第13回の小テストを行う。	
14	食品表示② 食薬区分、衛生管理	健康や栄養に関する表示、HACCPを取り入れた国際規格など農場から食卓に至る食品の安全管理について学ぶ。また、食薬区分に基づく食品と医薬品を見分けるための成分・標ぼうや安全性の違いについて学ぶ。	事前：教科書の第14回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第14回の小テストを行う。	
15	リスクコミュニケーション、リスクのバランス	リスクコミュニケーション、食品のリスクとベネフィットのバランスについて学ぶ。	事前：教科書の第15回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第15回の小テストを行う。	

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
----	-----	-----	------

	1	『プリント教材』		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食べ物と健康 -食品衛生学- 第2版	白尾美佳等	光生館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各講義の学習確認小テスト (30%)、振り返りシート (10%)、定期試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	この授業は自らが主体的に学ぶ科目ですので、事前・事後学修、小テストなどを通して、わからないところを解決して進んでいきましょう。			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス農学部 教員室320			
備考				

科目名	旬の食材と薬膳	科目名 (英文)	Seasonal Foods and Meal Mixed with Chinese Medicine
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	喜多 大三
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1063a0		

授業概要・目的	近年、少子高齢化や医療の高度化による医療費の増加は、国民健康保険制度などの医療保険体制の見直しや、国民一人ひとりが健康増進を図り、国民保健の向上することを目的とした健康増進法の施行にまで至っている。このような健康志向の状況下、健康維持や増進のための食事として、薬膳や漢方などの基礎にある中医学的捉え方を含めて、ヒトの体質、季節などに対応した健康を維持する食生活として注目されている。本講義では、身近な薬草および食薬の種類、効果、効能について中医学的捉え方を学修したうえで、薬膳や漢方方剤の知識を修得する。
到達目標	1) 中医学の基礎的な知識を身につける。 2) 五行説の基本的な考え方を説明できる。 3) 薬膳の基礎的な知識を身につける。 4) 旬の食材の五性と五味の捉え方を説明できる。
授業方法と留意点	本授業では受講者の主体的学びを通して、中医学的な捉え方を学び、旬の食材と薬膳の基礎知識、旬の食材の特性などを学修する。 具体的には、事前学習で、講義箇所の教科書の調べ学習をする。当日、講義前に理解度確認テスト1 (moodle) を行う。 当日の講義後、講義内容に関する理解度テスト2 (moodle) を行い、知識を身につける。 事後学習では、期日内に授業についてのふりかえりレポートを moodle に提出する。 第14回及び第15回でポスター作成・発表およびピア評価をします。 よって、この授
科目学習の効果 (資格)	農作物、食肉、乳製品、魚介類などの食材や、薬草、ハーブ類などの五性・五味などを知ることで、旬の食材を中医学的な捉え方で薬膳レシピ作成などの応用力が修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス ・「薬膳」ってなに？	・ガイダンス、薬膳ってなに？ ・薬膳の歴史 ・理解度確認テスト I 及び II の実施 (moodle)	・事前学習：教科書 (教) p74~77 を 閲読 ・事後学習：ふりかえりレポートの提出 (moodle)
2	第一章 ・「中医学」、「漢方」を知る ・「陰」と「陽」を知る	・「中医学」、「漢方」を知る ・「陰」と「陽」を知る ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習：教 p8~11 を閲読。 ・事後学習：ふりかえりレポートの提出
3	・「五行説」の考え方	・自然を構成する5つの元素「五行説」 の考え方を学ぶ ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習：教 p12~15 を閲読。 ・事後学習：ふりかえりレポートの提出
4	・「証」について ・「八綱弁証」について	・個々の体質を知るものさし「証」及び 証を導き出すための 診断法「八綱弁証」を学ぶ ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習：教 p16~19 を閲読。 ・事後学習：ふりかえりレポートの提出
5	・気血水 (津) 弁証について	・不調の原因を探る「気血水 (津) 弁証」 を学ぶ ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習：教 p20~29 を閲読。 ・事後学習：ふりかえりレポートの提出
6	第三章薬膳入門 ・食材を知る「五性」 ・味を知る「五味」	・食材を知る「五性」、味を知る「五味」 を学ぶ ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習：教 p78~81 を閲読。 ・事後学習：ふりかえりレポートの提出
7	・「五味」と五臓六腑の組み 合わせ「帰経」	・食材を知る「五性」、味を知る「五味」 を学ぶ ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習：教 p82~85 を閲読。 ・事後学習：ふりかえりレポートの提出
8	・春と夏の養生法	教科書の五性別よく食べる食材などの 特性を用いた養生法の学習 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習：教 p86~105 を閲読。 ・事後学習：ふりかえりレポートの提出
9	・秋と冬の養生法	教科書の五性別よく食べる食材などの 特性を用いた養生法の学習 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習：教 p86~105 を閲読。 ・事後学習：ふりかえりレポートの提出
10	・冷え性・便秘に良い薬膳を 中医学的視点から捉える	・今まで学習した食材の五性などを参考 に、冷え性・便秘に良い薬膳を中医学的 視点から捉える ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習：提供される資料を閲読。 ・事後学習：ふりかえりレポートの提出
11	・美肌に良い薬膳メニューの 特徴を中医学的視点から捉 える	・肌は五臓の働き・感情の変動・季節・ 飲食などに深く関わっていることを学 ぶ。 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習：提供される資料を閲読。 ・事後学習：ふりかえりレポートの提出
12	第二章漢方入門 ・漢方は漢方薬だけじゃない ・漢方の歴史と現在 ・漢方の使い方 Q&A	・漢方は漢方薬だけじゃない ・漢方の歴史と現在を学ぶ ・漢方の使い方 Q&A を学ぶ ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習：教 p34~41 を閲読。 ・事後学習：ふりかえりレポートの提出
13	・こんな人には漢方薬を (タ イプ別) ・風邪の症状別の漢方方剤な ど ・薬膳に関するポスター作成 について (ガイダンス・グ ループ分け)	・漢方薬を必要とする人のタイプと方剤 を学ぶ。 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習：提供される資料を閲読。 ・事後学習：ふりかえりレポートの提出
14	精進料理と薬膳	・精進料理について ・精進料理と薬膳との関わり合いなど ・理解度確認テスト I 及び II の実施	事前学習：提供される資料を閲読。 ・事後学習：ふりかえりレポートの提出
15	発酵食と薬膳	・発酵食について	・事前学習：提供される資料を閲読。

			<ul style="list-style-type: none"> ・発酵食と薬膳との関わり合いなど ・理解度確認テストⅠ及びⅡの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学習：ふりかえりレポートの提出 ・最終レポートの内容説明
関連科目	薬理学、調理学、食品加工学、食品学など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	漢方と薬膳の基礎知識	松田久司	淡交社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	東方栄養新書	梁 晨千鶴	ISBN978-4-901767-18-7
	2			
	3			
評価方法 (基準)	理解度確認テストⅠ (25%)、理解度確認テストⅡ (25%)、ふりかえりレポート (30%)、最終レポート (20%) これらの評価の合計が 60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	薬膳で取り扱う食材や薬草には、皆さんが普段食事で食しているものが多くあります。薬膳の知識を身につけることは、皆さんの健康維持に貢献すると思います。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	栄養とスポーツ	科目名 (英文)	Nutrition and Sports
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1064a0		

授業概要・目的	我が国においては長寿，高齢化社会の到来とともに病氣，健康，体力の概念も変化している。また社会環境の変化に伴い疾病構造も感染症から生活習慣病へ変わってきた。人々のライフスタイルに起因するといわれる生活習慣病を予防・改善するには，運動，栄養，休養のバランスの取れた生活習慣が必要である。一方で，食事を極端に制限する人も存在，痩せ問題も深刻化している。本科目では，このような現代社会の中で心身の健康の保持・増進するために必要な栄養および運動に関する知識や考え方について学修する。
到達目標	① 栄養素の機能について理解できる。 ② 望ましい栄養摂取や運動による身体の変化について理解できる。 ③ 生活習慣病をはじめ心身の疾患予防や改善に栄養や運動が貢献するメカニズムや方法について理解できる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に基づき，授業を展開する。教員による解説講義に加えて，学生どうしのグループワークおよび発表を行う。教科書は用いず，適宜資料を配布する。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	健康とは	ガイダンス。 健康の定義や現代社会における状況について解説する。 その後、グループワークを行う。	【事後学習】 学習課題の確認
2	身体のなかをのぞいてみよう	生理学の基礎的事項について解説する。 その後、グループワーク・プレゼンテーションを行う。	【事前学習】 学習範囲の予習 【事後学習】 学習課題の確認
3	三大栄養素と運動	三大栄養素の役割，運動との関わりについて解説する。 その後、グループワーク・プレゼンテーションを行う。	【事前学習】 学習範囲の予習 【事後学習】 学習課題の確認
4	微量栄養素と運動	微量栄養素の役割，運動との関わりについて解説する。 その後、グループワーク・プレゼンテーションを行う。	【事前学習】 学習範囲の予習 【事後学習】 学習課題の確認
5	食事バランスガイド	食事バランスガイドを紹介する。 その後，自分の「コマ」を作成する。	【事前学習】 学習範囲の予習 【事後学習】 学習課題の確認
6	ウェイトコントロール	健康の維持・増進を目的としたウエイトコントロールの考え方と方法を解説する。 その後、グループワーク・プレゼンテーションを行う。	【事前学習】 学習範囲の予習 【事後学習】 学習課題の確認
7	身体のリズム	体内時計の紹介と，それに運動が及ぼす影響について解説する。 その後、グループワーク・プレゼンテーションを行う。	【事前学習】 学習範囲の予習 【事後学習】 学習課題の確認
8	生活習慣病の現状	我が国における生活習慣病の現状について紹介する。 その後、グループワーク・プレゼンテーションを行う。	【事前学習】 学習範囲の予習 【事後学習】 学習課題の確認
9	生活習慣病 1	高血圧，脂質異常症について概説する。 その後、グループワーク・プレゼンテーションを行う。	【事前学習】 学習範囲の予習 【事後学習】 学習課題の確認
10	生活習慣病 2	糖尿病，こころの健康について概説する。 その後、グループワーク・プレゼンテーションを行う。	【事前学習】 学習範囲の予習 【事後学習】 学習課題の確認
11	栄養摂取と運動 1	生活習慣病の予防・改善への栄養と運動の関りについて解説する。 その後、グループワーク・プレゼンテーションを行う。	【事前学習】 学習範囲の予習 【事後学習】 学習課題の確認
12	栄養摂取と運動 2	痩せや高齢期，こころの健康と栄養・運動に関する文献を紹介する。 その後、グループワーク・プレゼンテーションを行う。	【事前学習】 学習範囲の予習 【事後学習】 学習課題の確認
13	体力測定と評価	体力測定とその評価について解説する。 その後、グループワーク・プレゼンテーションを行う。	【事前学習】 学習範囲の予習 【事後学習】 学習課題の確認
14	体組成測定と評価	体組成とその測定方法，評価について解説する。 その後、グループワーク・プレゼンテーションを行う。	【事前学習】 学習範囲の予習 【事後学習】 学習課題の確認
15	健康トピック	最新の健康トピックを紹介する。 その後、グループワーク・プレゼンテーションを行う。	【事前学習】 学習範囲の予習 【事後学習】 学習課題の確認

関連科目			
教科書			
番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学がつきとめた 中年太りのすごい解消法	山田陽介	エクスマレッジ
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業時間内の成果物 20% レポート・小テスト 30% 定期試験 50% 合計 60 点以上で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等 備考	8号館3階 教員室323			

科目名	栄養と健康	科目名 (英文)	Nutrition and Health
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山田 徳広
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1065a0		

授業概要・目的	食生活を含んだ生活習慣は、健康と直結しています。生活習慣病とは何か、メタボリック・シンドロームとは何かについて説明した後に、代表的な生活習慣病である肥満、糖尿病、高血圧、痛風、動脈硬化、心疾患、脳血管疾患と食生活との関係について説明します。また、上記の生活習慣にならないための食習慣・生活習慣についても説明します。
到達目標	生活習慣にならないための食習慣・生活習慣について理解する。
授業方法と留意点	スライドを中心に講義形式で授業を進めます。 適宜プリントを配布し、DVDを視聴する場合があります。 毎回30程度の時間を割いて1週間前に指示した内容に関するA4用紙1枚の手書きレポートを作成します。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	偏食の恐ろしさ②	DVD 視聴学習：スーパーサイズミー (後半)。 課題レポート作成。	前回と今回の内容に関する課題レポートが書ける様、前回の内容を整理して来る。
3	食生活と病気について①	食事と生活生活習慣病についての授業。 課題レポート作成。	授業の1週間前にレポート課題を指示する。
4	食生活と病気について②	食事とメタボリック・シンドロームについての授業。 課題レポート作成。	授業の1週間前にレポート課題を指示する。
5	3大栄養素について	3大栄養素についての授業。 課題レポート作成。	授業の1週間前にレポート課題を指示する。
6	食物繊維と腸内細菌について	食物繊維と腸内細菌についての授業。 課題レポート作成。	授業の1週間前にレポート課題を指示する。
7	脂質の過剰について	脂質の過剰と脂質異常症についての授業。 課題レポート作成。	授業の1週間前にレポート課題を指示する。
8	ビタミンとミネラルについて	ビタミンとミネラルについての授業。 課題レポート作成。	授業の1週間前にレポート課題を指示する。
9	魚と健康について①	魚の油についての授業。 課題レポート作成。	授業の1週間前にレポート課題を指示する。
10	魚と健康について②	魚の色素成分についての授業。 課題レポート作成。	授業の1週間前にレポート課題を指示する。
11	食生活と糖尿病について①	糖尿病の概要についての授業。 課題レポート作成。	授業の1週間前にレポート課題を指示する。
12	食生活と糖尿病について②	I型糖尿病とII型糖尿病についての授業。 課題レポート作成。	授業の1週間前にレポート課題を指示する。
13	食生活と糖尿病について③	糖尿病の食事療法と運動療法についての授業。 課題レポート作成。	授業の1週間前にレポート課題を指示する。
14	食生活と高血圧・痛風について	食生活と高血圧・痛風についての授業。 課題レポート作成。	授業の1週間前にレポート課題を指示する。
15	食生活と動脈硬化・心疾患・脳血管疾患について	食生活と動脈硬化・心疾患・脳血管疾患についての授業。 課題レポート作成。	授業の1週間前にレポート課題を指示する。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	1) 出席率 80%以上を成績評価対象とします。(履修申請要領参照) 15回の授業の内、12回以上出席する必要があります。 (4回以上欠席すると成績評価の対象外となります。) 2) 毎回提出して頂くA4の手書きレポート (50%) (レポート課題を1週間前に提示し、1週間かけて内容を調べてもらいます。) (内容だけでなく、量と字の丁寧さ等のやる気と誠意も評価します。) (内容が多少ずれていても、誠意と一生懸命さが伝われば評価します。) (欠席時のレポートは、後日提出で公平に評価します)
-----------	--

学生へのメッセージ	出席を厳しくします。 1) 基礎的知識として高校生物の動物の部分が必要となりますので、復習しておいてください。 2) 出席率 80%以上を成績評価対象とします。(履修申請要領参照)
-----------	--

	<p>15回の授業の内、12回以上出席する必要があります。 (4回以上欠席すると生成評価の対象外となります。)</p> <p>3) 座席指定とします。</p> <p>4) 授業開始30分、中間(授業開始60分)、授業終了前の3回巡回して出席状況を確認し、3回全てが揃って出席とします。</p> <p>5) 事務室で欠席届が発行されない欠席は全て欠席とします。 (欠席)</p>
担当者の研究室等	8号館3F 教員室325
備考	しっかり、たくさん勉強して頂きます。

科目名	病気の予防と食生活	科目名 (英文)	Eating habit and prevention of chronic diseases
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	坂根 貞樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1066a0		

授業概要・目的	日本人の死亡原因では、脳卒中や虚血性心疾患（心筋梗塞など）の循環器疾患や、がん（悪性腫瘍）の割合が多くなっており、それら多くの病気に関わっているのが生活習慣である。生活習慣病とは、食事や運動、ストレス、喫煙や飲酒などの生活習慣が、その発症・進行に深く関与する病気の総称で、日々の食事や運動、生活習慣の乱れが発症の要因とされる。本講義では病気の予防と食生活について、生活習慣病を中心に学修する。
到達目標	① 病気の予防と食生活との関係を理解する。 ② 生活習慣病に含まれる主要な疾患について特徴を知り、各疾患の発症予防と食生活との関係について理解する。 ③ 生体の生理機能と摂取する栄養素との関連について知識を深める。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従って、パワーポイント（PPT）を用いて講義し、必要に応じてDVDなど動画を供覧しながら授業をすすめる。事前に講義で使用するPPTの主要な部分について、PDFをTeamsにアップロードするので、予習・復習に利用すること。授業後に「まとめの小テスト」を出題し、Moodleで期限内の解答入力を求める。小テストの得点は期末成績に反映される。
科目学習の効果（資格）	農学全般において、生活習慣、特に食生活が身体機能や病気の発症におよぼす影響について正確な知識を習得することが、専門知識の理解や研究への応用に、きわめて有用である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習とMoodleで小テスト解答
1	生活習慣病とは何か？	生活習慣病の意味、病気を診断するプロセス、診断学の概要や定期健診の意義について学ぶ。	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習とMoodleで小テスト解答
2	肥満、脂質異常症、メタボリックシンドローム	現代人の生活習慣と関連の深い、肥満と脂質異常症、メタボリックシンドロームについて学ぶ。	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習とMoodleで小テスト解答
3	糖尿病	代表的な生活習慣病とされる糖尿病の概要、最新の治療と発症予防における食事療法の重要性について学ぶ。	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習とMoodleで小テスト解答
4	動脈硬化、心血管疾患と食事	動脈硬化に起因する心疾患（狭心症、心筋梗塞）や脳血管障害（脳卒中）について、その概要と食生活との関連について学ぶ。	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習とMoodleで小テスト解答
5	高血圧と食事	高血圧症と食生活、とくに塩分摂取にとの関連、高血圧症の予防と治療のための食事内容について学ぶ。	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習とMoodleで小テスト解答
6	がんと生活習慣	がんの発症要因、食事内容や喫煙など生活習慣との関連について学ぶ。	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習とMoodleで小テスト解答
7	飲酒と病気	アルコール摂取と病気の関係、高尿酸血症、アルコール中毒やアルコール依存症について学ぶ。	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習とMoodleで小テスト解答
8	加齢と老化 ① 認知症	加齢・老化に伴う深刻な問題の1つである認知症について学び、生活習慣との関連について考察する。	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習とMoodleで小テスト解答
9	加齢と老化 ② 骨粗鬆症、サルコペニア、フレイル	加齢・老化に伴う運動機能の低下を引き起こす、骨粗鬆症、サルコペニア、フレイルやロコモティブシンドロームの評価法と対策、食生活との関連について学ぶ。	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習とMoodleで小テスト解答
10	慢性呼吸器疾患の食事療法	慢性閉塞性肺疾患（COPD）の病態、慢性呼吸不全の治療と食事療法の意義について学ぶ。	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習とMoodleで小テスト解答
11	貧血と食生活	貧血の成因と分類、特に鉄分など貧血に関連の深い栄養素について学ぶ。	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習とMoodleで小テスト解答
12	ビタミン、ミネラル摂取と病気	ビタミン欠乏やミネラル欠乏で引き起こされる病気について学ぶ。	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習とMoodleで小テスト解答
13	免疫と感染	免疫システムと感染症の概要、感染予防と食生活について学ぶ。	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習とMoodleで小テスト解答
14	食中毒	摂取した食物が直接の病因となりうる食中毒について、その実態と予防について学ぶ。	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習とMoodleで小テスト解答
15	総括：病気とは何か？	生活習慣、食生活を通して学んだ内容から、改めて「病気とは何か？」を考察する。	事前学習：Teamsで該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習とMoodleで小テスト解答

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料 (PDF)		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	別途、指示する。		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	まとめのテスト（評価割合 60%）に、学期末課題（レポート）についての評価（40%）を加え、合計 60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	病気と食生活について、身近な話題から最新の医学まで楽しく学びましょう。			
担当者の 研究室等	食品栄養学科 臨床医学研究室			
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	種市 豊
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。 ゲストスピーカーの招へい、定例の以外の日にフィールドワーク（学外見学）を実施することがある（日程は、速やかに連絡するので注意すること）
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス ミニ ABD 第 1 章 摂南大学を知ろう ABD を実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。	事前：「First Year Study Guide」の第 1 章を読んでおく。(1 時間) 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。(1 時間)
2	第 2 章 大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 2 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
3	第 3 章 大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法。ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 3 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
4	第 4 章 大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第 5 章 快適で安心な学生生活をおくるために	第 4 章：農学部学修支援室、課外活動などについて学ぶ。 第 5 章：身体や心の相談窓口、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 4 章及び第 5 章を読んでおく。 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
5	第 6 章 今までの自分を自分で分析しよう。 第 7 章 キャリア・プランニング 第 8 章 SPI、公務員試験、TOEIC®、IELTS、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 6～第 8 章章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
6	学外実習の準備	学外実習での訪問先について、事前に調べた内容を発表する。	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：発表を踏まえた補足学習。(1 時間)
7	学外実習①	食と農に関する学外実習①	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)
8	学外実習②	食と農に関する学外実習②	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)
9	学外実習の振り返り	学外実習での訪問先で学んだ内容について発表する。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：発表のふりかえり。(1 時間)
10	日本の農業・食料問題	ゲストスピーカーを招いて、日本の農業・食料問題に関する基礎的な理解を深める。	事前：講演資料を事前に配布し、予習する。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
11	課題学習①	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
12	課題学習②	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容の振り返り。(1 時間)
13	課題学習③	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについてのレポート作成。	事前：課題学習①～③の学習内容の整理。(1 時間) 事後：レポート作成のための補足学習。(1 時間)
14	課題学習④	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表資料の作成。	事前：発表資料の準備。(1 時間) 事後：発表資料作成のための補足学習。(1 時間)
15	最終発表とディスカッション	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表とディスカッション。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：課題学習①～④のふりかえり。(1 時間)

関連科目 全ての教科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 毎回の授業時の取り組み、提出物(60%)、レポート(40%)により評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等	<8号館3階> 農業経営学研究室(川崎)、農業経済学研究室(成)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、食農教育研究室(中塚)、持続型フードシステム研究室(谷口) <8号館2階> 食料・農業政策学研究室(吉井)、食料・農業市場研究室(種市)、食品産業研究室(山本)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、食品流通研究室(戴)、環境農学研究室(田中)			
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北川 太一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。 ゲストスピーカーの招へい、定例の以外の日にフィールドワーク（学外見学）を実施することがある（日程は、速やかに連絡するので注意すること）
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス ミニ ABD 第 1 章 摂南大学を知ろう ABD を実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。	事前：「First Year Study Guide」の第 1 章を読んでおく。(1 時間) 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。(1 時間)
2	第 2 章 大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 2 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
3	第 3 章 大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法。ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 3 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
4	第 4 章 大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第 5 章 快適で安心な学生生活をおくるために	第 4 章：農学部学修支援室、課外活動などについて学ぶ。 第 5 章：身体や心の相談窓口、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 4 章及び第 5 章を読んでおく。 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
5	第 6 章 今までの自分を自分で分析しよう。 第 7 章 キャリア・プランニング 第 8 章 SPI、公務員試験、TOEIC®、IELTS、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 6～第 8 章章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
6	学外実習の準備	学外実習での訪問先について、事前に調べた内容を発表する。	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：発表を踏まえた補足学習。(1 時間)
7	学外実習①	食と農に関する学外実習①	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)
8	学外実習②	食と農に関する学外実習②	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)
9	学外実習の振り返り	学外実習での訪問先で学んだ内容について発表する。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：発表のふりかえり。(1 時間)
10	日本の農業・食料問題	ゲストスピーカーを招いて、日本の農業・食料問題に関する基礎的な理解を深める。	事前：講演資料を事前に配布し、予習する。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
11	課題学習①	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
12	課題学習②	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容の振り返り。(1 時間)
13	課題学習③	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについてのレポート作成。	事前：課題学習①～③の学習内容の整理。(1 時間) 事後：レポート作成のための補足学習。(1 時間)
14	課題学習④	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表資料の作成。	事前：発表資料の準備。(1 時間) 事後：発表資料作成のための補足学習。(1 時間)
15	最終発表とディスカッション	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表とディスカッション。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：課題学習①～④のふりかえり。(1 時間)

関連科目	全ての教科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 毎回の授業時の取り組み、提出物(60%)、レポート(40%)により評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等	<8号館3階> 農業経営学研究室(川崎)、農業経済学研究室(成)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、食農教育研究室(中塚)、持続型フードシステム研究室(谷口) <8号館2階> 食料・農業政策学研究室(吉井)、食料・農業市場研究室(種市)、食品産業研究室(山本)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、食品流通研究室(戴)、環境農学研究室(田中)			
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。 ゲストスピーカーの招へい、定例の以外の日にフィールドワーク（学外見学）を実施することがある（日程は、速やかに連絡するので注意すること）
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス ミニ ABD 第 1 章 摂南大学を知ろう ABD を実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。	事前：「First Year Study Guide」の第 1 章を読んでおく。(1 時間) 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。(1 時間)
2	第 2 章 大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 2 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
3	第 3 章 大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法。ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 3 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
4	第 4 章 大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第 5 章 快適で安心な学生生活をおくるために	第 4 章：農学部学修支援室、課外活動などについて学ぶ。 第 5 章：身体や心の相談窓口、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 4 章及び第 5 章を読んでおく。 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
5	第 6 章 今までの自分を自分で分析しよう。 第 7 章 キャリア・プランニング 第 8 章 SPI、公務員試験、TOEIC®、IELTS、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 6～第 8 章章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
6	学外実習の準備	学外実習での訪問先について、事前に調べた内容を発表する。	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：発表を踏まえた補足学習。(1 時間)
7	学外実習①	食と農に関する学外実習①	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)
8	学外実習②	食と農に関する学外実習②	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)
9	学外実習の振り返り	学外実習での訪問先で学んだ内容について発表する。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：発表のふりかえり。(1 時間)
10	日本の農業・食料問題	ゲストスピーカーを招いて、日本の農業・食料問題に関する基礎的な理解を深める。	事前：講演資料を事前に配布し、予習する。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
11	課題学習①	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
12	課題学習②	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容の振り返り。(1 時間)
13	課題学習③	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについてのレポート作成。	事前：課題学習①～③の学習内容の整理。(1 時間) 事後：レポート作成のための補足学習。(1 時間)
14	課題学習④	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表資料の作成。	事前：発表資料の準備。(1 時間) 事後：発表資料作成のための補足学習。(1 時間)
15	最終発表とディスカッション	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表とディスカッション。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：課題学習①～④のふりかえり。(1 時間)

関連科目	全ての教科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 毎回の授業時の取り組み、提出物(60%)、レポート(40%)により評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等	<8号館3階> 農業経営学研究室(川崎)、農業経済学研究室(成)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、食農教育研究室(中塚)、持続型フードシステム研究室(谷口) <8号館2階> 食料・農業政策学研究室(吉井)、食料・農業市場研究室(種市)、食品産業研究室(山本)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、食品流通研究室(戴)、環境農学研究室(田中)			
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	成 善政
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。 ゲストスピーカーの招へい、定例の以外の日にフィールドワーク（学外見学）を実施することがある（日程は、速やかに連絡するので注意すること）
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス ミニ ABD 第 1 章 摂南大学を知ろう ABD を実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。	事前：「First Year Study Guide」の第 1 章を読んでおく。(1 時間) 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。(1 時間)
2	第 2 章 大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 2 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
3	第 3 章 大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法。ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 3 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
4	第 4 章 大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第 5 章 快適で安心な学生生活をおくるために	第 4 章：農学部学修支援室、課外活動などについて学ぶ。 第 5 章：身体や心の相談窓口、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 4 章及び第 5 章を読んでおく。 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
5	第 6 章 今までの自分を自分で分析しよう。 第 7 章 キャリア・プランニング 第 8 章 SPI、公務員試験、TOEIC®、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 6～第 8 章章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
6	学外実習の準備	学外実習での訪問先について、事前に調べた内容を発表する。	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：発表を踏まえた補足学習。(1 時間)
7	学外実習①	食と農に関する学外実習①	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)
8	学外実習②	食と農に関する学外実習②	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)
9	学外実習の振り返り	学外実習での訪問先で学んだ内容について発表する。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：発表のふりかえり。(1 時間)
10	日本の農業・食料問題	ゲストスピーカーを招いて、日本の農業・食料問題に関する基礎的な理解を深める。	事前：講演資料を事前に配布し、予習する。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
11	課題学習①	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
12	課題学習②	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容の振り返り。(1 時間)
13	課題学習③	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについてのレポート作成。	事前：課題学習①～③の学習内容の整理。(1 時間) 事後：レポート作成のための補足学習。(1 時間)
14	課題学習④	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表資料の作成。	事前：発表資料の準備。(1 時間) 事後：発表資料作成のための補足学習。(1 時間)
15	最終発表とディスカッション	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表とディスカッション。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：課題学習①～④のふりかえり。(1 時間)

関連科目 全ての教科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 毎回の授業時の取り組み、提出物(60%)、レポート(40%)により評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等	<8号館3階> 農業経営学研究室(川崎)、農業経済学研究室(成)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、食農教育研究室(中塚)、持続型フードシステム研究室(谷口) <8号館2階> 食料・農業政策学研究室(吉井)、食料・農業市場研究室(種市)、食品産業研究室(山本)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、食品流通研究室(戴)、環境農学研究室(田中)			
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 尚俊
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。 ゲストスピーカーの招へい、定例の以外の日にフィールドワーク（学外見学）を実施することがある（日程は、速やかに連絡するので注意すること）
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス ミニ ABD 第 1 章 摂南大学を知ろう ABD を実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。	事前：「First Year Study Guide」の第 1 章を読んでおく。(1 時間) 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。(1 時間)
2	第 2 章 大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 2 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
3	第 3 章 大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法。ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 3 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
4	第 4 章 大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第 5 章 快適で安心な学生生活をおくるために	第 4 章：農学部学修支援室、課外活動などについて学ぶ。 第 5 章：身体や心の相談窓口、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 4 章及び第 5 章を読んでおく。 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
5	第 6 章 今までの自分を自分で分析しよう。 第 7 章 キャリア・プランニング 第 8 章 SPI、公務員試験、TOEIC®、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 6～第 8 章章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
6	学外実習の準備	学外実習での訪問先について、事前に調べた内容を発表する。	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：発表を踏まえた補足学習。(1 時間)
7	学外実習①	食と農に関する学外実習①	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)
8	学外実習②	食と農に関する学外実習②	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)
9	学外実習の振り返り	学外実習での訪問先で学んだ内容について発表する。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：発表のふりかえり。(1 時間)
10	日本の農業・食料問題	ゲストスピーカーを招いて、日本の農業・食料問題に関する基礎的な理解を深める。	事前：講演資料を事前に配布し、予習する。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
11	課題学習①	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
12	課題学習②	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容の振り返り。(1 時間)
13	課題学習③	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについてのレポート作成。	事前：課題学習①～③の学習内容の整理。(1 時間) 事後：レポート作成のための補足学習。(1 時間)
14	課題学習④	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表資料の作成。	事前：発表資料の準備。(1 時間) 事後：発表資料作成のための補足学習。(1 時間)
15	最終発表とディスカッション	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表とディスカッション。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：課題学習①～④のふりかえり。(1 時間)

関連科目 全ての教科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 毎回の授業時の取り組み、提出物(60%)、レポート(40%)により評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等	<8号館3階>農業経営学研究室(川崎)、農業経済学研究室(成)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、食農教育研究室(中塚)、持続型フードシステム研究室(谷口) <8号館2階>食料・農業政策学研究室(吉井)、食料・農業市場研究室(種市)、食品産業研究室(山本)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、食品流通研究室(戴)、環境農学研究室(田中)			
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	川崎 訓昭
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。 ゲストスピーカーの招へい、定例の以外の日にフィールドワーク（学外見学）を実施することがある（日程は、速やかに連絡するので注意すること）
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス ミニ ABD 第 1 章 摂南大学を知ろう ABD を実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。	事前：「First Year Study Guide」の第 1 章を読んでおく。(1 時間) 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。(1 時間)
2	第 2 章 大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 2 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
3	第 3 章 大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法。ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 3 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
4	第 4 章 大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第 5 章 快適で安心な学生生活をおくるために	第 4 章：農学部学修支援室、課外活動などについて学ぶ。 第 5 章：身体や心の相談窓口、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 4 章及び第 5 章を読んでおく。 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
5	第 6 章 今までの自分を自分で分析しよう。 第 7 章 キャリア・プランニング 第 8 章 SPI、公務員試験、TOEIC®、IELTS、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 6～第 8 章章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
6	学外実習の準備	学外実習での訪問先について、事前に調べた内容を発表する。	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：発表を踏まえた補足学習。(1 時間)
7	学外実習①	食と農に関する学外実習①	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)
8	学外実習②	食と農に関する学外実習②	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)
9	学外実習の振り返り	学外実習での訪問先で学んだ内容について発表する。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：発表のふりかえり。(1 時間)
10	日本の農業・食料問題	ゲストスピーカーを招いて、日本の農業・食料問題に関する基礎的な理解を深める。	事前：講演資料を事前に配布し、予習する。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
11	課題学習①	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
12	課題学習②	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容の振り返り。(1 時間)
13	課題学習③	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについてのレポート作成。	事前：課題学習①～③の学習内容の整理。(1 時間) 事後：レポート作成のための補足学習。(1 時間)
14	課題学習④	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表資料の作成。	事前：発表資料の準備。(1 時間) 事後：発表資料作成のための補足学習。(1 時間)
15	最終発表とディスカッション	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表とディスカッション。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：課題学習①～④のふりかえり。(1 時間)

関連科目 全ての教科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 毎回の授業時の取り組み、提出物(60%)、レポート(40%)により評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等	<8号館3階> 農業経営学研究室(川崎)、農業経済学研究室(成)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、食農教育研究室(中塚)、持続型フードシステム研究室(谷口) <8号館2階> 食料・農業政策学研究室(吉井)、食料・農業市場研究室(種市)、食品産業研究室(山本)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、食品流通研究室(戴)、環境農学研究室(田中)			
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉井 邦恒
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。 ゲストスピーカーの招へい、定例の以外の日にフィールドワーク（学外見学）を実施することがある（日程は、速やかに連絡するので注意すること）
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス ミニ ABD 第 1 章 摂南大学を知ろう ABD を実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。	事前：「First Year Study Guide」の第 1 章を読んでおく。(1 時間) 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。(1 時間)
2	第 2 章 大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 2 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
3	第 3 章 大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法。ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 3 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
4	第 4 章 大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第 5 章 快適で安心な学生生活をおくるために	第 4 章：農学部学修支援室、課外活動などについて学ぶ。 第 5 章：身体や心の相談窓口、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 4 章及び第 5 章を読んでおく。 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
5	第 6 章 今までの自分を自分で分析しよう。 第 7 章 キャリア・プランニング 第 8 章 SPI、公務員試験、TOEIC®、IELTS、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 6～第 8 章章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
6	学外実習の準備	学外実習での訪問先について、事前に調べた内容を発表する。	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：発表を踏まえた補足学習。(1 時間)
7	学外実習①	食と農に関する学外実習①	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)
8	学外実習②	食と農に関する学外実習②	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)
9	学外実習の振り返り	学外実習での訪問先で学んだ内容について発表する。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：発表のふりかえり。(1 時間)
10	日本の農業・食料問題	ゲストスピーカーを招いて、日本の農業・食料問題に関する基礎的な理解を深める。	事前：講演資料を事前に配布し、予習する。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
11	課題学習①	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
12	課題学習②	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容の振り返り。(1 時間)
13	課題学習③	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについてのレポート作成。	事前：課題学習①～③の学習内容の整理。(1 時間) 事後：レポート作成のための補足学習。(1 時間)
14	課題学習④	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表資料の作成。	事前：発表資料の準備。(1 時間) 事後：発表資料作成のための補足学習。(1 時間)
15	最終発表とディスカッション	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表とディスカッション。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：課題学習①～④のふりかえり。(1 時間)

関連科目	全ての教科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 毎回の授業時の取り組み、提出物(60%)、レポート(40%)により評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等	<8号館3階> 農業経営学研究室(川崎)、農業経済学研究室(成)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、食農教育研究室(中塚)、持続型フードシステム研究室(谷口) <8号館2階> 食料・農業政策学研究室(吉井)、食料・農業市場研究室(種市)、食品産業研究室(山本)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、食品流通研究室(戴)、環境農学研究室(田中)			
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦出 俊和
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。 ゲストスピーカーの招へい、定例の以外の日にフィールドワーク（学外見学）を実施することがある（日程は、速やかに連絡するので注意すること）
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス ミニ ABD 第 1 章 摂南大学を知ろう ABD を実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。	事前：「First Year Study Guide」の第 1 章を読んでおく。(1 時間) 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。(1 時間)
2	第 2 章 大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 2 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
3	第 3 章 大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法。ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 3 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
4	第 4 章 大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第 5 章 快適で安心な学生生活をおくるために	第 4 章：農学部学修支援室、課外活動などについて学ぶ。 第 5 章：身体や心の相談窓口、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 4 章及び第 5 章を読んでおく。 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
5	第 6 章 今までの自分を自分で分析しよう。 第 7 章 キャリア・プランニング 第 8 章 SPI、公務員試験、TOEIC®、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 6～第 8 章章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
6	学外実習の準備	学外実習での訪問先について、事前に調べた内容を発表する。	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：発表を踏まえた補足学習。(1 時間)
7	学外実習①	食と農に関する学外実習①	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)
8	学外実習②	食と農に関する学外実習②	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)
9	学外実習の振り返り	学外実習での訪問先で学んだ内容について発表する。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：発表のふりかえり。(1 時間)
10	日本の農業・食料問題	ゲストスピーカーを招いて、日本の農業・食料問題に関する基礎的な理解を深める。	事前：講演資料を事前に配布し、予習する。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
11	課題学習①	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
12	課題学習②	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容の振り返り。(1 時間)
13	課題学習③	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについてのレポート作成。	事前：課題学習①～③の学習内容の整理。(1 時間) 事後：レポート作成のための補足学習。(1 時間)
14	課題学習④	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表資料の作成。	事前：発表資料の準備。(1 時間) 事後：発表資料作成のための補足学習。(1 時間)
15	最終発表とディスカッション	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表とディスカッション。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：課題学習①～④のふりかえり。(1 時間)

関連科目 全ての教科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 毎回の授業時の取り組み、提出物(60%)、レポート(40%)により評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等	<8号館3階>農業経営学研究室(川崎)、農業経済学研究室(成)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、食農教育研究室(中塚)、持続型フードシステム研究室(谷口) <8号館2階>食料・農業政策学研究室(吉井)、食料・農業市場研究室(種市)、食品産業研究室(山本)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、食品流通研究室(戴)、環境農学研究室(田中)			
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	副島 久実
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。 ゲストスピーカーの招へい、定例の以外の日にフィールドワーク（学外見学）を実施することがある（日程は、速やかに連絡するので注意すること）
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス ミニ ABD 第 1 章 摂南大学を知ろう ABD を実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。	事前：「First Year Study Guide」の第 1 章を読んでおく。(1 時間) 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。(1 時間)
2	第 2 章 大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 2 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
3	第 3 章 大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法。ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 3 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
4	第 4 章 大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第 5 章 快適で安心な学生生活をおくるために	第 4 章：農学部学修支援室、課外活動などについて学ぶ。 第 5 章：身体や心の相談窓口、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 4 章及び第 5 章を読んでおく。 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
5	第 6 章 今までの自分を自分で分析しよう。 第 7 章 キャリア・プランニング 第 8 章 SPI、公務員試験、TOEIC®、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 6～第 8 章章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
6	学外実習の準備	学外実習での訪問先について、事前に調べた内容を発表する。	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：発表を踏まえた補足学習。(1 時間)
7	学外実習①	食と農に関する学外実習①	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)
8	学外実習②	食と農に関する学外実習②	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)
9	学外実習の振り返り	学外実習での訪問先で学んだ内容について発表する。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：発表のふりかえり。(1 時間)
10	日本の農業・食料問題	ゲストスピーカーを招いて、日本の農業・食料問題に関する基礎的な理解を深める。	事前：講演資料を事前に配布し、予習する。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
11	課題学習①	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
12	課題学習②	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容の振り返り。(1 時間)
13	課題学習③	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについてのレポート作成。	事前：課題学習①～③の学習内容の整理。(1 時間) 事後：レポート作成のための補足学習。(1 時間)
14	課題学習④	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表資料の作成。	事前：発表資料の準備。(1 時間) 事後：発表資料作成のための補足学習。(1 時間)
15	最終発表とディスカッション	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表とディスカッション。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：課題学習①～④のふりかえり。(1 時間)

関連科目 全ての教科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 毎回の授業時の取り組み、提出物(60%)、レポート(40%)により評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等	<8号館3階> 農業経営学研究室(川崎)、農業経済学研究室(成)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、食農教育研究室(中塚)、持続型フードシステム研究室(谷口) <8号館2階> 食料・農業政策学研究室(吉井)、食料・農業市場研究室(種市)、食品産業研究室(山本)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、食品流通研究室(戴)、環境農学研究室(田中)			
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 葉子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。 ゲストスピーカーの招へい、定例の以外の日にフィールドワーク（学外見学）を実施することがある（日程は、速やかに連絡するので注意すること）
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス ミニ ABD 第 1 章 摂南大学を知ろう ABD を実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。	事前：「First Year Study Guide」の第 1 章を読んでおく。(1 時間) 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。(1 時間)
2	第 2 章 大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 2 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
3	第 3 章 大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法。ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 3 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
4	第 4 章 大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第 5 章 快適で安心な学生生活をおくるために	第 4 章：農学部学修支援室、課外活動などについて学ぶ。 第 5 章：身体や心の相談窓口、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 4 章及び第 5 章を読んでおく。 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
5	第 6 章 今までの自分を自分で分析しよう。 第 7 章 キャリア・プランニング 第 8 章 SPI、公務員試験、TOEIC®、IELTS、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 6～第 8 章章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
6	学外実習の準備	学外実習での訪問先について、事前に調べた内容を発表する。	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：発表を踏まえた補足学習。(1 時間)
7	学外実習①	食と農に関する学外実習①	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)
8	学外実習②	食と農に関する学外実習②	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)
9	学外実習の振り返り	学外実習での訪問先で学んだ内容について発表する。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：発表のふりかえり。(1 時間)
10	日本の農業・食料問題	ゲストスピーカーを招いて、日本の農業・食料問題に関する基礎的な理解を深める。	事前：講演資料を事前に配布し、予習する。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
11	課題学習①	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
12	課題学習②	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容の振り返り。(1 時間)
13	課題学習③	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについてのレポート作成。	事前：課題学習①～③の学習内容の整理。(1 時間) 事後：レポート作成のための補足学習。(1 時間)
14	課題学習④	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表資料の作成。	事前：発表資料の準備。(1 時間) 事後：発表資料作成のための補足学習。(1 時間)
15	最終発表とディスカッション	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表とディスカッション。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：課題学習①～④のふりかえり。(1 時間)

関連科目	全ての教科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 毎回の授業時の取り組み、提出物(60%)、レポート(40%)により評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等	<8号館3階> 農業経営学研究室(川崎)、農業経済学研究室(成)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、食農教育研究室(中塚)、持続型フードシステム研究室(谷口) <8号館2階> 食料・農業政策学研究室(吉井)、食料・農業市場研究室(種市)、食品産業研究室(山本)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、食品流通研究室(戴)、環境農学研究室(田中)			
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中塚 華奈
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。 ゲストスピーカーの招へい、定例の以外の日にフィールドワーク（学外見学）を実施することがある（日程は、速やかに連絡するので注意すること）
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス ミニ ABD 第 1 章 摂南大学を知ろう ABD を実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。	事前：「First Year Study Guide」の第 1 章を読んでおく。(1 時間) 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。(1 時間)
2	第 2 章 大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 2 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
3	第 3 章 大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法。ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 3 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
4	第 4 章 大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第 5 章 快適で安心な学生生活をおくるために	第 4 章：農学部学修支援室、課外活動などについて学ぶ。 第 5 章：身体や心の相談窓口、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 4 章及び第 5 章を読んでおく。 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
5	第 6 章 今までの自分を自分で分析しよう。 第 7 章 キャリア・プランニング 第 8 章 SPI、公務員試験、TOEIC®、IELTS、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 6～第 8 章章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
6	学外実習の準備	学外実習での訪問先について、事前に調べた内容を発表する。	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：発表を踏まえた補足学習。(1 時間)
7	学外実習①	食と農に関する学外実習①	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)
8	学外実習②	食と農に関する学外実習②	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)
9	学外実習の振り返り	学外実習での訪問先で学んだ内容について発表する。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：発表のふりかえり。(1 時間)
10	日本の農業・食料問題	ゲストスピーカーを招いて、日本の農業・食料問題に関する基礎的な理解を深める。	事前：講演資料を事前に配布し、予習する。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
11	課題学習①	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
12	課題学習②	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容の振り返り。(1 時間)
13	課題学習③	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについてのレポート作成。	事前：課題学習①～③の学習内容の整理。(1 時間) 事後：レポート作成のための補足学習。(1 時間)
14	課題学習④	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表資料の作成。	事前：発表資料の準備。(1 時間) 事後：発表資料作成のための補足学習。(1 時間)
15	最終発表とディスカッション	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表とディスカッション。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：課題学習①～④のふりかえり。(1 時間)

関連科目 全ての教科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 毎回の授業時の取り組み、提出物(60%)、レポート(40%)により評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等	<8号館3階> 農業経営学研究室(川崎)、農業経済学研究室(成)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、食農教育研究室(中塚)、持続型フードシステム研究室(谷口) <8号館2階> 食料・農業政策学研究室(吉井)、食料・農業市場研究室(種市)、食品産業研究室(山本)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、食品流通研究室(戴)、環境農学研究室(田中)			
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	戴 容泰思
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。 ゲストスピーカーの招へい、定例の以外の日にフィールドワーク（学外見学）を実施することがある（日程は、速やかに連絡するので注意すること）
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス ミニ ABD 第 1 章 摂南大学を知ろう ABD を実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。	事前：「First Year Study Guide」の第 1 章を読んでおく。(1 時間) 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。(1 時間)
2	第 2 章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 2 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
3	第 3 章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法。ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 3 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
4	第 4 章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第 5 章快適で安心な学生生活をおくるために	第 4 章：農学部学修支援室、課外活動などについて学ぶ。 第 5 章：身体や心の相談窓口、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 4 章及び第 5 章を読んでおく。 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
5	第 6 章今までの自分を自分で分析しよう。 第 7 章キャリア・プランニング 第 8 章 SPI、公務員試験、TOEIC®、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 6～第 8 章章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
6	学外実習の準備	学外実習での訪問先について、事前に調べた内容を発表する。	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：発表を踏まえた補足学習。(1 時間)
7	学外実習①	食と農に関する学外実習①	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)
8	学外実習②	食と農に関する学外実習②	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)
9	学外実習の振り返り	学外実習での訪問先で学んだ内容について発表する。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：発表のふりかえり。(1 時間)
10	日本の農業・食料問題	ゲストスピーカーを招いて、日本の農業・食料問題に関する基礎的な理解を深める。	事前：講演資料を事前に配布し、予習する。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
11	課題学習①	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)
12	課題学習②	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容の振り返り。(1 時間)
13	課題学習③	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについてのレポート作成。	事前：課題学習①～③の学習内容の整理。(1 時間) 事後：レポート作成のための補足学習。(1 時間)
14	課題学習④	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表資料の作成。	事前：発表資料の準備。(1 時間) 事後：発表資料作成のための補足学習。(1 時間)
15	最終発表とディスカッション	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表とディスカッション。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：課題学習①～④のふりかえり。(1 時間)

関連科目	全ての教科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 毎回の授業時の取り組み、提出物(60%)、レポート(40%)により評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等	<8号館3階>農業経営学研究室(川崎)、農業経済学研究室(成)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、食農教育研究室(中塚)、持続型フードシステム研究室(谷口) <8号館2階>食料・農業政策学研究室(吉井)、食料・農業市場研究室(種市)、食品産業研究室(山本)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、食品流通研究室(戴)、環境農学研究室(田中)			
備考				

科目名	食農ビジネス学基礎演習 I	科目名 (英文)	Basic Seminar of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦出 俊和、副島 久実、谷口 葉子、戴 容秦思
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1068a0		

授業概要・目的	大学における学修・研究活動や社会におけるビジネス活動において、PC の利用は一般的であり、また、様々な情報がインターネットを通じて簡単に取得できるようになっている。本演習では、情報を正しく利用するための情報リテラシー、情報倫理を学修し、PC を使用するための基本的な知識と技能 (特に、Word、Excel、PowerPoint の基本的操作方法) を修得するとともに、Excel による経済データの基礎的な加工方法について学修する。各演習では、学修内容を補完するための課題を出し、知識・技能の定着を目指す。
到達目標	① PC、ネットワーク、情報セキュリティ等の ICT の基本知識について理解する。 ② アプリケーションを操作して、文書作成、表計算処理、プレゼンテーション資料の作成が行える。 ③ 経済データの基本的な統計処理が行える。
授業方法と留意点	PC を用いた実習形式の授業を行う。毎回資料を配布し、授業の前半で資料の内容にそって練習課題を行い、その後各自で提出課題に取り組み、それを提出してもらう。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	PC の基本操作と情報倫理、情報セキュリティ	PC の基本操作およびファイルの操作方法を修得する。また、情報倫理と情報セキュリティについて理解する。	事前：シラバスの理解 (2 時間)
2	Excel の基礎	計算式の入力と相対番地・絶対番地の仕組みを理解する	事前：前回学修範囲の復習 (1 時間) 事後：課題の提出 (3 時間)
3	Excel によるデータ比較 (1)	指数・変化率の計算と棒グラフ・折れ線グラフの作成を修得する	事前：前回学修範囲の復習 (1 時間) 事後：課題の提出 (3 時間)
4	Excel によるデータ比較 (2)	構成比の計算と円グラフ・積み上げグラフの作成を修得する	事前：前回学修範囲の復習 (1 時間) 事後：課題の提出 (3 時間)
5	Excel によるデータ分布の把握	度数分布表とヒストグラムの作成を修得する	事前：前回学修範囲の復習 (1 時間) 事後：課題の提出 (3 時間)
6	Excel によるデータの代表値の計算	算術平均、加重平均、中央値、最頻値の計算と関係グラフの作成を修得する	事前：前回学修範囲の復習 (1 時間) 事後：課題の提出 (3 時間)
7	Excel によるデータの散布度の計算	標準偏差、分散、変動係数の計算を修得する	事前：前回学修範囲の復習 (1 時間) 事後：課題の提出 (3 時間)
8	ピボットテーブルの利用 (1)	ピボットテーブルを用いた集計表の作成を修得する	事前：前回学修範囲の復習 (1 時間) 事後：課題の提出 (3 時間)
9	ピボットテーブルの利用 (2)	ピボットテーブルを用いたクロス集計表の作成を修得する	事前：前回学修範囲の復習 (1 時間) 事後：課題の提出 (3 時間)
10	データベースの利用	並び替え、フィルタ、LOOKUP 関数の利用を修得する	事前：前回学修範囲の復習 (1 時間) 事後：課題の提出 (3 時間)
11	クロスセクションデータの分析 (1)	ABC 分析とパレート図の作成を修得する	事前：前回学修範囲の復習 (1 時間) 事後：課題の提出 (3 時間)
12	クロスセクションデータの分析 (2)	特化係数の計算とレーダーチャートの作成を修得する	事前：前回学修範囲の復習 (1 時間) 事後：課題の提出 (3 時間)
13	2 変数間の関係	2 変数についての散布図の作成と相関係数の計算を修得する	事前：前回学修範囲の復習 (1 時間) 事後：課題の提出 (3 時間)
14	Word の活用	Word の文章編集を修得する	事前：前回学修範囲の復習 (1 時間) 事後：課題の提出 (3 時間)
15	レポート作成	Excel の分析ツールの利用と、Word と Excel を連携させたレポート作成を修得する	事前：前回学修範囲の復習 (1 時間) 事後：課題の提出 (5 時間)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	未定		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Excel で読み取る経済データ分析	橋本紀子	新世社
	2	よくわかる統計学Ⅱ経済統計編 第2版	御園謙吉・良永康平 編	ミネルヴァ書房
	3	Excel による統計入門 第4版	縄田和満	朝倉書店

評価方法 (基準)	課題の提出状況とその内容 (100%) で評価し、60%以上で合格とする。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	地域マネジメント研究室 (浦出)、農水産物・食品マーケティング研究室 (副島)、持続型フードシステム研究室 (谷口)、食品流通研究室 (戴)
備考	

科目名	食農ビジネス学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Basic Seminar of Agri-Food Business II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉井 邦恒, 川崎 訓昭, 成 善政, 種市 豊
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE2069a0		

授業概要・目的	本演習は、食農ビジネス学科での専門的な学修を本格的に始めるにあたって、わが国や世界の食料・農業・農村の動向と現状、解決すべき課題の所在について認識を深めるとともに、基礎的な知識を修得することを目的とする。具体的には、「食料・農業・農村白書」をはじめとする基礎的な文献をテキストにして、輪読、発表、ディスカッションを行うことによって、理解をより深めるとともに、主体的な学修の姿勢を身につけることを目的とする。
到達目標	① わが国や世界の食料・農業・農村の現状についての認識を深めることができる。 ② 食農ビジネス学科での学修に必要な基礎的な知識を身につけることができる。 ③ 文献の読み方、理解の仕方と、まとめや発表を行う能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	① 学生を4つのクラスに分け、それぞれ担当の教員を決め、少人数のゼミナール形式で行う。 ② 各クラスの学生を4～5人ずつのグループに分け、グループ毎に文献の担当箇所を決めて、グループワーク、プレゼンテーションを行う。 ③ プレゼンテーションの行うグループ以外の学生も、文献を読了し、全員でディスカッションを行う。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	演習の進め方、役割分担等	事前：シラバスの理解(30分) 事後：次回取り上げる内容の確認(30分)
2	世界の食料需給の動向と課題	テキストに基づいて、世界の食料需給と農産物貿易の動向をプレゼンテーションし、課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了(1時間) 事後：文献の該当箇所の復習とふりかえりレポート作成(1時間)
3	わが国の食料消費の動向と課題	テキストに基づいて、わが国の食料消費の動向をプレゼンテーションし、課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了(1時間) 事後：文献の該当箇所の復習とふりかえりレポート作成(1時間)
4	食の安全と消費者の信頼確保の課題	テキストに基づいて、食の安全と消費者の信頼確保についてプレゼンテーションし、理解を深める。	事前：文献の該当箇所の読了(1時間) 事後：文献の該当箇所の復習とふりかえりレポート作成(1時間)
5	食品産業の動向と課題	テキストにもとづいて、食品産業の動向をプレゼンテーションし、課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了(1時間) 事後：文献の該当箇所の復習とふりかえりレポート作成(1時間)
6	ディスカッション・意見交換Ⅰ	以上3回の内容を踏まえて、食料の安定供給の確保のあり方と課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了(1時間) 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了(1時間)
7	農業生産の動向と課題	テキストに基づいて、農業生産の動向をプレゼンテーションし、課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了(1時間) 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了(1時間)
8	農業経営の動向と担い手の確保の課題	テキストに基づいて、農業経営の動向と担い手の確保をプレゼンテーションし、課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了(1時間) 事後：文献の該当箇所の復習とふりかえりレポート作成(1時間)
9	主要農畜産物の生産の動向と課題	テキストに基づいて、主要農畜産物の生産の動向をプレゼンテーションし、課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了(1時間) 事後：文献の該当箇所のふりかえりレポート作成(1時間)
10	農業関連団体の動向と課題	テキストに基づいて、農協をはじめとする農業関連団体の動向をプレゼンテーションし、課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了(1時間) 事後：文献の該当箇所の復習とふりかえりレポート作成(1時間)
11	ディスカッション・意見交換Ⅱ	以上4回の内容を踏まえて、農業の持続的発展のあり方と課題についてディスカッションを行う。	事前：文献の該当箇所の読了(1時間) 事後：文献の該当箇所の復習とふりかえりレポート作成(1時間)
12	都市と農村の共生・対流の現状と課題	テキストに基づいて、都市と農村の共生・対流の現状をプレゼンテーションし、課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了(1時間) 事後：文献の該当箇所の復習とふりかえりレポート作成(1時間)
13	農業・農村の多面的機能の維持・発揮	テキストに基づいて、農業・農村の多面的機能の維持・発展の取り組みをプレゼンテーションし、課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了(1時間) 事後：文献の該当箇所の復習とふりかえりレポート作成(1時間)
14	ディスカッションⅢ	以上の2回の内容を踏まえて、農村の振興・活性化のあり方と課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了(1時間) 事後：文献の該当箇所の復習とふりかえりレポート作成(1時間)
15	演習のまとめ	食料・農業・農村のこれからのあり方と課題、その解決方法について、ディスカッションする。	事前：これまでの内容のふりかえり(1時間)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食料・農業・農村白書	農林水産省	農林水産省HP
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		

	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、発表内容、ディスカッションへの参加状況（ルーブリック評価）を総合的に評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室（種市）、農業経済学研究室（成）、農業経営学研究室（川崎）、食料・農業政策学研究室（吉井）			
備考				

科目名	食農ビジネス学基礎演習Ⅲ	科目名 (英文)	Basic Seminar of Agri-Food Business III
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北川 太一, 田中 樹, 中塚 華奈, 山本 尚俊
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE2070a0		

授業概要・目的
 本演習は、食農ビジネス学科での専門的な学修をより深めるために、わが国や世界の食料・農林水産業・農村の動向と現状、解決すべき課題の所在と解決の方向について認識をさらに深めるとともに、専門的な知識と考え方を修得することを目的とする。具体的には、より専門的な文献をテキストにして、輪読、発表し、ディスカッションを行うことによって、テキストの内容に関する理解をより深めるとともに、主体的な学修の姿勢を身につけることを目的とする。
 また、学外の地域、農水産業・食料関連の団体や施設等を対象としたフィールドワーク、小グループを単位とした課題学習と成果発表等も行う予定である。使用する教材も含めて詳細は、Teams および第1回目のオリエンテーション時に説明するので、十分に注意すること。
 *この授業は、北川、田中樹、山本尚俊、中塚華奈の4名で担当する。

到達目標
 ① わが国や世界の食料・農業・農村の現状についての認識をより深めることができる。
 ② 食農ビジネス学科での学修に必要な専門的な知識と考え方を身につけることができる。
 ③ 文献の読み方、理解の仕方と、まとめや発表を行う能力を身につけることができる。

授業方法と留意点
 ① 学生を4つのグループ(クラス)に分け、それぞれ担当の教員(4名)を決めて、少人数ゼミナール形式で行う。
 ② 教員が指定する文献の輪読、発表、ディスカッションを中心に行う。
 ※ゲストスピーカーの招へい、ならびに学外でのフィールドワークを実施する予定。フィールドワークの日程は追って連絡する。

科目学習の効果(資格)
 3年生からの研究室分属を控えて、農林水産業、食料、農村地域の問題に関する専門的知識を身につけるとともに、自ら考え、ディスカッションを行う力を養うことができる

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	オリエンテーション	演習の進め方、役割分担等	事前：シラバスの理解 (2時間)	事後：次回取り上げる内容の確認 (2時間)
2	食料に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の食料に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 (2時間)	事後：小レポート、リアクションペーパーの作成と次回の該当箇所の読了 (2時間)
3	食料に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の食料に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 (2時間)	事後：小レポート、リアクションペーパーの作成と次回の該当箇所の読了 (2時間)
4	食料に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の食料に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 (2時間)	事後：小レポート、リアクションペーパーの作成と次回の該当箇所の読了 (2時間)
5	フィールドワークの事前学習	フィールドワークの対象地域、対象主体に関する文献学習を行いディスカッションする。	事前：関連文献・資料の読了 (2時間)	事後：フィールドワークに関する事前質問の作成 (2時間)
6	フィールドワークの実施	わが国や世界の食料の現状と課題に関してディスカッションする。	事前：関連文献・資料の読了 (2時間)	事後：小レポート、リアクションペーパーの作成と次回の該当箇所の読了 (2時間)
7	農業に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の農業に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 (2時間)	事後：小レポート、リアクションペーパーの作成と次回の該当箇所の読了 (2時間)
8	農業に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の農業に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 (2時間)	事後：小レポート、リアクションペーパーの作成と次回の該当箇所の読了 (2時間)
9	農業に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の農業に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 (2時間)	事後：小レポート、リアクションペーパーの作成と次回の該当箇所の読了 (2時間)
10	食料問題に関する実践的理解 (ゲストスピーカー)	食の問題解決のために地域で実践しておられる方のお話を聞きディスカッションを行う。	事前：文献の該当箇所の読了 (2時間)	事後：小レポート、リアクションペーパーの作成 (2時間)
11	農水産業問題に関する実践的理解 (ゲストスピーカー)	農水産業の問題解決のために地域で実践しておられる方のお話を聞きディスカッションを行う。	事前：文献の該当箇所の読了 (2時間)	事後：小レポート、リアクションペーパーの作成 (2時間)
12	農山村地域問題に関する実践的理解 (ゲストスピーカー)	農山村地域の問題解決のために地域で実践しておられる方のお話を聞きディスカッションを行う。	事前：文献の該当箇所の読了 (2時間)	事後：小レポート、リアクションペーパーの作成 (2時間)
13	農村に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の農村に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 (2時間)	事後：小レポート、リアクションペーパーの作成と次回の該当箇所の読了 (2時間)
14	農村に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の農村に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 (2時間)	事後：小レポート、リアクションペーパーの作成と次回のディスカッションのための準備 (2時間)
15	全体を通したディスカッション	これまでの内容を踏まえて発表を行い、ディスカッションを行う。	事前：これまでの内容の振り返り (2時間)	事後：これまでの内容の振り返り (2時間)

関連科目 食農ビジネス学基礎演習Ⅰ 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教員が指定する文献や資料		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
2				

	3		
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、発表内容、ディスカッションへの参加状況（ルーブリック評価）を総合的に評価し、60%以上で合格とする。		
学生への メッセージ	好奇心のアンテナを絶えず張りながら、農業、農村、地域を見つめる目を養いましょう！		
担当者の 研究室等	北川：8号館3階318 田中：8号館2階213 山本：8号館2階217 中塚：8号館3階317		
備考	★第1回目の授業では、2年生後期を迎えるにあたってのガイダンス（研究室の分属等）も行う。		

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	山居 輝美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OHU1401a2		

授業概要・目的	<p>本科目の講義目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することである。授業では教養入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、及びコミュニケーション能力を身につけることを目指す。</p> <p>SDGs 1～17</p>
到達目標	<p>1) 大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。</p> <p>2) ABDによる読書法を身につけている。</p> <p>3) チームワーク能力を身につけ、対話を通じて協働学習をすることができる。</p> <p>4) SDGs (Sustainable Development Goals) について基本的な知識を身につけている。</p> <p>5) 読書の意義を理解して読書習慣を身につけている。</p> <p>6) コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得する。アクティブ・ブック・ダイアログ (ABD) 読書術を中心として、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験する。 本科目は、これまでの講義とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるため、学生が積極的に参加することが大切である。 1限目では、受講者は事前学習で指定された教科書の箇所を読書したり、不明な用語など調べた内容につ
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識が身につく、ABD 読書法等の協働学習により、文章の要約、プレゼンテーション、対話の基本が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	枚方 CP 学修キックオフ・セミナー 4月6日 (9:20~10:50)	チームビルディングの研修プログラム (農学部・看護学部・薬学部合同) 枚方キャンパスの学生相互のワークを通して大学の学びについて考える。	
2	枚方 CP 学修キックオフ・セミナー 4月6日 (11:00~12:30)	チームビルディングの研修プログラム	
3	「星の王子さま」① 4月13日 (9:20~10:50)	アイスブレイク、授業のガイダンス 「星の王子さま」の指定箇所について読み、要約し、サマリーシート作成、発表する。 読む力、まとめる力、表現する力を養う。	事前:「星の王子さま」についての調べ学習 (約1時間) (1) 著者やこの本が書かれた時代背景などを調べる。 (2) 不明な語句などを調べる。 (1)と(2)を記録する。 事前学習内容については、各授業日の始めに理解度確認テスト (moodle)として実施する。
4	「星の王子さま」① 4月13日 (11:00~12:30)	質問づくり (QFT) ワークの説明と実践、ふりかえりシートの作成と提出 質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後:「星の王子さま」① (約30分) 授業で学修した教科書の箇所を、最初から通して読む。自分が気になった箇所や、著者の考え方をメモする。
5	「星の王子さま」② 4月20日 (9:20~10:50)	「星の王子さま」の指定箇所について読み、理解して要約し、サマリーシート作成、発表する。 読む力、まとめる力、表現する力を養う。	事前:「星の王子さま」② (約1時間) (1) 著者やこの本が書かれた時代背景などを調べる。 (2) 不明な語句などを調べる。 (1)と(2)を記録する。 事前学習内容については、各授業日の始めに理解度確認テスト (moodle)として実施する。
6	「星の王子さま」② 4月20日 (11:00~12:30)	質問づくり (QFT) ワークの実践、ふりかえりシートの作成と提出 質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後:「星の王子さま」② (約30分) 授業で学修した教科書の箇所を、最初から通して読む。自分が気になった箇所や、著者の考え方をメモする。
7	「星の王子さま」③ 4月27日 (9:20~10:50)	「星の王子さま」の指定箇所について読み、理解して要約し、サマリーシート作成、発表する。 読む力、まとめる力、表現する力を養う。	事前:「星の王子さま」③ (約1時間) (1) 著者やこの本が書かれた時代背景などを調べる。 (2) 不明な語句などを調べる。 (1)と(2)を記録する。 事前学習内容については、各授業日の始めに理解度確認テスト (moodle)として実施する。
8	「星の王子さま」③ 4月27日 (11:00~12:30)	質問づくり (QFT) ワークの実践、ふりかえりシートの作成と提出 質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後:「星の王子さま」③ (約30分) 授業で学修した教科書の箇所を、最初から通して読む。自分が気になった箇所や、著者の考え方をメモする。
9	「未来の年表」① 5月11日 (9:20~10:50)	「未来の年表」の指定箇所 (人口減少カレンダー2033~2065 年前半) について読み、理解して要約し、サマリーシート作成、発表する。 読む力、まとめる力、表現する力を養う。	事前:「未来の年表」① (約1時間) (1) 著者やこの本が書かれた時代背景などを調べる。 (2) 不明な語句などを調べる。 (1)と(2)を記録する。 事前学習内容については、各授業日の始めに理解度確認テスト (moodle)として実施する。
10	「未来の年表」①	質問づくり (QFT) ワークの実践、ふり	事後:「未来の年表」① (約30分)

	5月11日 (11:00~12:30)	かえりシートの作成と提出 質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	授業で学修した教科書の箇所を、最初から通して読む。自分が気になった箇所や、著者の考えなどをメモする。																
11	「未来の年表」② 5月18日 (9:20~10:50)	「未来の年表」の指定箇所(人口減少カレンダー2033~2065年後半)について読み、理解して要約し、サマリーシート作成、発表する。 読む力、まとめる力、表現する力を養う。	事前:「未来の年表」②(約1時間) (1)著者やこの本が書かれた時代背景などを調べる。 (2)不明な語句などを調べる。 (1)と(2)を記録する。 事前学習内容については、各授業日の始めに理解度確認テスト(moodle)として実施する。																
12	「未来の年表」② 5月18日 (11:00~12:30)	質問づくり(QFT)ワークの実践、ふりかえりシートの作成と提出 質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後:「未来の年表」②(約30分) 授業で学修した教科書の箇所を、最初から通して読む。自分が気になった箇所や、著者の考えなどをメモする。																
13	3~12回の総括 5月25日 (11:00~12:30)	3~12回の総括 筆記試験に関するアナウンス	事前:授業で学修した教科書の箇所を、最初から通して読む。(約1時間) (1)著者やこの本が書かれた時代背景などを調べる。 (2)不明な語句などを調べる。																
14	「SDGs(持続可能な開発目標)のゲームの実践」 5月25日 (13:20~14:50)	「SDGs(持続可能な開発目標)のゲームの実践」 講義担当;認定ファシリテーター大塚正人	事前:「SDGs」(約1時間) (1)「SDGs」について読むべき資料をTeamsへアップする。各自通して読む。(2)不明な語句などを調べる。(1)と(2)を記録する。 事前学習内容については、各授業日の始めに理解度確認テスト(moodle)として実施する。																
15	SDGsにかかる最新事情 5月25日 (15:00~16:30)	サマリーシート作成、発表する。 また、発表後、グループ内で対話し、ふりかえりシート作成と提出 講義担当;認定ファシリテーター大塚正人	事後:「SDGs」(約30分) 授業で学修した箇所を、再度学習する。自分が気になった箇所や、考えなどをメモする。																
関連科目	摂南大学で開講されている科目すべて。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>星の王子さま</td> <td>サン＝テグジュペリ著(河野万里子訳)</td> <td>新潮文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>未来の年表</td> <td>河合雅司</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	星の王子さま	サン＝テグジュペリ著(河野万里子訳)	新潮文庫	2	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	星の王子さま	サン＝テグジュペリ著(河野万里子訳)	新潮文庫																
2	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	サマリーシート(10%)、ふりかえりシート(10%)、理解度確認テスト(前10%:事前学習の評価、後10%:ABD実施による読書内容の理解度評価)、グループワーク取り組み姿勢の評価(20%:グループワークでの討論を踏まえた共同作業・成果を含む)、期末テスト(40%)以上の評価点の合計で60%以上を合格する。原則全ての授業に出席していること。																		
学生へのメッセージ	大学生としてふさわしい教養の基礎と主体的な学習方法が身につく、さらに学部学科を超えて友人を作ることが出来るでしょう。																		
担当者の研究室等	山居 輝美(看護学部7号館 研究室3) 北村 敦子(看護学部7号館 共同研究室3) 大塚 正人(薬学部1号館5F 331)																		
備考	事前学習課題(各時間約1時間)・事後学習課題(各時間約30分)																		

科目名	日本語表現法	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OJA1402a2		

授業概要・目的
 文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。
 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する力」を養成することに重点を置く。
 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。

到達目標
 適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。

授業方法と留意点
 講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。
 2回の課題を提出し、最後にレポートを提出する。
 ほぼ毎回、語彙力・表現力を養成する小テストを行う。

科目学習の効果 (資格)
 授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)
2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)
4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)
6	フィードバック	課題1のフィードバック	授業終了後、フィードバックした内容を課題1に反映し見直しをすること(1時間)
7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)
10	意見を述べる 【課題2】論説文	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ 論説文の構成を考える	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)
11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)
12	フィードバック レポートの書き方1・2	課題2のフィードバック レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	授業終了後、フィードバックした内容を課題2に反映し見直しをすること(1時間) 指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)
13	【レポート】	レポートの構成、資料に取り組む	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおく、レポートを作成の準備をしておくこと(1時間)
14	【レポート】	レポートを提出する	指定した教科書を(該当ページ)を事前に読んでおく、レポートを作成の準備をしておくこと(1時間)
15	レポートの講評	レポートについて講評する	授業終了後、フィードバックした内容をレポートに反映し見直しをすること(1時間)

関連科目
 すべての授業の日本語による課題作成

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)
 課題2回(20%×2)、レポート(30%)、授業態度(呼应状態・積極性)・小テスト(30%)により評価する。
 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。

学生へのメッセージ
 日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。

担当者の研究室等
 1号館2階(非常勤講師室)

備考
 事前・事後学習の総時間の目安は、15時間。
 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現法	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	筒井 大祐
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OJA1402a2		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	この授業を通じて学生には、適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。本講義は、文章作成を一方向的に講義するのではなく、受講者が実際に文章を書きながら、文章作成を習得することを目指す。そのため、講義内に練習問題や課題の作成を課す。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入・講義の進め方について	授業の目的、進め方の説明	1時間の事前事後学習を目安とする。
	2	わかりやすい文章とは何か	わかりやすい文章とは何かを考える	1時間の事前事後学習を目安とする。
	3	文章の書き方1	レポート・論文の基本事項を確認する	1時間の事前事後学習を目安とする。
	4	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
	5	事実と意見	事実と意見、説明文の書き方	1時間の事前事後学習を目安とする。
	6	【課題1】意見文	意見文を書く	1時間の事前事後学習を目安とする。
	7	段落	レポートなどの文章構成を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
	8	文章を引用方法 (直接引用)	文章を引用する (直接引用)	1時間の事前事後学習を目安とする。
	9	文章の引用方法 (間節引用・要約)	文章を引用する (間節引用) 要約	1時間の事前事後学習を目安とする。
	10	課題1のフィードバック	意見を書く：フィードバック	1時間の事前事後学習を目安とする。
	11	【課題2】のレポートの構成を考える	問題提起 テーマに関する資料を集める	1時間の事前事後学習を目安とする。
	12	【課題2】資料を引用し、意見を書く	問題提起を行ったうえで、資料を引用して意見を書く	1時間の事前事後学習を目安とする。
	13	【課題3】のテーマ説明	【課題3】のレポートのテーマの説明、構成を考える	1時間の事前事後学習を目安とする。
	14	【課題3】の作成	論説文を書く	レポートを作成する
	15	文章作成に関するまとめ	これまでの文章作成に関して、まとめを行う	これまでの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題2回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テストなど (30%) により評価する。 提出が必須の課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
-----------	--

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語 (話し言葉) と、レポートなどで書く日本語 (書き言葉) は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、文章表現の方法を勉強していきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等備考	
------------	--

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 芳子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1403c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
2	Unit 1 People	Reading 1	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 1 People	Reading 2	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 1 People	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 2 Climate	Reading 2	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 2 Climate	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 3 Lifestyle	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 4 Places	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
14	Unit 1 - 4	Online Workbook による総復習	事前学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Unit 1-4 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 II a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	予習、復習、課題、テストの準備を必ずしてください。			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考				

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	永野 喜子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1403c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
2	Unit 1 People	Reading 1	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 1 People	Reading 2	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 1 People	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 2 Climate	Reading 2	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 2 Climate	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 3 Lifestyle	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 4 Places	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
14	Unit 1 - 4	Online Workbook による総復習	事前学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Unit 1-4 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 II a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	言うまでもなく、授業に出席するときは、必ず自分自身の教科書を持参してください。 毎回の授業の予習・復習を徹底的に行い、少しでも疑問点があれば、次回の授業のなかで質問してください。			
担当者の 研究室等	8号館 1階非常勤講師室			
備考				

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1 年	クラス	3
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	木村 理恵子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1403c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
2	Unit 1 People	Reading 1	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 1 People	Reading 2	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 1 People	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 2 Climate	Reading 2	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 2 Climate	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 3 Lifestyle	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 4 Places	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
14	Unit 1 - 4	Online Workbook による総復習	事前学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習: Unit 1-4 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 II a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	(1) 授業課題の締め切り日を厳守すること (2) テキスト持参必須 (3) 参考図書は購入の必要なし。授業中の資料として出典として利用			
担当者の 研究室等	8号館 1階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	井上 寿美
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1404c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: テキストの指示 p. 139 に従い StreamLine にアクセスする (0.5 時間)
2	Unit 1 Meeting New People	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 1 Meeting New People	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 2 School Life	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 3 Seeing a Doctor	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 4 Expressing Yourself	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 5 Getting Around	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 6 Talking about the Time	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
14	Review 1	Part I から Part VII	事前学習: Unit 1-6 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習: Unit 1-6 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 II b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	<p>いただいたご縁を大切に、共に学んで行きたいと思ひます。 声を出して頑張つてまいりましよう。 よろしくお願ひします。</p>			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考				

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曾我 直隆
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1404c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: テキストの指示 p. 139 に従い StreamLine にアクセスする (0.5 時間)
2	Unit 1 Meeting New People	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 1 Meeting New People	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 2 School Life	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 3 Seeing a Doctor	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 4 Expressing Yourself	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 5 Getting Around	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 6 Talking about the Time	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
14	Review 1	Part I から Part VII	事前学習: Unit 1-6 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習: Unit 1-6 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 II b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	<p>入学おめでとう。これからの4年間、どんなことをやりたいですか。ひとりで外国を旅してくるのはどうでしょう。若い旅行者の集まる安宿が、どこの国にもあります。そこに泊まって、いろいろな国の人と話をしてみましょう。今のあなたの英語力でも大丈夫。インド英語、中国英語、ヒスパニック英語... いろいろな英語に触れれば、自分のジャパニーズ イングリッシュも臆せず使えるようになります。</p> <p>海外での一人旅は、自分のことや日本のことを見つめ直す機会にもなるでしょう。帰国する頃には、ひとまわり大きくなった自分に気づくかもしれません</p>			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考				

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	3
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	永野 喜子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1404c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでおくこと (0.5 時間) 事後学習: テキストの指示 p. 139 に従い StreamLine にアクセスする (0.5 時間)
2	Unit 1 Meeting New People	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 1 の内容を予習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 1 Meeting New People	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 1 の内容を予習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 2 の内容を予習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 2 School Life	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 2 の内容を予習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 3 の内容を予習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 3 Seeing a Doctor	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 3 の内容を予習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 4 の内容を予習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 4 Expressing Yourself	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 4 の内容を予習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 5 の内容を予習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 5 Getting Around	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 5 の内容を予習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 6 の内容を予習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 6 Talking about the Time	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 6 の内容を予習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
14	Review 1	Part I から Part VII	事前学習: Unit 1-6 の内容を復習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習: Unit 1-6 の内容を復習しておくこと (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 II b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	言うまでもなく、授業に出席するときは、必ず自分自身の教科書を持参してください。 毎回の授業の予習・復習を徹底的に行い、少しでも疑問点があれば、次回の授業のなかで質問してください。			
担当者の 研究室等 備考	8号館 1階非常勤講師室			

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松浦 芳子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1405c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
2	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 5 JOBS	Reading 2	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 5 JOBS	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 2	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 8 TRANSPORTATION	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
14	Unit 5 - 8	Online Workbook による総復習	事前学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 5 から Unit 8 の総復習	事前学習: Unit 5-8 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 I a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	予習、復習、課題、テストの準備を必ずしてください。			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考				

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	梅野 真実
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1405c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること(0.5時間)
2	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
3	Unit 5 JOBS	Reading 2	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
4	Unit 5 JOBS	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
5	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
6	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
7	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
8	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
9	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
10	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
11	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
12	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 2	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
13	Unit 8 TRANSPORTATION	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
14	Unit 5 - 8	Online Workbook による総復習	事前学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 5 から Unit 8 の総復習	事前学習: Unit 5-8 まで復習すること(0.5時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5時間)

関連科目	基礎英語 I a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	8号館1階非常勤講師室			
備考				

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	3
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木村 理恵子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1405c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
2	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 5 JOBS	Reading 2	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 5 JOBS	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 2	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 8 TRANSPORTATION	Language Development / Watch and Listen	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
14	Unit 5 - 8	Online Workbook による総復習	事前学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 5 から Unit 8 の総復習	事前学習: Unit 5-8 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習: Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 I a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	(1) 授業課題の締め切り日を厳守すること (2) テキスト持参必須 (3) 参考図書は購入の必要なし。授業中の資料として出典として利用			
担当者の 研究室等	8号館1階非常勤講師室			
備考				

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIb
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井上 寿美
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1406c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで英語 Ib で学んだ内容を復習すること (0.5 時間)
2	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 7 Eating Out	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 8 At the Supermarket	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 9 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 9 Hobbies	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 9 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 10 Shop Till You Drop	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 10 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 10 Shop Till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 10 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 11 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 11 Going on Vacation	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 11 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 12 Sports	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 12 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 12 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習: Unit 7-12 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 7 から Unit 12 の総復習	事前学習: Unit 7-12 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 I b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	<p>いただいたご縁を大切に、共に学んで行きたいと思ひます。 声を出して頑張つてまいりましよう。 よろしくお願ひします。</p>			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考				

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIb
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曾我 直隆
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1406c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッケージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで英語 Ib で学んだ内容を復習すること (0.5 時間)
2	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 7 Eating Out	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 8 At the Supermarket	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 9 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 9 Hobbies	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 9 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 10 Shop Till You Drop	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 10 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 10 Shop Till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 10 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 11 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 11 Going on Vacation	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 11 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 12 Sports	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 12 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 12 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習: Unit 7-12 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 7 から Unit 12 の総復習	事前学習: Unit 7-12 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 I b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ	後期の授業では、よりアウトプット（書く・話す）を意識した訓練を行っていきます。相手に伝えたい内容が少し複雑だったりすると、「自分の英語力では無理だ」と諦めていませんか。皆さんが持っている英語の知識（単語・文法など）は、既に膨大な量です。それらをうまく組み合わせることで、複雑な内容でも簡単な表現で伝えることができますようになります。そのための様々な訓練を行っていきます。楽しみながら力をつけてください。			
担当者の 研究室等 備考	1号館2階非常勤講師室			

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1 年	クラス	3
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	梅野 真実
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1406c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで英語 Ib で学んだ内容を復習すること (0.5 時間)
2	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 7 Eating Out	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 7 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 8 At the Supermarket	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 8 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 9 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 9 Hobbies	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 9 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 10 Shop Till You Drop	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 10 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 10 Shop Till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 10 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 11 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 11 Going on Vacation	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 11 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 12 Sports	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習: Unit 12 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習: Unit 12 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した項目を復習すること (0.5 時間)
14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習: Unit 7-12 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 7 から Unit 12 の総復習	事前学習: Unit 7-12 の内容を復習してくること (0.5 時間) 事後学習: リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語 I b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	8号館1階非常勤講師室			
備考				

科目名	実践英語 I	科目名 (英文)	Practical English I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	加納 築
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2407c2		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」として、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業計画と評価方法の確認 Let's talk about yourself! Pre-Unit	授業導入 (ガイダンス) Warm Up activities	Unit 1 の予習 (課題) (1時間)
	2	Unit 1: Small Talk 日常生活	Listening & Speaking	Listening & Speaking の復習 Grammar, Reading & Writing の予習 (課題) (予習・復習合わせて1時間)
	3	Unit 1: Small Talk 日常生活	Grammar, Reading & Writing	Grammar, Reading & Writing の復習 Unit 2 の予習 (課題) (予習・復習合わせて1時間)
	4	Unit 2: Human Relations 人間関係・コミュニケーション	Listening & Speaking	Listening & Speaking の復習 Grammar, Reading & Writing の予習 (課題) (予習・復習合わせて1時間)
	5	Unit 2: Human Relations 人間関係・コミュニケーション	Grammar, Reading & Writing	Grammar, Reading & Writing の復習 Unit 3 の予習 (課題) (予習・復習合わせて1時間)
	6	Unit 3: Culture and Globalization 言葉・文化	Listening & Speaking	Listening & Speaking の復習 Grammar, Reading & Writing の予習 (課題) (予習・復習合わせて1時間)
	7	Unit 3: Culture and Globalization 言葉・文化	Grammar, Reading & Writing	Grammar, Reading & Writing の復習 Unit 4 の予習 (課題) 中間テストに向けて、これまでの Unit を復習 (予習・復習合わせて1時間)
	8	中間テスト Unit 4: Healthy Life 健康・医療	中間テスト Listening & Speaking	Listening & Speaking の復習 Grammar, Reading & Writing の予習 (課題) (予習・復習合わせて1時間)
	9	Unit 4: Healthy Life 健康・医療	Grammar, Reading & Writing	Grammar, Reading & Writing の復習 Unit 5 の予習 (課題) (予習・復習合わせて1時間)
	10	Unit 5: Future Careers 職業・キャリア	Listening & Speaking	Listening & Speaking の復習 Grammar, Reading & Writing の予習 (課題) (予習・復習合わせて1時間)
	11	Unit 5: Future Careers 職業・キャリア	Grammar, Reading & Writing	Grammar, Reading & Writing の復習 Unit 6 の予習 (課題) (予習・復習合わせて1時間)
	12	Unit 6: That Shirt Suits You! ファッション	Listening & Speaking	Listening & Speaking の復習 Grammar, Reading & Writing の予習 (課題) (予習・復習合わせて1時間)
	13	Unit 6: That Shirt Suits You! ファッション	Grammar, Reading & Writing	Grammar, Reading & Writing の復習 Unit 7 の予習 (課題) (予習・復習合わせて1時間)
	14	Unit 7: Taking a Trip 旅行・観光	Listening & Speaking Grammar, Reading & Writing	最終テストの準備 (1時間)
	15	Course Review 最終テスト	これまでの総括と復習 最終テスト	これまでの学習内容の振り返り (1時間)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TARGET! pre-intermediate のターゲット演習【準中級】	総合英語 森田 彰、飯尾 牧子、橋本 健広、佐竹 幸信、Gordon Myskow	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への積極的な参加態度 (個人ワーク、ペアワーク、発表、課題、クラスへの貢献度など) : 30% 中間テスト : 30% 最終テスト : 40%
学生への メッセージ	この科目では、英語の4技能をバランスよく駆使しながら、コミュニケーション能力の向上を重視した学習をしていきます。実際に英語が使える楽しさを実感してください。
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 8号館 1階 非常勤講師室
備考	予習や課題を行う際には、各自辞書を活用すること。(必要に応じて授業時にも) また授業時間外での質問等は、授業終了後に教室や非常勤講師室で相談可能。

科目名	実践英語 I	科目名 (英文)	Practical English I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浅井 玲子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2407c2		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1 Introducing Yourself	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
3	Unit 1 Introducing Yourself	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
4	Unit 2 Introducing Companies	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
5	Unit 2 Introducing Companies	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
6	Unit 3 Explaining Your Role	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
7	Unit 3 Explaining Your Role	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
8	Review 音読テスト 小テスト①	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
9	Unit 5 Checking Information	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
10	Unit 5 Checking Information	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
11	Unit 6 Giving your Opinion	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
12	Unit 6 Giving your Opinion	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
13	Review 小テスト② Preparation for Presentation①	テストを受ける プレゼンに向けて準備をする	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
14	Unit 7 Making Request Preparation for Presentation②	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える プレゼンに向けて準備をする	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
15	Presentation	英文を覚えて発表する	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Go Global English for Global Business</td> <td>Garry Pearson Graham Skerritt Hiroshi Yoshizuka</td> <td>SEIBIDO</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Go Global English for Global Business	Garry Pearson Graham Skerritt Hiroshi Yoshizuka	SEIBIDO	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Go Global English for Global Business	Garry Pearson Graham Skerritt Hiroshi Yoshizuka	SEIBIDO													
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	授業への参加、貢献 (小テスト30%、レポート30%、音読テスト・プレゼン・授業中の発言等30%、授業開始時に登録する English Central 内の Go Global の進捗10%)
学生への メッセージ	この科目では、積極的に英語で話すことを目的としています。そのためには、まず、e-learning 等も積極的に利用して、英語を聞くことと音読する練習を各自行ってください。ペア活動も取り入れていきます。一年間楽しく学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	8号館1階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅱ	科目名 (英文)	Practical English II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加納 築
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2408c2		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」として、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	授業計画と評価方法の確認 How was your summer vacation?	授業導入(ガイダンス) Warm Up activities (後期のUnitへ向けて肩慣らし)	Unit 8の予習(課題)(1時間)
2	Unit 8: Do You Like Sports? スポーツ	Listening & Speaking	Listening & Speakingの復習 Grammar, Reading & Writingの予習(課題)(予習・復習合わせて1時間)
3	Unit 8: Do You Like Sports? スポーツ	Grammar, Reading & Writing	Grammar, Reading & Writingの復習 Unit 9の予習(課題)(予習・復習合わせて1時間)
4	Unit 9: Let's Do Something Fun! レジャー・エンタメ	Listening & Speaking	Listening & Speakingの復習 Grammar, Reading & Writingの予習(課題)(予習・復習合わせて1時間)
5	Unit 9: Let's Do Something Fun! レジャー・エンタメ	Grammar, Reading & Writing	Grammar, Reading & Writingの復習 Unit 10の予習(課題)(予習・復習合わせて1時間)
6	Unit 10: Art Appreciation アート	Listening & Speaking	Listening & Speakingの復習 Grammar, Reading & Writingの予習(課題)(予習・復習合わせて1時間)
7	Unit 10: Art Appreciation アート	Grammar, Reading & Writing	Grammar, Reading & Writingの復習 Unit 11の予習(課題) 中間テストに向けて、これまでのUnitを復習(予習・復習合わせて1時間)
8	中間テスト Unit 11: Let's Eat Out! 食	中間テスト Listening & Speaking	Listening & Speakingの復習 Grammar, Reading & Writingの予習(課題)(予習・復習合わせて1時間)
9	Unit 11: Let's Eat Out! 食	Grammar, Reading & Writing	Grammar, Reading & Writingの復習 Unit 12の予習(課題)(予習・復習合わせて1時間)
10	Unit 12: A Career in International Business ビジネス	Listening & Speaking	Listening & Speakingの復習 Grammar, Reading & Writingの予習(課題)(予習・復習合わせて1時間)
11	Unit 12: A Career in International Business ビジネス	Grammar, Reading & Writing	Grammar, Reading & Writingの復習 Unit 13の予習(課題)(予習・復習合わせて1時間)
12	Unit 13: Science for the Future サイエンス	Listening & Speaking Grammar, Reading & Writing	Listening & Speakingの復習 Grammar, Reading & Writingの復習 Unit 14の予習(課題)(予習・復習合わせて1時間)
13	Unit 14: Technology and Modern Life 産業・テクノロジー	Listening & Speaking Grammar, Reading & Writing	Listening & Speakingの復習 Grammar, Reading & Writingの復習 Unit 15の予習(課題)(予習・復習合わせて1時間)
14	Unit 15: Saving the Environment 環境	Listening & Speaking Grammar, Reading & Writing	最終テストの準備 (1時間)
15	Course Review 最終テスト	これまでの総括と復習 最終テスト	これまでの学習内容の振り返り (1時間)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>TARGET! pre-intermediate のターゲット演習【準中級】</td> <td>森田 彰、飯尾 牧子、橋本 健広、佐竹 幸信、Gordon Myskow</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	TARGET! pre-intermediate のターゲット演習【準中級】	森田 彰、飯尾 牧子、橋本 健広、佐竹 幸信、Gordon Myskow	金星堂	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	TARGET! pre-intermediate のターゲット演習【準中級】	森田 彰、飯尾 牧子、橋本 健広、佐竹 幸信、Gordon Myskow	金星堂													
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1											
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
1																	

	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への積極的な参加態度（個人ワーク、ペアワーク、発表、課題、クラスへの貢献度など）：30% 中間テスト：30% 最終テスト：40%			
学生への メッセージ	この科目では、英語の4技能をバランスよく駆使しながら、コミュニケーション能力の向上を重視した学習をしていきます。実際に英語が使える楽しさを実感してください。			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス8号館1階 非常勤講師室			
備考	予習や課題を行う際には、各自辞書を活用すること。(必要に応じて授業時にも) また授業時間外での質問等は、授業終了後に教室や非常勤講師室で相談可能。			

科目名	実践英語Ⅱ	科目名 (英文)	Practical English II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅井 玲子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2408c2		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 7 Making Requests	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
3	Unit 8 Asking Permission	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
4	Unit 8 Asking Permission	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
5	Unit 9 Making Invitations	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
6	Unit 9 Making Invitations	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
7	Unit 10 Making Appointments	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
8	Review 音読テスト 小テスト①	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
9	Unit 10 Making Appointments	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
10	Unit 11 Canceling and Rescheduling	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
11	Unit 11 Canceling and Rescheduling	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
12	Unit 12 Describing Locations Preparation for Presentation①	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Original Dialogue の作成 (ペア)	Original Dialogue の作成 (ペア) 教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
13	Review 小テスト② Preparation for Presentation②	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Original Dialogue の練習	Original Dialogue の練習 (ペア) 教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
14	Presentation	Original Dialogue の発表を行う (ペア) *Memory, Pronunciation, Emotion, Content などが評価基準となる	ダイアログの音読練習をして発表できるようにしておく。
15	Unit 14 Making a Phone Call Unit 15 Taking Messages	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Go Global English for Global Business</td> <td>Garry Pearson Graham Skerritt Hiroshi Yoshizuka</td> <td>SEIBIDO</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Go Global English for Global Business	Garry Pearson Graham Skerritt Hiroshi Yoshizuka	SEIBIDO	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Go Global English for Global Business	Garry Pearson Graham Skerritt Hiroshi Yoshizuka	SEIBIDO													
	2																
3																	
参考書																	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業参加と貢献 (小テスト30%、レポート30%、音読・プレゼン・授業中の発言30%、English Central内のGo Globalの取り組み10%)			
学生への メッセージ	この科目では、積極的に英語で話すことを目的としています。そのためには、まず、e-learning 等も積極的に利用して、英語を聞くことと音読する練習を各自行ってください。ペア活動も取り入れていきます。年間楽しく学んでいきましょう。			
担当者の 研究室等	8号館1階非常勤講師室			
備考				

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 峰子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN3409c2		

授業概要・目的	基本的な表現や語彙、文法の知識を使って日常生活やビジネスの場面において意思疎通を図る力を育むことを目的とします。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・会話で使う基本的語彙、文法の知識を習得する。 ・学んだ表現や語彙、文法の知識を使って、話したり聞き取りができるようになる。
授業方法と留意点	<p>[授業方法] TOEIC 形式の問題を解きながら語彙、表現、文法を学び、会話やスピーチの聞き取り練習、個人やグループでの発話練習をします。</p> <p>[留意点] 辞書を携帯すること。 5回以上欠席した場合は、履修を放棄したものとみなします。 遅刻2回で1回欠席、30分以上の遅刻は欠席とみなします。中途退室は遅刻同様に扱います。 テキスト忘れ、スマートフォンなど通信機器の必要と認めた場合を除いての使用、私語など授業の円滑な進行を妨げる行いは減点の対象となります。 授業を欠席した際のフォロー（宿題や課題）</p>
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法などの説明	シラバス、テキストの構成を確認する。
2	Unit 1 注文した商品の確認、旅行代理店からの留守番電話	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ 	指定の範囲を学習する。
3	Unit 1 注文した商品の確認、旅行代理店からの留守番電話 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ 	指定の範囲を学習する。
4	Unit 2 会議の延期、輸入税の規制	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ 	指定の範囲を学習する。
5	Unit 2 会議の延期、輸入税の規制 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ 	指定の範囲を学習する。
6	Unit 3 自転車の購入、銀行の音声ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ 	指定の範囲を学習する。
7	Unit 3 自転車の購入、銀行の音声ガイダンス (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ 	指定の範囲を学習する。
8	前半学習の確認	Unit 1-Unit 3 の内容について理解を深め、到達度を確認する。	既習の学習内容を整理、補足、復習を行うこと。
9	Unit 4 旅行についての会話、ツアーのガイド	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ 	指定の範囲を学習する。
10	Unit 4 旅行についての会話、ツアーのガイド (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ 	指定の範囲を学習する。
11	Unit 5 職業についての悩み、会社のコストに関するグラフ	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ 	指定の範囲を学習する。
12	Unit 5 職業についての悩み、会社のコストに関するグラフ (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ 	指定の範囲を学習する。
13	Unit 6 ミーティングの日時、退職者の挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ 	指定の範囲を学習する。
14	Unit 6 ミーティングの日時、退職者の挨拶 (2) / 後半学習の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ ・Unit 4-Unit 6 の内容について理解を深め、到達度を確認する 	指定の範囲を学習する。 既習の学習内容を整理、補足、復習を行うこと。
15	学習内容の確認と総括	補足、総復習	既習の学習内容を整理し、復習する。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC L&R TEST リスニング&ヴォキャブラリー徹底演習	古家 聡 / 藤岡美香子 / Geoffrey Tozer	三修社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	クラスワーク (発表、グループワーク・ペアワークへの参加) : 60% テスト : 40%		
学生への メッセージ	学習する姿勢を評価します。積極的に授業に参加してください。		
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室		
備考	授業の準備として、知らない語句や表現は辞書を使って意味・用例を確認しておくこと。 毎回の授業のための準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とします。 質問等は授業前後に教室で受け付けます。		

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萬田 恵子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN3409c2		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 英語で話したり聞いたりするための基礎的な知識と技術を身につけることを目的として、発話・聞き取りを中心とする演習授業を行う。 会話の想定場面は、自分に関わること (例. 自己紹介や専攻分野の紹介など) や英語をコミュニケーション手段としたキャンパス内での会話を中心とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的なフレーズや基礎的文法知識を確認し、発話・聞き取りの素地を強化する。 基本的文法知識や平易な表現を使って話せるようになる。 基本的なフレーズを聞き取り、理解できるようになる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 基本的なフレーズや文法事項を確認しながら、テキストに従って、個人、ペア、グループでの聞き取り・発話練習・ロールプレイを行います。題材によっては全体での発表も行います。演習型の授業なので、授業内の学習活動に積極的に参加し貢献する姿勢が重要な評価項目となります。 予習課題を全9回予定しています。小テストは全10回予定しています。予習課題で基本的なフレーズの聞き取りをし、授業内でそのフレーズや関連する文法事項を強化していきます。さらに、翌週の小テストによって定着を目指します。予習→授業→小テストと良い
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活における英語を使った発話・聞き取り能力の向上 TOEIC や英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を用いて、授業の進め方や評価方法などを説明する。 ペア・グループ等で自己紹介活動を行う。 リアクション・ペーパーを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> Teams に登録する。 テキストの音声ダウンロードする。 予習課題1 (Unit 1)
	2	Unit 1 Meeting people	<ul style="list-style-type: none"> 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト1 (Unit 1) に向けて学習 予習課題2 (Unit 2)
	3	Unit 2 Getting to know your classmates	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト1 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト2 (Unit 2) に向けて学習 予習課題3 (Unit 3)
	4	Unit 3 Talking about classes	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト2 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト3 (Unit 3) に向けて学習 予習課題4 (Unit 4)
	5	Unit 4 Talking about your daily life	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト3 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト4 (Unit 4) に向けて学習 予習課題5 (Unit 5)
	6	Unit 5 Talking about people: personality	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト4 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト5 (Unit 5) に向けて学習
	7	Unit 1~Unit 5 復習と強化	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト5 基本フレーズの聞き取りと発話の強化 文法事項の復習と強化 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	Unit 1~Unit 5 の学習内容について、整理と復習を行い、達成度テスト①に備える。
	8	達成度テスト①	<ul style="list-style-type: none"> Unit 1~Unit 5 の内容について理解を深め、記憶を強化し、達成度を確認する。 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 予習課題6 (Unit 7)
	9	Unit 7 Talking about last weekend	<ul style="list-style-type: none"> 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト6 (Unit 7) に向けて学習 予習課題7 (Unit 9)
	10	Unit 9 Talking about going out on the town	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト6 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト7 (Unit 9) に向けて学習 予習課題8 (Unit 11)
	11	Unit 11 Talking about travel	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト7 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト8 (Unit 11) に向けて学習 予習課題9 (Unit 12)
	12	Unit 12 Talking about hometowns	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト8 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト9 (Unit 12) に向けて学習
13	Unit 7, 9, 11, 12 復習と強化	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト9 基本フレーズの聞き取りと発話の強化 	Unit 7, 9, 11, 12 の学習内容について、整理と復習を行い、達成度テスト②に備える。	

			<ul style="list-style-type: none"> ・文法事項の復習と強化 ・ペア、グループワークで発話練習 ・リアクション・ペーパーの記入 	
	14	達成度テスト② Unit 14 Talking about future plans	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 7, 9, 11, 12 の内容について理解を深め、記憶を強化し、達成度を確認する。 ・Unit 14 の基本フレーズ・聞き取り練習 ・リアクション・ペーパーの記入 	・小テスト10 (Unit 14) に向けて学習
	15	講義全体の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト10 ・学生による授業評価アンケート ・リアクション・ペーパーを基に自分の学習を振り返る。 	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	New Time to Communicate	Eric Bray	南雲堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み (リスニング演習の解答、ペア・グループ活動への参加姿勢、投げかける質問に対する応答など)、予習課題、リアクション・ペーパー・・・ 40% ・小テスト・・・ 20% ・達成度テスト① (ペーパーテスト/発表)・・・ 20% ・達成度テスト② (ペーパーテスト/発表)・・・ 20% 以上を総合評価します。			
学生への メッセージ	みなさんそれぞれが「個性」や「文化」を持っておられて、その「個性」や「文化」が集い、同じ空間と同じ時間を共有しながら学ぶことが「授業」の醍醐味のひとつと感じております。さらに、演習型の授業では、自己表現の機会も多くなりますので、コミュニケーションの楽しさだけでなく、緊張や不安などの感情も巻き込んだ学習となります。それが「外国語」ともなると、母語でのコミュニケーション以上に色々な感情との出会いがあるかと思えます。お互いの個性を尊重しながら、「失敗しても大丈夫!」「今日出来なかったことは次こそ!」と次につな			
担当者の 研究室等	農学部 非常勤講師控え室			
備考				

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 峰子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN3410c2		

授業概要・目的	基本的な表現や語彙、文法の知識を使って日常生活やビジネスの場面において意思疎通を図る力を育むことを目的とします。
到達目標	・会話で使う基本的語彙、文法の知識を習得する。 ・学んだ表現や語彙、文法の知識を使って、話したり聞き取りできるようになる。
授業方法と留意点	[授業方法] TOEIC 形式の問題を解きながら語彙、表現、文法を学び、会話やスピーチの聞き取り練習、個人やグループでの発話練習をします。 [留意点] 辞書を携帯すること。 5 回以上欠席した場合は、履修を放棄したものとみなします。 遅刻 2 回で 1 回欠席、30 分以上の遅刻は欠席とみなします。中途退室は遅刻同様に扱います。 テキスト忘れ、スマートフォンなど通信機器の必要と認めた場合を除いての使用、私語など授業の円滑な進行を妨げる行いは減点の対象となります。 授業を欠席した際のフォロー（宿題や課題）
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法などの説明	シラバス、テキストの構成を確認する。
2	Unit 7 券売機の使い方の説明, オススメのコーヒー	・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
3	Unit 7 券売機の使い方の説明, オススメのコーヒー (2)	・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
4	Unit 8 会議室の場所の変更, ネット広告の宣伝	・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
5	Unit 8 会議室の場所の変更, ネット広告の宣伝 (2)	・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
6	Unit 9 会社の合併吸収, 雇用契約の延長	・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
7	Unit 9 会社の合併吸収, 雇用契約の延長 (2)	・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
8	前半学習の確認	Unit 7-Unit 9 の内容について理解を深め、到達度を確認する	既習の学習内容を整理、補足、復習を行うこと。
9	Unit 10 フライトチケットの間違い, 会社の規模縮小	・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
10	Unit 10 フライトチケットの間違い, 会社の規模縮小 (2)	・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
11	Unit 11 製品の国別売上, 電車の遅延と回避ルートの案内	・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
12	Unit 11 製品の国別売上, 電車の遅延と回避ルートの案内 (2)	・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
13	Unit 12 契約の見直し, 大手企業破産のニュース	・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
14	Unit 12 契約の見直し, 大手企業破産のニュース (2) / 後半学習の確認	・語彙、表現、文法の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ Unit 10-Unit 12 の内容について理解を深め、到達度を確認する	指定の範囲を学習する。 既習の学習内容を整理、補足、復習を行うこと。
15	学習内容の確認と総括	補足、総復習	既習の学習内容を整理し、復習する。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC L&R TEST リスニング&ヴォキャブラリー徹底演習	古家 聡 / 藤岡美香子 / Geoffrey Tozer	三修社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	クラスワーク (発表、グループワーク・ペアワークへの参加) : 60% テスト : 40%		
学生への メッセージ	学習する姿勢を評価します。積極的に授業に参加してください。		
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室		
備考	授業の準備として、知らない語句や表現は辞書を使って意味・用例を確認しておくこと。 毎回の授業のための準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とします。 質問等は授業前後に教室で受け付けます。		

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	萬田 恵子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN3410c2		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 英語で話したり聞いたりするための基礎的な知識と技術を身につけることを目的として、発話・聞き取りを中心とする演習授業を行う。 会話はビジネス場面を想定する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的なフレーズや基礎的文法知識を確認し、発話・聞き取りの素地を強化する。 基本的文法知識や平易な表現を使って話せるようになる。 基本的なフレーズを聞き取り、理解できるようになる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 基本的なフレーズや文法事項を確認しながら、テキストに従って、個人、ペア、グループでの聞き取り・発話練習・ロールプレイを行います。題材によっては全体での発表も行います。演習型の授業なので、授業内の学習活動に積極的に参加し貢献する姿勢が重要な評価項目となります。 予習課題を全 11 回予定しています。小テストは全 10 回予定しています。予習課題で基本的なフレーズの聞き取りをし、授業内でそのフレーズや関連する文法事項を強化していきます。さらに、翌週の小テストによって定着を目指します。予習→授業→小テストと良
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活における英語を使った発話・聞き取り能力の向上 TOEIC や英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を用いて、授業の進め方や評価方法などを説明する。 ペア・グループ等で自己紹介活動を行う。 リアクション・ペーパーを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> Teams に登録する。 テキストの音声ダウンロードする。 予習課題 1 (Unit 1)
2	Unit 1 Welcome to the office	<ul style="list-style-type: none"> 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 1 (Unit 1) に向けて学習 予習課題 2 (Unit 2)
3	Unit 2 What time do you close?	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト 1 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 2 (Unit 2) に向けて学習 予習課題 3 (Unit 3)
4	Unit 3 I'd like to change an order	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト 2 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 3 (Unit 3) に向けて学習 予習課題 4 (Unit 4)
5	Unit 4 May I take a message?	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト 3 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 4 (Unit 4) に向けて学習 予習課題 5 (Unit 5)
6	Unit 5 Shall I ring that up for you?	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト 4 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 5 (Unit 5) に向けて学習 予習課題 6 (Unit 6)
7	Unit 6 This way, please	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト 5 基本フレーズの聞き取りと発話の強化 文法事項の復習と強化 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	Unit 1～Unit 6 の学習内容について、整理と復習を行い、達成度テスト①に備える。
8	達成度テスト①	<ul style="list-style-type: none"> Unit 1～Unit 6 の内容について理解を深め、記憶を強化し、達成度を確認する。 リアクション・ペーパーの記入 	予習課題 7 (Unit 7)
9	Unit 7 I'd like to make a complaint	<ul style="list-style-type: none"> 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 6 (Unit 7) に向けて学習 予習課題 8 (Unit 8)
10	Unit 8 Could you fill out this form?	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト 6 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 7 (Unit 8) に向けて学習 予習課題 9 (Unit 9)
11	Unit 9 Welcome to Japan!	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト 7 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 8 (Unit 9) に向けて学習 予習課題 10 (Unit 10)
12	Unit 10 What's your background?	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト 8 基本フレーズ・文法事項の確認 聞き取り練習 ペア、グループワークで発話練習 リアクション・ペーパーの記入 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 9 (Unit 10) に向けて学習 予習課題 11 (Unit 11)
13	Unit 11 Here's your schedule	<ul style="list-style-type: none"> ※小テスト 9 基本フレーズの聞き取りと発話の強化 文法事項の復習と強化 	Unit 7～Unit 11 の学習内容について、整理と復習を行い、達成度テスト②に備える。

			<ul style="list-style-type: none"> ・ペア、グループワークで発話練習 ・リアクション・ペーパーの記入 	
	14	達成度テスト② Unit 12 I'll see you tomorrow	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 7, 9, 11, 12 の内容について理解を深め、記憶を強化し、達成度を確認する。 ・Unit 14 の基本フレーズ・聞き取り練習 ・リアクション・ペーパーの記入 	・小テスト10 (Unit 12) に向けて学習
	15	講義全体の振り返り	※小テスト10 ・学生による授業評価アンケート ・リアクション・ペーパーを基に自分の学習を振り返る。	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Business Encounters	Michael P. Critchley	南雲堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み (リスニング演習の解答、ペア・グループ活動への参加姿勢、投げかける質問に対する応答など)、予習課題、リアクション・ペーパー・・・ 40% ・小テスト・・・ 20% ・達成度テスト① (ペーパーテスト/発表)・・・ 20% ・達成度テスト② (ペーパーテスト/発表)・・・ 20% 以上を総合評価します。			
学生へのメッセージ	みなさんそれぞれが「個性」や「文化」を持っておられて、その「個性」や「文化」が集い、同じ空間と同じ時間を共有しながら学ぶことが「授業」の醍醐味のひとつと感じております。さらに、演習型の授業では、自己表現の機会も多くなりますので、コミュニケーションの楽しさだけでなく、緊張や不安などの感情も巻き込んだ学習となります。それが「外国語」ともなると、母語でのコミュニケーション以上に色々な感情との出会いがあるかと思えます。お互いの個性を尊重しながら、「失敗しても大丈夫!」「今日出来なかったことは次こそ!」と次につな			
担当者の研究室等	農学部 非常勤講師控え室			
備考				

科目名	中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	左 虹
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OCH1411e2		

授業概要・目的	基礎を固めながら、コミュニケーション能力を高めることに重点を置く。ピンインの発音から初級の文法を学び、学習しているうちに自然に中国語が身につきます。
到達目標	日本にいながらにして、中国語を使って交流する機会が増えている状況を踏まえて、さまざまな場面に応じる会話を練習を重ねることで、基本的な日常会話ができる達成感を得る。また、さまざまな側面から、日中文化の違いについて現代中国について理解する。
授業方法と留意点	授業は予習・復習を前提に進行することに注意。 授業中、音読や暗唱などの練習に積極的に参加すること。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	発音編 1 ※ピンイン正しく発音できる	発音、ピンイン、単語を学ぶ。 ・声調 ・単母音 ・複母音	自己学習：p6～p10の録音を聞いて、発音を練習をすること。 p8・p10の練習を解答すること。
2	発音編 2 簡単な挨拶言葉 ※ピンイン正しく発音できる	発音、ピンイン、単語を学ぶ。 ・子音 ・鼻母音 ・発音の規則 ・中国語の音節構造 ・簡単な挨拶言葉 ・ピンイン編到達テスト ・声調の組合せのパターン ・簡単なあいさつ言葉	自己学習：p11～p18の録音を聞いて、発音を練習をすること。 p12・p14の練習を解答すること。
3	第1課 はじめまして ※中国語の語順の確認 ※正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・人称代名詞 ・「是」を用いる動詞述語文 ・一般疑問文 ・名前の言い方	自己学習：p20～p24の録音を聞いて、発音を練習をし、ドリル2を解答すること。
4	第1課 復習+ドリル 第2課 とても美味しいです ※単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・指示代名詞 ・形容詞述語文 ・動詞述語文	自己学習：p26～p30の録音を聞いて、発音を練習をすること。 ドリル2を解答すること。
5	第2課 復習+ドリル 第3課 うどんを食べたことがありますか ※単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・動詞+「過」 ・副詞「也」の使い方 ・喜歓+動詞句	自己学習：p32～p36の録音を聞いて、ドリル2を解答すること。
6	第3課 復習+ドリル 第4課 彼女は今年20歳です ※単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・「的」の省略 ・名詞述語文 ・数字の言い方	自己学習：p38～p42の録音を聞いて、発音を練習をすること。 ・ドリル2を解答すること。
7	第4課 復習+ドリル 第5課 お子さんは何人いますか ※単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。 ※単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・所有・存在を表す動詞「有」の使い方 ・疑問詞疑問文 ・量詞 (助数詞)	自己学習：p44～p48の録音を聞いて、発音を練習をすること。 ドリル2を解答すること。
8	第1課～第4課の総合復習 ※到達確認テスト (第1課～第4課) 第5課 復習+ドリル 第6課 うちの駅の近くに あります ※単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 第1課～第5課の総合復習 到達確認テスト (第1課～第4課) ・前置詞「離」 ・所在を表す「在」の使い方 ・推量を表す助詞の使い方	自己学習：p20～p42録音を聞いて、発音を練習をして復習すること。
9	第6課 復習+ドリル 第7課 お茶をどうぞ ※単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を復習する。 ・動詞+一下 ・反復疑問文 ・請+動詞 (動詞句)	自己学習：p～p51の録音を聞いて、発音を練習をすること。 ・ドリル2を解答すること。
10	第7課 復習+ドリル 第8課 そのうちに一緒に 食べに行きましょう	文法、単語、会話を学ぶ。 ・連動文 ・前置詞の「在」	自己学習：p56～p59の録音を聞いて、発音を練習をすること。 ドリル2を解答すること。

		※単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。		
	11	第8課 復習+ドリル 第9課 浅草寺に行ってみ たいです ※到達確認テスト(第5課～ 8課) ※単語のピンインと漢字が 書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・助動詞「想」 ・動詞の重ね型 ・手段を表す疑問詞	自己学習:p62～p65の録音を聞いて、発音を練習を すること。練習問題(p66)を解答すること。
	12	第9課 復習+ドリル 第10課 どこで買ったので すっか ※単語のピンインと漢字が 書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・完了を表す「了」 ・「是～的」 ・前置詞の「比」	自己学習:p74～p72の録音を聞いて、発音を練習を すること。 ドリル2を解答すること。
	13	第10課 復習+ドリル 第11課 電車にしますかそ れとも地下鉄にしますか ※単語のピンインと漢字が 書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・助動詞「要」 ・選択疑問文 ・時刻・時点と時間の幅	自己学習:p74～p78の録音を聞いて、発音を練習を すること。 ドリル2を解答すること。
	14	第11課 復習+ドリル 第8課～第11課の総合復習 ※単語のピンインと漢字が 書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 第8課～第11課の総合復習	自己学習:p80～p84の録音を聞いて、発音を練習を すること。 ドリル2を解答すること。
	15	到達確認テスト(第8-11課) ※第1課～第11課の復習を することで、習ったものを身 に付けることができる。	習った文法、単語、会話を復習する。 復習(第1～12課) 到達確認テスト(第8-11課)	自己学習:p20～p84の録音を聞いて、発音を練習を すること。 第8-11課の復習をすること。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語で伝えよう!	楊凱榮 張麗群	朝日出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎週の課題(40%)と到達確認テスト(60%)で評価する。 100点満点中60点以上で合格。			
学生への メッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	*「質問等はTeams Chatにて対応する」 *講義前の予習(テキストを読む。1時間x15回)、 復習(講義プリントの重要事項をまとめる。1.5時間x15回)、 自己学習(講義プリントに記載されている確認問題を解答する。) *受講者の学習状況に応じて、コースの進捗を調整します。シラバスは、授業進度の参考とする。			

科目名	中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	王 坤鈺
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OCH1411e2		

授業概要・目的	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・句型を学ぶ。また、日本にいながらでもさまざまな場面において中国語で中国人と交流するというふうにより、自然なセリフを覚える。
到達目標	多彩なドリルを通じて、課文のポイントや語句を十分に習得する。また、基本日常会話の練習を重ねることで、中国語学習における達成感を得るようにがんばる。
授業方法と留意点	授業は予習・復習を前提に進行することに注意。授業中、音読や暗唱などの練習に積極的に参加すること。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	発音編 2 *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	発音、ピンイン、単語を学ぶ。 ・複母音	自己学習：p9~p10 の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p8) を解答すること。
3	発音編 3 *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	発音、ピンイン、単語を学ぶ。 ・子音① ・子音②	自己学習：p11~p12 の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p10) を解答すること。
4	発音編 4 *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	発音、ピンイン、単語を学ぶ。 ・鼻母音 ・発音の規則	自己学習：p13~p16 の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p12) を解答すること。
5	発音編 5 *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	発音、ピンイン、単語を学ぶ。 ・中国語の音節構造 ・声調の組合せのパターン ・簡単なあいさつ言葉	自己学習：p17~p19 の録音を聞いて、発音を練習をすること。
6	第 1 課 はじめまして *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・人称代名詞 ・「是」を用いる動詞述語文 ・疑問文 ・名前の言い方 ・会話 (はじめまして)	自己学習：p20~p24 の録音を聞いて、発音を練習をすること。
7	第 1 課 復習 第 2 課 とてもおいしいです *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第 1 課練習問題 ・指示代名詞 ・形容詞述語文 ・副詞「也」 ・動詞述語文 ・会話 (とてもおいしいです)	自己学習：p25~p27 の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p24) を解答すること。
8	第 2 課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・会話 (とてもおいしいです) ・第 2 課練習問題	自己学習：p25~p27 の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p28) を解答すること。
9	・中間テスト *発音編~第 2 課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	習った文法、単語、会話を復習する。 ・発音編~第 2 課の復習 ・練習問題	自己学習：発音編~第 2 課の復習をすること。 中間試験の準備をすること。
10	第 3 課 彼女は今年 20 歳です *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・動詞+「過」 ・「的」の省略 ・数字、日にち、曜日、年齢の言い方 ・名詞述語文 ・会話 (彼女は今年 20 歳です)	自己学習：p29~p32 の録音を聞いて、発音を練習をすること。
11	第 3 課 復習 第 4 課 お子さんは何人いらっしゃいますか *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第 3 課練習問題 ・所有・所在を表す「有」 ・量数 (助数詞) ・疑問詞疑問文 ・比較を表す前置詞「比」	自己学習：p33~p36 の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p32) を解答すること。
12	第 4 課 復習 第 5 課 おうちは駅から遠いですか *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第 4 課練習問題 ・隔たりを表す前置詞「離」 ・所在を表す動詞「在」 ・推量を表す助詞 ・反復疑問文 ・会話 (おうちは駅から遠いですか)	自己学習：p37~p40 録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p36) を解答すること。
13	第 5 課 復習 第 6 課 お茶をどうぞ *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第 5 課練習問題 ・動詞+「一下」 ・文末助詞「了」 ・動詞の重ね型 ・動詞の連体修飾 ・会話 (お茶をどうぞ)	自己学習：p41~p44 録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p40) を解答すること。
14	第 6 課 復習	習った文法、単語、会話を復習する。	自己学習：発音編~第 6 課の復習をすること。期末

		*発音編`第6課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	・発音編`第6課の復習	試験の準備をすること。 練習問題（p44）を解答すること。
	15	・期末課題 ・期末テスト	習った文法、単語、会話を復習する。 ・期末課題の解説 ・期末テスト	自己学習：発音編`第6課の復習をすること。 期末試験の準備をすること。 期末課題の準備をすること。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スリム版 中国語で伝えよう！	楊凱榮・張麗群	朝日出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	かんたん楽ショウ！初級中国語 入門編	陳淑梅	朝日出版社
	2	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	3			
評価方法 (基準)	期末に毎週課題（50%）と中間テスト（25%）と期末試験（25%）で評価する。100点満点中60点以上で合格。 (新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、レポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。)			
学生への メッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 講義前の予習（テキストを読む。1時間 x13回）、 復習（講義プリントの重要事項をまとめる。1.5時間 X13回）、 自己学習（講義プリントに記載されている確認問題を解答する。）			

科目名	中国語Ⅱ	科目名 (英文)	Chinese II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	王 坤鈺
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OCH1412e2		

授業概要・目的	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・句型を学ぶ。また、日本にいながらでもさまざまな場面において中国語で中国人と交流するというふう、自然なセリフを覚える。
到達目標	多彩なドリルを通じて、課文のポイントや語句を十分に習得する。また、基本日常会話の練習を重ねることで、中国語学習における達成感を得るようにがんばる。
授業方法と留意点	授業は予習・復習を前提に進行することに注意。 授業中、音読や暗唱などの練習に積極的に参加すること。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	復習 *発音編~第6課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	習った文法、単語、会話を復習する。 ・発音編~第6課の復習 ・練習問題	自己学習：発音編~第6課の復習をすること。
2	第7課 そのうちに一緒に食べに行きましょう*単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・句型「太~了」 ・主述述語文 ・場所を表す前置詞「在」 ・連動文	自己学習：p45~p48の録音を聞いて、発音を練習をすること。
3	第7課 復習 第8課 電車で行きましょう *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	・第7課練習問題 文法、単語、会話を学ぶ。 ・助動詞「想」 ・意志・勧誘を表す助動詞 ・手段を尋ねる表現 ・許可を表す助動詞「可以」 ・会話(電車で行きましょう)	自己学習：p49~p52の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p48) を解答すること。
4	第8課 復習 第9課 どこで買ったのですか *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	・第8課練習問題 文法、単語、会話を学ぶ。 ・様態補語 ・句型「~极了」 ・完了を表す助動詞「了」 ・句型「是~的」 ・会話(どこで買ったのですか)	自己学習：p53~p56の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p52) を解答すること。
5	第9課 復習 第10課 少し話せます *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	・第9課練習問題 文法、単語、会話を学ぶ。 ・時刻、時点と時間の幅 ・前置詞「從」 ・名詞+「口+尼」 ・助動詞「会」 ・動詞+「一点兒」	自己学習：p57~p60の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p56) を解答すること。
6	第10課 復習 第11課 一足いくらですか *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	・第10課練習問題 文法、単語、会話を学ぶ。 ・助動詞「能」 ・助動詞「得」 ・副詞「有点儿」 ・選択疑問文 ・貨幣の言い方 ・会話(一足いくらですか)	自己学習：p61~p64の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p60) を解答すること。
7	第11課 復習 第12課 何をしていますか *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第11課練習問題 ・進行を表す副詞「在」 ・「有」+名詞+動詞 ・「多」+形容詞 ・「覺得」 ・二重目的語を取る動詞	自己学習：p65~p68の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p68) を解答すること。
8	第12課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・会話(何をしていますか) ・第12課練習問題	自己学習：p65~p68の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p68) を解答すること。 会話文 (p65) を暗唱すること。
9	・復習 ・中間テスト *第7-12課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	習った文法、単語、会話を復習する。 ・第7~12課の復習 ・練習問題 ・中間テスト	自己学習：第7-12課の復習をすること。中間テストの準備をすること。
10	第13課 ちょっと見せてください *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・方向補語 ・方位詞 ・持続を表す助動詞「口+尼」 ・前置詞「給」 ・会話(ちょっと見せてください)	自己学習：p69~p72の録音を聞いて、発音を練習をすること。
11	第13課 復習 第14課 足はどうされましたか	・第13課練習問題 文法、単語、会話を学ぶ。 ・結果補語	自己学習：p73~p76の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題 (p72) を解答すること。

		*単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	<ul style="list-style-type: none"> ・受身を表す「被」 ・副詞「就」 ・使役を表す「讓/叫」 	
12	第14課 復習 第15課 どこに行くか決まりましたか *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・第14課練習問題 文法、単語、会話を学ぶ。 ・原因を尋ねる言い方 ・文型「一点兒都不/没～」 ・疑問詞+「都」 ・副詞「再」 ・会話（どこに行くか決まりましたか） 		自己学習：p77～p80の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題（p76）を解答すること。
13	第15課 復習 第16課 一緒に写真を撮りましょう *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・第15課練習問題 文法、単語、会話を学ぶ。 ・可能補語 ・「把」構文 ・存現文 ・持続を表す「着」 ・可能性を表す助動詞「会」 ・会話（一緒に写真を撮りましょう） 		自己学習：p81～p84の録音を聞いて、発音を練習をすること。 練習問題（p80）を解答すること。
14	第16課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	<ul style="list-style-type: none"> ・会話文を覚える。 ・会話（一緒に写真を撮りましょう） ・第16課練習問題 		自己学習：p81～p84の録音を聞いて、発音を練習をすること。 会話文（p81）を暗唱すること。 練習問題（p84）を解答すること。
15	・期末テスト *第7-16課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 習った文法、単語、会話を復習する。 ・第7～16課の復習 ・練習問題 		自己学習：第7-16課の復習をすること。 期末試験の準備をすること。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スリム版 中国語で伝えよう！	楊凱栄・張麗群	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	かんたん楽ショウ！初級中国語 入門編	陳淑梅	朝日出版社
	2	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	3			

評価方法 (基準)	<p>期末に 毎週の宿題 (50%) と 中間テスト (25%) と 期末試験 (25%) で 評価する。 100 点満点中 60 点以上で合格。 (新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、レポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。)</p>
--------------	---

学生への メッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。
---------------	--------------------

担当者の 研究室等	非常勤講師室
--------------	--------

備考	<p>*「質問等は Teams Chat にて対応する」 *講義前の予習（テキストを読む。1 時間 x13 回）、 復習（講義プリントの重要事項をまとめる。1.5 時間 X13 回）、 自己学習（講義プリントに記載されている確認問題を解答する。） *受講者の学習状況に応じて、コースの進捗を調整します。シラバスは、授業進度の参考とする。</p>
----	--

科目名	中国語Ⅱ	科目名(英文)	Chinese II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	左 虹
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OCH1412e2		

授業概要・目的	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・句型を学ぶ。また、日本にいながらでもさまざまな場面において中国語で中国人と交流するというふうに、自然なセリフを覚える。
到達目標	多彩なドリルを通じて、課文のポイントや語句を十分に習得する。また、基本日常会話の練習を重ねることで、中国語学習における達成感を得るようにがんばる。
授業方法と留意点	授業は予習・復習を前提に進行することに注意。授業中、音読や暗唱などの練習に積極的に参加すること。
科目学習の効果(資格)	中国語検定の初中級レベル準4級・4級にチャレンジしてみよう。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	第12課 復習+ドリル 第13課 ちょうどお腹がすいていたところ ※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。	文法の学習: 文末助詞 了 勧誘・推測を表す文末助詞 助動詞「得」	自己学習:p92~p96の録音聞いて、発音を練習すること。ドリル2を解答すること。
3	第13課 復習+ドリル 第14課 一足いっくらですか。 ※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。	文法の学習: 許可を表す助動詞 程度を表す副詞 お金の言い方	自己学習:p98~p102の録音聞いて、発音を練習すること。 ドリル2を解答すること。
4	第14課 復習+ドリル 第15課 体調が悪いのですか。 ※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。	文法の学習: 主述述語文 方位詞 副詞の「就」	自己学習:p104~p108の録音聞いて、発音を練習すること。 ドリル2を解答すること。
5	第15課 復習+ドリル 第16課 何をしていますか ※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。	文法の学習: 進行を表す「在」 多+形容詞 「覺得」の使い方	自己学習:p110~p114の録音聞いて、発音を練習すること。 ドリル2を解答すること。
6	第16課 復習+ドリル 第17課 中国語を少し教えていただけますか。 ※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。	文法の学習: 助動詞の「能」と「会」 二重目的語	自己学習:p116~p120の録音聞いて、発音を練習すること。 ドリル2を解答すること。
7	第17課 復習+ドリル 第18課 私にも一冊買ってください。 ※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。	文法の学習: 方向補語 持続を表す助詞 前置詞「給」	自己学習:第11-17課の復習をすること。 中間テストの準備をすること。
8	第18課 復習+ドリル 第19課 鶴を折るのがうまいですね ※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。	中間テスト(第11-17課) 文法の学習: 様態補語 結果補語 副詞の「再」	自己学習:p122~p126の録音聞いて、発音を練習すること。 ドリル2を解答すること。
9	第19課 復習+ドリル 第20課 箱根はすごくきれいだそうです ※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。	文法の学習: 疑問詞+都 太~了 ~極了	自己学習:p128~p132の録音聞いて、発音を練習すること。 ドリル2を解答すること。
10	第20課 復習+ドリル 第21課 ※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。	文法の学習: 可能補語 禁止を表す副詞「別」	自己学習:p134~p138の録音聞いて、発音を練習すること。 ドリル2を解答すること。
11	第21課 復習+ドリル 第22課 雨が降るのでしょうか。 ※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。	文法の学習: 存現文 動詞+給 可能性を表す「会」	自己学習:p140~p144の録音聞いて、発音を練習すること。 ドリル2を解答すること。

		※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。																		
	12	第22課 復習+ドリル 第23課 お医者さんが家で数日休むように言った ※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。	文法の学習: 原因を尋ねる疑問詞 受け身の文 使役の文	自己学習:p146～p150の録音を聞いて、発音を練習をすること。 ドリル2を解答すること。																
	13	第23課 復習+ドリル 第24課 明日はもう皆さんとお別れです。 ※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。書ける。	文法の学習: 要～了 持続を表す「着」 有+名詞+動詞	自己学習:p152～p158の録音を聞いて、発音を練習をすること。 ドリル2を解答すること。																
	14	第24課 復習+ドリル 第12課～第24課の総合復習 ※単語を正しく発音でき、会話の文を理解すること。	第12課～第24課の総合復習	自己学習:p122～p160の録音を聞いて、発音を練習をすること。																
	15	第12課～第24課 総合復習 ※期末テスト ※第12-24課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	習った文法、単語、会話を復習する。 期末(第12課～第24課) 期末テスト	自己学習:第12-24課の復習をすること。 期末テストの準備をすること。																
関連科目																				
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中国語で伝えよう!</td> <td>楊凱栄 張麗群</td> <td>朝日出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中国語で伝えよう!	楊凱栄 張麗群	朝日出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中国語で伝えよう!	楊凱栄 張麗群	朝日出版																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	平常点(課題、レポート)40% 中間テスト(30%) 期末試験(30%)																			
学生への メッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。																			
担当者の 研究室等	カーティス講師室(2号館2階)																			
備考																				

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	新居 英志
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	OIL1414a2		

授業概要・目的	大学生生活で要求される情報リテラシー能力 (文書作成、表計算、プレゼンテーション) の修得、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解を目的とする。
到達目標	現代社会における情報モラルと情報セキュリティの必要性を認識し、対応力を身につける。 Word で見栄えの良い文書を作成できる、データ活用のしやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。
授業方法と留意点	「情報のモラルとセキュリティ」について具体的な事例を用いた学習により知識を獲得する。 情報処理演習室にて演習形式で授業を行う。 なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	MOS (Microsoft Office Specialist) 資格 (民間資格) や情報処理関連資格の基礎的技能や知識が得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	【オリエンテーション】 大学生としての情報倫理 摂南大学の ICT 環境 インターネットの利用	モラルとセキュリティに関する質問 OneDrive の使い方 Moodle への登録 出欠管理システム ポータルサイト メールシステム インターネット検索 タイピング練習	事前: 情報モラルとセキュリティのテキストに目を通す (30 分) 事後: 事後課題の完成 (30 分)
2	Windows 基本操作 【Word】 Word の初歩	個人情報の適切な取り扱い 用語解説 IME の使い方 文書を作成する 文書内を移動する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
3	【Word】 文書の作成と管理 表の作成、文書の編集	デジタル時代の著作権 (1) 文書の書式を設定する 文書のオプションとカスタマイズ 文字列や段落の挿入と書式設定 文字列や段落の並び替えとグループ化	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
4	【Word】 グラフィック要素の挿入と編集	デジタル時代の著作権 (2) グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する 図形・数式の挿入・編集	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
5	【Word】 アウトラインと長文作成	ネット社会に潜む危険と対策 (1) アウトラインの設定・編集 長文作成のための機能	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
6	【Word】 レイアウトの変更とセクション設定 段組みを使った文書作成	ネット社会に潜む危険と対策 (2) 文書のレイアウトとセクション 段組みを使った文書	事前: 文書作成機能の復習 (1 時間)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	メールによるコミュニケーション スライドの作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 アニメーションの設定 スライドの切り替え	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
8	【PowerPoint】 プレゼンテーション演習	発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前: 発表練習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
9	【Excel】 Excel の概要 基礎スキル	Web によるコミュニケーション (1) セルへの入力、シートの編集、計算とセル参照、基本関数	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
10	【Excel】 グラフの作成と設定	Web によるコミュニケーション (2) グラフの種類とパーツ グラフを作成する グラフを書式設定する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
11	【Excel】 表の視覚化と詳細設定	Web によるコミュニケーション (3) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定 表の詳細設定	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
12	【Excel】 関数の利用	モバイル機器の活用と管理 さまざまな関数を利用する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
13	【Excel】 データ集計とピボットテーブル	情報モラルとセキュリティ ピボットテーブルの利用	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
14	【Excel】 データベースとしての使い方 Excel の表・グラフの利用	データベースとしての表の操作 Excel の表やグラフを Word で利用する	事前: 授業テーマの予習 (30 分) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
15	【Excel】 マクロ: 操作の自動化	情報モラルとセキュリティのまとめ マクロの記録と編集、再利用	事前: 今までの諸機能の復習 (1 時間)

関連科目	情報リテラシー II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	30 時間アカデミック Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
	2	<改訂4版>情報モラル & 情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	演習課題(60%)、プレゼンやタイピング等の操作スキル(40%)を総合して評価する。			
学生への メッセージ	疑問点は放置せずに次回授業日までに解消してください。毎週の理解の積み重ねが重要です。			
担当者の 研究室等	8号館1階講師室			
備考				

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OIL1415a2		

授業概要・目的	「数値・データサイエンス・AI」は現代の「読み・書き・そろばん」であり、デジタル社会において学ぶべき教養である。本講義ではその基礎として、データ分析の歴史、背景や現状について知り、データの種類・解析方法やAIに必要な技術、その応用例などを様々な事例を通して学び理解する。また、エクセルを用いて実際にデータを処理し、その活用方法を身に付けることを目的とする。
到達目標	データの種類や処理の目的を理解できると共に、データサイエンス・AIの基本的な使い方、およびその際に注意すべきことを理解できるようになること。
授業方法と留意点	本講義は対面形式の講義です。毎週の課題は計画的にこなしてください。
科目学習の効果 (資格)	「データサイエンティスト検定 リテラシーレベル」や「基本情報処理技術者」の資格取得に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス データサイエンスとは	<ul style="list-style-type: none"> 大学のシステム (moodle, Teams, メール, OneDrive) の利用方法について 本講義の受講方法, 注意点など データサイエンス, AI とは 	事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テスト
2	社会で起きている変化(1)	<ul style="list-style-type: none"> 日本企業の国際競争力低下 情報通信メディアの普及 DX (デジタル・トランスフォーメーション) 演習「Excelの基本的な操作(1)」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
3	社会で起きている変化(2)	<ul style="list-style-type: none"> デジタル社会の提言 Society5.0 演習「Excelの基本的な操作(2)」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
4	社会で活用されているデータ(1)	<ul style="list-style-type: none"> データの種類 1次データ, 2次データ, メタデータ オープンデータ 演習「時系列データの可視化(1)」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
5	社会で活用されているデータ(2)	<ul style="list-style-type: none"> 構造化データ, 非構造化データ テキストデータ, 画像・音声データ アノテーション 演習「時系列データの可視化(2)」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
6	データ・AIの活用領域	<ul style="list-style-type: none"> データサイエンスの活用事例 研究開発, マーケティング, 品質管理におけるデータ分析 演習「平均の算出とその可視化」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
7	データ・AI利活用のための技術(1)	<ul style="list-style-type: none"> データの一次分析と可視化 言語処理, 画像処理, 音声処理技術について 演習「標準偏差の算出とその可視化」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
8	データ・AI利活用のための技術(2)	<ul style="list-style-type: none"> データ解析 (予測, グルーピングパターン発見, 最適化) 特化型AIと汎用AI 自動機械学習 演習「大量のデータを扱う方法(1)」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
9	データ・AI利活用の現場(1)	<ul style="list-style-type: none"> データサイエンスのサイクル 製造業のデータ・AI活用 演習「大量のデータを扱う方法(2)」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
10	データ・AI利活用の現場(2)	<ul style="list-style-type: none"> 小売業のデータ・AI活用 サービス業のデータ・AI活用 公共・インフラのデータ・AI活用 演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(1)」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
11	データ・AI利活用の現場(3)	<ul style="list-style-type: none"> データ・AI活用による新しいビジネス領域 演習「基本統計量の算出と箱ひげ図(2)」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
12	データ・AI利活用の最新動向	<ul style="list-style-type: none"> AIなどを活用した新しいビジネス AI最新技術の活用例 演習「度数分布表とヒストグラムの作成」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
13	データ・AIを扱う上での留意事項(1)	<ul style="list-style-type: none"> ELSIとは何か データの倫理 個人情報とプライバシー 演習「散布図の作成と相関係数の算出」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
14	データ・AIを扱う上での留意事項(2)	<ul style="list-style-type: none"> バイアス 社会的合意の形成に向けて 演習「定性データの扱い方とクロス集計」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施
15	データを守る上での留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティとは 情報セキュリティ脅威に関する事例 データの守り方 演習「総合演習」 	事前: 授業テーマの予習 事後: 課題レポートの提出, 演習課題の提出, 確認テストの実施

関連科目	情報リテラシーI			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AI データサイエンスリテラシー入門	吉岡剛志他	技術評論社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題レポートの提出：40% 演習課題の提出：40% 確認テスト：20%			
学生への メッセージ	知識習得のためには時間が必要ですが、多数の先輩が受講の後に独学で「IT パスポート」や「MOS (Microsoft Office Specialist : マイクロソフト オフィス スペシャリスト)」等に合格しています。就活時のアピールの為に頑張ってください。疑問は放置せず何でも質問してください。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	授業時間外の質問等は、Teams のチャットまたはメールをお願いします。なるべく早く返信するつもりですが1-2日の余裕を見ていただけるとありがたいです。			

科目名	スポーツ科学 I	科目名 (英文)	Sports Science I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	瀧 千波, 小林 直生
ディプロマポリシー (DP)	DP6○		
科目ナンバリング	OPH1416a2		

授業概要・目的	<p>生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。</p> <p>本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。</p> <p>SDGs-3、4、5</p>																																																																		
到達目標	<p>この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。(DP1)</p>																																																																		
授業方法及び留意点	<p>実技形式で行う。</p> <p>開講種目は、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど) ・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど) <p>※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。</p> <p>※2 第1回目の授業はガイダンスを行なうので必ず出席すること。</p> <p>※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<p>基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>・ガイダンス</td> <td>・履修上の注意</td> <td>事前：授業概要・目的などを学習する (30分) 事後：本実習の理解を深める (30分)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>・体力測定①</td> <td>・屋外種目</td> <td>事前：運動を行い体力測定に備える (30分) 事後：自身の体力についての振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>・体力測定②</td> <td>・屋内種目</td> <td>事前：運動を行い体力測定に備える (30分) 事後：自身の体力についての振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>・種目の概要 ・基礎知識について</td> <td>・種目の概要、基礎知識の説明</td> <td>事前：基礎知識を学習しておく (30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム</td> <td>・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：ルールについて学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：全授業の総括 (30分)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	・ガイダンス	・履修上の注意	事前：授業概要・目的などを学習する (30分) 事後：本実習の理解を深める (30分)	2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分) 事後：自身の体力についての振り返り (30分)	3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分) 事後：自身の体力についての振り返り (30分)	4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく (30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)	5	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分)	6	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)	7	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)	8	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)	9	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)	10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)	11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)	12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)	13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)	14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)	15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：全授業の総括 (30分)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	・ガイダンス	・履修上の注意	事前：授業概要・目的などを学習する (30分) 事後：本実習の理解を深める (30分)																																																																
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分) 事後：自身の体力についての振り返り (30分)																																																																
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分) 事後：自身の体力についての振り返り (30分)																																																																
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく (30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)																																																																
5	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分)																																																																
6	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)																																																																
7	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)																																																																
8	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)																																																																
9	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)																																																																
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)																																																																
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)																																																																
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)																																																																
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)																																																																
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)																																																																
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：全授業の総括 (30分)																																																																
関連科目	<p>解剖生理学、臨床医学概論、生化学、基礎栄養学、生物と環境、応用栄養学、公衆衛生学、分子生物学、臨床栄養学、ゲノムと生命、食品栄養学研究</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25%</p> <p>※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>授業1回目 (ガイダンス) は、教室 (教室名は事前に連絡します) に集合してください。(更衣不要)</p> <p>実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)</p>																																																																		
担当者の	<p>寝屋川キャンパス総合体育館事務室</p>																																																																		

研究室等	
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	スポーツ科学Ⅱ	科目名 (英文)	Sports Science II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	瀧 千波, 渡部 将之
ディプロマポリシー (DP)	DP6○		
科目ナンバリング	OPH1417a2		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs- 3, 4, 5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	本学スポーツ施設を用いて、実技形式で行う（雨天の場合は、講義形式で行うこともある）。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。 「汎用的技能」：コミュニケーション・スキル、問題解決力。「態度」：自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観。「創造的思考力」：課題解決能力を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意など（講義室） コース分け	ルールの理解。 運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。 （事後学習時間 30分）
2	各コース別実技① 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習（グラウンドおよび体育館）	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り （事前事後学習時間 30分）
3	各コース別実技① 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習（グラウンドおよび体育館）	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り （事前事後学習時間 30分）
4	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム（グラウンドおよび体育館）	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り （事前事後学習時間 30分）
5	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム（グラウンドおよび体育館）	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り （事前事後学習時間 30分）
6	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム（グラウンドおよび体育館）	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り （事前事後学習時間 30分）
7	各コース別実技② 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習（グラウンドおよび体育館）	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り （事前事後学習時間 30分）
8	各コース別実技② 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習（グラウンドおよび体育館）	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り （事前事後学習時間 30分）
9	各コース別実技② ゲーム	技術練習とゲーム（グラウンドおよび体育館）	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り （事前事後学習時間 30分）
10	各コース別実技②	技術練習とゲーム（グラウンドおよび体育館）	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り （事前事後学習時間 30分）
11	各コース別実技②	技術練習とゲーム（グラウンドおよび体育館）	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り （事前事後学習時間 30分）
12	各コース別実技③ 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習（グラウンドおよび体育館）	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り （事前事後学習時間 30分）
13	各コース別実技③ ゲーム	基礎技術練習、攻防練習（グラウンドおよび体育館）	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り （事前事後学習時間 30分）
14	各コース別実技③ ゲーム	技術練習とゲーム（グラウンドおよび体育館）	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り （事前事後学習時間 30分）
15	各コース別実技③ ゲーム	技術練習とゲーム（グラウンドおよび体育館）	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：本科目の振り返り （事前事後学習時間 30分）

関連科目	スポーツ科学Ⅰ、栄養とスポーツ、栄養と健康
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	なし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	活動点50%、技能点25%、態度点25%として総合的に評価、60点以上で単位認定する。			
学生への メッセージ	授業1回目(ガイダンス)は、教室(教室名は事前に連絡します)に集合してください。(更衣不要) 実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室			
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと			

科目名	心理学	科目名 (英文)	Psychology
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	立本 千寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1418a2		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 生命を有する数多くの生物の中でも、人間は「心」を有する生き物である。心理学の基礎的な理論を理解することは、自らが生きることへの貢献があるだけでなく、対人援助においても有益である。 本授業では、これまでの知見を通して心理学の世界を概観し、理論と実践の融合によって人間に貢献する心理学についての基本的な理解を深めることを目的とする。</p>
到達目標	<p>①心理学の基礎的な知見を理解すること。 ②人間の発達と心理学の関連性について理解すること。 ③対人援助としての臨床心理学の貢献性について理解すること。</p>
授業方法と留意点	授業方法が、オンデマンドと対面の双方があるため、情報に気をつけて、柔軟に対応し、受講すること。
科目学習の効果 (資格)	本授業の学びを通して、自己理解・他者理解の模索の入り口を知り、多様な人間理解に繋がることを期待される。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業概要・目的・到達目標・授業方法と留意点について説明する。	これまでの自分自身の心について、改めて考え直してみてください。
2	感覚と知覚	心理学の基礎的な理論として、感覚と知覚に焦点を当て、概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
3	記憶と学習	心理学の基礎的な理論として、記憶と学習に焦点を当て、概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
4	心の発達 I	胎児期から青年期までの心の発達について概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
5	心の発達 II	青年期から老年期までの心の発達について概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
6	原動力となる心の動きについて	生活するうえで生きるうえでの原動力である動機付けなどについて概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
7	心と多様性	多様性のある人間と心の関連性について、概説する。	授業資料をもとに、書籍やインターネット検索により、知見を広げてください。
8	心の健康とは何か	「生理・心理・社会モデル」などを取り上げ、人間の心の健康に心理学がどのように貢献するかについて概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
9	「聴くこと」とは何か	私たちの日常生活や対人援助において、「聴くこと」がどのような意義があるのかについて、心理学的に概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
10	心理療法について	臨床心理学的なアプローチにおける様々な療法について概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
11	心理学研究法について	量的研究・質的研究の心理学の研究法の基礎について概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
12	心理学の社会への貢献性 I	心理学が社会にどのように貢献する可能性があるのかについて、社会的認知の観点などから概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
13	心理学の社会への貢献性 II	心理学が社会にどのように貢献する可能性があるのかについて、対人関係などの観点から概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
14	心理学の社会への貢献性 III	心理学が社会にどのように貢献する可能性があるのかについて、臨床心理学の観点から概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
15	まとめ	これまで学んだことの要点を振り返り、総合的なまとめを行う。	テキストを精読し、知見を深めてください。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかる心理学	無藤隆・森敏昭・池上知子・福丸由佳編	ミネルヴァ書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	心理学スタンダード	サトウタツヤ・北岡明佳・土田宣明編著	ミネルヴァ書房
2	発達障害の子の気持ちのコントロール	辻井正次・明詠光宜・飯田愛・小倉正義	合同出版	
3	母子関係の理論	J・Bowlby (著)・黒田実朗他 (訳)	岩崎学術出版社	

評価方法 (基準)	<p>【授業における取り組み・課題】 40% 【レポート課題】 60%</p>
-----------	--

学生へのメッセージ	<p>「心理学」ときいて、皆さんはどのようなイメージを持つでしょうか？ 私は、大学時代、心理学とは異なる専門を専攻していましたが、恩師の授業をきいて、ある方々に会って、臨床心理学に強く惹かれ志しました。 皆さんが、心理学の世界に少しでも興味を持ち、それぞれの専門の中に活かしていただけるような授業を目指し</p>
-----------	--

	たいと思います。
担当者の 研究室等	非常勤講師室
備考	本授業は、15回の授業中で、対面での実施の回とオンデマンドによる実施の回があります。 具体的には、オリエンテーション時などの説明に加え、オンデマンドでの実施の際には、 事前にアナウンスをしますので、受講時に聞きもしがらないように気をつけてください。

科目名	倫理学	科目名 (英文)	Ethics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1419a2		

授業概要・目的
「他の人のためと思ってやっていることも、実際のところは自分のためでしかないのでは?」「自分よりも困っている人が世界中にいると知っ
ていながら、彼らに寄付せずに自分の買いたいものを買うのは非情なことだろうか?」「価値観は人や文化によって異なり、そこに優劣はないと
したら、他人にアドバイスしたり批判することは失礼なことだろうか?」
このようなことは、別に倫理学者や哲学者でなくとも、誰もがふとしたときに考えたことがある (人によっては常に考えている) ことではない
かと思います。本授業ではこのような身近なテーマから出発し、現代社会の諸問題 (中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、人種差
別、ジェンダー等) に関してどのような倫理学、哲学、宗教上の主張が存在するかを学びます。また、それらと対照することで自分自身の常識を
自覚し、再検討することが目的です。

到達目標
授業で扱う現代社会の諸テーマ (中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、ジェンダー、宗教と道德の関係、非利己性、寄付の義務等)
について、『現実をみつめる道德哲学—安楽死からフェミニズムまで』(ジェームズ・レイチェルズ著、古牧徳生・次田憲和訳、晃洋書房) の議論
を参考に、倫理的な視点を身に着ける。

授業方法と留意点
Teams を使用して、講義原稿と課題読書を配布します (毎回、ある程度の読書量があります)。定期的に Google Form 等を利用して、授業内容に
関する小問題に答えてもらいます。

科目学習の
効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、道德と はどのようなことか (第 1 章) (1)	「道德」の定義、哲学との関係	予習: なし 復習: 読書課題 (哲学、倫理学の古典からの抜粋で あることが多い) を読むこと
2	道德とはどのようなことか (第 1 章) (2)	道德は定義できるか、道德の最小概念、 回復の見込みのない乳児の権利	予習: 配布資料を読むこと 復習: 読書課題 (哲学、倫理学の古典からの抜粋で あることが多い) を読むこと
3	文化的相対主義 (第 2 章)	異なる文化はいかにして道德規範を持 つのか、文化的相対主義を本気で受け止 めるとどうなるか、文化的相対主義から 何を学ぶことができるか	2 に同じ
4	道德は宗教に基づくか (第 4 章)	道德と宗教の関係、道德は神の命令か、 キリスト教と中絶の問題	2 に同じ
5	心理学的利己主義 (第 5 章)、 倫理的利己主義 (第 6 章)	人間は非利己的であることはできるか、 「どんなことも結局自分のためでしか ない」という主張は本当か 飢餓救済に寄付する義務はあるのか、 「何が人のためになるかは難しい」「自 分のためになることだけをやるべきで ある」という主張は本当か	2 に同じ
6	功利主義者のアプローチ (第 7 章)	功利主義、幸福計算、安楽死、動物の権 利の問題、ベンサム、ミル	2 に同じ
7	功利主義をめぐる議論 (第 8 章)	功利主義への批判的な議論の紹介	2 に同じ
8	絶対的道德規則はあるのか (第 9 章)	カントの倫理学、定言命法、仮言命法	2 に同じ
9	カントと人格の尊重 (第 10 章)	カントの倫理学、「目的の国」、刑罰の理 論における応報主義	2 に同じ
10	社会契約の思想 (第 11 章)	ホッブズの社会契約説、囚人のジレン マ、市民的不服従についての問題	2 に同じ
11	社会契約の思想 (第 11 章) (2)	ホッブズの社会契約説、囚人のジレン マ、市民的不服従についての問題	2 に同じ
12	フェミニズムと気づかひの 倫理 (第 12 章)、徳の倫理 (第 13 章)	コールバーグ、ギリガン、女と男は倫理 についての考えが違うか アリストテレスの徳倫理、様々な徳	2 に同じ
13	AI は人間に代わることがで きるか (1)	ハイデガーの後期思想	2 に同じ
14	AI は人間に代わることがで きるか (2)	ハイデガーの後期思想	2 に同じ
15	満足のいく道德説とはいか なるものか (第 14 章)	ローティ、マイケル・サンデル、思い 上がりのない道德、道德共同体、正義と公 正	2 に同じ

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新版 現実をみつめる道德哲学	ジェームズ・レイチェルズ著、次 田憲和訳	晃洋書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	倫理学入門 アリストテレスから生殖技術、AI まで	品川哲彦	中公新書
2	現実をみつめる道德哲学	ジェームズ・レイチェルズ著、古 牧徳生・次田憲和訳	晃洋書房
3			

評価方法 (基準)	定期的な小テスト：100% (Google Formによって提出)
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	非常勤講師控室
備考	授業では以上のテーマを順次扱う予定ですが、進行状況によっては、内容や順番が変更される可能性があります。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。非常勤講師室等における対応可能時間についての相談や、授業に関連する相談等がある場合は、メールでお問い合わせください。

科目名	哲学から学ぶ	科目名 (英文)	Philosophy
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 俊
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1420a2		

授業概要・目的	ある事柄が「科学的に正しい」と言われたら、私たちはつい、それが絶対的に正しいのだと思ってしまうがちです。ところがそれにもかかわらず、私たちは日常生活の上では、「科学的に」正しいだけでなく、「将来的に」「倫理的に」「文脈的に」等々、様々な正しさの中で自分の行動を決定しなければなりません。つまり私たちは、科学を唯一絶対の基準として生活することはできないのです。しかもその一方で、複数の基準は互いに相容れないこともあります。そのため、人生においては正しいか間違っているのか、一概には言えない場面に出くわることになります。こうした割り切れない状況に向き合うために人間は「様々な見方同士がどのようにして関わり合っているのか」ということを考えてきました。この営みは「哲学」と呼ばれています。本講義では、その哲学において登場する問題と考え方のいくつかを学びます。
到達目標	1. 一つの物事には多様な見方が存在するということを学ぶ 2. 哲学の歴史と学説に関する基礎的な知識を学ぶ (DP1)
授業方法と留意点	配布資料を教科書として用いる。 授業終わりにコメントを提出してもらい (方法は初回授業で指示する)、次回の授業冒頭でそれに対する応答を行う。
科目学習の効果 (資格)	哲学的思考を用いて物事を立体的に理解することができるようになる。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義の進め方や評価基準等を確認する	予習：シラバスに目を通しておく 復習：哲学について考える (30分)
2	なぜ「哲学」をするのか？	古代ギリシアの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
3	「知る」とは何か？	プラトンの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
4	「絶対に疑えないもの」は何か？	デカルトの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
5	物事を「経験」するとはどういうことか？	ロックの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
6	世界は本当に「存在」するの か？	バークリの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
7	実は「私」しか存在してい ないのではないか？	独我論を学ぶ	予習：主題となる議論について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
8	「理性」はどこまで考えられ るのか？	カントの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
9	「自由」とは何か？	近代哲学における自由概念の変遷を学 ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
10	存在しないものに「感情」を 抱くか？	フィクションについての考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
11	どうすれば「人間の生きる世 界」を観察することができる のか？	フッサールの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
12	「言葉」は「意味」を伝える ためだけのものか？	サールの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
13	「他者」とはどういうもの か？	レヴィナスの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
14	「客観性」とはどのようなこ とか？	正しさの多様性について考える	予習：主題となる議論について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)	
15	まとめ	講義全体を振り返り、哲学の意義を考え る	予習・復習：講義ノートを見直す (計1時間)	

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>観念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて</td> <td>富田恭彦</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	観念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて	富田恭彦	講談社現代新書	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	観念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて	富田恭彦	講談社現代新書														
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業内課題80%、毎回の授業コメント20%の割合で評価する。																

学生へのメッセージ	一見して奇妙に見える意見も、必ず発言者なりの見方や考え方に基づいています。これは親しい友人でもはるか昔の哲学者でも同じことことです。見慣れない考え方に粘り強く接することによって、人生の可能性（生きている間にできること）が広がります。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	講義に関する質問等は授業前後に教室で対応する。

科目名	地誌学	科目名 (英文)	Regional Geography
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡邊 英明
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1421a2		

授業概要・目的	地誌学は、地域を構成する諸要素を体系的に捉え、その特色を解明しようとする分野である。本講義では、世界各地における自然環境と人間生活との関わりを通して、地域の特色を学習する。
到達目標	さまざまな地域における固有の人間生活とその重要性を理解し、自らが生きる社会について相対的に捉える視点を身につける。

授業方法と留意点	教科書を用いて講義形式で進める。
----------	------------------

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	小中高の地理と大学の地誌学	講義ノートを復習しておくこと (事後学習 3時間)
2	熱帯気候と住民生活 (1)	熱帯雨林の変化	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
3	熱帯気候と住民生活 (2)	タンザニアのコーヒー生産	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
4	熱帯気候と住民生活 (3)	熱帯雨林の狩猟採集民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
5	熱帯気候と住民生活 (4)	発展途上国の都市問題	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
6	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (1)	季節河川と地域住民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
7	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (2)	乾燥地帯で生きる人々 (1)	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
8	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (3)	乾燥地帯で生きる人々 (2)	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
9	寒帯・冷帯気候と住民生活 (1)	冷涼地域の農業	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
10	寒帯・冷帯気候と住民生活 (2)	極北の狩猟民・イヌイット	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
11	寒帯・冷帯気候と住民生活 (3)	山岳地帯の牧畜	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
12	温帯気候と住民生活 (1)	ヨーロッパの自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
13	温帯気候と住民生活 (2)	先進国の都市問題	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
14	温帯気候と住民生活 (3)	日本の自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
15	まとめ	総括と期末試験の説明	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 3時間)

関連科目	人文地理学
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界がわかる地理学入門：気候・地形・動植物と人間生活	水野一晴	筑摩書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イヌイット：「極北の狩猟民」のいま	岸上伸啓	中央公論新社
2	おいしいコーヒーの経済論：「キリマンジャロ」の苦い現実<増補版>	辻村英之	太田出版	
3	アンデス自然学	水野一晴編	古今書院	

評価方法 (基準)	期末試験 70%、授業内課題 30% 授業内課題は、各回の授業内容に関する穴埋め問題等である。
-----------	--

学生へのメッセージ	高校で地理を履修していない人も問題なく受講できます。授業内容を正しく理解するため、毎回きちんと出席し、ノートを取りながら集中して受講してください。また、簡単な質問等は授業内課題の余白部分に記入してください。翌週の授業内で回答します。
-----------	--

担当者の研究室等備考	8号館1階 (非常勤講師室)。
------------	-----------------

科目名	人文地理学	科目名 (英文)	Human Geography
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上 晴澄
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1422a2		

授業概要・目的	この授業では、人間の活動によって生じた現象に関して、地図を通して広がり方や地域的差異を理解することが目的です。例えば、都市が立地した諸条件や人口分布、農地が都市化した歴史的過程などを取り上げ、地理学の視点で考察します。
到達目標	地名などを覚えるのではなく、まずは地図の読み方を理解します。そして、地図に彩色しながら考察する地理学的な捉え方を身に着けます。さらに、明らかにすべき目的に応じた地図の選択、人間の活動に対する地理学的な理解ができるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行い、資料は毎回配布します。授業中に配布した地図を彩色しながら読図する機会を多く設けています。そのため、赤・緑・青・茶の4色（なければ各近似色）の色鉛筆またはペンを持参してください。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地理学の概要	地理学の各分野および地理学で用いる主な地図を概説します。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
2	地図の種類と読図方法	研究に限らず、日常生活でも利用する機会が多い「地図」について、その種類と着眼点について解説します。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
3	地図の情報と正確性	地図上に表示されている情報の精度や基準について、実際に地図を読図しながら彩色作業を通して理解します。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
4	地理情報システム (GIS) の理論	紙媒体の地図とデジタル地図の違い、地理情報システムの仕組みや特徴を概説します。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
5	地理情報システム (GIS) の応用	近年、急速に普及している地理情報システムについて、農業や衛生問題を中心に概説します。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
6	地図を用いた地域の把握	地図の読図を通して、大学周辺を事例に、人文地理学の視点で現状を把握・理解します。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
7	地図を用いた地域の把握、前半のまとめ	6回目の続きと補足および後半に向けて前半のまとめを行います。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)
8	農村・漁村の立地条件	地形や気候などを踏まえて、農村や漁村が立地する条件について、実際に読図しながら理解します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
9	都市の立地条件	都市の立地について、地形や交通などの立地条件による成立要因を理解します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
10	農村・漁村の都市化要因と政策	農村・漁村が無計画に都市化する要因と、政策によって計画的につくられる都市の違いを、地図の比較によって理解します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
11	都市構造と都市計画	都市を構成するインフラなどの要素や、都市内の立地計画といえる都市計画について概説します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
12	都市構造の変化と地域差	都市の拡大や諸問題の発生する要因と地域差を読図によって理解します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
13	時空間の変遷	数年から数百年という期間での地域の変化について、時間と空間の変化を新旧地図の比較によって理解します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
14	地域の時空間的変遷	6 回目授業で扱う大学周辺地域について、新旧地図の比較による時空間の変化という視点で理解します。	授業テーマに関して、その要因を地理学的視点で考える。(事前学習 1.5 時間) 授業で紹介した参考書や文献を読む。(事後学習 1.5 時間)
15	全体のまとめ、フィードバック	全体の補足やまとめ、フィードバックを行います。	授業で紹介した参考書や文献を読む。もしくは、授業内容に似た事例を見つけ調べる。(事後学習 3 時間)

関連科目	地誌学、自然地理学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の授業で課す小課題:50%、期末レポート課題:50%			
学生への メッセージ	地理学の視点で、生活空間を理解することが目的です。地図に興味を持つことは重要ですが、地図を読むことの得意・不得意は気にせず受講してください。高校「地理」科目の知識、大学でのほかの地理学関連科目の履修歴も問いません。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	授業に関する問い合わせはメールで対応します。(メールアドレスは初回授業時にお知らせします) 参考書は、毎回の内容にあったものを授業中に紹介します。			

科目名	文学から学ぶ	科目名 (英文)	Literature
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	筒井 大祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1423a2		

授業概要・目的	日本の古典文学の中には、異能、異形、異類、異界 (異郷)、異国など、「異」と表象される存在が登場する。その「異」とは、自らと違うことを示す語である。それでは、それらの存在は、どのような点で、「異」とされているのだろうか。本講義では、この「異」というキーワードをもとに、日本の古典文学 (鎌倉時代の説話文学を中心に取り上げる) を支える価値観や思想を知ったうえで、自らと他者を考えるための視点を持つことを目的とする。
到達目標	本講義の到達目標である、以下の3点の理解度に応じて、成績を評価する。 1、日本の古典文学を通して、物語を支える同時代の価値観、思想を理解できる。 2、物語の比較を通して、共通点や相違点など、文学作品を解釈できる視点を持つ。 3、同時代の資料などを用いて、物語を多角的に考察する視点を持つ。
授業方法と留意点	毎回の授業の最後にコメントペーパーに、講義内での自らの気づきを書いてもらう。 大学の出席回数の規定に従い、成績評価を行う。欠席が多い場合は、単位を不可とする。 講義に際し、資料プリントを配布する。参考文献は、講義内で紹介する。
科目学習の効果 (資格)	物語世界を通して、物事を多角的に考える視点を持つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入・講義の目的 日本文学史の基礎知識	日本文学史の知識をおさえる	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める
	2	物語に見える異能 1	小野篁に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	3	物語に見える異能 2	安倍晴明に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	4	物語に見える異形 1	異形に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	5	物語に見える異形 2	異形に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	6	物語に見える異形 3	異形に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	7	物語に見える異類 1	異類に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	8	物語に見える異類 2	異類に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	9	物語に見える異類 3	異類に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	10	物語に見える異界、異郷 1	異界、異郷に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	11	物語に見える異界、異郷 2	異界、異郷に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	12	物語に見える異界、異郷 3	異界、異教に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	13	物語に見える異界、異郷 4	異界、異教に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	14	物語に見える異国	異国に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	15	物語に見える異国	異国に関する物語を読む	レポートを書く

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末レポート70%。コメントペーパー30%。コメントペーパーは、15回分の総合的な内容により、点数を配分する。出席回数が大学の規定に達していない場合は、レポート提出を認めない。
-----------	--

学生へのメッセージ	本講義では、日本の古典文学作品を扱いますが、文法の知識を必要とする「古文」の読解ではなく、「物語」を読むことに重点をおきます。現代語訳なども使い、講義を進めていきます。ただし、知識を問う暗記科目ではなく、論理的な思考力や文学的想像力を用いて文学作品を読む事が必要であることに留意してください。中学・高校時代に利用した国語便覧があれば、講義の参考になります。
-----------	--

担当者の研究室等備考	非常勤講師室
------------	--------

科目名	文化人類学	科目名 (英文)	Cultural Anthropology
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西垣 有
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1424a2		

授業概要・目的	人類学はこれまで、世界中の人々の多様な生の理解を通して、私たち人類がこの地球上に生き、存在するということがどのような事態なのかを探究してきた。本講義では、人類学の基礎的な概念や方法を概説し、人類学がどのような学問なのかを示した上で、そのような人類学的な見方の成立と歴史的展開をあとづける。
到達目標	・人類学がどのような学問であるかの理解。 ・人類学誕生以来の学説史的な展開、流れの理解。
授業方法と留意点	講義形式で行う。
科目学習の効果 (資格)	異なった視点からものごとをみることにより、私たちの思考や制度を可能にしているさまざまな前提をゆさぶり、世界の見方を新たにする。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	文化人類学とはどのような学問か?	人間、文化、フィールドワーク、エスノグラフィーなど人類学の基礎的な概念や方法論について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
2	人類学の誕生 (1): 博物学から人類学へ	19世紀におこった博物学から進化主義人類学へという変化を通して、人類学の誕生をあとづける。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
3	人類学の誕生 (2): 進化主義人類学	前回の続き。E・タイラー、L・H・モーガン、J・フレイザーの研究を例に進化主義人類学とそれまでの博物学的研究との違いをみる。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
4	機能主義人類学 (1): マリノフスキーとフィールドワーク	フランス社会学におけるデュルケム学派の成立とイギリスの機能主義人類学について、B・マリノフスキーとA・ラドクリフ=ブラウンの研究を中心に概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
5	機能主義人類学 (2): 有機的全体としての社会	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
6	アメリカ文化人類学の誕生 (1):	フランツ・ボアズの研究を概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
7	アメリカ文化人類学の誕生 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
8	アメリカ文化人類学の展開 (1)	ルース・ベネディクトとマーガレット・ミードの研究を紹介し、ボアズ学派を中心とするアメリカ人類学における「文化」概念の精緻化の過程をみる。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
9	アメリカ文化人類学の展開 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
10	構造主義 (1): モースからレヴィ=ストロースへ	マルセル・モースの『贈与論』とC・レヴィ=ストロースの構造主義について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
11	構造主義 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
12	構造主義 (3)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
13	解釈人類学 (1)	クリフォード・ギアツの研究を概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
14	解釈人類学 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
15	『文化を書く』とそれ以降	ポストモダン人類学とその後の展開について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。

関連科目	学芸員課程
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	100%定期試験によって評価する。 評価の基準は、人類学がどのような学問であるかを講義で説明した流れに沿ってきちんと理解できているかどうかにおく。ネットや参考書などで、授業とは無関係に調べた知識は（特に授業内容と合致しない場合）必ずしも評価につながらない。		
学生への メッセージ	情報量が多いのでたくさんノートを取ってください。ノートは板書をただ受動的に書き写すのではなく、疑問点や興味を持ったポイントなどについてもメモを取り、あとで見返した時にわかるようなノートをつくる習慣をつけてください。わからないことがあれば積極的に質問に来てください。 各回の講義終了後あまり時間をおかずに、それまでの講義の流れを理解したうえで、各回の講義の要約をノート半ページから1ページ程度で作ってみることを推奨します。		
担当者の 研究室等	非常勤講師室		
備考	事前事後の総学習時間の目安は60時間。 事前学習よりも、事後学習に力を注いでください。		

科目名	女性学	科目名 (英文)	Women's Studies
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	荒木 菜穂
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1425a2		

授業概要・目的	女性学とは、男女ともが、社会のしくみについて考える場である。社会の「主人公」が男性であることが自明であった時代、「見えない存在」とされていた女性のあり方に目を向けることが女性学のきっかけとなった。しかし、それは、性別によって個人が生き方を決められてしまう社会のしくみそのものを問う学問および活動を意味する。現在では、性をめぐる社会のしくみは、男女それぞれの個人としての「生きにくさ」と何かしら関係があるのかもしれないと捉えられる一方、「もはや性別による不都合など存在しない」という意見も多く見られる。本授業では、1970年代以降、今日にいたるまで、女性学において語られてきた様々なトピックをヒントに、性をめぐっての、今日的な社会のしくみについて、家族、恋愛、仕事、セクシュアリティなど様々な角度から理解を深める。
到達目標	女性学、ジェンダーに関する基本的なキーワードを理解する。その上で、日々のニュースや社会問題などを知り、考える作業を意識的に行い、一般論としての「あたりまえ」ではなく、自分を主語としてそれらの問題について語ることができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	各回、テーマに関して、女性学等においてこれまで語られてきたことの振り返りと並行させ、ニュースや図表や文献資料、映像など、今日的な問題に沿った資料を使用し授業を進める。授業終了後に、そのテーマについて、各人が自分の考えをまとめる時間を設ける。
科目学習の効果 (資格)	様々な角度からの議論を紹介していきたいと思えます。自分とは異なる価値観を持つ他者と柔軟に向き合うことができ、幅広い視野で社会を読み解くことができるようになればよいと考えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション/女性学とは何か	女性学について、また、日本における女性学誕生からジェンダー概念の普及までの簡単な歴史的な振り返りを行う。	配布プリントの復習 (1時間)
2	メディアの中の男女のイメージ (1)	様々なメディアの中で、男性、女性のイメージがどのように描き分けられているか、またなぜそうなっているのかについて考える。	配布プリントの復習 (1時間)・意識的にメディアを視聴し次回に備える (1時間)。
3	メディアの中の男女のイメージ (2)	メディアにおける表現の問題性、また、メディアと接する際のリテラシーについて考える。	配布プリントの復習 (1時間)・意識的にメディアを視聴する (1時間)
4	恋愛・結婚・家族とジェンダー (1)	モテ非モテ、愛と暴力など、日常的な問題の背景にある社会のしくみを知る。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
5	恋愛・結婚・家族とジェンダー (2)	恋愛意識、経済、家族のあり方など、様々な社会の問題と結びつく「結婚」という制度について、結婚が困難になりつつある近年の現状をデータなどで振り返り、その構造について考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
6	恋愛・結婚・家族とジェンダー (3)	結婚・家族などをめぐる「あたりまえ」を疑ってみる。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
7	女性運動から学ぶこと	過去および現在のフェミニズム運動やその主張の多様性から平等とは何かを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
8	個人の外見と身体と社会	個人の「見た目」がジェンダーや社会による制約を受ける問題について、単に批判するだけでなく、我々が積極的に表現する行為としての意味を考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
9	身体と性	出産・健康・医療をめぐる、男女の身体や性が社会とどのような関係にあったのかを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
10	セクシュアリティとジェンダー	快楽の性、性的なものをめぐる差別など、性と社会に関する様々なことを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
11	労働と社会 (1)	個人が生きる上での仕事、労働、生活について、現代の男女のライフコースとの関わりで考える。	配布プリントの復習 (1時間)・事例を採りレポート (1時間) 次回テーマについての予習 (1時間)
12	労働と社会 (2)	格差社会と男女共同参画といった観点から、資本主義社会の中のジェンダーと労働について学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
13	労働と社会 (3)	歴史的な視点でジェンダーと労働、法制度に関して学び考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
14	性の多様性とジェンダー	性の多様性に関する論点、現状をジェンダーの視点で考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
15	今日の課題と向き合う	女同士の関係、貧困、ネット社会など、社会の変化をもたらした様々なキーワードを、女性学、ジェンダーの切り口から再考する。	配布プリントの復習 (2時間)

関連科目 社会と個人について考える科目全てに関連性があるといえます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			

	3		
評価方法 (基準)	授業内課題 (30%)、最終レポート (70%) により総合評価する。		
学生への メッセージ	難解な理論を把握することよりも、日常生活の中の問題を、「あたりまえ」だけではない様々な視点で考えることができるようになることが本授業の目的です。この問題はなぜ起こっているのだろう、世の中ってどうなってるんだろう、と一緒に考えていけたらと思います。		
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室		
備考			

科目名	ボランティア活動論	科目名 (英文)	Study of Volunteer Activity
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01426a2		

授業概要・目的	<p>みなさんはボランティア活動についてどのようなイメージをもっておられるでしょうか。学校で授業の一環として地域の清掃を行ったり募金活動をしったりするのはボランティア活動と言えるでしょうか。チャリティー番組にタレントが報酬を得て出演するのもボランティア活動でしょうか。</p> <p>商業的なイベントで多額の報酬を受け取る人がいる一方で、専門的な知識や経験、資格や免許を有する人たちには〈やりがい〉〈思い出づくり〉あるいは〈社会貢献〉といった名のもとに無償のボランティアが求められることに批判の声があります。これとは逆に、NPO (非営利団体) の職員が報酬を受け取っていることや NPO に寄付したものがそのまま困っている人たちへの支援にまわされず経費として使用されることについて批判する人たちもいます。こうした問題について、みなさんはいまどのような理解をしているでしょうか。</p> <p>ひとことでボランティア活動と言っても、地域の清掃や通学路の見守りといった身近なものから専門的な知識を要するものまで活動の分野、規模、種類、求められる条件などはさまざまです。この授業では、ボランティア活動の意義、歴史、活動の分野や種類、そして社会制度との関係など、ボランティア活動について考える上で基本となることばを学修します。</p>
---------	--

到達目標	<p>この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。</p> <p>(1) ボランティア活動の意義について理解し説明できる (2) 多様なボランティア活動について理解し説明できる (3) ボランティアを必要とする人びとがいることを知るとともに、ボランティアを必要とする社会のしくみについて理解し説明できる</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業は進められます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、たんに授業に出席するだけでなく教員からの問いかけに積極的に応答することが求められます。</p> <p>成績評価の対象となる授業内課題 (リフレクション課題) は原則として毎週提出し、次の授業の冒頭で提出された内容をスクリーンに映しながら口頭でフィードバックが行われます。</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			事前学習: シラバスをしっかりと読んでから授業に出席すること。また、授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておくこと。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)
1	イントロダクション	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の時期、方法、基準についても確認します。	事後学習: 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習する
2	概論	ボランティア活動の意義、目的、必要性、種類、歴史について学修します。	事前学習: 授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)
			事後学習: 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習すること。また、授業中に出示された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
3	なぜボランティアが必要なのか?	ボランティアの必要性について学修します。	事前学習: 授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)
			事後学習: 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習すること。また、授業中に出示された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
4	支え合いによって成り立つ社会——市民社会論	支え合いによって成り立つ社会、市民社会について学修します。	事前学習: 授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)
			事後学習: 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習すること。また、授業中に出示された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
5	NPO、NGO	NPO、NGO とは何か、またそれらがボランティア活動において果たす役割はど	事前学習: 授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞

			のようなものなのか学修します。	にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
6	社会制度とボランティア活動		社会制度が NPO、NGO の活動やボランティア活動にもたらす影響について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
7	グループワーク（1）——国内外の NGO 団体について調査		5人前後のグループに分かれ、国内外の NGO 団体について調査します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
8	グループワーク（2）——国内外の NGO 団体について発表の準備		前回に引き続き、各グループで担当するテーマについて発表の準備をします。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
9	グループワーク（3）——国内外の NGO 団体について発表		グループで調査した内容にしたがって、国内外の NGO 団体がどのような活動を行っているのか紹介します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
10	災害とボランティア		災害とは何か、また災害時にどのようなボランティア活動があるのか学修します。災害時に活躍する専門ボランティアについて学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
11	医療福祉ボランティア		医療福祉ボランティアの種類や特徴について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
12	マイノリティとボランティア活動		マイノリティを支援するボランティア活動について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)

				事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	13	国際ボランティア	国際ボランティアの種類や特徴について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	14	文化ボランティア、その他のボランティア	文化ボランティア、およびその他のボランティアについて学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	15	まとめ、全体のふり返り	この授業で何を学んだのかを振り返ります。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	この授業は授業内課題(リアクションペーパー)15%、グループワーク20%、期末レポート65%で評価します。評価の基準については学部の規定に準じます。			
学生への メッセージ	決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。日本でも毎日いろいろなことが起こっていますが、世界ではもっといろいろなことが起こっています。ボランティアが必要であるということも、そうした世界での出来事に目を向けることから始まります。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。			
担当者の 研究室等	メールアドレス：xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)			
備考	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。			

科目名	経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Economics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	王 秀芳
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01427a2		

授業概要・目的	・本講義では、経済や経済学を初めて学ぶ人あるいは経済学の基礎知識を身に付けたいという人を対象として、経済や経済学の基本から、ミクロ経済学およびマクロ経済学の理論の基礎までを取り上げて、経済や経済学に関する基本的知識を修得します。
到達目標	受講者が経済学の基本的概念と考え方を習得し、世の中の経済問題や、日ごろの経済記事と経済ニュースを理解できることを到達目標とします。
授業方法と留意点	・授業は基本的に、Review (前回の復習と練習問題の解説)、本日のポイント、内容 (ポイントについて解説)、練習問題 (内容に 対応する課題) の形式で進めていきます。 ・Moodle (授業支援システム) を利用して資料の配布・課題提出等を行います。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業のガイダンス及び経済学と経済について	15回の講義で何を学ぶかを概説します。また、経済学と経済について解説します。	
2	需要の理論と消費者行動の理論	消費者の消費行動、需要曲線、消費者余剰などについて解説します。	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。
3	供給の理論と需要曲線と弾力性	供給者 (生産者) 行動、供給曲線、利潤最大化、生産者余剰などについて解説します。	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。
4	市場の理論	市場の効率性、完成競争、社会的余剰、市場の失敗などについて解説します	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。
5	市場の失敗	外部効果、公共財、情報の非対称性、独占市場などについて解説します。	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。
6	中間まとめ及び GDP (国内総生産)	・中間まとめ (ミクロ経済学の総まとめ及び小テスト) ・GDP の概念、実質 DGP と名目 GDP、GDP 統計などについて解説します。	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。
7	消費と貯蓄、投資	消費関数、消費性向、投資関数、投資の限界効率などについて解説します。	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。
8	政府の支出及び総需要の経済学	資源配分の改善、所得の再分配、総需要均衡所得 乗数効果などについて解説します。	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。
9	金融市場の分析	貨幣の定義、貨幣の役割、貨幣創造、貨幣需要関数 金融政策の基本などについて解説します。	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。
10	IS-LM モデル	IS 曲線と LM 曲線の導出、IS 曲線と LM 曲線のシフト、財政・金融政策などについて解説します。	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。
11	IS-LM モデルを使った分析	失業、有効需要、財政・金融政策、グラウディング・アウト、流動性の罫などについて解説します。	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。
12	物価の分析	貨幣数量説、総需要曲線、総供給曲線、サプライショックなどについて解説します。	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。
13	国際経済 (開放マクロ経済)	輸出と輸入、比較優位と貿易利益、国際分業と産業構造の変化などについて解説します。	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1時間)。

	14	国際版 IS-LM 分析 (開放マクロ経済学)	為替相場制度、輸出入、国際資本移動及びマンデル＝フレミング・モデルについて解説します。	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30 分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1 時間)。
	15	講義全体の総括及び確認テスト	・第 1 回から第 1 4 回までの授業内容の総まとめ ・第 1 回から第 1 4 回までの授業内容に関する確認テスト	・事前学習では前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと (30 分)。 ・事後学習では講義終了後に改めて授業の資料を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出すること (1 時間)。
関連科目	食料・農業経済学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ミクロ経済学の基礎	小川光／家森信善	中央経済社
	2	マクロ経済学の基礎	家森信善	中央経済社
	3			
評価方法 (基準)	・授業内課題 50%、小テスト及び確認テスト 50% ただし再受験の学生はレポート 100%で評価します。			
学生へのメッセージ	講義では出来る限り平易に解説していきます。講義を毎回受講し、熱心に学ぶ姿勢をもったやる気のある受講生を望みます。			
担当者の研究室等				
備考				

科目名	日本の政治	科目名 (英文)	Japanese Politics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01428a2		

授業概要・目的	この授業では、国会・内閣・選挙制度・政党といった政治制度を形成する要素を日本を中心に世界の主要国とも比較しながら概説するとともに、明治から戦後までの日本の政治史の重要なトピックを取り上げる。 それにより、現在に至る社会がどのように形成されてきたのか、戦前と戦後ではどういった点が違うのかを有権者たる学生の皆さんが理解し、これからの日本政治を考えるための材料を幅広く提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、明治以降の日本が歩んで来た政治史や、他国との比較において日本の政治制度を理解することにより、国際人としての基本的素養を身につけること、また日常生活で政治に関する新聞記事などをしっかりと理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	プリントと板書により講義形式で授業を進めます。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いて下さい。 また、小テストはMoodleより行うので、受講する学生はMoodleの当授業コース「【前期金曜1限・農学部&看護学部】日本の政治 (担当: 森康一)」を検索の上、登録しておいて下さい。他の同名講義と間違えないように登録すること。 自己登録キー: 1206
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職活動において、日本の政治史や政治学の内容が一般教養として問われる。 また、有権者として政治参加する際に、政治制度等の情報について知っておくことが必要である。 この授業によって、上記に際して必要な基本的な政治的知識を得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	「日本の政治」講義について ○第1部 政治制度論 政治制度と選挙制度①	講義の内容全般について 日本の政治制度の基本原則について	幕末から現代までの日本史を、高校の教科書等であらかじめ読み直しておく 日本国憲法における天皇の位置付けについて調べておく (約1時間30分)
2	日本の政治制度・選挙制度②	日本の国会のしくみや機能、立法過程について	日本の国会のしくみについて調べておく (約30分) レジュメ (第2回) を見直しておく (約1時間)
3	日本の政治制度・選挙制度③	日本の内閣・裁判所について	日本の議院内閣制のしくみについて調べておく (約30分) レジュメ (第3回) を見直しておく (約1時間)
4	日本の政治制度・選挙制度④	日本の選挙制度について	「小選挙区比例代表並立制」について調べておく (約30分) レジュメ (第4回) を見直しておく (約1時間)
5	政党	政党制の分類と、日本やその他の国の政党制について	アメリカ、イギリスにはどんな政党があるのか調べておく (約30分) レジュメ (第5回) を見直しておく (約1時間)
6	○第2部 日本政治史 明治国家の建設	中央集権体制の確立と日本「国民」の形成について	廃藩置県について調べておく (30分) レジュメ (第6回) を見直しておく (約1時間)
7	初期の外交と政府批判の噴出	明治初期の外交関係と士族の反乱・自由民権運動について	自由民権運動について調べておく (30分) レジュメ (第7回) を見直しておく (約1時間)
8	明治憲法体制の成立	大日本帝国憲法の制定と条約改正について	幕末の不平等条約の内容について調べておく (30分) レジュメ (第8回) を見直しておく (約1時間)
9	議会政治の定着	初期議会と日清戦争、およびその後の藩閥-政党関係について	日清戦争・下関条約について調べておく (30分) レジュメ (第9回) を見直しておく (約1時間)
10	桂園時代	日露戦争およびその後の藩閥-政党関係について	日露戦争・ポーツマス条約について調べておく (30分) レジュメ (第10回) を見直しておく (約1時間)
11	国際協調と政党内閣	大正デモクラシーおよび政党内閣の時代について	「憲政の常道」について調べておく (30分) レジュメ (第11回) を見直しておく (約1時間)
12	軍部の台頭と日中戦争	満州事変以降の国内政治・国際関係について	満州事変以降の内閣の変遷について調べておく (30分) レジュメ (第12回) を見直しておく (約1時間)
13	太平洋戦争	日米戦争について	太平洋戦争直前の日米交渉について調べておく (30分) レジュメ (第13回) を見直しておく (約1時間)
14	戦後の民主化と講和	戦後の改革と独立回復、55年体制の成立について	戦後初期の政党について調べておく (30分) レジュメ (第14回) を見直しておく (約1時間)
15	まとめ	講義のまとめと試験について	レジュメ・ノートを整理し、期末レポートの準備をする (4時間)

関連科目 政治学、政治史関連の科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治学	加藤秀治郎	芦書房
	2	戦後政治史	石川 真澄、山口 二郎	岩波書店
	3	日本政治史	坂野 潤治	有斐閣

<p>評価方法 (基準)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、「公欠を除く欠席が5回以下」の学生のみを成績評価の対象とします。 ・成績評価は <ul style="list-style-type: none"> ○平常点20%：小テスト×2回（第6回・第11回の授業日にMoodleから実施。当該日の任意の時間に受験可能。各回10点満点） ○期末試験80%：論述式。5問出題し、そのうち2問を選択してもらいます。各問40点満点。 の合計点によって評価を行います。 ・期末試験において持ち込みは認めません。
<p>学生への メッセージ</p>	<p>高校の日本史教科書等で明治以降の部分を熟読しておいて下さい。 日々起こる政治的な出来事を、政治制度や政治史の知識をベースにとらえていくようにしましょう。</p>
<p>担当者の 研究室等</p>	<p>寝屋川キャンパス11号館5階 法学部資料室（法学部非常勤講師室）</p>
<p>備考</p>	

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正, 本多 康作
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01429a2		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。 ・このような法の特徴と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いごとを解決しているかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。 ・第1回～第3回を本多、第4回～第15回まで小野が担当する。
到達目標	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「法」と「道徳＝倫理」の違いや法令の種類について説明できる ・婚約、婚姻、内縁、離婚、相続をめぐる論点について説明できる ・民法の財産法や刑事法の諸原理について説明ができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・初回の講義は対面で行い、第2回目から第15回目までをオンデマンド動画配信講義にて行う。 ・本講義は、ICTツールとしてMicrosoft社のteamsおよびformsを用いる。 ・課題提示や資料配布などはMicrosoft社teamsを通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・課題に対するコメントは次回講義またはteamsを通じて行う。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・公務員試験や各種資格試験に必要とされる法学の基礎的知識を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日本法の体系 (担当：本多)	<ul style="list-style-type: none"> ・法の段階構造 ・私法／公法による法の分類 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)
3	法的三段論法 法の解釈 (担当：本多)	<ul style="list-style-type: none"> ・裸の価値判断と法的三段論法 ・法の解釈—簡単なケースと難解なケース 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)
4	労働法① (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラック企業問題と労働者保護 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)
5	刑事法① (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> ・裁判員裁判の仕組みとその問題点 ・悪質動画貼り付けと器物損壊および偽計業務妨害罪 ・闇バイトを通じた犯罪関与 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)
6	刑事法② (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪の成立要件 ・・ ストーカー行為規制法の最前線 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)
7	労働法② (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> ・採用内定と法的規制 ・正規雇用と非正規雇用 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)
8	民法法② (家族法①) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の範囲 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)
9	民法法③ (家族法②) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> ・家族法の基本原則 ・婚約の法的効果ほか ・婚姻 (結婚) の法的要件・効果 ・夫婦の財産関係 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)
10	民法法④ (家族法③) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> ・離婚の法的効果 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)
11	民法法⑤ (家族法④) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> ・離婚の手続き・親子関係と親権 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)
12	民法法⑥ (不法行為法②) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> ・各種ハラスメントと法 ・不法行為と損害賠償 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)
13	民法法⑦ (財産法①) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> ・賃貸住宅をめぐるトラブルー敷金と敷引特約 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)
14	民法法⑧ (財産法②) (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> ・被災と住宅ローン減免の可否 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)
15	刑事法②＋行政法＋民法法⑨ (担当：小野)	<ul style="list-style-type: none"> ・ドメスティック・バイオレンス (DV) とデートDV 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習 (2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約2時間)

関連科目	日本国憲法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新入生のためのリーガル・トピック 50	阿部昌樹・和田仁孝	法律文化社
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法学入門（第6版補訂版）（有斐閣双書）	末川 博/編著	有斐閣
	2	現代法学入門（第4版）（有斐閣双書）	伊藤 正己=加藤一郎/編著	有斐閣
	3	判例法学（第5版）	西村 健一郎=西井 正弘=初宿 正典/編著	有斐閣
評価方法 （基準）	・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%+課題の得点 95%）。定期試験は実施しない。			
学生への メッセージ	・法律系の番組が好きな方は、ぜひ受講してみてください。			
担当者の 研究室等	寝屋川校地 11号館10階 小野教授室 11号館09階 本多准教授室			
備考	本講義は、第2回目よりオンデマンド動画配信による授業を行います。			

科目名	経営学入門	科目名 (英文)	Introduction to Management
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小沢 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01430a2		

授業概要・目的	<p>この講義では、市場や事業創造の担い手である、Entrepreneur (起業家・企業家) に関する戦略と組織について、様々な考え方を示していく。その過程で、経営学の基本について、全体を網羅して講義を行う。教科書や講義で紹介する代表的な事例を通じて、経営学への理解を深める。</p> <p>どのようにすれば、新たな市場や事業を創造して成功を導くことができるのか。それは特に日本企業の経営にとって、きわめて実践的な課題であるといえる。こと事業創造によって事業構造の再構築を上手く進めることは、日本社会における個人と企業との関わり方を変えたとともに、既存の産業における構造的な転換と新産業の創出を可能にし、ひいては日本経済の活力を生み出すカギになると考えられる。</p> <p>Entrepreneur (起業家・企業家) は、発掘されるべきものであり、育成されるものではないという当たり前の目線がある。Entrepreneurship は、生まれつきの性格や能力に依存するところが多いと考えられてきたからだ。</p> <p>この講義は、この当たり前の目線に挑戦したい。Entrepreneur の行動原則は、思考や実践を通した熟達によって獲得されることを学ぶ。不確実性や曖昧性の高い状況であっても、行動を起こす自信と勇気を得ることができる Entrepreneur の思考や行動原則を、この講義では身につけます。</p> <p>身の回りのものを眺めるだけで、本講義で説明する理論と深く関係する事例が見つかるはず。経営学を深く学ぶということは、様々な学問分野の基礎を学ぶ事につながります。それは、これからの皆さんの人生をより豊かなものとする第一歩になるでしょう。</p>
到達目標	<p>市場や事業を創造する上で、自分たちが儲かりさえすれば良いという発想ではなく、公益の追求が必要であることを体得する。「自分たちにとって」だけでなく、社会にとって善であるかを熟慮して、判断する能力を磨く。</p> <p>ベンチャーにしる、中小や大手企業にしる、経営は、より高次の目的にかなうものでなければならない。そのような目的を設定し、実現に邁進する。さすれば組織は、社会に永続的な恩恵をもたらすという使命を帯びた存在であるという自覚を持てるようになる。ひいては、人類の現状を改善するということに貢献できる。</p>
授業方法と留意点	この講義は、基本的に教科書と、私の用意する教材を基に講義を進めていきます。また座学だけでなく、実在する企業のケースを元に、組織の仕組みに関する巧拙や組織マネジメントのあり方などについて、議論を行います。よって学習課題への返答を求めるなど、参加を重視します。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	アントレプレナーシップの基礎理論	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価についても、説明します	事前：シラバスと教科書の第1章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
2	アントレプレナーシップの社会的意義	企業経営を中心に、講義します	事前：教科書の第2章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
3	アントレプレナーシップの倫理教育	アントレプレナーに必要な要素と、経営教育との関わりについて学びます	事前：教科書の第3章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
4	独立アントレプレナー	経営資源の獲得と、事業創造について、学びます	事前：教科書の第4章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
5	ファミリー・アントレプレナー	事業承継と革新について、学びます	事前：教科書の第5章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
6	コーポレート・アントレプレナー	既存企業における新規事業開発と、社内企業家について、学びます	事前：教科書の第6章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
7	アカデミック・アントレプレナー	大学の研究の現場から、アントレプレナーは生まれるのか、議論します	事前：教科書の第7章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
8	ソーシャル・アントレプレナー	社会的な問題に対して、経営学の考え方で解決する可能性について、議論します	事前：教科書の第8章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
9	誕生・成長初期のアントレプレナーシップ	ビジネスモデル、事業の仕組みについて、学びます	事前：教科書の第9章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
10	成長期のアントレプレナーシップと外部資源	M & Aについて、学びます	事前：教科書の第10章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
11	成長期のアントレプレナーシップと内部資源	経営資源と学習について、学びます	事前：教科書の第11章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
12	長寿企業とアントレプレナーシップ	技能の継承について、学びます	事前：教科書の第12章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
13	アントレプレナーシップとエスニック・マイノリティ	経営資源を獲得するネットワークについて、学びます	事前：教科書の第13章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
14	グローバル・アントレプレナーシップ	企業が国境を越える理由について、考えます	事前：教科書の第14章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
15	アントレプレナーシップとエコシステム	なぜアメリカのシリコンバレーは、アントレプレナーを輩出し続けるのか、議論します	事前：教科書の第15章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1からのアントレプレナーシップ (第2版)</td> <td>山田 幸三・江島 由裕 (編著)</td> <td>碩学舎</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	1からのアントレプレナーシップ (第2版)	山田 幸三・江島 由裕 (編著)	碩学舎	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	1からのアントレプレナーシップ (第2版)	山田 幸三・江島 由裕 (編著)	碩学舎														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>市場再活性化のメカニズム</td> <td>小沢 貴史</td> <td>千倉書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新 経営戦略論 (第3版)</td> <td>寺本 義也・大森 信 (編著)</td> <td>学文社</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	市場再活性化のメカニズム	小沢 貴史	千倉書房	2	新 経営戦略論 (第3版)	寺本 義也・大森 信 (編著)	学文社				
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	市場再活性化のメカニズム	小沢 貴史	千倉書房														
2	新 経営戦略論 (第3版)	寺本 義也・大森 信 (編著)	学文社														

	3	新 経営戦略論	寺本 義也・岩崎 尚人 (編集)	学文社
評価方法 (基準)	<p>この講義では、レポートを2回、課します。レポートは、指定する期日（講義の中でお知らせします）までに提出してください。期日を遅れて提出した場合は、減点の対象となります。</p> <p>2回のレポートと、出席および教材へのアクセス状況を加味して、総合的に評価します。レポートの評価項目は、次の通りです。</p> <p>「重要な要因や問題の識別」 「論理一貫性」、「客観性」 「分析内容の完結性」 「適切な概念やモデルの適用」</p>			
学生への メッセージ	<p>受講される皆さんは、組織論や戦略論、マーケティング論などを問わず、さまざまな分野の本を余力のあるうちに読んでおいてください。たとえば社会学や心理学、経済学、歴史学、哲学などです。自分の関心のある分野で結構です。無理なく読んでいただき、その本の考え方を吸収してください。</p>			
担当者の 研究室等	<p>担当者は、非常勤講師です。</p>			
備考				

科目名	観光学	科目名 (英文)	Tourism Studies
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	堀 利江
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01431a2		

授業概要・目的	観光は、「平和へのパスポート」と言われ、国際的、文化的な交流を促進するとともに、人々の健康で豊かな生活に貢献しています。また訪日外国人旅行の増大は、地域経済活性化の切り札ともなっています。授業を通して、観光の歴史、人々の観光行動、観光産業や観光庁の政策など、観光学の基礎を学び、獲得した知識を社会に役立てることを目的とします。近年の旅行市場の動向や地域観光の現状と課題を踏まえ、これからの持続可能な観光について考えます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 観光に関する文献や資料を理解する力を身につける。 観光の役割と現代観光の特徴について説明することができる。 観光資源について調査し、課題の解決に向けて自ら意見を述べるができる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 講義を中心に授業を進めます。 グループワークも取り入れます。積極的に参加してください。 教科書は使いません。毎回、プリントを配布します。 授業時に事前・事後学習の内容を提示します。確認し取組んでください。
科目学習の効果 (資格)	観光に関わる基礎知識を修得します。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 観光と観光学	授業の進め方や課題の調査レポートについて確認し、観光の基礎用語を学ぶ。観光とは何か、観光の役割とは何かについて考える。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
2	観光の歴史	観光の視点で歴史を読み直す。主に日本の江戸時代の旅について学ぶ。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
3	戦後の観光と観光政策	国の観光政策の流れを確認しながら、観光が大衆化する背景について学ぶ。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
4	日本の旅行市場	『観光白書』等を用いて、国内外の旅行者数の推移や旅行消費額等、旅行市場の全体像を掴む。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
5	観光産業と観光統計	観光産業の定義や観光統計の概要を学ぶ。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
6	観光産業 I 旅行業と運輸業	旅行業および運輸業の特性や現状と課題を学び、特に利用者が増加しているLCCについて理解を深める。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
7	観光産業 II 宿泊業	宿泊業の特性や現状と課題、宿泊施設の多様化や民泊サービスの拡大等、近年の動きを学ぶ。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
8	温泉と温泉地	温泉の定義、効能等、温泉の基本を学び、戦後、観光地として発展した温泉地の現状と課題を理解する	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
9	事例研究 I 星野リゾート	破綻したリゾートの再生で注目された「星野リゾート」の特徴的な組織体制や経営方針を学ぶ。	事前学習 (2時間)・事後学習 (2時間)
10	事例研究 II TDR と USJ	遊園地・テーマパークの概要を掴み、TDR (東京ディズニーリゾート) と USJ (ユニバーサル・スタジオ・ジャパン) に分かれて、成功要因を考える。	事前学習 (2時間)・事後学習 (2時間)
11	文化遺産と観光	ユネスコの「世界遺産」や文化庁認定の「日本遺産」を学び、文化財のデジタル化や観光活用について理解を深める。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
12	地域観光と観光まちづくり	観光庁の主な観光地域づくり政策と地域資源を活かした観光まちづくりの動きを学ぶ。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間) 課題レポートの作成 (5時間)
13	MICE と IR	ビジネスイベントの総称である MICE (マイス) と、MICE 誘致に関わる IR (統合型リゾート) 推進の現状について理解を深める。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
14	観光資源調査研究	個人で作成したレポートをもとに少人数でのグループワークを行う。グループ内で様々な観光資源の現状と課題を学び、ワークシートに整理する。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
15	持続可能な観光に向けて	グループワークと授業を振り返り、これからの持続可能な観光について考える。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門 観光学 [改訂版]	竹内正人・竹内利江・山田浩之	ミネルヴァ書房
	2	観光学ガイドブック	大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・神田孝治	ナカニシヤ出版

	3	1からの観光事業論	高橋一夫・柏木千春	碩学舎
評価方法 (基準)	小テスト 45%	授業内で2回実施。学修した知識の理解を問う。		
	レポート 40%	内容の妥当性と論理的構成について評価する。 グループワークで作成するワークシートも含む。		
	課題 15%	記述内容の妥当性を評価する。		
学生への メッセージ	観光にとって「食」と「農」は欠かせない存在です。フードツーリズムやグリーンツーリズムなど、食事や農業体験を楽しむ観光が積極的に行われるようになっていきます。日頃から様々な観光地の情報を収集し、その魅力について考えてみてください。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Japanese Constitution
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01432a2		

授業概要・目的	本講義では、日本国憲法の基礎的知識を修得することを目的としています。さらにその知識を活用して、社会における多様な問題について、憲法の視点を踏まえて自分の言葉で発言できるようになることを目標とします。できるだけ身近な素材を利用して講義を進めますので、「憲法」と日常生活との関わりについて考えてもらえる機会になるでしょう。また、憲法をめぐるさまざまな考え方にふれ、物事を多角的にみる能力を養います。
到達目標	この授業を通して学生は、「憲法」の意義、および日本国憲法の基礎知識を修得し、社会の中の憲法にかかわる諸問題について自分の意見を述べるができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	必要に応じてレジュメや資料を配布します。受講生の皆さんは、講義内容をしっかりとノートなどにまとめるよう努力しましょう。授業では、学習した内容の復習と知識の定着のために小テスト (小レポート) などの課題に取り組んでもらいます。授業の進行にあわせて、2回分のテーマを1回にまとめることもあります。
科目学習の効果 (資格)	各資格試験や就職試験における法学科目の基礎知識としても有益です。 教員免許取得上必修

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに 現代日本の法制度の概要について	講義 日本法全体における憲法の位置づけ	事前：日本国憲法全文を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
2	「憲法」とは 日本における「憲法」の成立と歩み	講義 欧米の「憲法」の歴史を概観する。「立憲主義」という言葉の意味を考える。日本において「憲法」はどのように誕生したのか？大日本帝国憲法の特徴とともに、日本国憲法の成立過程及び現在までの歩みを学ぶ	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
3	「日本国憲法」の基本構造・基本原理	講義 日本国憲法の基本原理および基本構造 (統治の基礎と人権の基礎) を確認する。第1条から、日本国憲法における「天皇」制と国民主権について考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
4	統治の基礎 (1) 国会	講義 日本の統治機構の基本を学ぶ。特に国会の役割、さらに三権分立の意義を考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
5	統治の基礎 (2) 裁判所	講義 裁判・裁判所の基礎を学ぶ 裁判所の組織、司法権の独立、裁判員制度	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
6	人権総論 憲法で保障される人権とは	講義 日本国憲法の人権規定の基本にある考え方を学ぶ。人権規定の種類・分類を学び、人権の意義と全体像を確認する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
7	自由権① 信教の自由	講義 重要判例を通して信教の自由・政教分離の原則の意義を考える。また信教の自由をめぐる欧米の歴史も概観する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
8	自由権② 表現の自由 (その他の自由権)	講義 「表現活動」やその他の自由権をめぐる判例や近年の動向を検討する	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
9	自由権③ 刑事手続上の権利、他	講義 適正手続の保障、公判手続における権利などについて学ぶ	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
10	社会権 生存権・労働者の権利	講義 まず社会権の歴史を学ぶ。生存権の意義と、日本の貧困問題を考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
11	法の下での平等①	講義 憲法上の「平等」とは？「憲法」で保障される平等の意味・歴史を学ぶ。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
12	法の下での平等②	講義 14条・24条をめぐる近年の重要判例を検討しつつ、家族をめぐる法や諸問題 (夫婦別姓、同性婚の問題など) を憲法を通して考える	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)

	13	新しい人権 自己決定権	講義 新しい人権、特に「自己決定権」について考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及び その他文献（参考図書・新聞等）を読んでおく。 （2時間） 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、 授業のポイントを確認・整理する。（2時間）
	14	平和主義	講義 戦後から現在までの「9条」をめぐる様々な動向・多様な意見を確認し、今後の日本の「平和」と憲法の意義を考えてみる。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及び その他文献（参考図書・新聞等）を読んでおく。 （2時間） 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、 授業のポイントを確認・整理する。（2時間）
	15	憲法改正の諸問題 まとめと復習	講義 憲法改正をめぐる動向と諸問題を検討する。これまでの講義内容全体を復習する。憲法の重要判例も再度確認する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所を 読んでおく。（1時間） 事後：これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の 全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、 自分の言葉で説明できるよう整理する。（3時間）
関連科目	法学入門			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スタディ憲法・第2版（最新版）	曾我部真裕 他	法律文化社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	憲法（最新版）	芦部信喜	岩波書店
	2	憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第7版）	長谷部恭男、他	有斐閣
	3			
評価方法 （基準）	授業内課題（小テスト、小レポートなど）30%と、定期試験（筆記試験）70%によって、総合的に評価します。 授業内課題等の詳細は、第1回授業のなかで説明します。			
学生への メッセージ	「憲法」をめぐる議論が活発化する今、憲法の基礎知識をしっかりと修得しましょう。			
担当者の 研究室等	1号館2階（非常勤講師室）			
備考	参考文献等は、授業の中で、随時紹介します。			

科目名	教養数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	島田 伸一
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1433a2		

授業概要・目的	教養数学では、農学部の専門的知識を学ぶ上で必要となる（統計学などの）応用数学と言われる知識を修得するための基礎的・基本的な数学の知識や考え方を扱う。それらを学び、理解することを通じて、論理的思考能力・判断力・表現力といった、農学部を含む理系学部生一般に求められる素養を身につける。さらにそのような数学的素養を活かし、農学領域やそれを取り巻く様々な分野に対しても応用できるような基本的技能を習得することをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 微積分の基本的計算を行うことができる。 (2) 簡単な微分方程式を解くことができる。 (3) 基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	Moodleに毎回の講義資料・小テスト問題をアップする。講義までに資料に目を通しておくこと。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得すること。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	微分法の基本	・接線と微分係数 ・導関数	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
2	微分法の基本	・微分計算の公式 ・1次近似式	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
3	微分法の基本	・関数の増減 ・関数の凹凸 ・関数のグラフ	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
4	微分法の基本	・速度と加速度 ・運動量保存則	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
5	指数関数と対数関数	・指数法則と対数法則	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
6	指数関数と対数関数	・グラフ	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
7	指数関数と対数関数	・簡単な微分方程式	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
8	三角関数	・三角関数の復習 ・グラフ	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
9	三角関数	・加法定理 ・三角関数の微分	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
10	不定積分	・基礎的な公式	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
11	不定積分	・置換積分 ・部分積分	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
12	定積分	・不定積分と定積分 ・面積と定積分	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
13	定積分	・定積分の計算 ・置換積分と部分積分	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
14	定積分	・表面積と回転体の体積	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信
15	微分方程式	・変数分離型 ・1階線型	講義資料の予習 講義内容に関連する部分の教科書の復習 小テストの解答・送信

関連科目 物理・化学・数学を使う専門科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	確率・統計のための数学基礎	小林俊公・島田伸一・友枝燕子	共立出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題 40%、期末試験 60%で判定し評価する
学生への メッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。
担当者の 研究室等	
備考	・事前課題、事後課題には1コマあたり1.5時間ほどかかることを前提に設定していますので、計画的に取り組んで下さい。

科目名	生命倫理	科目名 (英文)	Bioethics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	椎名 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ONA1434a2		

授業概要・目的
 農学の学びにおいて「総合科学」の基礎となる幅広い知識の獲得に加え、倫理観をもった豊かな人間性を涵養する教育が必要であり、農学分野における生命科学の倫理的配慮が社会的、科学的、技術的側面などから求められている。中でも、農学分野において、ゲノム解析、各種細胞の研究利用、遺伝子組み換えによる品種改良など生命に係る技術利用が行われ、人類に有益な結果をもたらす一方で、予期せぬ有害な影響なども予測される。したがって、本授業では、生命科学分野で配慮されるべき生命倫理観及びその行動を学ぶ。「ヒトの生死や生命とは何か」、「人間とは何か」などの根源的な問いに向き合いながら、農学における生命科学の最新技術がヒトや地球環境に及ぼす影響を考察し、倫理的行動のあり方について学修することを目的としている。

- 到達目標**
- ① 生命倫理に関する諸問題について、農学部の学生として必要な知識や考察力を身につける。
 - ② バイオテクノロジーと環境の問題について、倫理的な理解を深める。
 - ③ ヒトの生命の誕生および死について学修し、それらに対する知識と倫理観を身につける。
 - ④ 食に関わる倫理的課題を理解し、説明出来る。
 - ⑤ ヒトの生活を支えている様々な生命を理解し、それらに対する倫理観を身につける。

授業方法と留意点
 授業は、教員による講義とグループワークなどを取り混ぜて行う。また、グループワークの都合上、学生はそれぞれ決められた席に着席する。講義はパワーポイントと板書、テキスト、配付資料などを用いて行うが、授業の理解度を高めるために事前・事後の学習課題を課す。事前学習の小テストは、テキストなどの指定された部分を読んでから Moodle 上で解答する。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	医療資源の配分 インフォームド・コンセント	医療資源の配分とインフォームド・コンセントの具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習と小テスト 事後学習：事後レポート
3	脳死と臓器移植	脳死と臓器移植の具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習と小テスト 事後学習：事後レポート
4	安楽死と尊厳死	安楽死・尊厳死、終末期医療に関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習と小テスト 事後学習：事後レポート
5	ゲストスピーカー講義	・ゲストスピーカーとともに命について考える。 ・通常の時間割と異なる時限に邂逅する可能性があるため、事前の連絡に注意すること。	事後学習：事後レポート
6	環境倫理 (1)	・環境倫理の様々な論点を知る。 ・様々な環境課題における「世代間倫理」について学ぶ。	事前学習：テキストの予習と小テスト 事後学習：事後レポート
7	環境倫理 (2)	環境倫理の具体的課題についてグループワークで考える。	事前学習：テキストの予習と小テスト 事後学習：事後レポート
8	食の倫理 (1)	・フードシステムについて知る。 ・保健機能食品やフードファディズムについて学ぶ。	事前学習：テキストの予習と小テスト 事後学習：事後レポート
9	食の倫理 (2)	食べ物と健康について様々な倫理的な観点から考える。	事前学習：テキストの予習と小テスト 事後学習：事後レポート
10	ペットや産業動物の命	・動物の生命と愛護について考える。 ・野生動物の生と死、産業動物と食肉産業などについて学び、理解を深める。	事前学習：テキストの予習と小テスト 事後学習：事後レポート
11	ヒトゲノムとクローン技術 (1)	・ヒトのゲノム情報に関連する課題について知る学ぶ。 ・クローン技術に関連する課題について学ぶ。	事前学習：配布資料の予習と小テスト 事後学習：事後レポート
12	ヒトゲノムとクローン技術 (2)	ヒトのゲノム情報やクローン技術に関わる具体的課題について考える。	事前学習：配布資料の予習と小テスト 事後学習：事後レポート
13	13 遺伝子組換え食品とゲノム編集食品 (1)	遺伝子組換え技術やゲノム編集技術の基本と社会との関係について学ぶ。	事前学習：配布資料の予習と小テスト 事後学習：事後レポート
14	遺伝子組換え食品とゲノム編集食品 (2)	食に関わる新しいバイオテクノロジーの社会受容に関わる具体的課題について考える。	事前学習：配布資料の予習と小テスト 事後学習：事後レポート
15	食品汚染と公害	食品汚染物質と食品公害について学び、考える。	事前学習：配布資料の予習と小テスト 事後学習：事後レポート

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	農学・生活科学を学ぶ学生のための 新しい生命倫理	椎名隆ほか著	化学同人
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業全体について、事前学習課題の総得点を40点に換算し、授業内の成果物などを10点、事後レポートなどを50点とし、合計100点満点で教科の成績を評価する。60点以上で合格とする。			
学生への メッセージ	農学は「いのち」を扱う学問であり、農業は「いのち」を利用させていただく産業です。この授業では、「いのち」を、自然科学、人文・社会科学、医療・看護、食、農業生産、などの様々な視点から、考えていきます。中には、心にとって重い課題も、そうでない課題もあり、また、結論のない、出せない課題も沢山あります。この授業では、このような課題を通じて、「いのち」とは何か、私たちは「いのち」にどう向き合うべきなのかを、皆さんとともに、考えていきたいと思ひます。			
担当者の 研究室等	椎名 隆 応用生物科学科 8号館3階:303号室 岩崎 綾乃 薬学部薬学科 1号館1階:岩崎講師室 喜多 大三 食品栄養学科			
備考				

科目名	生物と環境	科目名 (英文)	Life and Environment
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 優
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1435a2		

授業概要・目的	我々人類を含む生物と環境を取り巻く状況は、悪化の一途をたどっている。経済優先の人間活動による温室効果ガスの排出は地球温暖化を引き起こし、それに伴い環境破壊や水不足、食糧危機等の様々な社会問題が世界各地で顕在化している。そんな中、2030年を期限とした世界共通の目標—いわゆるSDGs—が2015年に国連（国際連合）で採択され、現在世界の約190の国と地域で、この目標達成に向けた活動が加速している。本講義では、このSDGsにある「17の目標」の学習を通じて、ヒトを含む生物と環境の関わりについて理解を深めることを目的とする。
到達目標	・生物（ヒトも含む）と環境とのかかわりを理解し、自ら説明することができる。 ・人間活動に起因する世界の環境問題を理解し、自ら説明することができる。
授業方法と留意点	パワーポイントを用いた講義形式。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	SDGs とは何か 目標1. 貧困をなくそう (No Poverty)	内容: SDGs とは何か 内容: SDGs 目標1 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
2	目標2. 飢餓をゼロに (Zero Hunger)	内容: SDGs 目標2 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
3	目標3. 人々に保健と福祉を (Good Health and Well-Being)	内容: SDGs 目標3 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
4	目標4. 質の高い教育をみんなに (Quality Education)	内容: SDGs 目標4 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
5	目標5. ジェンダー平等を実現しよう (Gender Equality)	内容: SDGs 目標5 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
6	目標6. 安全な水とトイレを世界中に (Clean Water and Sanitation)	内容: SDGs 目標6 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
7	目標7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに (Affordable and Clean Energy)	内容: SDGs 目標7 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
8	目標8. 働きがいも経済成長も (Decent Work and Economic Growth)	内容: SDGs 目標8 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
9	目標9. 産業と技術革新の基礎をつくらう (Industry, Innovation and Infrastructure)	内容: SDGs 目標9 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
10	目標10. 人や国の不平等をなくそう (Reduced Inequalities)	内容: SDGs 目標10 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
11	目標11. 住み続けられるまちづくりを (Sustainable Cities and Communities)	内容: SDGs 目標11 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
12	目標12. つくる責任 つかう責任 (Responsible Consumption and Production)	内容: SDGs 目標12 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
13	目標13. 気候変動に具体的な対策を (Climate Action)	内容: SDGs 目標13 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
14	目標14. 海の豊かさを守ろう (Life Below Water) 目標15. 陸の豊かさを守ろう (Life on Land)	内容: SDGs 目標14 及び目標15 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
15	目標16. 平和と公正をすべての人に (Peace, Justice and Strong Institutions)	内容: SDGs 目標16 について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	一番わかりやすい!SDGsのざっくり知識	国際時事アナリスト編	河出書房新社

	2	SDGs 時代の社会貢献活動	前林 清和・中村 浩也（編集）	昭和堂
	3	データでわかる 2030 年地球のすがた	夫馬賢治	日経 BP 日本経済新聞出版本部
評価方法 (基準)	第 1-14 回終了後の小レポート (4 点×14 回=56 点)と第 15 回終了後の期末レポート (44 点) の合計点が 60 点以上 (100 点満点) で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 1 号館 2 階 伊藤講師室 (薬学部)			
備考				

科目名	地学	科目名 (英文)	Earth and Space Science
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷口 慶祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1〇		
科目ナンバリング	ONA1436a2		

授業概要・目的	地学の大きな柱である固体地球、岩石鉱物、地質・地史、大気・海洋、天文の諸分野に関して、実際のデータや写真など、具体的な資料を用いて、我々の住む地球や我々を取り巻く宇宙に関する知見を深め、我々が経験する自然現象がいろいろな法則や原理によって説明できることを学ぶ。扱う範囲は広いが、単に広く浅い知識を習得するのではなく、自らの手で資料を検討することによって少し深い知見も得られるよう進める。また今まに行われている研究についても紹介する。
到達目標	本授業を通して、様々な観点から我々の住む地球や宇宙に関する知見を深め、我々を取り巻く環境の変化が、いろいろな法則や原理によって説明できることを理解することができる。
授業方法と留意点	講義形式で、教科書を中心に進めます。事前事後学習は毎回1時間以上行い、しっかり予習して授業に臨むとともに、特に毎回授業の最初に行う小テストに備えて復習を行うこと。小テストは、採点して次の回に返却し、答え合わせをします。
科目学習の効果 (資格)	高等学校で地学を履修していない人が、地学の基礎学力を持つようになることによって、教員免許状を取得する一助となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地球の概観・内部構造	地球の大きさや形、重力、地磁気、地球の内部構造について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。
2	プレートテクトニクス	大陸移動説、海洋底拡大説、プレートテクトニクス、ブルームテクトニクスについて講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
3	地震・地殻変動	地震の発生、地震の分布、地震・火山活動に伴う地殻変動、長期的な変化について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
4	火山と火成活動	火山活動、火山噴出物、火成岩のでき方とその種類、造岩鉱物の性質、マグマの発生と分化について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
5	地表の変化と地層	風化・侵食、地形・地層の形成、堆積物と堆積層、地質調査と地質図、変成作用と変成岩について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
6	地球の歴史	示準化石・放射性元素の崩壊、地球史、造山運動について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
7	日本列島の歴史	プレートテクトニクスと日本列島、日本列島形成の歴史について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
8	大気圏の構造	大気・大気圏の構造、オゾン層、気象観測、天気図、大気中の水分、地球の熱収支について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
9	大気の運動	大気に働く力、地衡風・傾度風、大気の大循環、世界の気候帯、台風、偏西風波動、温帯低気圧について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
10	日本でみられる季節の気象	日本における各季節の気候の特徴、日本付近の気団について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
11	海水の性質とその運動	海洋の構造、波、環流と西岸強化、潮汐、エルニーニョについて講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
12	太陽系の天体	太陽系の形成、太陽系の構造、惑星、彗星・流星・隕石、太陽の構造、太陽活動とその影響について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
13	恒星・惑星の運動	天球の座標、地球の自転、地球の公転、均時差、惑星の視運動と位置関係、ケプラーの法則について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
14	恒星の性質と進化	恒星の明るさ、恒星までの距離、恒星の表面温度、HR 図と恒星の進化、食連星について講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
15	恒星・銀河系・宇宙	星団と星間雲、銀河、宇宙の構造、ビッグバンについて講義する。	授業テーマに関する箇所を予習しておくこと。また授業開始直後に小テストを行うので、前回の授業内容について、1～2時間程度、テキストの該当箇所を復習しておくこと。

関連科目	地学実験
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地学	磯崎行雄	啓林館
	2	新地学図表	浜島書店編集部	浜島書店
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>毎回小テストまたはレポート課題を課し、それらと期末試験の成績によって評価する。 小テストまたはレポート課題（30%）、期末試験（70%）の割合である。 なお原則として提出率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 提出は、小テストの場合は授業中に、レポートの場合はWebFolderで行ってください。</p>			
学生への メッセージ	<p>高校で地学を履修していなかった受講生にも理解できるように授業を進めたいと考えています。事前事後学習は毎回1時間以上行い、しっかり予習・復習を行ってください。</p>			
担当者の 研究室等				
備考	<p>オンライン授業を行う場合は、ZoomのミーティングID: パスコードをお知らせします。</p>			

科目名	地学実験	科目名 (英文)	Experiments in Earth Science
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門 正博
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1437a2		

授業概要・目的	地学実験では、地球物理学・天文学・地質鉱物学における基本的事項について修得する。地質鉱物学分野では、直接生の岩石や堆積物、化石などに触れることによって地球の歴史や各自の生活の基盤になっている大地の生い立ちを考察できるようになることを目的とする。また、天文学分野では、天文に関する知識を実地の観測結果と結びつけて考察できるようにし、観測者である自分の空間位置を太陽系と恒星の世界の中で把握できるようにすることを目的とする。
到達目標	観測・実験を通して、我々の住むこの地球と宇宙についての理解がどのように進められたのかが認識できる。 観測・実験に必要な機器の操作ができるようになる。
授業方法と留意点	地質鉱物学分野では、実物の標本を手にして観察したり、実際に歩いてみるなど体験的に地質学の方法論や考え方を学ぶ内容となっている。天文学分野では、実際に天体望遠鏡を用いて天体の観測を行い、基本的な操作や記録の方法について知るとともに得られたデータのコンピュータ解析も行なう。気象分野では、大気の特徴を観測・実験などを通して調べ、大規模な気象との関連について天気図上で考察できるようにする。教科書は使わず、資料プリントを配布する。
科目学習の効果 (資格)	地球ならびに惑星科学についての幅広い教養を身につけることが出来るほか、環境科学の分野にも寄与する内容である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	天体観測の基礎	天体情報は、光をはじめとする電磁波によって得られる。天体からの微弱な光を集め観測する天体望遠鏡の仕組みと観測機器の基本を理解し、基本操作を学ぶ。	「光」の特徴や「レンズ」の特性・種類について調べておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
2	太陽、月と惑星 (観測の実際)	太陽や月、金星などの明るい惑星を対象にして、望遠鏡で観測をおこなう。実際に、天体を視野内に導入してみる。	望遠鏡の操作マニュアルを確認しておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
3	太陽データの解析	太陽黒点を主にして太陽表面の状態を観測データから明らかにする。恒星の代表としての太陽を知る。	太陽の基本的な諸量、特徴について調べておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
4	恒星データの解析	星団中の恒星の測光データをもとに HR 図を作成し、星団までの距離や恒星の進化について考察する。	HR 図、恒星の進化について調べておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
5	銀河データの解析	距離のわかっている銀河のスペクトルデータからハッブルの法則を確認し、宇宙の膨張速度であるハッブル定数を決定する。	スペクトル、ドップラー効果について調べておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
6	気象要素と天気図	温度、湿度、気圧、風などの測定結果から、天気図を作成する。	天気記号や気象用語について調べておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
7	天気図とひまわり画像	作成した天気図から実際の雲などの配置を予想する。また、大気の大循環について理解する。	天気図とひまわり画像をもとにこの1週間の天気の変化をまとめる (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
8	地球の大きさを測る	歩測を使い学内の特定ルートを歩き、GPS を用いて緯度確認を行い、計算によって地球の大きさを測る。	地球についてその大きさや特徴を事前に理解しておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
9	地形図の読み方と水系図の作成	1/25000 地形図を使い、水系図と地形断面図を作成する。 地形図から私たちの身近な大地の特徴を理解する。特に地形断面をつくり、その断面の特徴から地形形成の歴史を推察する。また、水系図を描き、その大地の特徴ならびに流れる水の特徴について考える。	典型的な地形 (カルデラ、扇状地、段丘、構造盆地、...) についてその特徴などを理解しておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
10	地層の特徴を学ぶ	地質図を理解するうえで必要な、地層の走向と傾斜についてモデルを用いて考察する。	あなたの住む地域の地質図 (産業技術総合研究所地質調査総合センター) を調べ、その分布の特徴を理解しておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
11	地震	複数の観測所 (3 か所以上) の地震計の記録から初期微動継続時間を読み取り、震源を特定する。	プレートテクトニクスの考え方や、それによってどのように地震が起こるのかを調べておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
12	岩石の肉眼鑑定	主要な岩石 (火成岩と堆積岩) の肉眼での鑑定を行う。高等学校教科書等で一般に扱われる 14 種類の岩石を取り上げて、それらがどのようにつくられたのかを理解する。	火成岩と堆積岩について事前にどのようなものがあるかを理解しておく。また実際に観察を通して身近な岩石の特徴を理解して、一つでも多くの岩石が分かるようにしておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
13	岩石薄片の観察	偏光顕微鏡を用いて、岩石薄片を観察し、顕微鏡スケッチを実施する。観察方法ならびに偏光顕微鏡についてその基本を学ぶ。観察を通して構成鉱物の違いならびに組織の特徴について理解する。	偏光板の特徴や偏光顕微鏡の仕組みについて調べておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
14	地球の歴史	地球カレンダーを作成し、化石に関する知識など地質時代の特徴とその長さを理解する。	大型化石や微化石についてどのようなものがあるかを事前に調べておく (90 分)。 本時に関連するレポートを課す (120 分)。
15	まとめ	地学実験を通して、グループでの総合的発表の時間とする。	発表用の資料 (パワーポイント) を作成する (300 分)。

関連科目	地理学ならびに地球惑星に関する科目。
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>すべての回の実験に出席することを前提に、以下の割合で評価をおこなう。</p> <p>各回の実験レポート・・・60%</p> <p>事前・事後の課題・・・30%</p> <p>最終回の発表・・・10%</p>																
学生への メッセージ	<p>日頃より理科や科学に関する内容に興味・関心をもち、新聞、ニュース、科学雑誌等に取り上げられる事柄に目をくばるように心がけることが大切である。</p> <p>地学を受講していることが望ましい。</p>																
担当者の 研究室等																	
備考																	

科目名	キャリアデザインⅠ	科目名 (英文)	Career Design I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	横山 孝文
ディプロマポリシー(DP)	DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OCA1438a2		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 <p>ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義には積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果(資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。</p> <p>「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か? 何故必要なのか? ・公と私について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(事前: 0.5時間)
2	さあ始めよう! 大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・学ぶためのスキルを身につける 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶ意味について考えること(事前: 0.5時間)
3	社会化と大学-摂南大学を知る-	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・社会化について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること(0.5時間) ・大学の中にある「機会」の活用の仕方について考えること(事後: 0.5時間) ・大学生活での目標を考えること(0.5時間)
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された個人ワークに取り組むこと(事後: 2時間)
5	SDGsについて考えよう グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsとは何かについて予習をしておくこと(事前: 0/5時間) ・グループで課題に取り組むこと(2時間)
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で求められる人材について考えること(事後: 0.5時間)
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後: 0.5時間)
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後: 0.5時間)
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを20個挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前: 0.5時間)
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後: 0.5時間)
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後: 0.5時間)
12	ビブリオバトル	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前: 1時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること(事前: 0.5時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後: 0.5時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後: 0.5時間)
15	講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・講義4で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5時間) ・期末レポートを作成すること(1.5時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 (30%)、グループ課題(20%)、最終レポート (50%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 3号館 3階 横山孝文 枚方キャンパス 非常勤講師室			
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 なお、課題の提出方法は、teams または WebFolder を基本とします。			

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名 (英文)	Career Design II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OCA2439a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生生活 1年目で経験したことを思い出しておくこと(事前: 1時間) ・配布したレジュメを見直すこと(事後: 0.5時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている人にインタビューしてまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後: 2時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること(0.5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べること(事後: 0.5時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べること(0.5時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること(事前: 0.5時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後1時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること(事前: 1時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後: 1時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後: 0.5時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前: 1時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5時間)
13	自分を高める④	・講義⑧⑨⑩の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前: 1時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題について調べること(事前: 0.5時間)
15	講義のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5時間)

関連科目 キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。

学生へのメッセージ 来るべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。

担当者の 研究室等	8号館1階（非常勤講師室）
備考	

科目名	数的能力開発	科目名 (英文)	Development of Mathematical Ability
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西脇 純一
ディプロマポリシー (DP)	DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OCA2440a2		

授業概要・目的	<p>数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よって、この授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。</p> <p>授業では、数的分野の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。</p>
到達目標	<p>この授業を通じて、授業で扱った数的分野の問題が概ね解けるようになる。一つの目安として、各種採用試験 (総合適性検査 SPI・公務員試験等) の数的分野の問題に十分対応できるようになることが期待される。</p>
授業方法と留意点	<p>①「まずは問題を自力で解く (取り組む)」→②「講師による解説」→③「類題を解く」という流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。</p> <p>授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。</p> <p>毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>大学生・社会人として必要最低限の数学的素養を身につける。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	・実力テストの復習 (1時間)
2	計算問題①	割合と比	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
3	計算問題②	割合の応用問題	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
4	計算問題③	損益算	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
5	計算問題④	速度算①	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
6	計算問題⑤	速度算②	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
7	総復習①	計数問題復習	・第6回までの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと (2時間)
8	中間テスト	中間テスト	・第7回までの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと (2時間)
9	論理問題①	集合	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
10	論理問題②	場合の数	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
11	論理問題③	確率	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
12	論理問題④	表の読み取り	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
13	論理問題⑤	推論①	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
14	論理問題⑥	推論②	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
15	総復習②	論理問題復習	・これまでの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと (2時間)

関連科目: キャリアデザイン

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選! 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2				
3				

評価方法 (基準): 「小テスト 40%」+ 「中間テスト・最終テスト 50%」+ 「Smart SPI 10%」

学生へのメッセージ: 社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週 1 時間程度の復習を必ず行ってください。

担当者の研究室等: ラーニングセンター (寝屋川キャンパス 2 号館 2 階)

備考: 『厳選! 数学的リテラシー問題集』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。「Smart SPI」も利用します。

科目名	教養生物	科目名 (英文)	
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美, 牛島 智一, 國島 大河
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ONA1433a2		

授業概要・目的	生物学は、細胞内の一分子のはたらきから生物圏レベルの現象まで広範囲な領域を対象とする自然科学の一分野である。本科目では、二年次の開講科目である専門総合群科目を学ぶ上で必須となる生物学の基礎的な知識と考え方を身につけることを目的とする。生物学への探求心を深めるため、視覚的にイメージしやすい教科書を用いて講義を進める。
到達目標	① 細胞の基本構造と機能、生殖と発生について理解できる。 ② 動物および植物の代謝について理解できる。 ③ ゲノム、遺伝子について理解できる。 ④ 生物の体内環境および環境応答について理解できる。 ⑤ 生物の進化、生体と環境について理解できる。
授業方法と留意点	基本的に教科書に沿って講義を行う。 毎回、事前・事後学習の提出を必須とする。提出期限を厳守すること。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	代謝ー代謝の基礎知識	ヒトを含めた生物の体内で行われている化学反応 (代謝) について解説する。	事後学習課題: 講義内容のまとめを翌週の月曜 11 時までに Forms で提出
2	代謝ー酵素, 呼吸と発酵, 光合成	動物および植物における化学反応の過程について解説する。	事前学習課題: 予習後に生じた疑問点や不明点を当日 11 時までに Forms で提出 事後学習課題: 事前課題に対する解答を講義内容のまとめとともに翌週の月曜 11 時までに Forms で提出
3	生物の体内環境ー内臓の構造と機能	動物の内臓の構造とはたらきについて解説する。	事前学習課題: 予習後に生じた疑問点や不明点を当日 11 時までに Forms で提出 事後学習課題: 事前課題に対する解答を講義内容のまとめとともに翌週の月曜 11 時までに Forms で提出
4	生物の体内環境ー内分泌, 免疫	動物の体内環境を一定に保つための巧みな仕組みやからだを守る仕組みについて解説する。	事前学習課題: 予習後に生じた疑問点や不明点を当日 11 時までに Forms で提出 事後学習課題: 事前課題に対する解答を講義内容のまとめとともに翌週の月曜 11 時までに Forms で提出
5	動物の環境応答	脳など中枢からの情報を伝える神経系の仕組みとその応答について解説する。	事前学習課題: 予習後に生じた疑問点や不明点を当日 11 時までに Forms で提出 事後学習課題: 事前課題に対する解答を講義内容のまとめとともに翌週の月曜 11 時までに Forms で提出
6	生物の特徴ー生物とは?	多様な生物がどのように生まれてきたのか、生物とは何かについて解説し、生物を構成する細胞の構造について紹介する。	事前学習課題: 予習後に生じた疑問点や不明点を当日 11 時までに Forms で提出 事後学習課題: 事前課題に対する解答を講義内容のまとめとともに翌週の月曜 11 時までに Forms で提出
7	生物の特徴ーミクロで見た生物	細胞小器官と生物を構成する物質について解説する。	事前学習課題: 予習後に生じた疑問点や不明点を当日 11 時までに Forms で提出 事後学習課題: 事前課題に対する解答を講義内容のまとめとともに翌週の月曜 11 時までに Forms で提出
8	遺伝子とそのはたらきー遺伝情報とは?	遺伝や遺伝情報、遺伝情報を伝える仕組みについて解説する。	事前学習課題: 予習後に生じた疑問点や不明点を当日 11 時までに Forms で提出 事後学習課題: 事前課題に対する解答を講義内容のまとめとともに翌週の月曜 11 時までに Forms で提出
9	遺伝子とそのはたらきー遺伝子の発現とバイオテクノロジー	遺伝子が転写、翻訳され、機能するまでの過程を解説し、遺伝子機能を利用するバイオテクノロジーについて紹介する。	事前学習課題: 予習後に生じた疑問点や不明点を当日 11 時までに Forms で提出 事後学習課題: 事前課題に対する解答を講義内容のまとめとともに翌週の月曜 11 時までに Forms で提出
10	植物の一生と環境応答	植物が周辺環境の情報を捉え、利用する仕組みについて解説する。	事前学習課題: 予習後に生じた疑問点や不明点を当日 11 時までに Forms で提出 事後学習課題: 事前課題に対する解答を講義内容のまとめとともに翌週の月曜 11 時までに Forms で提出
11	生殖と発生	受精卵から体構造が形成されるまでのプロセスを解説する。	事前学習課題: 予習後に生じた疑問点や不明点を当日 11 時までに Forms で提出 事後学習課題: 事前課題に対する解答を講義内容のまとめとともに翌週の月曜 11 時までに Forms で提出
12	生物の進化 Iー進化とは?	生物が進化する仕組みや、その歴史について紹介する。	事前学習課題: 予習後に生じた疑問点や不明点を当日 11 時までに Forms で提出 事後学習課題: 事前課題に対する解答を講義内容のまとめとともに翌週の月曜 11 時までに Forms で提出
13	生物の進化 IIー生き物の分け方	生物の分類方法について解説し、主な分類群について具体的に紹介する。	事前学習課題: 予習後に生じた疑問点や不明点を当日 11 時までに Forms で提出

				事後学習課題：事前課題に対する解答を講義内容のまとめとともに翌週の月曜 11 時まで Forms で提出
	14	生態と環境 I - 生態学の基礎知識	個体群や種間相互作用など、生態学の基本的な知識について解説する。	事前学習課題：予習後に生じた疑問点や不明点を当日 11 時まで Forms で提出 事後学習課題：事前課題に対する解答を講義内容のまとめとともに翌週の月曜 11 時まで Forms で提出
	15	生態と環境 II - 生態系と環境問題	多様な生物が構成する生態系について紹介し、生態系を取り巻く昨今の環境問題についても取り上げる。	事前学習課題：予習後に生じた疑問点や不明点を当日 11 時まで Forms で提出 事後学習課題：事前課題に対する解答を講義内容のまとめとともに翌週の月曜 11 時まで Forms で提出
関連科目	専門総合群の科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大人の教養 面白いほどわかる生物	伊藤和修	KADOKAWA
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Newton 大図鑑シリーズ 生物大図鑑	田沼靖一 (監修)	ニュートンプレス
	2	みんなの生命科学	北口哲也・塚原伸治・坪井貴司・前川文彦	化学同人
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 (40%)、残りの 60% を担当教員 3 名で分担して評価する。各教員の評価方法や基準については講義内で示す。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	藤林 真美 8 号館 3 階 3 2 3 教員室 牛島 智一 8 号館 2 階 2 0 6 教員室 國島 大河 8 号館 3 階 3 1 1 教員室			
備考				

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	農学部	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	FF01451a2		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> レポート・論文の文体で書ける。 読んだ内容を要約できる。 段落分けして書ける。 経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 主に講義形式で行う。 授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語表現作文F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	8号館1階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	農学部	学科	
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	FF01455a2		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。 ハンドアウトを使用する。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方 1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方 2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方 3	依頼メール 1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方 4	依頼メール 2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方 5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	中間試験 話し方 1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方 2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方 3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己 PR 1	自己 PR とは何か	自己 PR で必要な項目を復習
	11	自己 PR 2	自己 PR 例の検討、修正 1	自己 PR で必要な語彙、表現の復習
	12	自己 PR 3	自己 PR 例の検討、修正 2	自己 PR で必要な語彙、表現の復習
	13	自己 PR 4	自分の自己 PR を書く 1	自己 PR で必要な形式、書き方の復習
	14	自己 PR 5	自分の自己 PR を書く 2	自己 PR の書き方の復習
	15	期末試験 総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、課題の提出物等 (40%)、定期試験 (60%) により総合的に判断する。
-----------	---

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。
-----------	--

担当者の研究室等	8 号館 1 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。
----	---

科目名	インターンシップ	科目名(英文)	Internship
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OCA3441a2		

授業概要・目的	<p>本講義は土曜日の集中講義の形式で行う(シラバスの日程参照)。 主に就職活動を中心とした進路選択行動を視野に入れた講義である。 この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感を直接肌で感じることが期待される。 前期の講義では事前学修として、ビジネス組織のあり方、ビジネス研究、マナーや常識を習得するなどの内容となるので講義を通じてインターンシップに参加する学生はもちろん、夏季休暇中に自身で1day 仕事体験等に参加する学生にとっても意義のある科目である。</p> <p>なお、講義では担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。</p> <p>SDG s 4-4 SDG s 8-6</p>
到達目標	<p>就職活動の流れとインターンシップの位置づけ、意義について説明することができる。 インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。 インターンシップ先の実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択しや可能性について主体的に考えることができる。 講義や実習を通じて、職業観を形成し、それを他者に伝えることができる。</p>
授業方法と留意点	インターンシップの現場につながる講義(演習を含む)であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果(資格)	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。 企業等、実務の現場で実習を行うことで、自らの職業観の形成ができる。

授業計画	事前・事後学習課題			
	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	4/20(土)3限:インターンシップとは	<ul style="list-style-type: none"> 授業オリエンテーション 講義委でのインターンシップと民間企業が行う1day 仕事体験の違いを理解する 学生と社会人の違いを理解する インターンシップの目的を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: インターンシップとは何かについて考えること(0.5時間) 事後学修: 配付した資料を見直して講義を振り返ること(0.5時間)
	2	4/20(土)4限: 企業組織・ビジネスの理解	<ul style="list-style-type: none"> 組織の形態を知る ビジネスへの理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと(0.5時間) 事後学修: 配付した資料を見直して講義を振り返ること(0.5時間)
	3	4/20(土)5限: 実習参加企業について	<ul style="list-style-type: none"> 産業の分類を知る 業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 興味のある会社や自治体などの組織について調べること(0.5時間) 事後学修: インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること(0.5時間)
	4	5/18(土)3限: 企業研究を志望動機に結びつける	<ul style="list-style-type: none"> 志望動機を組み立て方について考える 企業研究を志望動機に結びつける 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 自身の興味のある企業について調べること(0.5時間) 事後学修: 配付された資料を見直し講義を振り返ること(0.5時間)
	5	5/18(土)4限: 社会人のマナー①	<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての心構えを知る 身だしなみ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: マナーがなぜ大切なのかを考えること(0.5時間) 事後学修: 配付されたテキストを精読すること(0.5時間)
	6	5/18(土)5限: 社会人のマナー②	<ul style="list-style-type: none"> 文書でのコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 効果的なコミュニケーションについて考えること(0.5時間) 事後学修: 授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること(0.5時間)
	7	6/1(土)3限: 社会人のマナー③	<ul style="list-style-type: none"> 口頭でのコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 効果的なコミュニケーションについて考えること(0.5時間) 事後学修: マナーの大切さを再度考えること(0.5時間)
	8	6/1(土)4限: 履歴書・エントリーシートについて考える①	<ul style="list-style-type: none"> エントリーシートとは何かを知る エントリーシートを書くための前準備を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: エントリーシートを書く準備をしておくこと(0.5時間) 事後学修: 講義を振り返り、エントリーシートを下書きすること(0.5時間)
	9	6/1(土)5限: 履歴書・エントリーシートについて考える②	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ用の履歴書を記入する 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 履歴書を書く準備をしておくこと(0.5時間) 事後学修: 講義を振り返り、履歴書を下書きすること(0.5時間)
	10	6/15(土)3限: グループディスカッション①	<ul style="list-style-type: none"> 企業はなぜグループディスカッションを行うのかについて考える 実際にグループディスカッションに取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: グループ内の自分の役割を考えること(0.5時間) 事後学修: グループディスカッション時の自身の行動を振り返る(0.5時間)
	11	6/15(土)4限: グループディスカッション②	<ul style="list-style-type: none"> 議論を前に進めるためのファシリテーション術を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: グループ内の自分の役割を考えること(0.5時間) 事後学修: 自グループ及び他グループの発表を振り返ること(0.5時間)
	12	6/15(土)5限: 実習先の決定と事務連絡について、事前訪問について	<ul style="list-style-type: none"> 実習先の決定と事務連絡 報告書の書き方 事前訪問のマナーと準備について学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること(0.5時間) 事後学修: 訪問時のマナーについておさらいをすること(0.5時間)

	13	7/27(土) 3限:課題のプレゼンテーション②	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修:プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修:プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5時間)
	14	7/27(土) 4限:課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修:プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修:プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5時間)
	15	7/27(土) 5限:振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・事前学修:インターンシップIで学んだことをまとめること(0.5時間) ・事後学修:インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること(0.5時間)
	16	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間(原則)	・事前学修:実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修:実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	17	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間(原則)	・事前学修:実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修:実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	18	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間(原則)	・事前学修:実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修:実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	19	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修:実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修:実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	20	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修:実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修:実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	21	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修:実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修:実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	22	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修:実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修:実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	23	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修:実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修:実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
	24	体験報告書の作成	・報告書提出 ・インターンシップ担当教員における報告書チェックと指導 ・(担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	・事後学修:直前学習②の通りに報告書を作成し、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(0.5時間)
	25	事後学修① 9月14日(土) 3限(予定)/寝屋川キャンパス	・インターンシップ体験報告(個人発表)及びプレゼン指導	・事前学修:個人発表要のスライドを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(0.5時間)
	26	事後学修② 9月14日(土) 4限(予定)/寝屋川キャンパス	・インターンシップ体験報告(個人発表)及びプレゼン指導	・事前学修:個人発表要のスライドを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(0.5時間)
	27	事後学修③ 9月28日(土) 3限(予定)/寝屋川キャンパス	・事後学修①②で選出されたグループ代表による体験報告	・事前学修:代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修:聴講者は他者の発表を振り返ること(0.5時間)
	28	事後学修④ 9月28日(土) 4限(予定)/寝屋川キャンパス	・事後学修①②で選出されたグループ代表による体験報告	・事前学修:代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修:聴講者は他者の発表を振り返ること(0.5時間)
	29	事後学修⑤ 10月5日(土) 3限(予定)/寝屋川キャンパス	・インターンシップ全体を振り返る(実習記録簿の提出)	・事前学修:実習記録簿を見直してくること(0.5時間)
	30	事後学修⑥ 10月5日(土) 4限(予定)/寝屋川キャンパス	・インターンシップ全体を振り返る	・事後学修:インターンシップの講義の全体を振り返り、今後のキャリア形成にどのように活かしたいのかについて考えること(0.5時間)
関連科目	キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・キャリアデザインⅢ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点(各回のミニッツペーパーおよび授業態度)30%、提出物・プレゼンテーション等60%、企業からの評価表等10%の合計点で評価する ※授業態度とは授業中の質問に対する回答状況、授業への集中度を示す			
学生への メッセージ	インターシップの流れは以下のとおりである。 ※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターシップ開始(予定) インターシップ先の都合により、日程等スケジュールが変更する場合もある			
担当者の 研究室等	水野講師室(寝屋川キャンパス7号館3階/枚方キャンパス非常勤控室)			
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示 服 装・・・立ち居振る舞いを学ぶために、原則、スーツ着用が好ましい。 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。 ※インターシップ先の都合により、インターシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅰ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	種市 豊
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3071a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を進めるために、それぞれの指導教員のもとで、学生の具体的な研究課題の設定につながるように、各指導教員の指導のもとで学生がテーマを設定し、それに関連する文献の読解を通して専門的な知識や考え方を修得するとともに、文献の内容をまとめ、論理的に考察し、発表できる能力を身につけることを目的とする。また、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることを目的とする。																		
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることができる。																		
授業方法と留意点	① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 二つのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション (1～2回) 内容：授業の進め方や取り上げるテーマ・文献の選定、役割分担等の説明・確認 事前学習 (各回2時間)：シラバスの確認 事後学習 (各回2時間)：授業の実施方法の確認</p> <p>2. 文献の輪読・発表・ディスカッション (7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿って選定した文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習 (各回2時間)：文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習 (各回2時間)：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの探索・集計・分析 (3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿ってデータを探索・収集し、集計・分析を行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習 (各回2時間)：データの探索・収集と集計・分析を行う。 事後学習 (各回2時間)：データの集計・分析について、レポートを作成する。</p> <p>4. フィールドワーク (2～4回) 内容：指導教員の指示に従って、テーマに沿ったフィールドワークを実施する。 事前学習 (各回2時間)：フィールドワーク先の情報を収集し、理解する。 事後学習 (各回2時間)：フィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、グループワークやディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	好奇心を大切にして、問題意識を持って取り組みましょう！																		
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅰ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北川 太一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3071a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を進めるために、それぞれの指導教員のもとで、学生の具体的な研究課題の設定につながるように、各指導教員の指導のもとで学生がテーマを設定し、それに関連する文献の読解を通して専門的な知識や考え方を修得するとともに、文献の内容をまとめ、論理的に考察し、発表できる能力を身につけることを目的とする。また、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることを目的とする。																		
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることができる。																		
授業方法と留意点	① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 二つのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション (1～2回) 内容：授業の進め方や取り上げるテーマ・文献の選定、役割分担等の説明・確認 事前学習 (各回2時間)：シラバスの確認 事後学習 (各回2時間)：授業の実施方法の確認</p> <p>2. 文献の輪読・発表・ディスカッション (7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿って選定した文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習 (各回2時間)：文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習 (各回2時間)：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの探索・集計・分析 (3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿ってデータを探索・収集し、集計・分析を行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習 (各回2時間)：データの探索・収集と集計・分析を行う。 事後学習 (各回2時間)：データの集計・分析について、レポートを作成する。</p> <p>4. フィールドワーク (2～4回) 内容：指導教員の指示に従って、テーマに沿ったフィールドワークを実施する。 事前学習 (各回2時間)：フィールドワーク先の情報を収集し、理解する。 事後学習 (各回2時間)：フィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、グループワークやディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	好奇心を大切に、問題意識を持って取り組みましょう！																		
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅰ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3071a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を進めるために、それぞれの指導教員のもとで、学生の具体的な研究課題の設定につながるように、各指導教員の指導のもとで学生がテーマを設定し、それに関連する文献の読解を通して専門的な知識や考え方を修得するとともに、文献の内容をまとめ、論理的に考察し、発表できる能力を身につけることを目的とする。また、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることを目的とする。																		
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることができる。																		
授業方法と留意点	① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 二つのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション (1～2回) 内容：授業の進め方や取り上げるテーマ・文献の選定、役割分担等の説明・確認 事前学習 (各回2時間)：シラバスの確認 事後学習 (各回2時間)：授業の実施方法の確認</p> <p>2. 文献の輪読・発表・ディスカッション (7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿って選定した文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習 (各回2時間)：文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習 (各回2時間)：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの探索・集計・分析 (3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿ってデータを探索・収集し、集計・分析を行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習 (各回2時間)：データの探索・収集と集計・分析を行う。 事後学習 (各回2時間)：データの集計・分析について、レポートを作成する。</p> <p>4. フィールドワーク (2～4回) 内容：指導教員の指示に従って、テーマに沿ったフィールドワークを実施する。 事前学習 (各回2時間)：フィールドワーク先の情報を収集し、理解する。 事後学習 (各回2時間)：フィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、グループワークやディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	好奇心を大切に、問題意識を持って取り組みましょう！																		
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅰ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	成 晋政
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3071a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を進めるために、それぞれの指導教員のもとで、学生の具体的な研究課題の設定につながるように、各指導教員の指導のもとで学生がテーマを設定し、それに関連する文献の読解を通して専門的な知識や考え方を修得するとともに、文献の内容をまとめ、論理的に考察し、発表できる能力を身につけることを目的とする。また、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることを目的とする。																		
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることができる。																		
授業方法と留意点	① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 二つのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション (1～2回) 内容：授業の進め方や上げるテーマ・文献の選定、役割分担等の説明・確認 事前学習 (各回2時間)：シラバスの確認 事後学習 (各回2時間)：授業の実施方法の確認</p> <p>2. 文献の輪読・発表・ディスカッション (7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿って選定した文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習 (各回2時間)：文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習 (各回2時間)：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの探索・集計・分析 (3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿ってデータを探索・収集し、集計・分析を行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習 (各回2時間)：データの探索・収集と集計・分析を行う。 事後学習 (各回2時間)：データの集計・分析について、レポートを作成する。</p> <p>4. フィールドワーク (2～4回) 内容：指導教員の指示に従って、テーマに沿ったフィールドワークを実施する。 事前学習 (各回2時間)：フィールドワーク先の情報を収集し、理解する。 事後学習 (各回2時間)：フィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、グループワークやディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	好奇心を大切に、問題意識を持って取り組みましょう！																		
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅰ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 尚俊
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3071a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を進めるために、それぞれの指導教員のもとで、学生の具体的な研究課題の設定につながるように、各指導教員の指導のもとで学生がテーマを設定し、それに関連する文献の読解を通して専門的な知識や考え方を修得するとともに、文献の内容をまとめ、論理的に考察し、発表できる能力を身につけることを目的とする。また、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることを目的とする。																		
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることができる。																		
授業方法と留意点	① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 二つのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション (1～2回) 内容：授業の進め方や取り上げるテーマ・文献の選定、役割分担等の説明・確認 事前学習 (各回2時間)：シラバスの確認 事後学習 (各回2時間)：授業の実施方法の確認</p> <p>2. 文献の輪読・発表・ディスカッション (7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿って選定した文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習 (各回2時間)：文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習 (各回2時間)：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの探索・集計・分析 (3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿ってデータを探索・収集し、集計・分析を行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習 (各回2時間)：データの探索・収集と集計・分析を行う。 事後学習 (各回2時間)：データの集計・分析について、レポートを作成する。</p> <p>4. フィールドワーク (2～4回) 内容：指導教員の指示に従って、テーマに沿ったフィールドワークを実施する。 事前学習 (各回2時間)：フィールドワーク先の情報を収集し、理解する。 事後学習 (各回2時間)：フィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、グループワークやディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	好奇心を大切に、問題意識を持って取り組みましょう！																		
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅰ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	川崎 訓昭
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3071a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を進めるために、それぞれの指導教員のもとで、学生の具体的な研究課題の設定につながるように、各指導教員の指導のもとで学生がテーマを設定し、それに関連する文献の読解を通して専門的な知識や考え方を修得するとともに、文献の内容をまとめ、論理的に考察し、発表できる能力を身につけることを目的とする。また、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることを目的とする。																		
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることができる。																		
授業方法と留意点	① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 二つのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション (1~2回)</p> <p>内容：授業の進め方や取り上げるテーマ・文献の選定、役割分担等の説明・確認 事前学習 (各回2時間)：シラバスの確認 事後学習 (各回2時間)：授業の実施方法の確認</p> <p>2. 文献の輪読・発表・ディスカッション (7~8回)</p> <p>内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿って選定した文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習 (各回2時間)：文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習 (各回2時間)：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの探索・集計・分析 (3~4回)</p> <p>内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿ってデータを探索・収集し、集計・分析を行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習 (各回2時間)：データの探索・収集と集計・分析を行う。 事後学習 (各回2時間)：データの集計・分析について、レポートを作成する。</p> <p>4. フィールドワーク (2~4回)</p> <p>内容：指導教員の指示に従って、テーマに沿ったフィールドワークを実施する。 事前学習 (各回2時間)：フィールドワーク先の情報を収集し、理解する。 事後学習 (各回2時間)：フィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、グループワークやディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	好奇心を大切に、問題意識を持って取り組みましょう！																		
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅰ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉井 邦恒
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3071a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を進めるために、それぞれの指導教員のもとで、学生の具体的な研究課題の設定につながるように、各指導教員の指導のもとで学生がテーマを設定し、それに関連する文献の読解を通して専門的な知識や考え方を修得するとともに、文献の内容をまとめ、論理的に考察し、発表できる能力を身につけることを目的とする。また、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることを目的とする。																		
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることができる。																		
授業方法と留意点	① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 二つのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション (1～2回) 内容：授業の進め方や取り上げるテーマ・文献の選定、役割分担等の説明・確認 事前学習 (各回2時間)：シラバスの確認 事後学習 (各回2時間)：授業の実施方法の確認</p> <p>2. 文献の輪読・発表・ディスカッション (7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿って選定した文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習 (各回2時間)：文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習 (各回2時間)：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの探索・集計・分析 (3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿ってデータを探索・収集し、集計・分析を行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習 (各回2時間)：データの探索・収集と集計・分析を行う。 事後学習 (各回2時間)：データの集計・分析について、レポートを作成する。</p> <p>4. フィールドワーク (2～4回) 内容：指導教員の指示に従って、テーマに沿ったフィールドワークを実施する。 事前学習 (各回2時間)：フィールドワーク先の情報を収集し、理解する。 事後学習 (各回2時間)：フィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、グループワークやディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	好奇心を大切に、問題意識を持って取り組みましょう！																		
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅰ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦出 俊和
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3071a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を進めるために、それぞれの指導教員のもとで、学生の具体的な研究課題の設定につながるように、各指導教員の指導のもとで学生がテーマを設定し、それに関連する文献の読解を通して専門的な知識や考え方を修得するとともに、文献の内容をまとめ、論理的に考察し、発表できる能力を身につけることを目的とする。また、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることを目的とする。																		
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることができる。																		
授業方法と留意点	① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 二つのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション (1～2回) 内容：授業の進め方や取り上げるテーマ・文献の選定、役割分担等の説明・確認 事前学習 (各回2時間)：シラバスの確認 事後学習 (各回2時間)：授業の実施方法の確認</p> <p>2. 文献の輪読・発表・ディスカッション (7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿って選定した文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習 (各回2時間)：文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習 (各回2時間)：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの探索・集計・分析 (3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿ってデータを探索・収集し、集計・分析を行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習 (各回2時間)：データの探索・収集と集計・分析を行う。 事後学習 (各回2時間)：データの集計・分析について、レポートを作成する。</p> <p>4. フィールドワーク (2～4回) 内容：指導教員の指示に従って、テーマに沿ったフィールドワークを実施する。 事前学習 (各回2時間)：フィールドワーク先の情報を収集し、理解する。 事後学習 (各回2時間)：フィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、グループワークやディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	好奇心を大切に、問題意識を持って取り組みましょう！																		
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅰ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	副島 久実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3071a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を進めるために、それぞれの指導教員のもとで、学生の具体的な研究課題の設定につながるように、各指導教員の指導のもとで学生がテーマを設定し、それに関連する文献の読解を通して専門的な知識や考え方を修得するとともに、文献の内容をまとめ、論理的に考察し、発表できる能力を身につけることを目的とする。また、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることを目的とする。																		
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることができる。																		
授業方法と留意点	① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 二つのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション (1～2回) 内容：授業の進め方や取り上げるテーマ・文献の選定、役割分担等の説明・確認 事前学習 (各回2時間)：シラバスの確認 事後学習 (各回2時間)：授業の実施方法の確認</p> <p>2. 文献の輪読・発表・ディスカッション (7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿って選定した文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習 (各回2時間)：文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習 (各回2時間)：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの探索・集計・分析 (3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿ってデータを探索・収集し、集計・分析を行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習 (各回2時間)：データの探索・収集と集計・分析を行う。 事後学習 (各回2時間)：データの集計・分析について、レポートを作成する。</p> <p>4. フィールドワーク (2～4回) 内容：指導教員の指示に従って、テーマに沿ったフィールドワークを実施する。 事前学習 (各回2時間)：フィールドワーク先の情報を収集し、理解する。 事後学習 (各回2時間)：フィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、グループワークやディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	好奇心を大切に、問題意識を持って取り組みましょう！																		
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅰ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 葉子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3071a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を進めるために、それぞれの指導教員のもとで、学生の具体的な研究課題の設定につながるように、各指導教員の指導のもとで学生がテーマを設定し、それに関連する文献の読解を通して専門的な知識や考え方を修得するとともに、文献の内容をまとめ、論理的に考察し、発表できる能力を身につけることを目的とする。また、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることを目的とする。																		
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることができる。																		
授業方法と留意点	① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 二つのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション (1~2回) 内容：授業の進め方や取り上げるテーマ・文献の選定、役割分担等の説明・確認 事前学習 (各回2時間)：シラバスの確認 事後学習 (各回2時間)：授業の実施方法の確認</p> <p>2. 文献の輪読・発表・ディスカッション (7~8回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿って選定した文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習 (各回2時間)：文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習 (各回2時間)：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの探索・集計・分析 (3~4回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿ってデータを探索・収集し、集計・分析を行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習 (各回2時間)：データの探索・収集と集計・分析を行う。 事後学習 (各回2時間)：データの集計・分析について、レポートを作成する。</p> <p>4. フィールドワーク (2~4回) 内容：指導教員の指示に従って、テーマに沿ったフィールドワークを実施する。 事前学習 (各回2時間)：フィールドワーク先の情報を収集し、理解する。 事後学習 (各回2時間)：フィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、グループワークやディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	好奇心を大切に、問題意識を持って取り組みましょう！																		
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅰ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中塚 華奈
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3071a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を進めるために、それぞれの指導教員のもとで、学生の具体的な研究課題の設定につながるように、各指導教員の指導のもとで学生がテーマを設定し、それに関連する文献の読解を通して専門的な知識や考え方を修得するとともに、文献の内容をまとめ、論理的に考察し、発表できる能力を身につけることを目的とする。また、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることを目的とする。																		
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることができる。																		
授業方法と留意点	① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 二つのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション (1～2回) 内容：授業の進め方や取り上げるテーマ・文献の選定、役割分担等の説明・確認 事前学習 (各回2時間)：シラバスの確認 事後学習 (各回2時間)：授業の実施方法の確認</p> <p>2. 文献の輪読・発表・ディスカッション (7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿って選定した文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習 (各回2時間)：文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習 (各回2時間)：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの探索・集計・分析 (3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿ってデータを探索・収集し、集計・分析を行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習 (各回2時間)：データの探索・収集と集計・分析を行う。 事後学習 (各回2時間)：データの集計・分析について、レポートを作成する。</p> <p>4. フィールドワーク (2～4回) 内容：指導教員の指示に従って、テーマに沿ったフィールドワークを実施する。 事前学習 (各回2時間)：フィールドワーク先の情報を収集し、理解する。 事後学習 (各回2時間)：フィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、グループワークやディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	好奇心を大切に、問題意識を持って取り組みましょう！																		
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅰ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	戴 容泰思
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3071a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を進めるために、それぞれの指導教員のもとで、学生の具体的な研究課題の設定につながるように、各指導教員の指導のもとで学生がテーマを設定し、それに関連する文献の読解を通して専門的な知識や考え方を修得するとともに、文献の内容をまとめ、論理的に考察し、発表できる能力を身につけることを目的とする。また、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることを目的とする。																		
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることができる。																		
授業方法と留意点	① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 二つのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション (1～2回) 内容：授業の進め方や上げるテーマ・文献の選定、役割分担等の説明・確認 事前学習 (各回2時間)：シラバスの確認 事後学習 (各回2時間)：授業の実施方法の確認</p> <p>2. 文献の輪読・発表・ディスカッション (7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿って選定した文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習 (各回2時間)：文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習 (各回2時間)：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの探索・集計・分析 (3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿ってデータを探索・収集し、集計・分析を行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習 (各回2時間)：データの探索・収集と集計・分析を行う。 事後学習 (各回2時間)：データの集計・分析について、レポートを作成する。</p> <p>4. フィールドワーク (2～4回) 内容：指導教員の指示に従って、テーマに沿ったフィールドワークを実施する。 事前学習 (各回2時間)：フィールドワーク先の情報を収集し、理解する。 事後学習 (各回2時間)：フィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、グループワークやディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	好奇心を大切に、問題意識を持って取り組みましょう！																		
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅱ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	種市 豊
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3072a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を深めるとともに、それを応用して調査・分析できるようにするために、それぞれの指導教員のもとで、学生が具体的な調査・分析課題を設定し、その課題に関連する文献の読解を通してより専門的な知識や考え方を修得するとともに、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの実施方法などを身につけ、調査・分析に取り組む。これらを通して、卒業研究で取り組む課題を設定する。																
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 専門的な文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法を身につけ、実際に調査・分析することができる。 ④ 卒業研究の課題を設定することができる。																
授業方法と留意点	①それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ②各自が設定した研究課題に関する文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に行う。 ③データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④研究課題に関するレポートを作成する。 ⑤具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション(1～2回) 内容：各自の考えた研究課題についてプレゼンテーションを行い、研究課題の決定や研究方法の検討を行う。 事前学習(各回2時間)：研究課題の検討とプレゼンテーションの準備 事後学習(各回2時間)：研究課題に関する検討と研究方法の確認 2. 文献の読解・発表・ディスカッション(7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、研究課題に関する文献の読解とプレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習(各回2時間)：文献の読了と文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習(各回2時間)：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。 3. データの集計・分析、フィールドワーク、プレゼンテーション(3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、研究に必要なデータの収集と集計・分析やフィールドワークを行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習(各回2時間)：データの収集と集計・分析、フィールドワークを行い、プレゼンテーションの準備をする。 事後学習(各回2時間)：データの集計・分析やフィールドワークの結果について、レポートを作成する。 4. 研究結果のプレゼンテーションとレポートの作成(2～4回) 内容：研究結果に関するプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。 事前学習(各回2時間)：プレゼンテーションとレポート作成の準備を行う。 事後学習(各回2時間)：レポートを完成させる。																
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅰ, 卒業研究																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教員の指示する文献</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教員の指示する文献			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	教員の指示する文献																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	別途、指示する。																
2																	
3																	
評価方法(基準)	毎回の準備状況、プレゼンテーションの内容、レポートの内容、ディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																
学生へのメッセージ	問題意識を深めて、卒業研究へと結びつけていきましょう！																
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																
備考																	

科目名	食農ビジネス学研究Ⅱ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北川 太一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3072a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を深めるとともに、それを応用して調査・分析できるようにするために、それぞれの指導教員のもとで、学生が具体的な調査・分析課題を設定し、その課題に関連する文献の読解を通してより専門的な知識や考え方を修得するとともに、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの実施方法などを身につけ、調査・分析に取り組む。これらを通して、卒業研究で取り組む課題を設定する。																
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 専門的な文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法を身につけ、実際に調査・分析することができる。 ④ 卒業研究の課題を設定することができる。																
授業方法と留意点	①それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ②各自が設定した研究課題に関する文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に行う。 ③データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④研究課題に関するレポートを作成する。 ⑤具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション(1～2回) 内容：各自の考えた研究課題についてプレゼンテーションを行い、研究課題の決定や研究方法の検討を行う。 事前学習(各回2時間)：研究課題の検討とプレゼンテーションの準備 事後学習(各回2時間)：研究課題に関する検討と研究方法の確認 2. 文献の読解・発表・ディスカッション(7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、研究課題に関する文献の読解とプレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習(各回2時間)：文献の読了と文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習(各回2時間)：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。 3. データの集計・分析、フィールドワーク、プレゼンテーション(3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、研究に必要なデータの収集と集計・分析やフィールドワークを行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習(各回2時間)：データの収集と集計・分析、フィールドワークを行い、プレゼンテーションの準備をする。 事後学習(各回2時間)：データの集計・分析やフィールドワークの結果について、レポートを作成する。 4. 研究結果のプレゼンテーションとレポートの作成(2～4回) 内容：研究結果に関するプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。 事前学習(各回2時間)：プレゼンテーションとレポート作成の準備を行う。 事後学習(各回2時間)：レポートを完成させる。																
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅰ, 卒業研究																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教員の指示する文献</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教員の指示する文献			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	教員の指示する文献																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	別途、指示する。																
2																	
3																	
評価方法(基準)	毎回の準備状況、プレゼンテーションの内容、レポートの内容、ディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																
学生へのメッセージ	問題意識を深めて、卒業研究へと結びつけていきましょう！																
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																
備考																	

科目名	食農ビジネス学研究Ⅱ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3072a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を深めるとともに、それを応用して調査・分析できるようにするために、それぞれの指導教員のもとで、学生が具体的な調査・分析課題を設定し、その課題に関連する文献の読解を通してより専門的な知識や考え方を修得するとともに、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの実施方法などを身につけ、調査・分析に取り組む。これらを通して、卒業研究で取り組む課題を設定する。																		
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 専門的な文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法を身につけ、実際に調査・分析することができる。 ④ 卒業研究の課題を設定することができる。																		
授業方法と留意点	① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 各自が設定した研究課題に関する文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 研究課題に関するレポートを作成する。 ⑤ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション(1～2回) 内容：各自の考えた研究課題についてプレゼンテーションを行い、研究課題の決定や研究方法の検討を行う。 事前学習(各回2時間)：研究課題の検討とプレゼンテーションの準備 事後学習(各回2時間)：研究課題に関する検討と研究方法の確認 2. 文献の読解・発表・ディスカッション(7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、研究課題に関する文献の読解とプレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習(各回2時間)：文献の読了と文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習(各回2時間)：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。 3. データの集計・分析、フィールドワーク、プレゼンテーション(3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、研究に必要なデータの収集と集計・分析やフィールドワークを行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習(各回2時間)：データの収集と集計・分析、フィールドワークを行い、プレゼンテーションの準備をする。 事後学習(各回2時間)：データの集計・分析やフィールドワークの結果について、レポートを作成する。 4. 研究結果のプレゼンテーションとレポートの作成(2～4回) 内容：研究結果に関するプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。 事前学習(各回2時間)：プレゼンテーションとレポート作成の準備を行う。 事後学習(各回2時間)：レポートを完成させる。																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅰ, 卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教員の指示する文献</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教員の指示する文献			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	教員の指示する文献																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、プレゼンテーションの内容、レポートの内容、ディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	問題意識を深めて、卒業研究へと結びつけていきましょう！																		
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅱ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	成 晋政
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3072a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を深めるとともに、それを応用して調査・分析できるようにするために、それぞれの指導教員のもとで、学生が具体的な調査・分析課題を設定し、その課題に関連する文献の読解を通してより専門的な知識や考え方を修得するとともに、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの実施方法などを身につけ、調査・分析に取り組む。これらを通して、卒業研究で取り組む課題を設定する。</p>																		
到達目標	<p>① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 専門的な文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法を身につけ、実際に調査・分析することができる。 ④ 卒業研究の課題を設定することができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 各自が設定した研究課題に関する文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 研究課題に関するレポートを作成する。 ⑤ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション(1～2回) 内容：各自の考えた研究課題についてプレゼンテーションを行い、研究課題の決定や研究方法の検討を行う。 事前学習(各回2時間)：研究課題の検討とプレゼンテーションの準備 事後学習(各回2時間)：研究課題に関する検討と研究方法の確認</p> <p>2. 文献の読解・発表・ディスカッション(7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、研究課題に関する文献の読解とプレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習(各回2時間)：文献の読了と文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習(各回2時間)：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの集計・分析、フィールドワーク、プレゼンテーション(3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、研究に必要なデータの収集と集計・分析やフィールドワークを行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習(各回2時間)：データの収集と集計・分析、フィールドワークを行い、プレゼンテーションの準備をする。 事後学習(各回2時間)：データの集計・分析やフィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p> <p>4. 研究結果のプレゼンテーションとレポートの作成(2～4回) 内容：研究結果に関するプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。 事前学習(各回2時間)：プレゼンテーションとレポート作成の準備を行う。 事後学習(各回2時間)：レポートを完成させる。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅰ, 卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教員の指示する文献</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教員の指示する文献			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	教員の指示する文献																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、プレゼンテーションの内容、レポートの内容、ディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	問題意識を深めて、卒業研究へと結びつけていきましょう！																		
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅱ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山本 尚俊
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3072a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を深めるとともに、それを応用して調査・分析できるようにするために、それぞれの指導教員のもとで、学生が具体的な調査・分析課題を設定し、その課題に関連する文献の読解を通してより専門的な知識や考え方を修得するとともに、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの実施方法などを身につけ、調査・分析に取り組む。これらを通して、卒業研究で取り組む課題を設定する。</p>																		
到達目標	<p>① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 専門的な文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法を身につけ、実際に調査・分析することができる。 ④ 卒業研究の課題を設定することができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 各自が設定した研究課題に関する文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 研究課題に関するレポートを作成する。 ⑤ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション(1～2回) 内容：各自の考えた研究課題についてプレゼンテーションを行い、研究課題の決定や研究方法の検討を行う。 事前学習(各回2時間)：研究課題の検討とプレゼンテーションの準備 事後学習(各回2時間)：研究課題に関する検討と研究方法の確認</p> <p>2. 文献の読解・発表・ディスカッション(7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、研究課題に関する文献の読解とプレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習(各回2時間)：文献の読了と文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習(各回2時間)：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの集計・分析、フィールドワーク、プレゼンテーション(3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、研究に必要なデータの収集と集計・分析やフィールドワークを行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習(各回2時間)：データの収集と集計・分析、フィールドワークを行い、プレゼンテーションの準備をする。 事後学習(各回2時間)：データの集計・分析やフィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p> <p>4. 研究結果のプレゼンテーションとレポートの作成(2～4回) 内容：研究結果に関するプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。 事前学習(各回2時間)：プレゼンテーションとレポート作成の準備を行う。 事後学習(各回2時間)：レポートを完成させる。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅰ, 卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教員の指示する文献</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教員の指示する文献			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	教員の指示する文献																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、プレゼンテーションの内容、レポートの内容、ディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	問題意識を深めて、卒業研究へと結びつけていきましょう！																		
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅱ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	川崎 訓昭
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3072a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を深めるとともに、それを応用して調査・分析できるようにするために、それぞれの指導教員のもとで、学生が具体的な調査・分析課題を設定し、その課題に関連する文献の読解を通してより専門的な知識や考え方を修得するとともに、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの実施方法などを身につけ、調査・分析に取り組む。これらを通して、卒業研究で取り組む課題を設定する。																
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 専門的な文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法を身につけ、実際に調査・分析することができる。 ④ 卒業研究の課題を設定することができる。																
授業方法と留意点	①それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ②各自が設定した研究課題に関する文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に行う。 ③データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④研究課題に関するレポートを作成する。 ⑤具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション(1～2回) 内容：各自の考えた研究課題についてプレゼンテーションを行い、研究課題の決定や研究方法の検討を行う。 事前学習(各回2時間)：研究課題の検討とプレゼンテーションの準備 事後学習(各回2時間)：研究課題に関する検討と研究方法の確認 2. 文献の読解・発表・ディスカッション(7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、研究課題に関する文献の読解とプレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習(各回2時間)：文献の読了と文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習(各回2時間)：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。 3. データの集計・分析、フィールドワーク、プレゼンテーション(3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、研究に必要なデータの収集と集計・分析やフィールドワークを行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習(各回2時間)：データの収集と集計・分析、フィールドワークを行い、プレゼンテーションの準備をする。 事後学習(各回2時間)：データの集計・分析やフィールドワークの結果について、レポートを作成する。 4. 研究結果のプレゼンテーションとレポートの作成(2～4回) 内容：研究結果に関するプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。 事前学習(各回2時間)：プレゼンテーションとレポート作成の準備を行う。 事後学習(各回2時間)：レポートを完成させる。																
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅰ, 卒業研究																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教員の指示する文献</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教員の指示する文献			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	教員の指示する文献																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	別途、指示する。																
2																	
3																	
評価方法(基準)	毎回の準備状況、プレゼンテーションの内容、レポートの内容、ディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																
学生へのメッセージ	問題意識を深めて、卒業研究へと結びつけていきましょう！																
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																
備考																	

科目名	食農ビジネス学研究Ⅱ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉井 邦恒
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3072a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を深めるとともに、それを応用して調査・分析できるようにするために、それぞれの指導教員のもとで、学生が具体的な調査・分析課題を設定し、その課題に関連する文献の読解を通してより専門的な知識や考え方を修得するとともに、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの実施方法などを身につけ、調査・分析に取り組む。これらを通して、卒業研究で取り組む課題を設定する。																
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 専門的な文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法を身につけ、実際に調査・分析することができる。 ④ 卒業研究の課題を設定することができる。																
授業方法と留意点	①それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ②各自が設定した研究課題に関する文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に行う。 ③データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④研究課題に関するレポートを作成する。 ⑤具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション(1～2回) 内容：各自の考えた研究課題についてプレゼンテーションを行い、研究課題の決定や研究方法の検討を行う。 事前学習(各回2時間)：研究課題の検討とプレゼンテーションの準備 事後学習(各回2時間)：研究課題に関する検討と研究方法の確認 2. 文献の読解・発表・ディスカッション(7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、研究課題に関する文献の読解とプレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習(各回2時間)：文献の読了と文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習(各回2時間)：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。 3. データの集計・分析、フィールドワーク、プレゼンテーション(3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、研究に必要なデータの収集と集計・分析やフィールドワークを行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習(各回2時間)：データの収集と集計・分析、フィールドワークを行い、プレゼンテーションの準備をする。 事後学習(各回2時間)：データの集計・分析やフィールドワークの結果について、レポートを作成する。 4. 研究結果のプレゼンテーションとレポートの作成(2～4回) 内容：研究結果に関するプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。 事前学習(各回2時間)：プレゼンテーションとレポート作成の準備を行う。 事後学習(各回2時間)：レポートを完成させる。																
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅰ, 卒業研究																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教員の指示する文献</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教員の指示する文献			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	教員の指示する文献																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	別途、指示する。																
2																	
3																	
評価方法(基準)	毎回の準備状況、プレゼンテーションの内容、レポートの内容、ディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																
学生へのメッセージ	問題意識を深めて、卒業研究へと結びつけていきましょう！																
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																
備考																	

科目名	食農ビジネス学研究Ⅱ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦出 俊和
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3072a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を深めるとともに、それを応用して調査・分析できるようにするために、それぞれの指導教員のもとで、学生が具体的な調査・分析課題を設定し、その課題に関連する文献の読解を通してより専門的な知識や考え方を修得するとともに、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの実施方法などを身につけ、調査・分析に取り組む。これらを通して、卒業研究で取り組む課題を設定する。																
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 専門的な文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法を身につけ、実際に調査・分析することができる。 ④ 卒業研究の課題を設定することができる。																
授業方法と留意点	①それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ②各自が設定した研究課題に関する文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に行う。 ③データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④研究課題に関するレポートを作成する。 ⑤具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション(1～2回) 内容：各自の考えた研究課題についてプレゼンテーションを行い、研究課題の決定や研究方法の検討を行う。 事前学習(各回2時間)：研究課題の検討とプレゼンテーションの準備 事後学習(各回2時間)：研究課題に関する検討と研究方法の確認 2. 文献の読解・発表・ディスカッション(7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、研究課題に関する文献の読解とプレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習(各回2時間)：文献の読了と文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習(各回2時間)：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。 3. データの集計・分析、フィールドワーク、プレゼンテーション(3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、研究に必要なデータの収集と集計・分析やフィールドワークを行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習(各回2時間)：データの収集と集計・分析、フィールドワークを行い、プレゼンテーションの準備をする。 事後学習(各回2時間)：データの集計・分析やフィールドワークの結果について、レポートを作成する。 4. 研究結果のプレゼンテーションとレポートの作成(2～4回) 内容：研究結果に関するプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。 事前学習(各回2時間)：プレゼンテーションとレポート作成の準備を行う。 事後学習(各回2時間)：レポートを完成させる。																
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅰ, 卒業研究																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教員の指示する文献</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教員の指示する文献			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	教員の指示する文献																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	別途、指示する。																
2																	
3																	
評価方法(基準)	毎回の準備状況、プレゼンテーションの内容、レポートの内容、ディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																
学生へのメッセージ	問題意識を深めて、卒業研究へと結びつけていきましょう！																
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																
備考																	

科目名	食農ビジネス学研究Ⅱ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	副島 久実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3072a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を深めるとともに、それを応用して調査・分析できるようにするために、それぞれの指導教員のもとで、学生が具体的な調査・分析課題を設定し、その課題に関連する文献の読解を通してより専門的な知識や考え方を修得するとともに、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの実施方法などを身につけ、調査・分析に取り組む。これらを通して、卒業研究で取り組む課題を設定する。</p>																		
到達目標	<p>① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 専門的な文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法を身につけ、実際に調査・分析することができる。 ④ 卒業研究の課題を設定することができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 各自が設定した研究課題に関する文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 研究課題に関するレポートを作成する。 ⑤ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション(1～2回) 内容：各自の考えた研究課題についてプレゼンテーションを行い、研究課題の決定や研究方法の検討を行う。 事前学習(各回2時間)：研究課題の検討とプレゼンテーションの準備 事後学習(各回2時間)：研究課題に関する検討と研究方法の確認</p> <p>2. 文献の読解・発表・ディスカッション(7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、研究課題に関する文献の読解とプレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習(各回2時間)：文献の読了と文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習(各回2時間)：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの集計・分析、フィールドワーク、プレゼンテーション(3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、研究に必要なデータの収集と集計・分析やフィールドワークを行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習(各回2時間)：データの収集と集計・分析、フィールドワークを行い、プレゼンテーションの準備をする。 事後学習(各回2時間)：データの集計・分析やフィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p> <p>4. 研究結果のプレゼンテーションとレポートの作成(2～4回) 内容：研究結果に関するプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。 事前学習(各回2時間)：プレゼンテーションとレポート作成の準備を行う。 事後学習(各回2時間)：レポートを完成させる。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅰ, 卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教員の指示する文献</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教員の指示する文献			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	教員の指示する文献																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、プレゼンテーションの内容、レポートの内容、ディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	問題意識を深めて、卒業研究へと結びつけていきましょう！																		
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅱ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 葉子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3072a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を深めるとともに、それを応用して調査・分析できるようにするために、それぞれの指導教員のもとで、学生が具体的な調査・分析課題を設定し、その課題に関連する文献の読解を通してより専門的な知識や考え方を修得するとともに、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの実施方法などを身につけ、調査・分析に取り組む。これらを通して、卒業研究で取り組む課題を設定する。																
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 専門的な文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法を身につけ、実際に調査・分析することができる。 ④ 卒業研究の課題を設定することができる。																
授業方法と留意点	①それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ②各自が設定した研究課題に関する文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に行う。 ③データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④研究課題に関するレポートを作成する。 ⑤具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション(1～2回) 内容：各自の考えた研究課題についてプレゼンテーションを行い、研究課題の決定や研究方法の検討を行う。 事前学習(各回2時間)：研究課題の検討とプレゼンテーションの準備 事後学習(各回2時間)：研究課題に関する検討と研究方法の確認 2. 文献の読解・発表・ディスカッション(7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、研究課題に関する文献の読解とプレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習(各回2時間)：文献の読了と文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習(各回2時間)：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。 3. データの集計・分析、フィールドワーク、プレゼンテーション(3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、研究に必要なデータの収集と集計・分析やフィールドワークを行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習(各回2時間)：データの収集と集計・分析、フィールドワークを行い、プレゼンテーションの準備をする。 事後学習(各回2時間)：データの集計・分析やフィールドワークの結果について、レポートを作成する。 4. 研究結果のプレゼンテーションとレポートの作成(2～4回) 内容：研究結果に関するプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。 事前学習(各回2時間)：プレゼンテーションとレポート作成の準備を行う。 事後学習(各回2時間)：レポートを完成させる。																
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅰ, 卒業研究																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教員の指示する文献</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教員の指示する文献			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	教員の指示する文献																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	別途、指示する。																
2																	
3																	
評価方法(基準)	毎回の準備状況、プレゼンテーションの内容、レポートの内容、ディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																
学生へのメッセージ	問題意識を深めて、卒業研究へと結びつけていきましょう！																
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																
備考																	

科目名	食農ビジネス学研究Ⅱ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中塚 華奈
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3072a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を深めるとともに、それを応用して調査・分析できるようにするために、それぞれの指導教員のもとで、学生が具体的な調査・分析課題を設定し、その課題に関連する文献の読解を通してより専門的な知識や考え方を修得するとともに、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの実施方法などを身につけ、調査・分析に取り組む。これらを通して、卒業研究で取り組む課題を設定する。																
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 専門的な文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法を身につけ、実際に調査・分析することができる。 ④ 卒業研究の課題を設定することができる。																
授業方法と留意点	①それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ②各自が設定した研究課題に関する文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に行う。 ③データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④研究課題に関するレポートを作成する。 ⑤具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション(1～2回) 内容：各自の考えた研究課題についてプレゼンテーションを行い、研究課題の決定や研究方法の検討を行う。 事前学習(各回2時間)：研究課題の検討とプレゼンテーションの準備 事後学習(各回2時間)：研究課題に関する検討と研究方法の確認 2. 文献の読解・発表・ディスカッション(7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、研究課題に関する文献の読解とプレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習(各回2時間)：文献の読了と文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習(各回2時間)：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。 3. データの集計・分析、フィールドワーク、プレゼンテーション(3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、研究に必要なデータの収集と集計・分析やフィールドワークを行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習(各回2時間)：データの収集と集計・分析、フィールドワークを行い、プレゼンテーションの準備をする。 事後学習(各回2時間)：データの集計・分析やフィールドワークの結果について、レポートを作成する。 4. 研究結果のプレゼンテーションとレポートの作成(2～4回) 内容：研究結果に関するプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。 事前学習(各回2時間)：プレゼンテーションとレポート作成の準備を行う。 事後学習(各回2時間)：レポートを完成させる。																
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅰ, 卒業研究																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教員の指示する文献</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教員の指示する文献			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	教員の指示する文献																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	別途、指示する。																
2																	
3																	
評価方法(基準)	毎回の準備状況、プレゼンテーションの内容、レポートの内容、ディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																
学生へのメッセージ	問題意識を深めて、卒業研究へと結びつけていきましょう！																
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																
備考																	

科目名	食農ビジネス学研究Ⅱ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	戴 容泰思
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3072a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を深めるとともに、それを応用して調査・分析できるようにするために、それぞれの指導教員のもとで、学生が具体的な調査・分析課題を設定し、その課題に関連する文献の読解を通してより専門的な知識や考え方を修得するとともに、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの実施方法などを身につけ、調査・分析に取り組む。これらを通して、卒業研究で取り組む課題を設定する。</p>																		
到達目標	<p>① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 専門的な文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法を身につけ、実際に調査・分析することができる。 ④ 卒業研究の課題を設定することができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 各自が設定した研究課題に関する文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 研究課題に関するレポートを作成する。 ⑤ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション(1～2回) 内容：各自の考えた研究課題についてプレゼンテーションを行い、研究課題の決定や研究方法の検討を行う。 事前学習(各回2時間)：研究課題の検討とプレゼンテーションの準備 事後学習(各回2時間)：研究課題に関する検討と研究方法の確認</p> <p>2. 文献の読解・発表・ディスカッション(7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、研究課題に関する文献の読解とプレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習(各回2時間)：文献の読了と文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習(各回2時間)：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの集計・分析、フィールドワーク、プレゼンテーション(3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、研究に必要なデータの収集と集計・分析やフィールドワークを行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習(各回2時間)：データの収集と集計・分析、フィールドワークを行い、プレゼンテーションの準備をする。 事後学習(各回2時間)：データの集計・分析やフィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p> <p>4. 研究結果のプレゼンテーションとレポートの作成(2～4回) 内容：研究結果に関するプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。 事前学習(各回2時間)：プレゼンテーションとレポート作成の準備を行う。 事後学習(各回2時間)：レポートを完成させる。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅰ, 卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教員の指示する文献</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教員の指示する文献			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	教員の指示する文献																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、プレゼンテーションの内容、レポートの内容、ディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	問題意識を深めて、卒業研究へと結びつけていきましょう！																		
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	種市 豊
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE4073a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共</p>																		
到達目標	<p>①卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ②研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに調査計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>①授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ②卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ③人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	<p>1. オリエンテーション ・研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2. 研究課題の設定、研究方法の検討、調査・分析および考察 ・文献検索・読了、討論、調査(準備、フィールドワーク、データ処理・分析)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、必要に応じて、追加調査等を検討する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3. 卒業論文の作成・発表 ・卒業論文を作成し、卒業論文発表会および質疑応答後、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 ・卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目	「食農ビジネス学研究Ⅰ・Ⅱ」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示に基づく</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示に基づく			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	担当教員の指示に基づく																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>① 研究室活動・ゼミへの積極的参加および研究姿勢・態度 (40%) ② 卒論発表会および卒業論文の内容 (60%)</p>																		
学生へのメッセージ	卒業研究は、大学での学びの集大成(大学に在籍した証し)です。好奇心のアンテナを張りながら、楽しく取り組みましょう!																		
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	北川 太一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE4073a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共</p>																		
到達目標	<p>①卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ②研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに調査計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>①授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ②卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ③人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	<p>1. オリエンテーション ・研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2. 研究課題の設定、研究方法の検討、調査・分析および考察 ・文献検索・読了、討論、調査(準備、フィールドワーク、データ処理・分析)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、必要に応じて、追加調査等を検討する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3. 卒業論文の作成・発表 ・卒業論文を作成し、卒業論文発表会および質疑応答後、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 ・卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目	「食農ビジネス学研究Ⅰ・Ⅱ」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示に基づく</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示に基づく			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	担当教員の指示に基づく																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>① 研究室活動・ゼミへの積極的参加および研究姿勢・態度 (40%) ② 卒論発表会および卒業論文の内容 (60%)</p>																		
学生へのメッセージ	卒業研究は、大学での学びの集大成(大学に在籍した証し)です。好奇心のアンテナを張りながら、楽しく取り組みましょう!																		
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE4073a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共</p>																		
到達目標	<p>①卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ②研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに調査計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>①授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ②卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ③人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	<p>1. オリエンテーション ・研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2. 研究課題の設定、研究方法の検討、調査・分析および考察 ・文献検索・読了、討論、調査(準備、フィールドワーク、データ処理・分析)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、必要に応じて、追加調査等を検討する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3. 卒業論文の作成・発表 ・卒業論文を作成し、卒業論文発表会および質疑応答後、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 ・卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目	「食農ビジネス学研究Ⅰ・Ⅱ」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示に基づく</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示に基づく			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	担当教員の指示に基づく																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>① 研究室活動・ゼミへの積極的参加および研究姿勢・態度 (40%) ② 卒論発表会および卒業論文の内容 (60%)</p>																		
学生へのメッセージ	卒業研究は、大学での学びの集大成(大学に在籍した証し)です。好奇心のアンテナを張りながら、楽しく取り組みましょう!																		
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	成 晋政
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE4073a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共</p>																		
到達目標	<p>①卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ②研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに調査計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>①授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ②卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ③人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	<p>1. オリエンテーション ・研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2. 研究課題の設定、研究方法の検討、調査・分析および考察 ・文献検索・読了、討論、調査(準備、フィールドワーク、データ処理・分析)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、必要に応じて、追加調査等を検討する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3. 卒業論文の作成・発表 ・卒業論文を作成し、卒業論文発表会および質疑応答後、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 ・卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目	「食農ビジネス学研究Ⅰ・Ⅱ」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示に基づく</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示に基づく			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	担当教員の指示に基づく																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>① 研究室活動・ゼミへの積極的参加および研究姿勢・態度(40%) ② 卒論発表会および卒業論文の内容(60%)</p>																		
学生へのメッセージ	卒業研究は、大学での学びの集大成(大学に在籍した証し)です。好奇心のアンテナを張りながら、楽しく取り組みましょう!																		
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	山本 尚俊
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE4073a0		

授業概要・目的	これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共																
到達目標	①卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ②研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに調査計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。																
授業方法と留意点	①授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ②卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ③人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	1. オリエンテーション ・研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2. 研究課題の設定、研究方法の検討、調査・分析および考察 ・文献検索・読了、討論、調査(準備、フィールドワーク、データ処理・分析)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、必要に応じて、追加調査等を検討する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3. 卒業論文の作成・発表 ・卒業論文を作成し、卒業論文発表会および質疑応答後、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 ・卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。																
関連科目	「食農ビジネス学研究Ⅰ・Ⅱ」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示に基づく</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示に基づく			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	担当教員の指示に基づく																
2																	
3																	
評価方法(基準)	① 研究室活動・ゼミへの積極的参加および研究姿勢・態度(40%) ② 卒論発表会および卒業論文の内容(60%)																
学生へのメッセージ	卒業研究は、大学での学びの集大成(大学に在籍した証し)です。好奇心のアンテナを張りながら、楽しく取り組みましょう!																
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																
備考																	

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	川崎 訓昭
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE4073a0		

授業概要・目的	これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共																
到達目標	①卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ②研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに調査計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。																
授業方法と留意点	①授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ②卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ③人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	1. オリエンテーション ・研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2. 研究課題の設定、研究方法の検討、調査・分析および考察 ・文献検索・読了、討論、調査(準備、フィールドワーク、データ処理・分析)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、必要に応じて、追加調査等を検討する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3. 卒業論文の作成・発表 ・卒業論文を作成し、卒業論文発表会および質疑応答後、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 ・卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。																
関連科目	「食農ビジネス学研究Ⅰ・Ⅱ」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示に基づく</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示に基づく			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	担当教員の指示に基づく																
2																	
3																	
評価方法(基準)	① 研究室活動・ゼミへの積極的参加および研究姿勢・態度(40%) ② 卒論発表会および卒業論文の内容(60%)																
学生へのメッセージ	卒業研究は、大学での学びの集大成(大学に在籍した証し)です。好奇心のアンテナを張りながら、楽しく取り組みましょう!																
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																
備考																	

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	吉井 邦恒
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE4073a0		

授業概要・目的	これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共																
到達目標	①卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ②研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに調査計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。																
授業方法と留意点	①授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ②卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ③人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	1. オリエンテーション ・研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2. 研究課題の設定、研究方法の検討、調査・分析および考察 ・文献検索・読了、討論、調査(準備、フィールドワーク、データ処理・分析)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、必要に応じて、追加調査等を検討する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3. 卒業論文の作成・発表 ・卒業論文を作成し、卒業論文発表会および質疑応答後、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 ・卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。																
関連科目	「食農ビジネス学研究Ⅰ・Ⅱ」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示に基づく</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示に基づく			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	担当教員の指示に基づく																
2																	
3																	
評価方法(基準)	① 研究室活動・ゼミへの積極的参加および研究姿勢・態度(40%) ② 卒論発表会および卒業論文の内容(60%)																
学生へのメッセージ	卒業研究は、大学での学びの集大成(大学に在籍した証し)です。好奇心のアンテナを張りながら、楽しく取り組みましょう!																
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																
備考																	

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	浦出 俊和
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE4073a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共</p>																		
到達目標	<p>①卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ②研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに調査計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>①授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ②卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ③人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	<p>1. オリエンテーション ・研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2. 研究課題の設定、研究方法の検討、調査・分析および考察 ・文献検索・読了、討論、調査(準備、フィールドワーク、データ処理・分析)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、必要に応じて、追加調査等を検討する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3. 卒業論文の作成・発表 ・卒業論文を作成し、卒業論文発表会および質疑応答後、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 ・卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目	「食農ビジネス学研究Ⅰ・Ⅱ」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示に基づく</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示に基づく			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	担当教員の指示に基づく																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>① 研究室活動・ゼミへの積極的参加および研究姿勢・態度(40%) ② 卒論発表会および卒業論文の内容(60%)</p>																		
学生へのメッセージ	卒業研究は、大学での学びの集大成(大学に在籍した証し)です。好奇心のアンテナを張りながら、楽しく取り組みましょう!																		
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	副島 久実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE4073a0		

授業概要・目的	これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共																
到達目標	①卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ②研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに調査計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。																
授業方法と留意点	①授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ②卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ③人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	1. オリエンテーション ・研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2. 研究課題の設定、研究方法の検討、調査・分析および考察 ・文献検索・読了、討論、調査(準備、フィールドワーク、データ処理・分析)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、必要に応じて、追加調査等を検討する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3. 卒業論文の作成・発表 ・卒業論文を作成し、卒業論文発表会および質疑応答後、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 ・卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。																
関連科目	「食農ビジネス学研究Ⅰ・Ⅱ」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示に基づく</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示に基づく			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	担当教員の指示に基づく																
2																	
3																	
評価方法(基準)	① 研究室活動・ゼミへの積極的参加および研究姿勢・態度(40%) ② 卒論発表会および卒業論文の内容(60%)																
学生へのメッセージ	卒業研究は、大学での学びの集大成(大学に在籍した証し)です。好奇心のアンテナを張りながら、楽しく取り組みましょう!																
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																
備考																	

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	谷口 葉子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE4073a0		

授業概要・目的	これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共																
到達目標	①卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ②研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに調査計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。																
授業方法と留意点	①授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ②卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ③人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	1. オリエンテーション ・研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2. 研究課題の設定、研究方法の検討、調査・分析および考察 ・文献検索・読了、討論、調査(準備、フィールドワーク、データ処理・分析)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、必要に応じて、追加調査等を検討する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3. 卒業論文の作成・発表 ・卒業論文を作成し、卒業論文発表会および質疑応答後、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 ・卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。																
関連科目	「食農ビジネス学研究Ⅰ・Ⅱ」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示に基づく</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示に基づく			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	担当教員の指示に基づく																
2																	
3																	
評価方法(基準)	① 研究室活動・ゼミへの積極的参加および研究姿勢・態度(40%) ② 卒論発表会および卒業論文の内容(60%)																
学生へのメッセージ	卒業研究は、大学での学びの集大成(大学に在籍した証し)です。好奇心のアンテナを張りながら、楽しく取り組みましょう!																
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																
備考																	

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	中塚 華奈
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE4073a0		

授業概要・目的	これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共																
到達目標	①卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ②研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに調査計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。																
授業方法と留意点	①授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ②卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ③人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	1. オリエンテーション ・研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2. 研究課題の設定、研究方法の検討、調査・分析および考察 ・文献検索・読了、討論、調査(準備、フィールドワーク、データ処理・分析)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、必要に応じて、追加調査等を検討する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3. 卒業論文の作成・発表 ・卒業論文を作成し、卒業論文発表会および質疑応答後、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 ・卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。																
関連科目	「食農ビジネス学研究Ⅰ・Ⅱ」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示に基づく</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示に基づく			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	担当教員の指示に基づく																
2																	
3																	
評価方法(基準)	① 研究室活動・ゼミへの積極的参加および研究姿勢・態度(40%) ② 卒論発表会および卒業論文の内容(60%)																
学生へのメッセージ	卒業研究は、大学での学びの集大成(大学に在籍した証し)です。好奇心のアンテナを張りながら、楽しく取り組みましょう!																
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																
備考																	

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	戴 容泰思
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE4073a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共</p>																		
到達目標	<p>①卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ②研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに調査計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>①授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ②卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ③人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	<p>1. オリエンテーション ・研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2. 研究課題の設定、研究方法の検討、調査・分析および考察 ・文献検索・読了、討論、調査(準備、フィールドワーク、データ処理・分析)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、必要に応じて、追加調査等を検討する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3. 卒業論文の作成・発表 ・卒業論文を作成し、卒業論文発表会および質疑応答後、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 ・卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目	「食農ビジネス学研究Ⅰ・Ⅱ」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示に基づく</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示に基づく			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	担当教員の指示に基づく																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>① 研究室活動・ゼミへの積極的参加および研究姿勢・態度 (40%) ② 卒論発表会および卒業論文の内容 (60%)</p>																		
学生へのメッセージ	卒業研究は、大学での学びの集大成(大学に在籍した証し)です。好奇心のアンテナを張りながら、楽しく取り組みましょう!																		
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	海外語学研修	科目名(英文)	Overseas Language Training
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	ブルボット サジト
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2413c2		

授業概要・目的	本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン(地球市民)の育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、 																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合(アルバイト、旅行等)による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間2回実施される。()内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の2～3月になる場合のスケジュールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集説明会：4月中旬 (9月下旬～10月上旬) ・事前授業10回：6月中下旬～7月下旬 (11月～2月) ・現地派遣：2週間程度 8月中旬～9月上旬 (2月中下旬～3月下旬) ・事後授業5回(成果報告会含む)：9月～10月中旬 (3月～4月下旬) <p>【注意】新型コロナウイルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。詳細は随時ポータルサイトで連絡します。</p> <p>本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしないといけない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の2～3月に現地派遣されるプログラムの場合は、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。</p> <p>事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地が必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップであるECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALLの英語e-learningサービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。</p> <p>派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまっていけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるように行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。</p> <p>事後授業では、現地地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書(レポート)および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。</p>																
関連科目	グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバル・シチズンシップ論(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)																
学生へのメッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。																
担当者の研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は3号館1階グローバル教育センターまで 教員室1(2号館2階)																
備考																	